

第 I 章 土器

はじめに

2003 年の報告 I では、遺物報告編として、埋積浅谷（旧河道）資料、わけでも 26 地区出土資料を中心に、取り上げ層位ごとに検出した土器群の事実報告を記載した。そして本文編として、それらの資料に若干の遺構資料を加え、時間軸設定に向けた考古学的な検討を行った。このように、報告 I では旧河道調査区の限られた資料を基にしていたが、層位ごとに把握した土器様相の変化を時間軸に置き換え、八日市地方 1～10 期という 10 段階区分の骨子を組むことができた。また、遺構資料を加えても、概ねこの土器様相の変遷には大きな変更がない見通しももっていた。しかし、埋積浅谷からの報告資料自体は、集落 I 期に数量的な偏りを見せており、集落 II 期および III 期については、遺構資料、つまり今回報告資料によって、補足されるべきとしていたものである。

本章では、まず、遺構ごとに出土土器を提示し、従前の 10 期区分にしたがって各遺構の所属時期を検証する。その記載にあたっては、同一遺構内における出土資料の一括性や、あるいは、異系統土器（搬入土器）の共伴関係に留意した。報告 I で基準とした埋積浅谷の層位による土器の共伴関係を基準としていたが、遺構における共伴関係で追認するためである。そして最後の第 4 節では、報告 I の本文編に対応する分析として、従前の 10 期区分を軸に、今回の報告によって資料の増補が可能となった集落 II 期と III 期を主眼に据えた系統及び様相の変遷を再検討する。方法論的には、多種多様な地域の要素を取り込みながら、時間の流れとともに変化する姿をたどっていくもので、特に、形と文様の変化に加えて、整形手法・施文方法など、できるだけ細やかで多面的な視点からアクセスを試みる報告 I の方向性を踏襲した。

土器の観察や図化の方法等については、基本的には報告 I に準拠しているが、提示方法で異なる点もあるため、以下、本書における土器の掲載方法や、土器観察結果の表現手法等について、留意点をあらかじめ記載する。

a. 基本事項

土器図版は、拓本資料も含めてすべて S=1/4 とした。トレース作業に関しては、数点を除きすべて Adobe Illustrator を使用している。したがって、付属の DVD 収録図はベクトルデータである。

尚、掲載番号とともに併記した整理番号 (S-○○) は、整理作業時における実測番号 (整理番号=ID) を示している。将来の台帳管理や図面照合、資料調査等との整合性を図るために記載した。

b. 遺構名称について

発掘調査時点では、調査区ごとに遺構名が設定されていたが（以下「旧遺構名」という）、報告 II の遺構編刊行に伴い、環濠と方形周溝墓に新たな遺構名を付している。まず、複数の調査区にまたがる環濠については、遺跡全体の中で位置づけるため、「環濠 01」のように新たな通しの遺構名を付している。方形周溝墓に関しては、調査時に複数の溝や土坑としたもので構成されている場合が多く、調査区単位での表記は変わらないが、「○○地区 SX ○」のように、新たな遺構名で再編している。

今回の土器編では、その新しい遺構名に準拠して掲載し、括弧書きで旧遺構名も併記した。長期にわたる出土品の記名や実測、木製品の観察表等は、旧遺構名で行われており、実際、製玉編及び木器編の報告では、旧遺構名のまま報告している。わかりにくい結果となったが、報告 II 遺構編では、新遺構名に旧遺構名も併記しており、将来の遺物照合や資料調査に混乱が生じないように配慮している。

c. 掲載順序

掲載順序は、環濠からはじまり、方形周溝墓、その他の遺構資料（平地式建物跡、土坑等）の順とした。複数の調査区にまたがる環濠や方形周溝墓等に関しては、調査区ごとに遺物の取り上げ手法等が異なるため、同一遺構であっても調査区別に、さらに規模が大きい環濠の場合では、取り上げ範囲（区画設定のない場合は Gr 範囲）ごとに区分して掲載しているものもある。環濠の出土資料では、同一溝だからといっても、排水など環濠としての機能を失った後に廃絶・埋没していく過程は、その周囲の空間利用形態（例えば居住域か墓域かなど）に左右されている可能性が高く、溝の全体が同時に埋まっているとは限らないと考えているからである。

各遺構の位置については、環濠に関しては本書第 2 図、方形周溝墓やその他の遺構位置に関しては、報告Ⅱ第一部 遺構編（2013）、あるいは付属の DVD にも収録しているので、参照されたい。

なお、遺構編に掲載していない遺構で、今回の報告によって必要となった遺構の位置に関しても、新たに補足図を DVD に収録している。また、遺構編では提示できなかった方形周溝墓における遺物の出土状況図については、必要に応じて本文中に図面を掲載した。

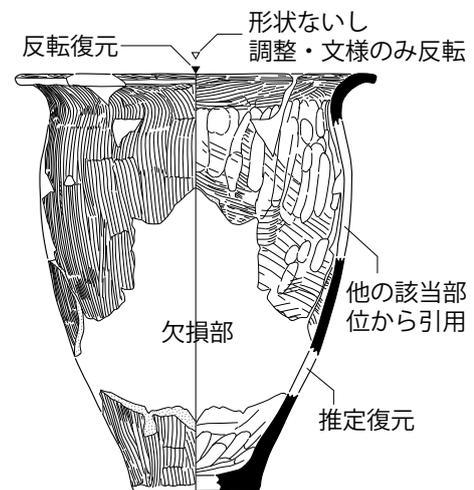
d. 器種名称について

形をもとに壺形土器、甕形土器、鉢形土器、高杯形土器を主に区分し、文章及び観察表内では、省略して壺、甕、鉢、高杯とした。また、前期の遺物である深鉢形土器も甕として掲載する。

e. 実測・図化について

実測はすべて肉眼観察で行い、図化の指示は、すべて下濱が土器中央位置を定め、調整の読み取りを指示した。土器の調整方法等、読み取った情報をなるべく網羅して図化することを試み、表現手法も統一を心掛けた。

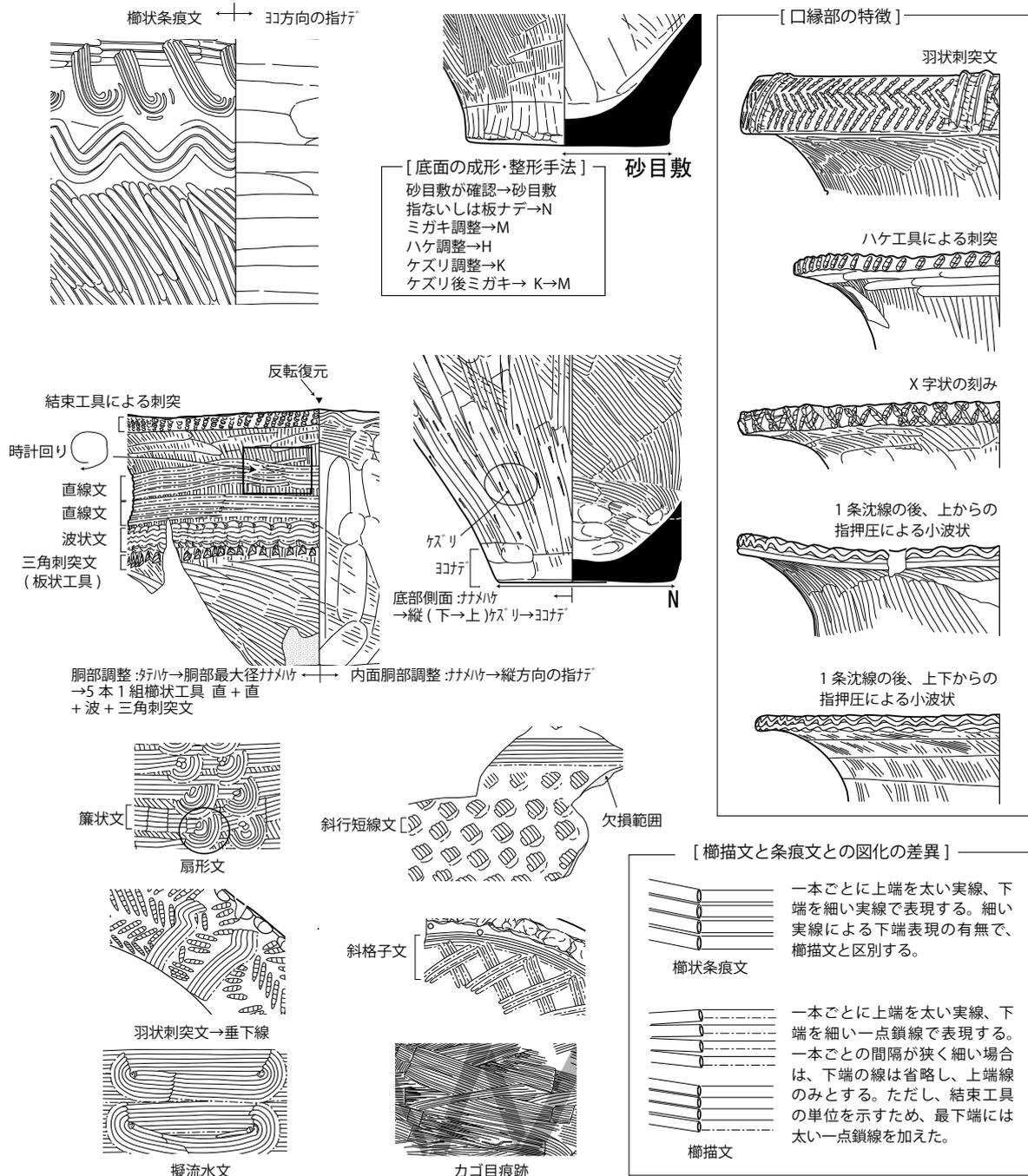
八日市地方遺跡の土器は、ゆがみの多いものが大半である。その状況下で立体の土器を 1/4 ずつ外面、内面として図化する際、遺存率が 3/4 以上あるものは、器面調整や文様の表現、単位文に重点を置いて正面とし、そのまま図化している。遺存率が 2/3 以下になると、形状か、あるいは器面調整や文様か、どちらを重視するかを決定し、形状ないしは調整・文様のみを反転して図化している（この際、正中線上に▽を付す）。また、遺存率が 1/3 以下になると、全体を反転復元して図化している（この際、正中線上に▼を付す）。断面は、土器の厚みを忠実に表現できるように黒塗りとした。ただし、図化用に正置した状態で計測できた部分のみを黒塗りで表現し、欠損している箇所、隣接部位等から復元できる場合は、白抜きで表現している。その他、調整等の表現手法や、観察表における調整の記載は、第 3 図に事例を提示した。



断面図化の位置における残存部は黒塗り

f. 観察表について

実測・土器観察によって得られた所見については、第 3 図で示したとおり、実測図上での表現手法と掲載した土器観察表における記載で、ほぼ網羅できるよう努めた。ただし、本文中に掲載した観察表は、紙幅の関係もあって、実測図と照合しながら相互補完的に必要と思われる項目に絞ってある。ID や出土地点に関する基本情報、色調・分量・胎土の項目を加えた正式な土器観察表は、付属の DVD に収録している。



第3図 土器の図化方法と用語使用例

凡例

- ・櫛描文と条痕文は、意図的に違う表現手法で図化している。一点鎖線は櫛描文にのみ用いており、結束工具の単位がわかるように留意した。
- ・櫛描文で禾本科系の結束工具の場合は、何本束ねているか極力読み取るものとし、読み取れたものに関しては観察表に記す。
- ・土器の表面が摩耗して調整が読み取れない以外は図化し、観察表にはナ、ミガキ、ハ、ケズリなど調整を記述、調整順序は→で記す。
- ・櫛描文や条痕文調整は、櫛描文系土器は頸部から胴部へと上から下へ施文するが、条痕文系土器は胴部最大径から頸部に向けて下から上へと文様を描いていくものや、直線文で区画した後、波状文、撥上げ文などを施すものもみられ、系統差における施文順序に意味をもつものとし、極力、施文順序がわかるように図化している。
- ・底部付近の成形・整形手法や底面の調整等の観察は、非常に重要と考えており、多様な手法を実測図自体にも記載している。

第1節 環濠資料

1. 環濠 01(13 地区 SD13)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第8 節第 129 図参照)

掲載図化した土器は 1～4 である。

環濠 01 は、当遺跡の中でいち早く埋没する環濠である。環濠 01 からの出土量は 13 地区、17 地区ともにコンテナ 1 箱をも満たさず、極めて少量である。出土土器は、5 期を主体とするが、1 期以前の土器が混入している。

2. 環濠 02(13 地区 SD29)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第8 節第 130 図参照)

掲載図化した土器は 5～52 である。

環濠 02(13 地区 SD29) は、埋積浅谷に流れ込む形状で検出しており、埋積浅谷と重なる D-9Gr 内 10 層と互層をなす黄褐色砂層(報告Ⅱ 2013 遺構編第 130 図参照)には、5 期以前の破片資料がみられる。また E.J-9Gr 上層として取上げているものには、9 期に位置づけられるもの(7～9)がみられる。こうした出土土器の様相は、平地式建物(SX01・02)と環濠 02 が重複しているためである。

また、上層で取上げている破片資料には、5 期以前の条痕文系土器が散見するが、6 期併行資料が主体を占める。その中には貝田町式細頸壺片(32)もみられる。

F-9Gr 下層、粘土ブロックとともに取上げられている一群(44～52)は一括性が高く、これらを 6 期の好資料としたい。47～52 は、器面が全く摩耗しておらず、使用されずに廃棄されたものと考えられる。この 6 点の中でも 47～50 は施文工具が同一であるため、同一製作者によるものと考えている。また、51、52 の 2 点は、先述した 4 点と類似しているが、施文工具が別であり、近似した関係をもつ別の同一製作者の可能性があげられる。

遺構間接合したものとしては 39 があげられ、F11-02B-K と接合している。

3. 環濠 02(17 地区 SD46)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第6 節参照)

掲載図化した土器は 53～138 である。17 地区では、環濠を土層断面設定箇所に合わせて、北から南へと 1 区から 10 区まで分けし、遺物はこの区割りを利用して層位ごとに取り上げている。当環濠は、6 期以降の廃絶後に、9 期以降の土坑や方形周溝墓(SX06・SX04)との重複がみられる。こうした遺構間の切り合いによる混入が認められるため、区割りごとに掲載する。

もっとも資料が多くみられるのは、4～5 区であり、方形周溝墓と重複しない箇所に該当する。

1 区 53～64 である。2～3 期併行(53)や 4 期併行(64)もみられるが、その他は 5～6 期に位置づけられる。

2 区 65～71 である。5～6 期に位置づけられる。

3 区 72～77 である。大型の条痕文系壺 75 は 5 期の範疇でもよいと考えるが、共伴する資料から 5～6 期にまたがる資料としたい。

4 区 78～104 である。90 は、上・中層取り上げ資料であり、4 区の中では 5 期まで古くなる可能性をもつ資料である。注目される資料としては、近江地方搬入と考えられる(78)があげられる。その他、沈潜文系土器継承甕(87)、櫛描文系無文の甕(93～97・101～103・104)、櫛描文系有文(81～83・89・91)と充実しており、他地域との併行関係を考えるには好資料である。

なお、82・88 は 4 区以外の 6～7 区から出土したものと接合している。

5 区 105～120 である。2～3 期併行(105)もあるが、その他は 5～6 期に位置づけられる。

6区 121～132である。5～6期に位置づけられる。130のように、口縁内面に指押圧がみられる資料は、上下からの押圧により作られる小波状口縁に先行する資料であり、5～6期にみられるものである。また、当区内には、貝田町式細頸壺の模倣品(124)が出土しているため、他地域との併行関係を確認できる好資料といえる。

7区 133～135である。5～6期に位置づけられる。

8区 136である。6期に位置づけられる。

9区 137～139である。5～6期に位置づけられる。

4. 環濠 03A・03B(12地区 SD16・SD20) (報告Ⅱ 2013 遺構編 第8節第120図参照)

環濠 03 が2条に分かれて確認できる箇所は12地区のみであったため、他の地区での状況を加味して、1つ名称としているが、遺構の切り合いや出土する土器からも判断し、環濠 03A → 03B へと造り替えがあったと考えている。

環濠 03A 掲載図化した資料は140～143である。140・143は5～6期とやや古く、141・142は6期併行と考えられる。

環濠 03B 144・145である。144は櫛描文系有文であるが、在地の器形ではなく異質である。145は、胴部下半ミガキ調整を施すくの字甕であり、搬入品の可能性が高い。どちらも7期と考えられる。

5. 環濠 03(17地区 44)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第6節参照)

掲載図化した土器は146～176である。17地区 SD46 同様に、北から南へ1区から12区まで区分けしており、遺物はこの区割りを利用し、層位ごとに取り上げている。

12地区と違い、17地区では、2条の環濠はほぼ重なり、E-5Gr 周辺の4・5区で部分的に切り合いが確認できるのみである。よって、12地区でみられた環濠 03B と併行する時期が廃絶時期でありながらも、環濠 03A の土器の混入がみられるものと考えている。また、I-2Gr 周辺の11・12区では環濠 02 との重なりがみられる。

1区 146～150である。6～7期に位置づけられ、胴部下半ハケ調整のくの字甕(148)がみられる。胎土は花崗岩質であり、搬入品と考えられる。搬入先の候補としては、因幡東部から北近畿を考えている。150の無頸壺の蓋は、摩耗が激しく調整等は不明瞭であり、詳細な時期は不明である。取上げ層位は下層であるため、方形周溝墓の混入ではないものとした。5区出土の無頸壺(162)と蓋穴の位置とも合致し、セットになる可能性が高い。

2区 151～156である。151・152・154はaアゼ内からの出土であり、同一層からの取上げである。土層断面から判断して、中層からの出土であることがわかる。いずれも6～7期に位置づけられる。下層から出土したものの中には、ハケ調整のみの無文の壺口縁に小波状手法を取り入れたもの(151)がみられるのは興味深い。

3区 157である。157は大型甕の底部である。底面に砂目敷が残ることや、調整から判断し、6～7期に収まるものとして考えている。

4区 157～160である。158はbアゼ内からの出土であり、土層断面図から判断し上層からの出土であることがわかる。頸部下は欠失しており、破損後の補修痕がみられる資料である。159、160も含めて、6～7期に位置づけられる。

5区 161・162である。どちらも上層からの出土である。

6区 163～166である。いずれも上・中層からの出土であり、165・166は6～7期に、163・164は7期に位置づけられる。

7・8区 7区から167、8区から168が出土している。7～8区の土器量が少量であるのは、SX03・06周溝との重複する箇所であることが要因と考えられる。どちらも6～7期の範囲内に位置づけられる。

9・10区 169～173がある。9区は環濠02と03が重なりを見せはじめるところであり、環濠02と03の混在を示す可能性が高い。169は、7期までは下らないと考えられる櫛描文系無文の甕である。170～173は6～7期の範疇に収まるものと考えられる。また173は4区出土の破片とも接合している。

11・12区 174～176である。いずれも7期までは下らないと思われる資料である。

6. 環濠02・03(17地区SD39)(報告Ⅱ2013遺構編第6節参照)

17地区SD39は、環濠02・03が重複しているため、1条の溝として調査している。分岐していた17地区SD46やSD44の土層状況とは異なり、砂質が僅かで粘性土が主体の覆土である。

掲載図化したのは177～188である。177・178は8～9期に位置づけられ、環濠名で取上げられているものの、環濠上面に築造された方形周溝墓の供献土器である可能性が高い。179～181・184・185は古い様相を示しており、7期までは下らない5～6期の資料である。どちらかという環濠02併行の資料と考えられる。182・183・188も6期と考えられ、先述した土器同様に環濠02出土のものとして遜色ない。その中で型的に新出にみえるものが櫛描文系有文甕(186)であるが、取上げ層位は、184・188と同様であるため、6期の範疇に入るものとした。

7. 環濠02・03(28地区SD02)(報告Ⅱ2013遺構編第Ⅰ章・第1節参照)

28地区は、17地区とは隣接しておらず、17地区から約30m西に位置している。28地区SD02は17地区SD46・44が合流した延長上の環濠であると判断している。

掲載図化したものは189～197である。192・193は上・中層から、189・194・195・197は中層から、189・190は中・下層出土である。194・195は7期までは下らない5～6期の資料であり、192・193は6～7期の範疇に収まる資料であるため、様相的には、若干の時期幅をもつものと思われる。

8. 環濠04(12地区SD01)(報告Ⅱ2013遺構編第8節参照)

12地区SD01は、ドットでのとり上げと層位での取り上げが混在しており、区割りによる取上げではしていない。しかし、調査区内検出範囲が30m内に収まることや、ドット資料と層位取り上げのものとの接合状況がみられるため、層位での取上げを重視し掲載した。

1層 198～206である。198～201・204は、7期までは遡らない8～9期に位置づけられる資料であり、環濠04の最終埋没時期を示しているものと思われる。それ以外の202・203・205・206は、以下説明する2層出土のものと同様で、6期併行資料である。

2層 207～242である。この中には1層より出土したものや、ドット取上げによるものも含まれるが、2層より出土した資料との接合があるため、2層としている。211・213を除いて6期併行と考えている。沈線文系継承型(215・216)や小波状口縁無文甕、櫛描文系無文甕も数多く出土しており、6期を示す好資料である。

よって、2層は6期を主体とし7期を含まず、1層に8期以降の資料がみられるものとしたい。

211は条痕文継承型の受け口状大型壺の口縁部片であり、1層出土のものと同層相当出土と考えられる破片が接合しているものである。胎土も密であり、焼成も良好である。当初、1層併行時期のものとして捉えていたが、164が7期併行にあることや、6期から口縁装飾としてハケ工具による羽状刺突文がみられること、口縁形状が内傾することから、口縁下顎部を指押さえではなく、ハケ工具の刻みであるものでも、6期の範疇にはいる資料として再考している。

9. 環濠 04(16 地区 SD08)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第7 節参照)

16 地区 SD08 は調査区の北西部に一部、かかるのみである。SD08 より出土した土器は、北から南へと設定した A から D 区の区割りを利用して取り上げられている。

A 区 243 である。ハケ調整の後、口縁外面及び頸部～口縁内面に櫛状条痕の調整がみられ、条痕成型ではない6期併行を示す好資料である。

B 区 244～249 である。上層から下層出土のものがみられるが、すべて6期併行である。

C・D 区 250～260 である。C 区と D 区出土で接合しているものが多いため、合わせて説明する。当区は、6期併行を主体とするが、7期にまで下がる様相のみえるものとして、250・252・253・257・258・260 があげられる。

10. 環濠 04(17 地区 SD02)(報告Ⅱ 2013 遺構編第Ⅰ章、第6 節参照)

掲載資料は 261～275 である。261・268 を除いて、6期併行である。268 は、E-11Gr 内上層出土である。ここは方形周溝墓 (SX17) との重複がみられる箇所に対応する。

土器の特徴は、口縁端部に1条沈線を入れた後、上方からのハケ工具による刺突がみられる櫛描文系無文甕であることから、形式的には7期以降のものとしたい。273 は、外面ハケ調整の後、丁寧に縦方向のミガキ調整が施されており、口縁部を欠失するが、くの字甕の胴部と考えている。

11. 環濠 05(17 地区 SD12)(報告Ⅱ 2013 遺構編第6 節参照)

環濠 05 は環濠 04 に附設する溝である。居住域から離れている箇所になるため、当環濠より出土した資料はコンテナ 2 箱と少量である。掲載資料は 276～278 である。いずれも6～7期の範疇に収まるものとしたい。

12. 環濠 05(17 地区 SD38)(報告Ⅱ 2013 遺構編第6 節参照)

方形周溝墓との重複がみられる箇所である。掲載資料は 279～281 である。279・280 は上層位であり、環濠に位置づけられるものというよりは、方形周溝墓 (SX13) の供献土器の可能性が高い。いずれも9期併行である。281 は、中層以下より出土した資料であり、本来の環濠 05 廃絶時期を示すものとして考えている。2方向に把手が付く大型鉢である。6～7期併行である。

13. 環濠 06(11 地区 SD24)(報告Ⅱ 2013 第9 節参照)

土器はコンテナ 20 箱出土しており、掲載した土器は、遺存率が高いものと、環濠廃絶時期より古相を示す土器片、破片でも特徴的なものである。当環濠は、居住域内に掘削された溝であり、廃絶後に住居や土坑、方形周溝墓の重複がみられるため、可能な限り、Gr ごとに紹介していくものである。

M・N-2Gr 282～284 である。3点とも下層出土のものと接合しており、6～7期に位置づけられる。

その中でも 282 はほぼ完形であり、胎土は在地であるものの西日本系の土器と考えている。

M・N-4～6Gr 267～295 である。遺存率が高いものとして 294・295 があげられ、6～7 期併行である。288・290 は 7 期までは下らない資料であり、5～6 期併行である。

N-7Gr 296～298 である。296・297 とともに完形に近い壺であり、6～7 期併行である。298 は条痕文系甕の破片資料であり、6 期以降には下らない資料である。

M・N-9・10Gr 299～310 である。基本として 6～7 期併行である。299 は上層出土であり、平地式建物との重複もみられることから環濠埋没時以降と考えられ、9 期に位置づけている。300 は 1 期以前の縄文晩期併行甕片である。301 は 6 期以降には遡らない資料で、条痕文系甕口縁片である。西日本系の土器 (305・308) と貝田町式の土器 (304) が、隣接した箇所の下層よりみられるのは、広域な併行関係を示す資料と考えている。306 は下層で取上げられているもので、様相区分としては 6 期に位置づけられる。土器の残りも良く、混入というよりは、当溝埋没時に伴う資料として考えている。

14. 環濠 06(15 地区 2 イコウ)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第 7 節参照)

2 イコウという名称は、環濠や土坑の認識ができず、土器集中区として捉えて遺物を取上げているためである。そういった状況下で、環濠 11 と合流するところから北に向けて A から F 区に区割りされており、環濠にあたる空間部分 A・B・E・F 区を環濠資料として掲載している。

掲載資料は 311～318 である。A・B 区としては、311～313・316・318 があげられ、形式的に 7 期に下る資料である。E～G 区としては 314・315・317 があげられ、6 期併行である。

15. 環濠 06(16 地区 SD07)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第 7 節参照)

環濠 11 と合流した南側に位置する。対象資料は 319～326 である。7 期を主体としながら、形式的に前後するようにみられる。319・320・324・325 は上層出土であり、7～8 期にまたがるものと考えられる。321～323 は中層出土であり、6～7 期に該当する。323 は、器形、文様等だけでなく、胎土からも搬入品であることがわかり、在地の土器様相から 6～7 期併行としたい。

16. 環濠 06(17 地区 SD01)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第 7 節参照)

17 地区 SD01 は、方形周溝墓 (SX01) をきっているため、最終埋没時は墓よりも後出と考えられる。居住域から離れることから土器量も少ない。掲載資料は 327・328 である。いずれも 9 期併行に位置づけられる。

17. 環濠 05・06(28 地区 SD01)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第 1 節参照)

329 があげられる。9 期併行としたい。先述した 17 地区 SD01 と同時期と考えられる。

18. 環濠 07(11 地区 SD22)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第 9 節参照)

土器はコンテナ 20 箱分出土している。掲載対象は遺存率が高い資料及び特徴的な破片資料である。当環濠は、居住域内に掘削された溝であり、廃絶後に住居や土坑、方形周溝墓の重複がみられるため、北から南へ設定された a 区から g 区の区割りを基準に紹介していく。

a 区 330～335 である。上層より出土のものとして 330・332・334 があげられる。330・332 は栗林系と考えられ、いずれも 9 期併行である。中・下層としては 331・333・335 があげられ、いずれも 7～8 期併行に収まる。上層出土である 334 は、中・下層資料同様の 7～8 期と考えている。

b区 336～345である。上層より出土したものとして、337・338・340・345があげられる。337・345を除き、9期併行と考えている。b・d区に拡散するものとして341があげられるが、栗林式搬入品であり、9期と考えている。上・中層出土のものとしては、339・340があげられ、いずれも栗林系土器、9期併行のものと考えている。下層出土として、336・342があげられる。342は底部側面及び底面にはケズリ調整がみられ、形状から9期併行と考えている。



350 検出状況 環濠 07(SD22e) 内

よって、b区内で取上げられているものは、下層からも9期のものがみられ、上、中層にわたり混在している。

c・d区 346～349である。上層出土のものとして348・349があげられる。349は栗林式模倣品であり、9期併行のものと考えている。下層出土のものとしては、346・347があげられる。どちらも7～8期併行と考えている。

e区 350～358である。環濠だけでなく隣接する土坑も同名称で取上げられている。環濠出土は350～356と考えられ、357・358は土坑に伴うものと考えている。350は遺構検出時から出土しており、環濠06・07上の平地式建物周溝ないしは土坑に伴うものと考えられる。土器の時期は9期併行である。351～355は7～8期併行、356は8期併行と考えている。

19. 環濠 07(15地区 SD05・07)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第7節参照)

15地区内環濠07は、SX08の周溝にきられた箇所を境に、別名称SD05・SD07としているものが該当する。掲載資料は359～364である。360・362は複数の遺構間接合しているもので、360は6期併行、362は7～8期併行と考えられる。359・361・363・364は、7～8期の範疇で考えられ、環濠07の埋没時の資料と考えられる。

20. 環濠 09(6地区 SD01)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第4節参照)

掲載資料は365～368である。いずれも7～8期内に収まる資料である。貝田町式土器の模倣品(366)や西日本系突帯付鉢(368)、沈線文系継承型(367)が共伴しており、広域併行関係を考える上で好資料である。

21. 環濠 6・10(16地区 SD07C・D)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第7節参照)

掲載資料は372～375である。C区は環濠06と合流箇所、D区は環濠10に該当する。372～374はC区出土である。そのうち372・373は上層から出土しているが、7～8期に該当する。374は8～9期併行と考えられる。375はD区内上層出土で、9期併行である。SX03に伴う資料か。

22. 環濠 11(15地区 SD18)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第7節参照)

掲載資料は376～378で、いずれも6期併行である。378は内外面に靱圧痕が多く残る資料である。

第2節 方形周溝墓資料

1. 28地区 SX02・03(SD21)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第1節第10,11 図参照)

掲載資料は 379～395 である。

SX02・03 は 03 が 02 をきって造墓している。しかし両遺構はほとんど時期差はなく、共有した 2 個 1 対の関係をもつ墓としてとらえている。遺物は、調査区内で確認した周溝内から、まんべんなくみつかっており、すべて後から築造した SX03 に伴うものと考えている。

その中でドットとして取上げたものは、385 を除いてすべてである。ドットで取上げられている資料は、いずれも 9 期単純として位置づけられる好資料である。

385 は 43-81Gr 内西側土器集中区の上面にあたる。内外面明瞭なケズリ調整がみられ、様相的には 10 期まで下がってもよい資料である。



396 検出状況 環濠 12 上面 (SX02) 内南東から

2. 31地区 SX02(SD1-b)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第1節第17 図参照)

掲載資料は 396～398 である。

SX02 は環濠 12 が埋まった後に造墓されたものである。いずれも時期は 9 期と考えられる。

3. Ⅱ次・Ⅲ次 SX08・SX01・SX10(報告Ⅱ 2013 遺構編 第3節第29,30 図参照)

掲載資料は 399～403 である。

Ⅱ次・Ⅲ次調査区内の方形周溝墓は、環濠 09 東側に付設するように造墓している。墓に伴う土器として現地で取上げられているものはない。辛うじて出土地点から墓に伴うものとして提示できたものは、SX08 に伴う 399・400 と、SX01 に伴う 401、SX10 に伴う 402・403 である。

東海系模倣土器(399)、400はいずれも 8 期併行と考えられる。401 は 7～8 期の範疇で考えられる。402・403 は、2 点とも小型の壺であり、ほぼ完形である。時期は、402 は 7～8 期併行、403 は 7 期併行と考えられる。

4. 6地区 SX01(SK03)、SX07(SK20)、SX08(SK24,25)、SX09(SK49) (報告Ⅱ 2013 遺構編 第4節第40~46 図参照)

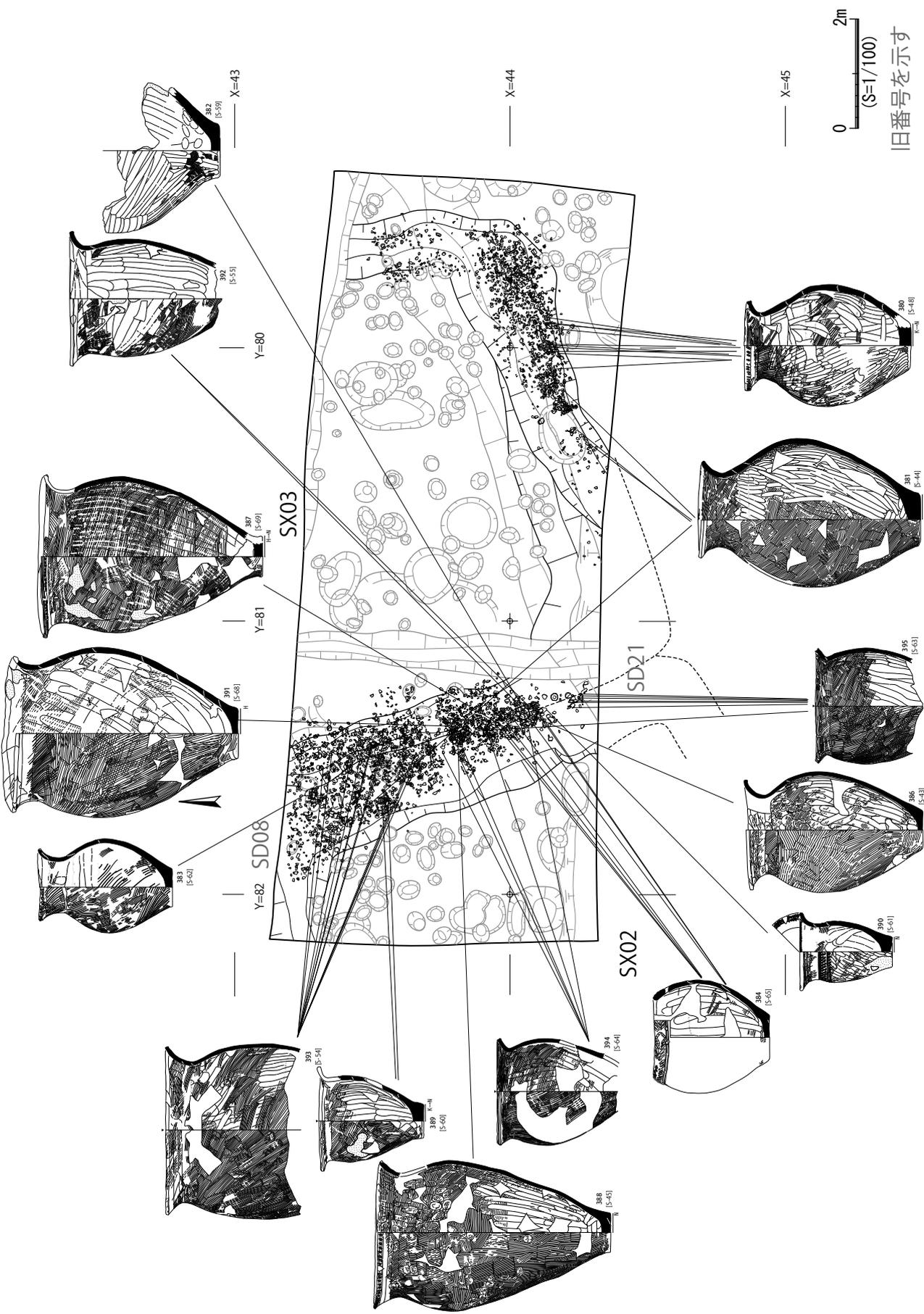
SX01 掲載資料は 404 である。SX01 は SK03(南西溝)と SK02(南東溝)と 2 つの溝で構成され、404 は SK03 から出土している。404 は櫛描文系無文の小型甕であり、8 期の範疇で考えられる。

SX07 掲載資料は 405 である。

SX07 は、環濠 09 を利用しながら造墓しており、SK21(西溝)と SK20(北溝)、SK22(南溝)で構成している。405 は SK20 から出土している。405 は櫛描文系無文の小型甕であり、8 期の範疇で考えられる。

SX08 掲載資料は 406～410 である。

SX08 は、北側周溝(SK25)と南側周溝(SK24)の 2 条で構成されている。北溝からは 410 が出土している。406～409 の 4 点は南溝出土したものであり、その中でも、409 は 408 に入れ子になってみつかっている。408・409 は 8 期併行と考えられる。406・407・410 は 7～8 期の範疇に取るも



第4図 SX02-03(28)地区 SD21) 遺物出土状況 (S=1/100)

のと考えられ、個々で詳細な時期を決定するのは困難であるが、408・409 と同時期の 8 期と捉えたい。

SX09 掲載資料は 411 である。

方形周溝墓の北周溝と考えられる SK50 からは組み物 (フォーラム成果報告 2 第 27 図-91) が出土している。東周溝と考えられる SK49 からは、411 がみられる。いずれも時期は、9～10 期併行と考えられる。

5. 8 地区 SX01(SK23・SK20) (報告Ⅱ 2013 遺構編 第 4 節第 57 図参照)

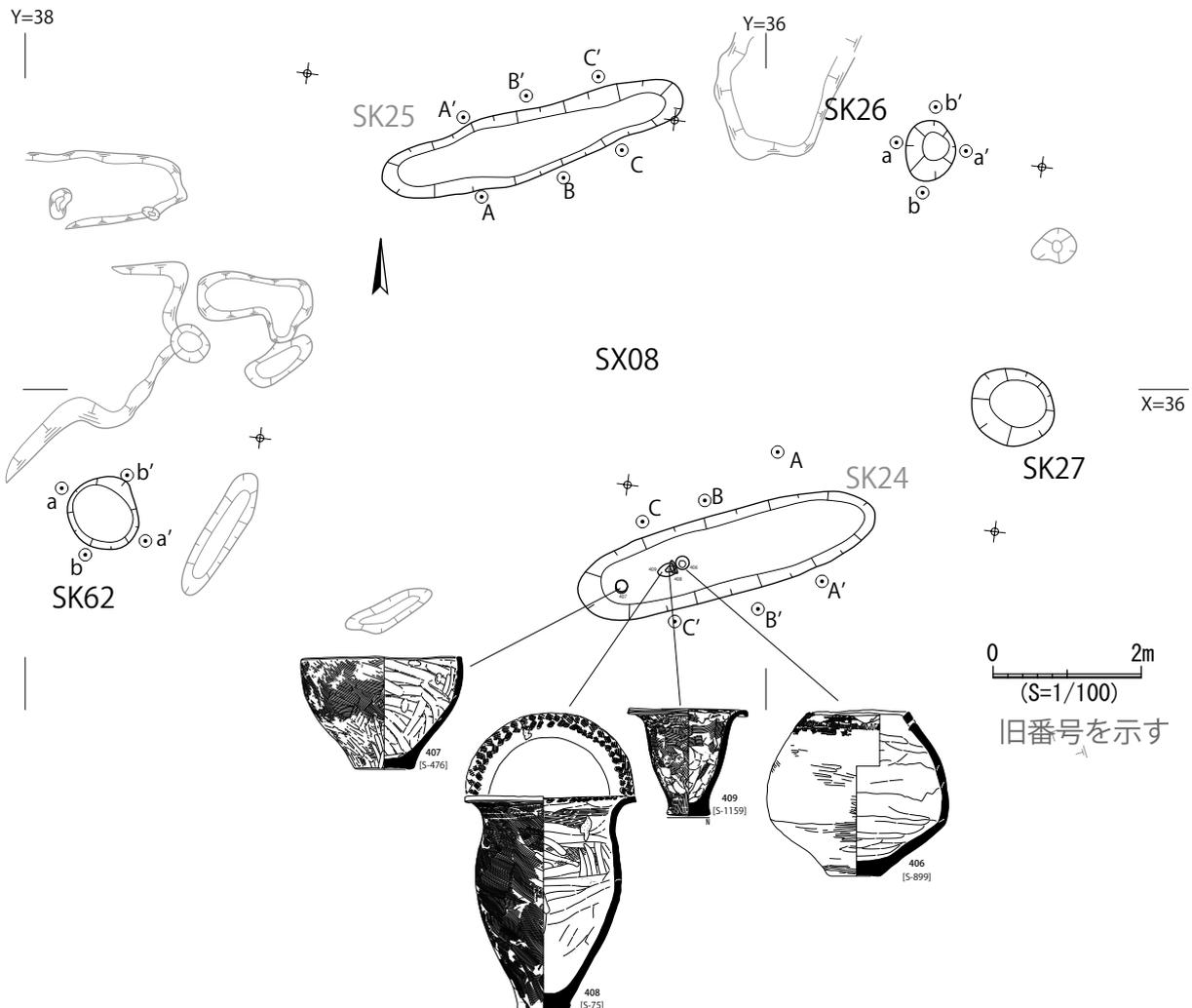
掲載資料は 412～414 である。

412 は SX01 の東溝(SK23)、413・414 は南溝(SK20) から出土している。412 は 8 期の新相に位置づけられるが、414 のハケ調整無文の壺は、凹線文出現期以降にみられるもので、9 期併行と考えられる。

6. 18 地区 SX08・09(SD04・SD02)・SX02(報告Ⅱ 2013 遺構編 第 5 節第 65 図参照)

掲載資料は 415～417 である。SX09 は環濠 08 に付設する形で造墓している。416 は SX09 東南側周溝(SD02) より出土しており、415 は SX09 東南側周溝(SD02) 及び SX08 北西周溝(SD04) から出土している。415 は 8 期併行と考えられ、コの字重ね文を施す無頸壺も同様の時期と捉えたい。

417 は SX02 から出土している。7～8 期併行と考えられる。



第 5 図 SX08 南周溝遺物検出状況 (S=1/100)

7. 20 地区 SX01・SX02・SX04・SX14・SX16 (報告Ⅱ 2013 遺構編 第5 節参照)

SX01 418～421 である。すべて東側周溝から出土している。小型の土器であり、特徴を捉えにくい、9 期併行と考えられる。

SX02 ほとんどが破片資料であり、図化したものは 422 である。7 期併行と考えられる。

SX04 423～425 である。北西側周溝から出土しており、SX01 同様、すべて小型の土器である。9 期併行と考えられる。

SX14 427・428 である。2 点とも南側周溝から出土している。428 は古相の様相もみられ、6～7 期併行、428 は 7 期併行と考えられる。

SX16 426 である。東側周溝から出土しており、6～7 期併行と考えられる。

8. 17 地区 SX02～SX06・SX08・SX09・SX14・SX16(報告Ⅱ 2013 遺構編 第6 節参照)

SX02 掲載資料は 429～450 である。SX02 は環濠 03 上、環濠 04 に隣接して造墓しており、古相を示す環濠の混入遺物がみられる。方形周溝墓の時期を示す資料として、429～437 があげられる。429・430・433 は南側周溝から、431・432・434～436 は北側周溝から出土している。両者とも 9 期併行に位置づけられるものと考えている。

混入遺物としてあげられるのは 438～450 である。

438～442・448・450 は、環濠 04 と隣接する箇所から出土している。438 は 1 期以前と考えられる。その他は 5～6 期併行の範疇に収まるものと考えられる。444～447 は環濠 03 と重複する箇所から出土しており、5～6 期併行と考えられる。

SX03 掲載資料は 451～456 である。SX03 として取上げられているが、451、453～456 は、SX06 と重複する箇所から出土しており、SX06 に伴う可能性が高い。452 は、南側周溝から出土している。いずれも 9 期併行と考えられる。

SX04 掲載資料は 457・458 である。457 は北側周溝からみつかり、胴部下半には、焼成後穿孔がみられる。9 期併行と考えられる。458 は環濠 03 と重複する箇所からみつかり、本来、環濠 03 に伴うものと考えられ、6～7 期に位置づけられる。

SX05 掲載資料は 459 である。459 は東側周溝より出土している。9 期併行と考えられる。

SX06 掲載資料は 460～478 である。土器は区割りごとに取上げられている。区割り方法は、土層断面を設定した地点間ごとに、南側周溝から時計回りに a 区から g 区まで設定している。460～462 は a 区出土である。463～467 は b 区出土で、環濠 02・03 と重複する南側周溝にあたる。468～476 は c 区出土である。477～478 は d 区出土である。いずれも 9 期併行と考えられる。

SX08 掲載資料は 479～481 である。SX08 は SX02 に付設し造墓しており、SX08 に伴うものとしては、北西側周溝から 3 点とも出土している。479 は搬入品と考えられ、山陰・山陽との併行関係を考えるのに好資料である。481 は 6～7 期併行の甕の底部であり、環濠 03 の混入物と考えられる。

よって、479・480 が SX08 の時期を示す資料であり、10 期併行と考えられる。

SX09 掲載資料は 482・483 である。5～6 期



459 検出状況 H-2Gr 内 SX05(南から)

併行に位置づけられる。どちらも方形周溝墓の時期には伴わない資料であり、環濠 02 の混入物と考えられる。

SX14 掲載資料は 484・485 である。いずれも南西側周溝からの出土で、7～8 期併行である。

SX16 掲載資料は 486 である。9 期併行と考えられる。

9. 15・16 地区 SX04・SX02・SX03・SX05・SX09(報告Ⅱ 2013 遺構編 第7 節参照)

SX04 掲載資料は 487～491 である。487～490 は南側周溝出土である。491 は西側周溝出土である。いずれも 9 期併行と考えられる。

SX02 掲載資料は 492 である。南側周溝出土である。9～10 期併行と考えられる。

SX03 掲載資料は 493・494 である。いずれも北側周溝出土である。8～9 期併行と考えられる。

SX05 掲載資料は 495～501 である。すべて北側周溝から出土しており、西側から B 区、C 区と取上げられている。495～497 は B 区、498～501 は C 区から出土している。いずれも 9 期併行と考えられる。

SX09 掲載資料は 502・503 である。502 は南側周溝から出土している。9 期併行に位置づけられる。503 は SX09 周溝と重複する土坑である SK10 から出土している。時期は 8 期併行と考えられ、方形周溝墓に伴うものではないと思われる。

SX11 掲載資料は 504 である。西側周溝から、ほぼ完形の小型壺が出土している。8 期併行である。



504 検出状況 SX11 西側周溝内

10. 11 地区 SX01(SD34,36a)(報告Ⅱ 2013 遺構編 第11 節第137 図参照)

505 は、北側周溝と東側周溝から出土しており、9 期併行と考えられる。また、西側周溝からは人形土製品(報告Ⅰ 第100 図-17)が出土しており、出土土器と同時期の 9 期併行と考えている。

第3 節 その他の遺構資料

1. 28 地区③ A 地区

掲載資料は 506～509 である。506・507 は長方形土坑(SD13)から出土している。508 は 36-80-01K、509 は落ち込み状から出土している。掲載したものは、いずれも 9 期併行と考えられる。

2. 28 地区③ B 地区

掲載資料は 510 である。当概調査区のほとんどの出土資料は SX02・03 内からであり、510 は調査区北西側縁から出土している。4 期併行と考えられる。

3. I 次地区

掲載資料は 511・512 である。いずれも SK02 出土である。土坑は調査区西側から見つかった。2 点とも 8 期併行と考えられる。

4. 28 地区

D2-01-K 掲載資料は 513 である。ほぼ完形の鉢であり、9 期併行と考えられる。

E4-01-K 掲載資料は 514 である。完形の小型壺であり、時期の指標となる特徴がなく、詳細な時期は不明である。7～8 期併行か。

C3-01-K 掲載資料は 515 である。土坑は近世以降の溝にきられており、全形は不明である。515 は遺存率は低いものの、口縁から底部近くまで破片が接合しており、凡その形状は確認できる。底部下半には放射状縦ハケメが確認できることや口縁端部の刻み手法から 9 期併行と考えられる。

F4-01-K 掲載資料は 516 である。ほぼ完形の鉢であり、8～9 期併行と考えられる。

F4-02-K 掲載資料は 517 である。ほぼ完形の鉢であり、8～9 期併行か。

I3-01-K 掲載資料は 518・519 である。2 点とも残りが良く、7～8 期併行に位置づけられる。

D4-06-K 掲載資料は 520 である。9 期併行と考えられる。

SD08 掲載資料は 521・522 である。どちらも遺存がよく、9 期併行と考えられる。

5. 26 地区

SI01・SD13(報告Ⅱ 2013 第 2 節第 22 図参照) SI01 は SD13 上に作られた隅円方形の小竪穴状遺構である。SD13 出土資料は近接する SK102 だけでなく、SK25・SK80・SK27・SK107 と広範囲の土坑資料との接合がみられる。523～526 は、SI01 及び SD13 から出土している。527～537 は SD13 から出土しており、その中でも 528 は SK80、529 は SK25、533 は SK107、534 は SK27 とそれぞれ接合している。土器の時期は SI01 に伴う資料は 9～10 期とやや後出の様相がみられ、SD13 資料は 9 期併行と考えられる。

SD14 G・H-6Gr 内 SK77 と SK93 と重複する形で検出した L 字状の溝である。掲載資料は 538～540 である。539 はおそらく壺の口縁片と思われるが、当遺跡内では類例がないものである。見込みにあたる箇所は丁寧にミガキ調整が施されている。いずれも 9 期併行と考えている。

SD15 G-3・4Gr 内、SK106・SK86 の検出面は、同一の黒色砂層覆土であったため、一連の遺構として SD15 としている。そして、土坑形状がみえてきたところから、土器は個別土坑名で取り上げている。

掲載資料は 541～562 である。541～546 は SD15、547～562 は SK86 から出土している。547・549・552 は、SK86 と SD15 から出土している。563 は SK106 と SD15 から出土している。土坑出土のものを含めて、大型壺片である 541・548 は 8～9 期と古相に位置づけられる感もあるが、中国地方の搬入品と考えられる 545 や 549、在地のハケ調整無文甕(543)のように頸部屈曲しているものがあることから、相対的に 10 期併行として捉えたい。なお、552 は頸部に貼付突帯をもつ甕で、在地ではない特徴をもつ。

SK08 掲載資料は 564～567 である。いずれも 9～10 期と考えられる。

SK77 掲載資料は 568～571 である。栗林系搬入品(568)と西日本系甕(570)在地の甕(569・571)が共伴する好資料である。いずれも 9 期併行と考えている。

SK81 掲載資料は 572～577 である。575・576 はくの字甕の模倣品である。8 期新併行と考えられる。

SK129 掲載資料は 578～579 である。578 は 8～9 期、579 は 7 期以前と考えられる。

なお、SK129 は埋積浅谷 viii 層堆積後造られた土坑であることから、578 が土坑の時期を示し、579 は x-xi 層資料の混入物と思われる。

SK50 掲載資料は 580 である。580 は 8～9 期に位置づけられる。

SK140 掲載資料は 581 である。ほぼ完形資料であり、1 点のみの出土である。在地の土器との共伴がみられず、時期確定は困難であるが、埋積浅谷 viii 層堆積後造られている土坑であることから、8 期以降に位置づけられるものと捉えたい。

SK43 掲載資料は 582・583 である。582 はほぼ完形であり、底部側面は横方向にケズリ調整がみられる。いずれも 9～10 期併行と考えている。

SK181 掲載資料は 585 である。埋積浅谷 viii 層堆積後作られている土坑であることから、8 期以降に位置づけられ、様相的に 9 期併行と考えられる。

SK24・SK29・SK6・SK72 584 は SK6、586 は SK29、587 は SK24、589 は SK72 出土である。SK29 は、SK27 同様、SK20 にきられている土坑である。SK27 は先述したとおり、SD13 と接合関係がみられる土坑である。SK6・SK24・SK72 は黒褐砂層を覆土とし、遺構検出時から明瞭確認できた土坑である。584・586・587・589 はともに 9 期併行と考えられ、SK27・SK25・SD13 等と同時期のものと捉えたい。

SK73 掲載資料は 588 である。8 期併行と考えられる。

SK124 掲載資料は 590～594 である。593 は、590 の壺に被さる形でみつまっている。コナラ節の根元に作られた土坑である。出土土器は 6 期に位置づけられる。一括性の高い好資料である。

SK93、SK120 掲載資料の 595 は SK120 から、596 は SK93 から出土している。いずれも 6 期併行と考えている。



26 地区 SK124 遺物検出状況 (東から)

6. II 次調査区

SD02 掲載資料は 597～602 である。599 や 601 はやや古相の様相を残すが、相対的に 9 期併行と考えられる。

SK01 掲載資料は 603・604 である。どちらも底部は欠しており、辛うじて、口縁から胴部の状況がわかる。603 は 8 期併行と考えられ、604 は古相にみえるものの、口縁端部を立ち上げて端部にハケ工具の刺突が施されている。603 同様、8 期併行のものと捉えたい。

SK05 掲載資料は 605 である。胴部下半は欠している。7 期併行と考えられる。

7. 4 地区

SD01・SD02(報告Ⅱ 2013 遺構編第 3 節第 34 図参照) 方形周溝墓の周溝の可能性のあるものとして提示された遺構である。掲載資料は 606～606 は SD01、607 は SD02、608・609 は SD02・03 から出土している。いずれも 9 期併行と考えられる。

SK11 掲載資料は 610・611 である。2 点とも横倒し状態でまとまって黒褐色砂壤土からみつまっている。610 は、頸部から上は欠失しているが、頸部以下底部までの遺存はよい。無文の大型壺であり、六ツ目編み痕が全面にみられる。610・611 はいずれも 9 期併行と考えられる。

SK27(報告Ⅱ 2013 遺構編第 3 節第 34 図参照) 掲載資料は 612 である。平地式建物内土坑と考えられる。平地式建物の周溝である SD03 は方形周溝墓の可能性が問われる SD02 にきられており、

SD02 とは、同時期もしくは古相を示すものと考えられる。ハケ調整無文の甕であり、底部を欠失している。時期は8～9期併行と考えられる。



4地区 SK02 遺物検出状況(南から)

SK02 掲載資料は613～615である。いずれも6期併行と考えられ、一括性の高い好資料である。

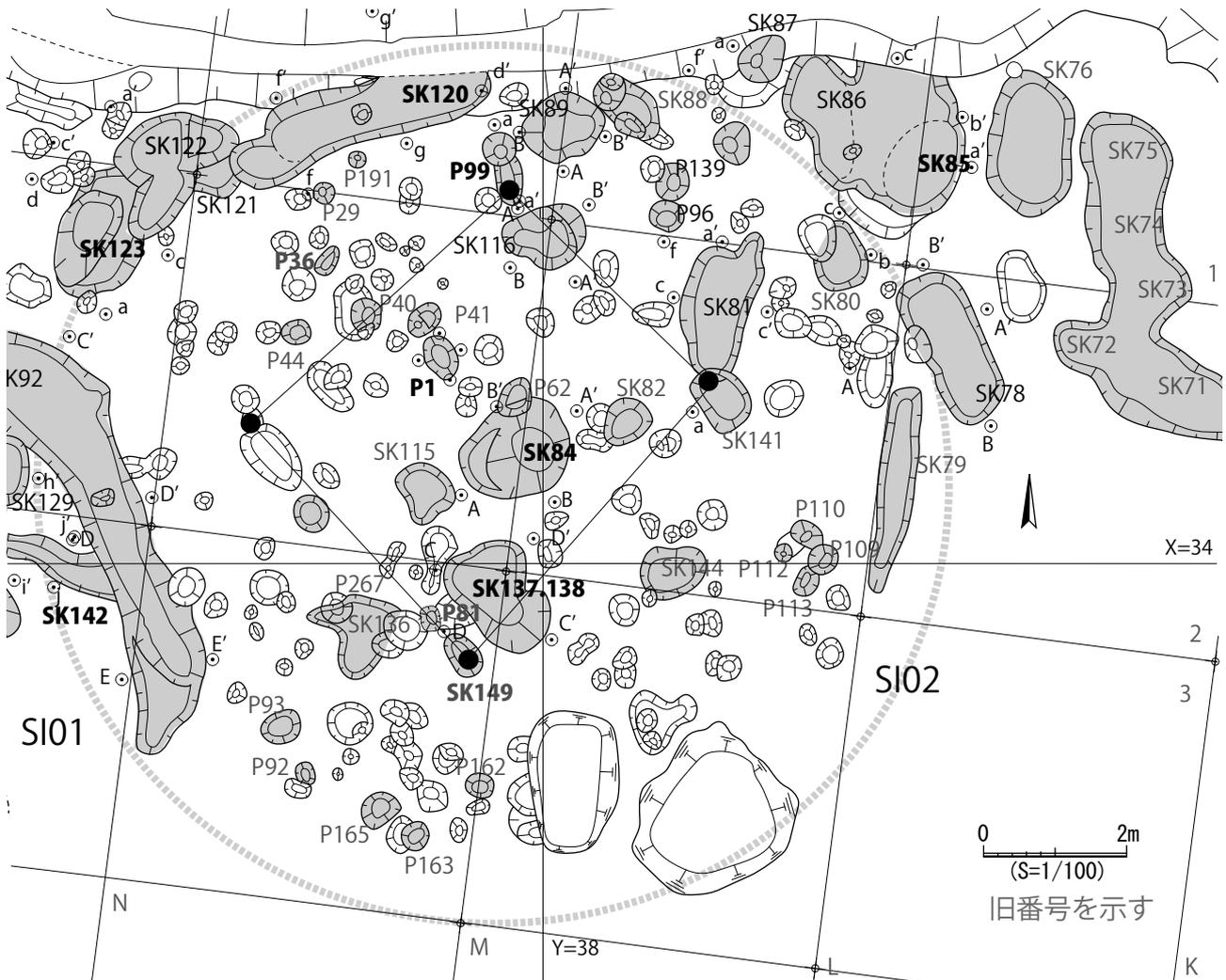
SK33・37 掲載資料は619・620である。どちらも両土坑から出土している。8～9期併行と考えられる。

SK32 掲載資料は621・622である。621はSK32及びSK33・34と隣接した土坑資料と接合している。どちらも胴部内外面下半はミガキ調整が施されており、西日本系土器である。9期併行と考えられる。

8. 6地区

SI02は樹種同定の成果から支柱穴が確認できたため再掲し(第6図参照)、SI01・SK43・45・63・64の位置に関しては、報告Ⅱ2013遺構編第4節第46・48図を参照されたい。

SI01 SI01周溝及び内側の土坑から出土したものは、623～629である。



第6図 6地区 SI02 平面図 (S=1/100)

623 は SK95、624・625 は SK65、626 は SK92、627 は SK109 及び SK124・125、628・629 は SK109 からそれぞれ出土している。623～625、628 は 7～8 期の範疇として考えられ、626 は 6～7 期の範疇、627・629 は 7 期併行と考えられる。玉作工程資料を伴う建物跡 SI01 は、前述した土坑資料から、6 期～8 期の範疇であり、7 期を主体とした時期と考えられる。

SI02 柱根の再整理及び樹種同定の成果から、主柱と考えられる 4 本が判明した。その中の 2 本 (SK149・P99) は、クリ材芯持ちの丸木材が利用されていることがわかった。

掲載資料は、630～636 である。630・631 は SK78、632 は SK137・138、633 は SK122、634 は SK85、SK44、635 は SK85、636 は SK120 から出土している。630・632・635 は 8～9 期併行と考えられ、631・633・634 は 7 期併行と考えられる。636 は 6 期以前と考えられる。

SI02 に伴う土坑から出土したこれらの土器は、6 期から 9 期までと時期幅が長い。9 期併行は SI02 廃絶後の時期であると考えられ、SI01 同様、SI02 は 7 期を主体とした時期と考えたい。

SK64・43 掲載資料は 641～644 である。641 は SK43・SK64、642 は SK43、643・644 は SK64 から出土している。両土坑は隣接し、641 は両土坑から出土している。貝田町式土器搬入品 (641) と在地の土器 (642～644) の共伴がみられる好資料である。いずれも時期は、8 期併行と考えている。

SK15 掲載資料は 637 であり、7 期併行と考えられる。

SK26 掲載資料は 639 である。小型土器であるため、詳細な時期は不明であるが、8 期以降の可能性が高い。

SK34・SK97・SK63・SK54・SK52 638 は SK34、640 は SK97、645・646 は SK63、652～654 は SK54、655 は SK52 から出土したものであり、すべて 9～10 期併行と考えられる。

SK58・SK56・SK45 647～649 は SK58、650 は SK56、651 は SK56・SK58、656・657 は SK45 からそれぞれ出土したものである。651 は SK56 と SK58 から出土したものが接合しており、両土坑は同時期の可能性が高い。すべて 9 期併行と考えられる。

SK44 掲載資料は 658 である。658 は、SI02 周溝に囲まれた中にある SK120 より出土したものととの接合関係がみられる。小型土器であるため、詳細な時期は不明瞭であるが、8 期以降のものと考えられる。こうした状況から、SK120 に伴う 9 期の資料と同時期と考えられる。

SK48 掲載資料は 659 である。小波状口縁をもつ無文のハケ甕であり、6～7 期併行と考えられる。

9. 8 地区 (報告Ⅱ 2013 遺構編第 4 節第 52 図参照)

SD11 掲載資料は 660～663 があげられる。環濠 09 に併走している溝であり、方形周溝墓の周溝である可能性が高い。すべて 7 期併行に位置づけられる。

SK12 掲載資料は 664 があげられる。6～7 期併行と考えられる。

10. 18 地区 (報告Ⅱ 2013 遺構編第 5 節第 68 図参照)

SD03 掲載資料は 665～667 である。すべて 8 期新段階と考えられる。

SD05・42-43-1K 668・669 は 42-43-1K、670・671 は SD05 から出土している。すべて 8 期併行と考えられる。

なお、前述のこれらの遺構は方形周溝墓の可能性もあるが、現地で確認した方形周溝墓と、別扱いとするため、その他の遺構資料に掲載した。

11. 17 地区

SD49(報告Ⅱ 2013 遺構編第6節第103図参照)

SD49は、環濠01・環濠02に併走する布掘状の細い溝である。SX05にきられている。掲載資料は672、673である。どちらも5期併行と考えられる。

SX10(SD45・C8-02-K・SD51)(報告Ⅱ 2013 遺構編第6節第90図参照)

674～677はSD45、678・679はSD51、680・681はC8-02-Kから出土したものである。平地式建物の周溝から出土している674・675・678～691は6期併行である。676・677は9期併行である。9期併行のものは混入物である可能性が高い。

C5-01-K・F1-01-K・F2-06-K・D5-04-K(第12図参照) 682はC5-01-K、683はF1-01-K、684はF2-06-K、685はD5-04-Kより出土したものである。すべて6期併行と考えられる。また、D5-04-Kからはトチの実が多量に出土しており、トチの実の貯蔵穴と考えられる。

B-11GrSK03内 pit 掲載資料は686である。4期併行と考えられる。

SD11・D-7・8Gr 686はD-7・8Gr内、689はSD11から出土している。どちらも5～6期併行であり、方形周溝墓が築造される領域の周辺から出土している。

D5-01-K 掲載資料は690である。8期併行と考えられる。

G6-02-K 掲載資料は692である。胴部下半の剥離が激しいが、放射状縦ハケメが確認できる。9期併行と考えられる。SX03をきる土坑であるがSX03と時期差はほとんどない。

なお、樹種同定の成果から、SB01・SB02の柱根は、すべて、スギ製割材であることがわかっている。また、C-1・2Gr内には、トネリコ節、シオジ節を柱根とした建物跡があることが判明し、SB04とした。DVDに添付した17地区遺構図を参照されたい。

12. 15 地区

SK07 掲載資料は694・695である。いずれも6～7期併行と考えられる。

C-1Gr 掲載資料は693である。1イコウC区と土器集中範囲で取り上げられているものと接合した資料である。6～7期併行と考えられる。

SK14 SX05と重複する遺構である。掲載資料は696である。時期は7期併行と考えられる。出土遺物の時期から、SK14はSX05より古相と考えられる。SK07と同様に、方形周溝墓の造墓前の遺構と考えられる。

15地区建物跡(SD10・SD14・SD17・SD11) SX06にきられる平地式建物跡と考えられる。

697～699はSD10、700はSD14、701はSD17、704はSD11から出土している。699・701は6～7期併行、697・698・700・704は8～9期併行と考えられる。同一遺構内からの出土であっても、SD10のように時期にばらつきがみられる。15地区方形周溝墓の造営時期は、8期以降9期を主体とする考える。よって、前述したSD10やSD14でみられた8期以降の土器に関しては、方形周溝墓に関連するものとし、平地式建物跡は6～7期併行である可能性が高いものと推測する。

SK17・SK20 702はSK17、703はSK20から出土している。いずれも7～8期併行と考えられる。

SD24・SD21 SD21は環濠10と同一の可能性のある溝である。掲載資料は705・706がある。いずれも8期併行と考えられる。

13. 12 地区

SX01 710は周溝1区、711は周溝2区、712は周溝2区と30-64-04-Kから出土している。

712は8～9期とやや古相であり、710・711は9期併行と考えられる。

SX02(SD18・33-64-04K) 713～716はSD18、717は33-64-04-Kから出土している。台付小型壺は古相にもみえるが、共伴している近江系の土器(714・715)や在地の無文壺から判断し、いずれも10期併行と考えている。

SD14・SD15・SD17 707～709はSD17、718はSD14、719はSD15から出土している。718は水差し形土器の把手部片である。辛うじて櫛状工具による直線文と波状文が施されていたことがわかる。719は栗林式壺の模倣品胴部片である。いずれも9期併行と考えられる。

30-65-02K 掲載資料は720～721である。721は外面底部側面が縦方向にケズリ調整が施されており、10期併行と考えられる。共伴する720は頸部片で残りが悪いものの、同時期のものとして捉えたい。

33-65-02K 環濠03Aと重複する土坑である。環濠の廃絶時期は6～7期であるため、環濠埋没後の8期以降の遺構と考えられる。掲載資料は723～730である。栗林系模倣の壺(724)や記号文がみられる壺(727)など良好な一括資料である。730は6～7期併行と考えられ、環濠03の混入物と考えたい。よって、730を除いた土器群を9期併行と考えている。

35-65-02K 環濠03Aと重なる土坑である。掲載資料は731～737である。731・732・734・735は7期新段階併行と考えられる。733は環濠03の混入物と考えられ6～7期併行である。736・737は7期併行と考えられる。よって、当土坑の時期は、7期新段階を主体として、7期併行に位置づけられる。

なお、今年度、小松式土器フォーラムで確認された人面付土器(1130)も当土坑から出土している。人面付土器に関しては、第7部補遺編を参照されたい。

33-64-06K 土坑は完全に環濠03Bと重なりをみせる。掲載資料は738、739である。土坑名称で取り上げられているが、土器は6～7期併行と考えられ、環濠03Bに伴うものと考えたい。

27-58-30K 掲載資料は740である。6期併行と考えられる。

31-65-05K・32-65-04K・SD03 741は31-65-05K、744は32-65-04K、748はSD03から出土したものである。いずれも7期併行と考えられる。

30-62-02K・28-59-01K 742は30-62-02K及び30-64-05K、743は28-59-01Kから出土している。いずれも8～9期併行と考えられる。

32-64-14P・34-65-10P・30-64-37P いずれの柱穴も土器が1点のみ出土している。745は8～9期、746・747は7～8期併行と考えられる。

14. 13地区

E10-02-K 掲載資料は749・750である。749は9期、750は7期以前のものと考えられる。750は埋積浅谷内の資料が混入したものと考えている。

E3-02-K 掲載資料は751・752である。どちらも残りがよい。9～10期併行と考えられる。

SX02周溝内 (F11-01B-K・F11-01A-K・G11-10-K・F10-01-K・F11-02B-K・F11-02-K)

753～767はF11-01B-K、768～771はF11-01A-K、778～782はG11-10-K、788はF10-01-K、787はSX02周溝内、812・813はF11-02B-K、814～821はF11-02-Kからそれぞれ出土したものである。第15図のように、周溝の内側で検出された土坑の出土土器は、H11-02-K・H11-03-K・H9-06-K・J6-02-K・G10-01-K・SD32・J10-02-Kと広範囲に接合がみられる。F11-01B-K・F11-01A-K・G11-10-K・F10-01-Kは10期を主体とした一括性の高い資料と考えられる。

なお、西日本系の鉢(782)は口縁片である。8期併行と考えられ、F11-02-K及びF11-02B-K出土資料は、それぞれ7～8期、6～7期併行と考えられる。よって、これらの遺構はSX02には伴わない古い時期の遺構と考えられる。

H11-02-K・H9-06-K 772～777はH11-02-K、783～786はH9-06-Kから出土したものである。H11-02-Kは9～10期、H9-06-Kは10期併行と考えられる。G11-10-K出土の779はH11-02-Kと、786はF11-01A-Kと接合しており、いずれもSX02周溝内側の土坑と同一時期と考えられる。

G10-01-K 掲載資料は789～806である。遺構はSX02周溝と重複がみられる。801・805・806は9～10期、その他は8～9期併行であり、9～10期併行のものは、SX02周溝に伴うものであり、土坑の主体時期は、8～9期併行と捉えたい。

SD32 掲載資料は808～811である。7期新段階併行と考えている。808は当土坑以外にH11-14-K・H11-02.03-K・H6-04-K・H10-05-K・H10-10-Pより出土したものと接合関係がみられ、拡散して出土している。

SX01周溝内(J10-02-K・J10-02B-K・J10-02A-K・J10-08-K・J10-03-K・J10-04K・J10-05-K)

822～826はSX01周溝、827～828はJ10-02B-K、829～831はJ10-02-K、832～851はJ10-02A-K、855～859はJ10-02A-K・J10-08-K、860～882はJ10-08-K、883はJ10-03-K、884はJ10-04-Kからそれぞれ出土している。SX01周溝・J10-05-K出土資料は9～10期併行と考えられる。J10-02B-K・J10-02-K・J10-02A-K・J10-03-Kは7期新段階併行と考えられる。831はJ10-02A-K・G10-01-K・SX02・F11-02-Kより出土したものと接合関係がみられ、拡散して出土している。接合関係を示す土坑のうちでF11-02-Kは、J10-02-K・J10-02A-Kとほぼ同時期であると考えられる。

J10-08-KはJ10-02A-Kと重複がみられる遺構である。出土した土器は7～8期と、時期の幅域がとえられる。J10-04-Kは4期に併行する櫛描文系無文の甕である。

総じて、SX01は9期以降と考えられ、周溝内側の土坑資料J10-05-Kを除いて、SX01に伴う時期ではなく、住居築造前の遺構と考えられる。

F9-01-K 掲載資料は885～889である。小片ばかりである。885と887は7期以前、886、888、889は9～10期併行と考えられる。

F9-02-K・F9-03-K・F9-04-K 890～898はF9-02-K、899～909はF9-03-K、910～912はF9-04-Kより出土したものである。890～897、902～909、910～912は9～10期併行と考えられる。898・899・900は7期以前であり、901は7～8期併行と、時期が混在して出土している。F9-03-KはF9-04-Kにきられている。おそらくF9-02-K及びF9-04-Kは9期併行の土坑であり、F9-03-Kは7～8期併行の土坑と考えられる。

H9-01-K・H9-03-K 913～935はH9-01-K、1000・1001はF9-03-K出土である。どちらも環濠02と重複がみられ、築造時期は7期以降と考えられる。出土した土器は916・917・922は6期併行、933・935は9期併行、その他は7～8期併行と考えられる。6期併行のものは、環濠02の混入遺物と考えられる。また、H9-03-Kは7期併行の土坑である。H9-01-Kの時期は9期併行と考えており、H9-01-Kより出土した土器のうち、7～8期併行の土器は、7混入したものと考えられる。

G9-01-K・G9-02-K・G9-03-K 936・937はG9-01-K、938～941はG9-02-K、943～947はG9-03-Kから出土しており、942は3つの土坑から出土したものの接合資料である。945～947は9～10期併行に位置づけられる。H9-01-Kより出土したものと接合関係があることから、G9-03-Kは9～10期の土坑と考えている。また938・939・941は9期併行と考えられる。940のような古相を示す資料もみられるが、G9-02-Kは9期併行の遺構と考えたい。936・937は7期併行であり、G9-

01-Kは7期併行の遺構と考えられる。

大穴 遺物取上げ名称として大穴としている遺構である。掲載資料は948～963である。951・952・954・956・957を除いて、その他は9～10期併行と考えられる。

SD2 SD2は大穴と重複する遺構である。大型の落ち込み部分を大穴とし、溝状の部分をSD2とし、それぞれ遺物を取上げており、ここではSD2より出土したものを報告している。掲載資料は964～969である。964は8～9期と古相である。その他のものは、9期まで遡る可能性をもつものも含まれるが、主体は10期併行と考えている。

G5-02-K(報告Ⅱ第8節第132図参照) 掲載資料は970～972である。銅鐸形土製品(報告Ⅰ第101図-25)や槽(報告Ⅱ2014木器編345)も出土している。時期は9期併行と考えられる。

G・H-10・11土器だまり 掲載資料は973～982である。973～976は7～8期併行である。977～980は、古相の977を含んでいるが、相対的に10期併行と考えられる。

SD25 掲載資料は983～984である。9期併行と考えられる。

SD5 掲載資料は985・986である。7～8期併行と考えられる。

SD22 掲載資料は987・988である。8期併行と考えられる。

I2-20-K 掲載資料は990・991である。991はSD4より出土したのもも接合している。時期は9期併行と考えられる。

H10-05-K・I9-01-K 992～996はH10-05-Kより出土したものであり、997はH10-05-KとI9-01-Kから出土したものの接合資料である。時期はすべて7期併行と考えられる。

F5-02-K・E6-24-K・F8-03-K・F4-03-K・G6-01-K・H7-36-K・H8-06-K・H5-06-K 998・999はF5-02-K、1002はE6-24-K、1003はF8-03-K、1004はF4-03-K、1005はG6-01-K、1006はH7-36-K、1007はH8-06-K、1012はH5-06-Kよりそれぞれ出土したものである。いずれも時期は9期併行と考えられる。

G9-09-K・E4-03-K・I3-55-K・H11-04-K 1008はG9-09-K、1009はE4-03-K、1010はI3-55-K、1011はH11-04-Kよりそれぞれ出土したものである。いずれも7～8期併行と考えられる。

I5-20-K 掲載資料は1013である。17地区環濠02(SD46 2区)より出土したものと接合する。沈線文系の鉢あるいは甕であり6期以前のものと考えられ、環濠02の時期と同時期と考えている。

pit 掲載資料 1016～1029はそれぞれ柱穴から出土したものである。それぞれ1点のずつの出土であるが、外来系土器や集落I期併行がみられるものを抽出している。

1021・1022・1024～1026は、5～6期、1027～1029は6期併行、1016・1019・1020・1023は7～8期併行、1017・1018は9期併行と考えられる。

15. 11地区

J10-05-K・SK91・SK29・N9-01-K・SK130・SK31・SD20・SD45・SK41 1030～1033はJ10-05K、1037～1040はSK91、1044～1046はSK29、1047はN9-01-K、1048はSK130、1050はSK31、1051はSD20、1056はSD45、1093はSK41よりそれぞれ出土したものである。1033・1056は胴部内面ケズリ調整が施されており、新相の特徴を示す。この2点は10期併行と考えているが、それ以外のものは、9期併行と考えている。

J10-03-K・J6-01-K・M6-02-K・SK3a・SK72 1036はJ10-03-K、1052～1055・1057はJ6-01-K、1059はM6-02-K、1074・1075はSK3a、1081はSK72よりそれぞれ出土したものである。いずれも7期併行と考えられる。ただし、J6-01-Kは、J7-04-K・SD45は接合関係をもち、前述したとおり、

SD45は10期併行に位置づけられ、J6-01-Kには7期併行以外に10期併行が混在するものと考えられる。

I6-01-K 掲載した1060は、6期併行と考えられる。

SK02 1063～1066は、7期併行と考えられ、いずれも良好な一括資料である。

SK38・SK67・SK65・SD16・SD21 1068～1070はSK38、1083はSK67、1087はSK65、1091～1093はSD16、1094・1095はSD21よりそれぞれ出土したものである。すべて8期併行と考えられる。特にSK38、SD16より出土した土器は、良好な一括資料である。

SK34 1071～1072は、6～7期併行と考えられる。

J8-08-K・J9-08-K 1096はJ8-08-K、1077～1080はJ9-08-Kよりそれぞれ出土したものである。1076～1078は7～8期、1079は9期、1080は7期併行と考えられる。

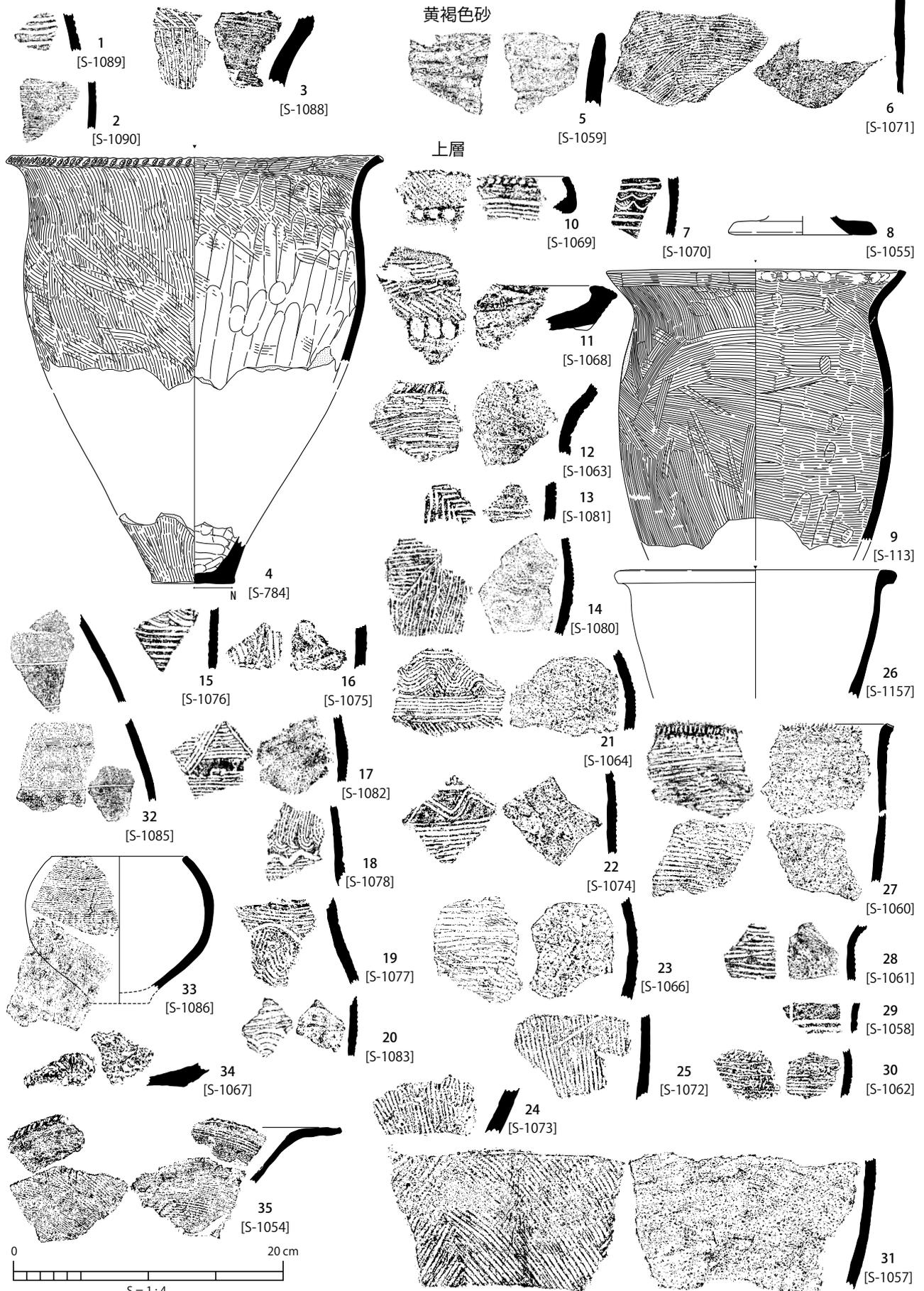
SK87・SD09 1085・1086はSK87、1111はSD09よりそれぞれ出土したものである。いずれも5～6期併行と考えられる。

SD07・SD08 1097～1099はSD08、1101～1108はSD07出土である。この2つの土坑は重複しており、SD07がSD08をきっている。SD08資料は7期、SD07資料は8期併行と捉えたい。SD08出土資料は、二枚貝腹縁を利用した施文をする外来要素の強い特徴的な土器(1097)や、中国地方を出自とする2条突帯をもつ鉢(1100)が、沈線文系継承型甕(1099)と共伴する。7期併行の一括性が高い好資料といえる。

H9-02-K 1112は15地区SD07b(環濠06)より出土したものの接合資料である。ここでは図化掲載していないが、当土坑は7期から9期まで土器が混在して出土している。1112に関しては、環濠06の時期である7期併行と捉えたい。

環濠 01(13 地区 SD13)

環濠 02(13 地区 SD29)



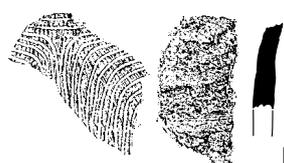
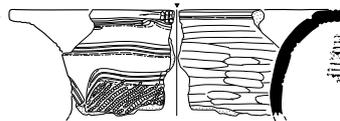
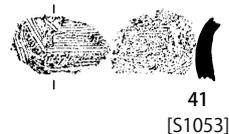
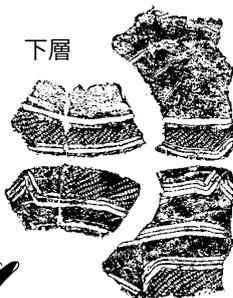
第 7 图 環濠 01, 環濠 02 出土土器 (S=1/4)

環濠 02(13 地区 SD29)

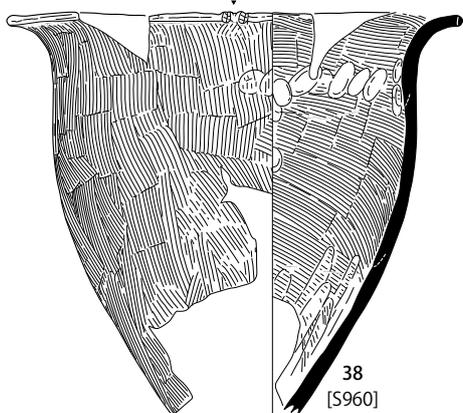
上層



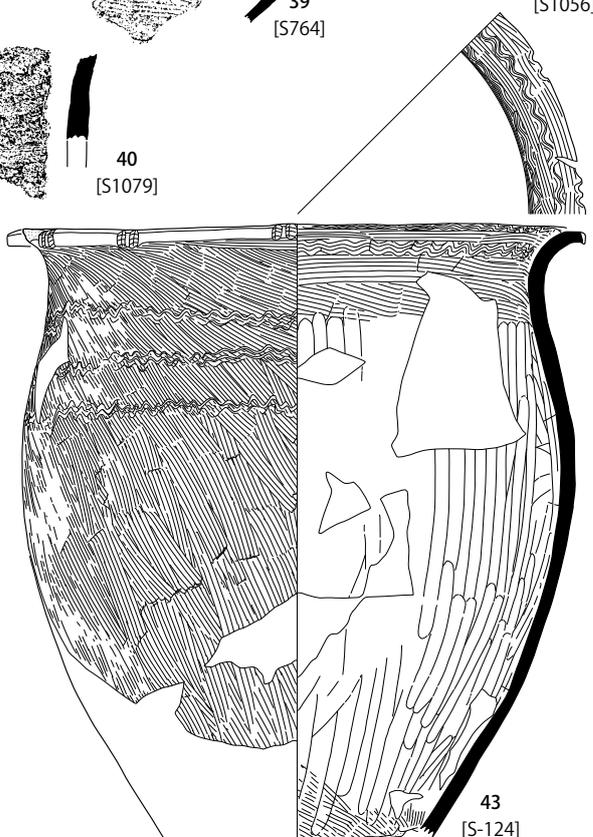
下層



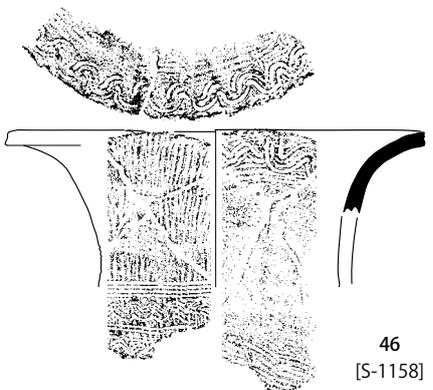
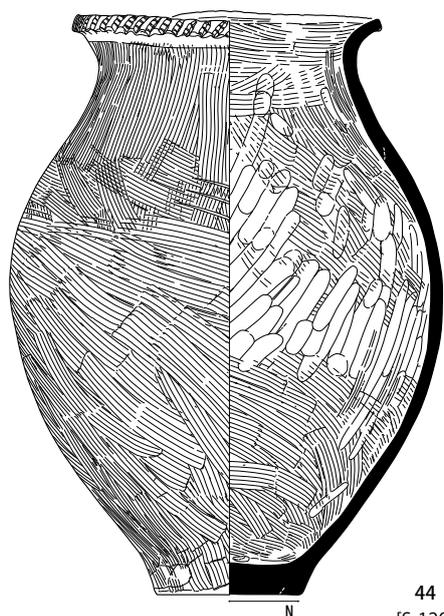
42 [S1056]



40 [S1079]



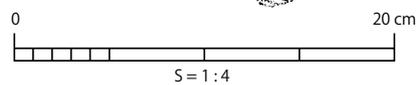
下層(一括)



44 [S-120]

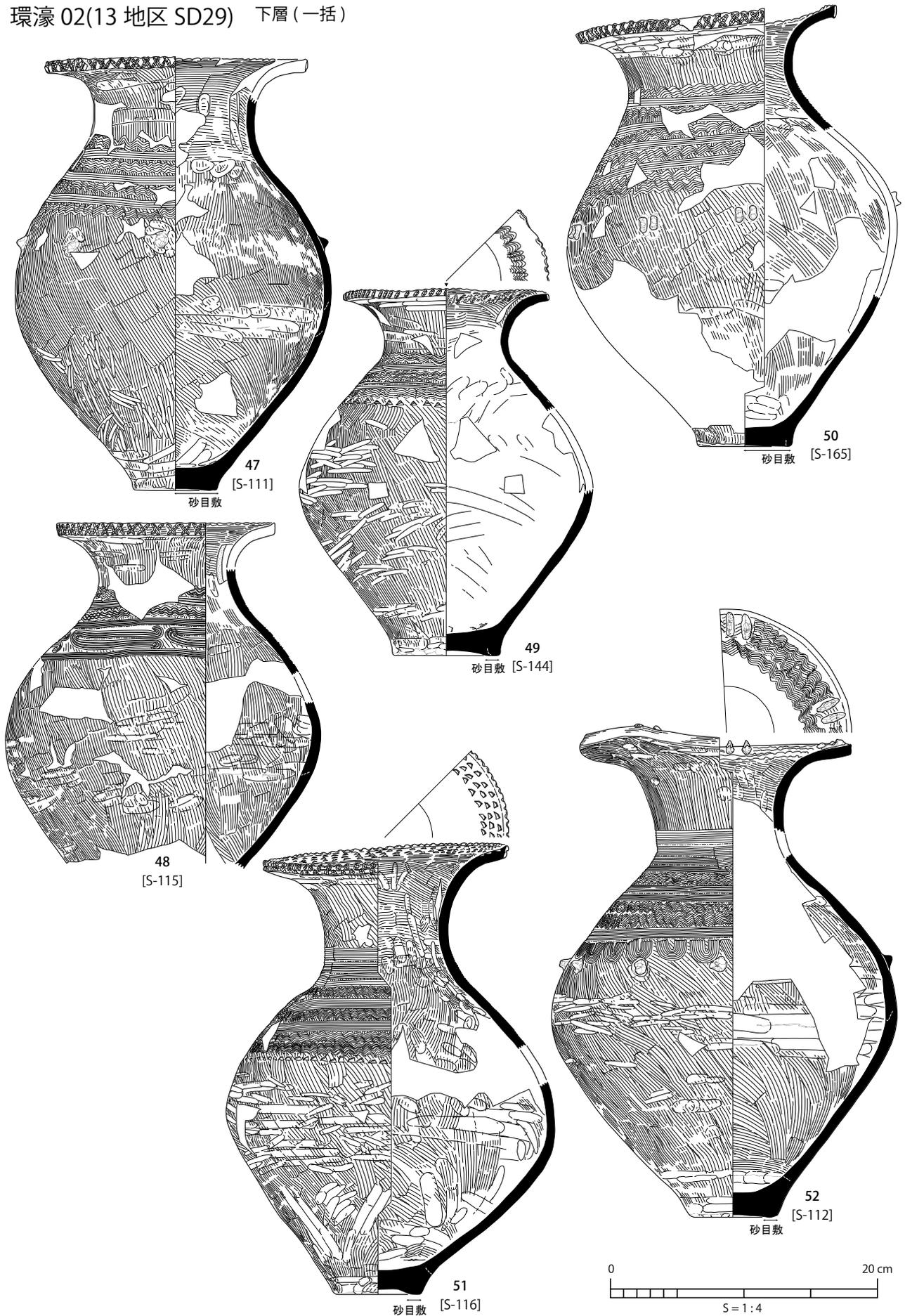
45 [S-1156]

46 [S-1158]



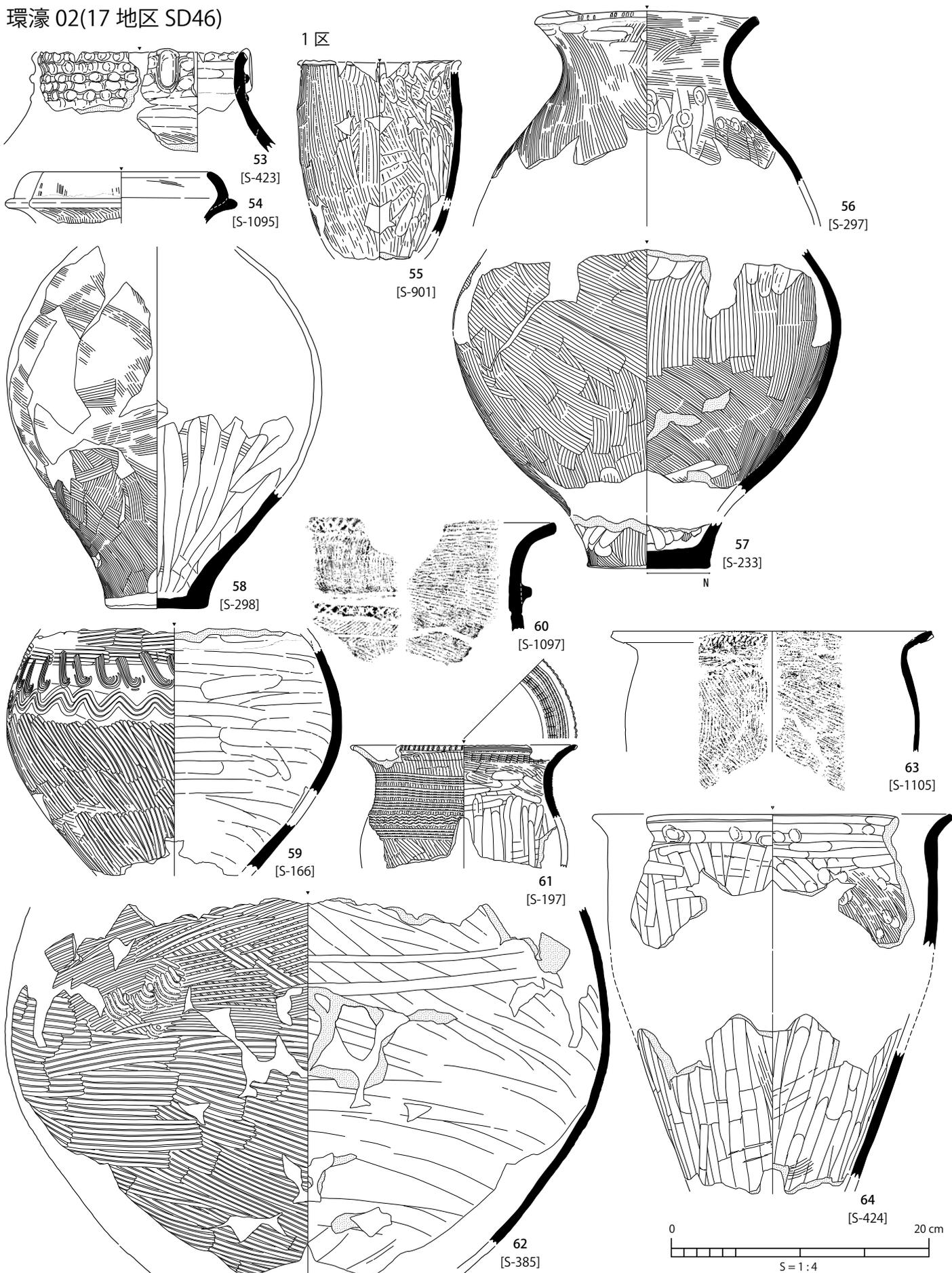
第 8 図 環濠 02 出土土器 2(S=1/4)

環濠 02(13 地区 SD29) 下層(一括)



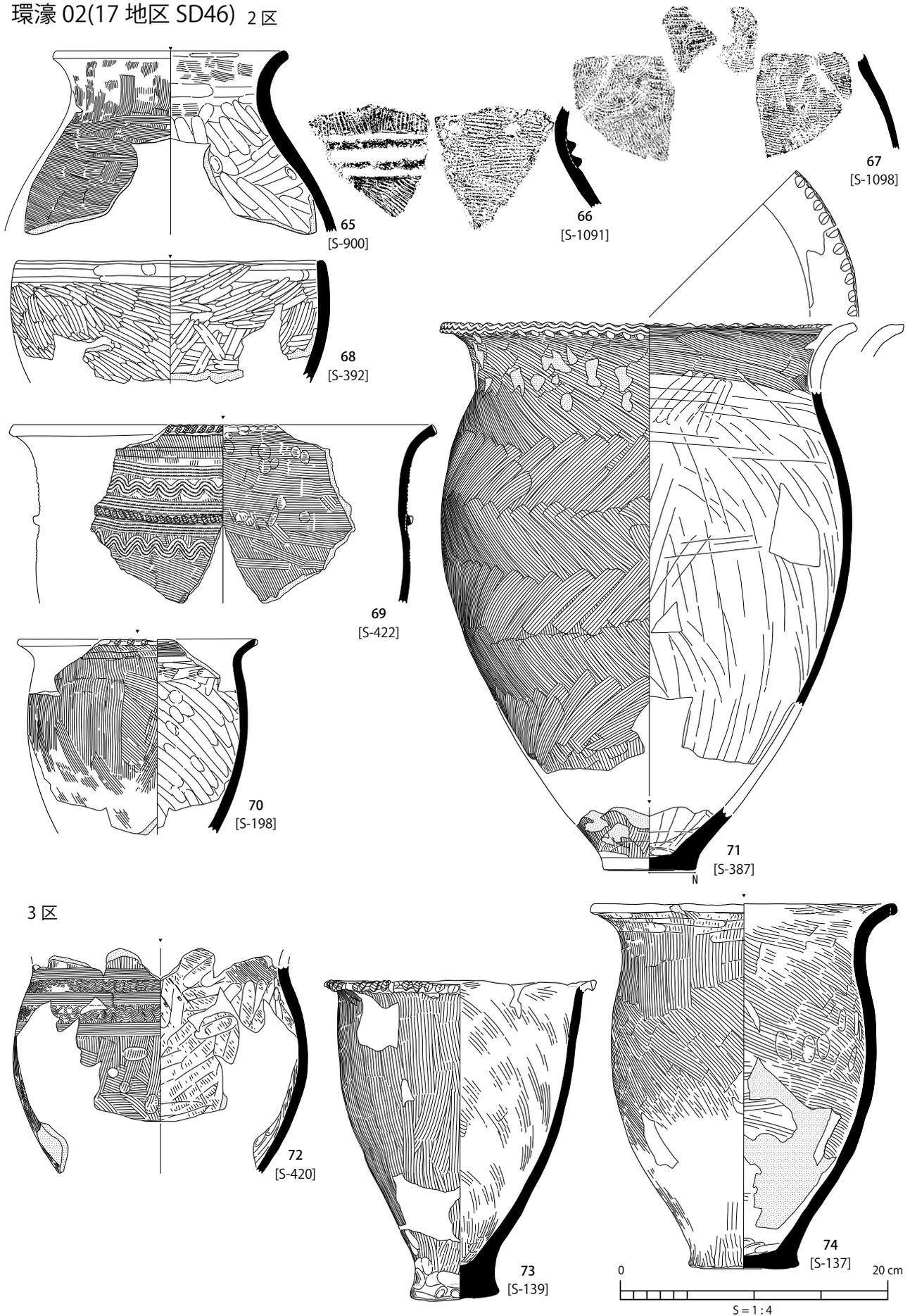
第9図 環濠02出土土器3(S=1/4)

環濠 02(17 地区 SD46)

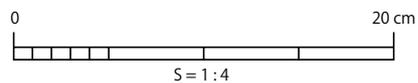
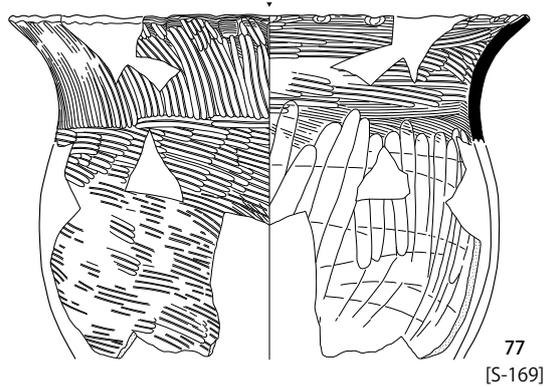
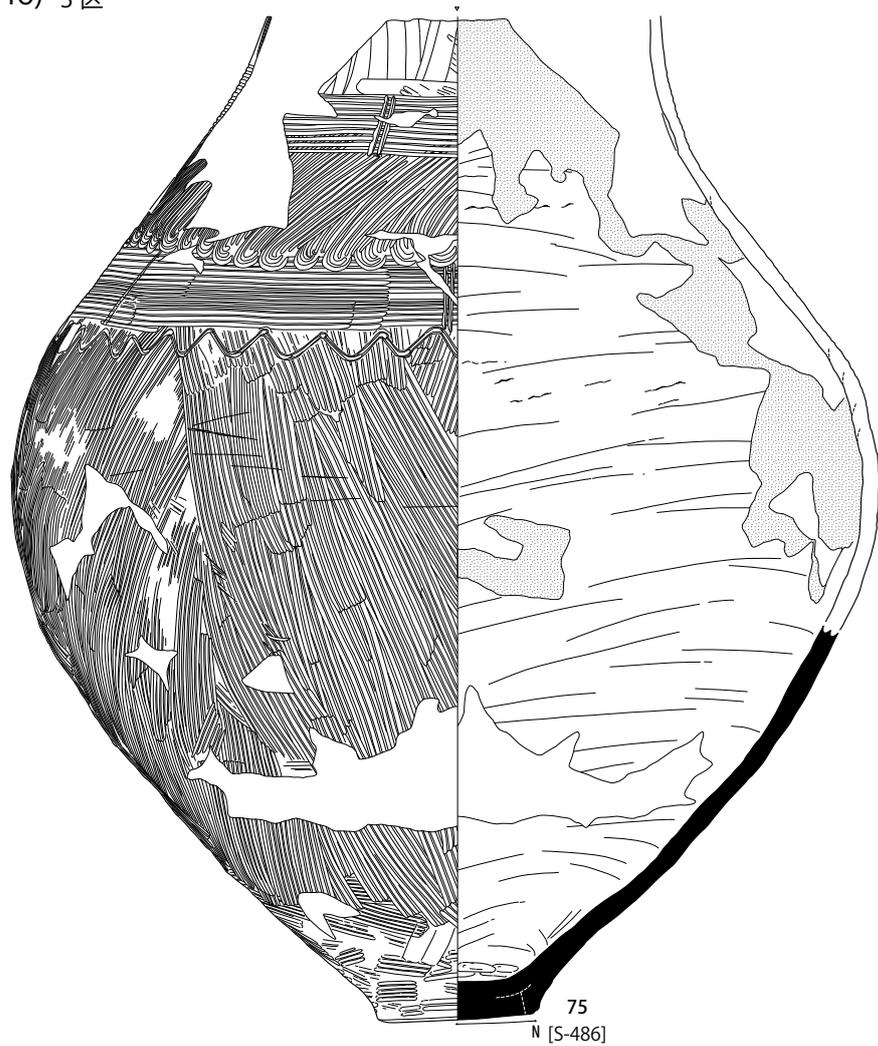


第 10 图 環濠 02 出土土器 4(S=1/4)

環濠 02(17 地区 SD46) 2 区

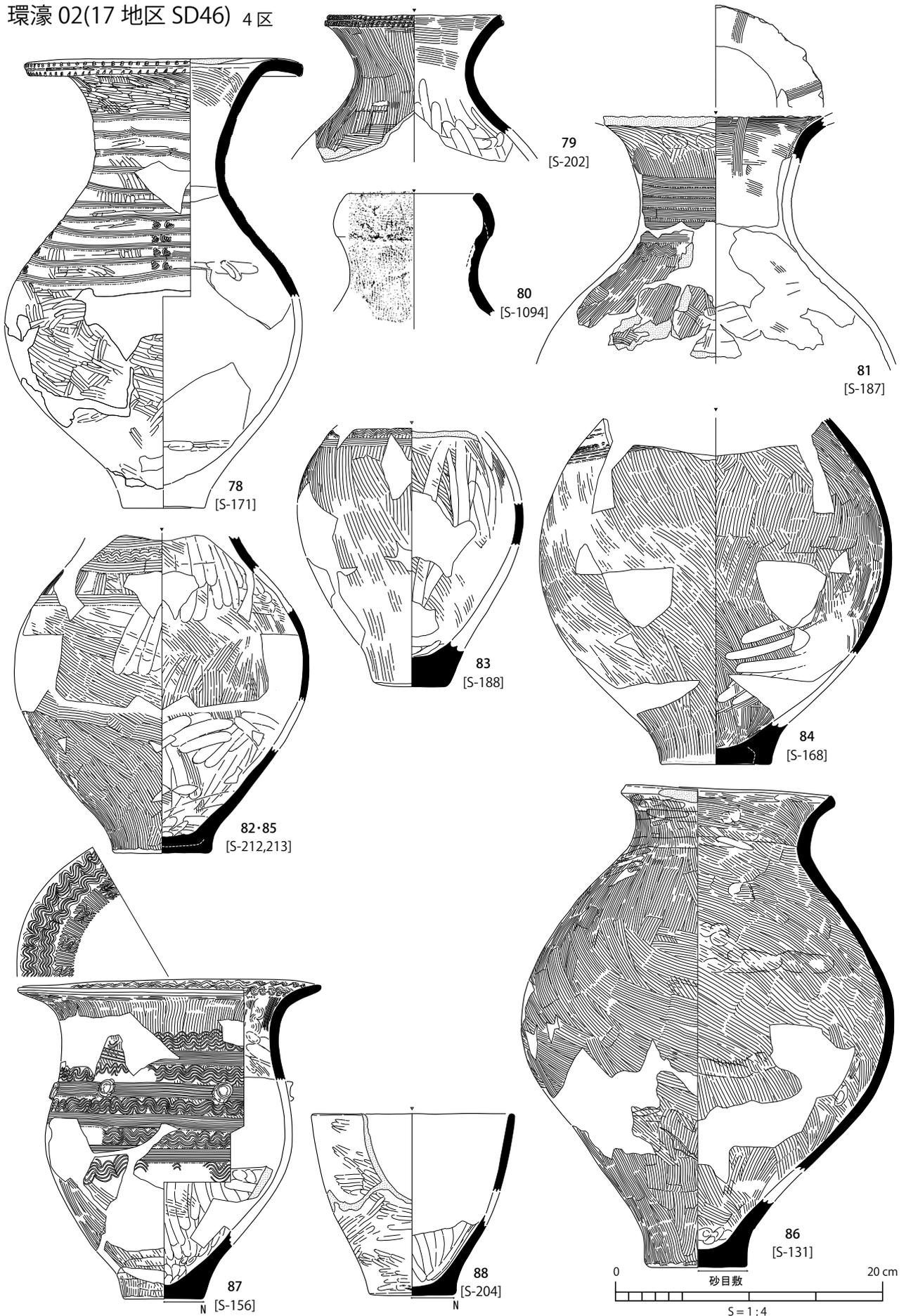


第 11 图 環濠 02 出土土器 5(S=1/4)



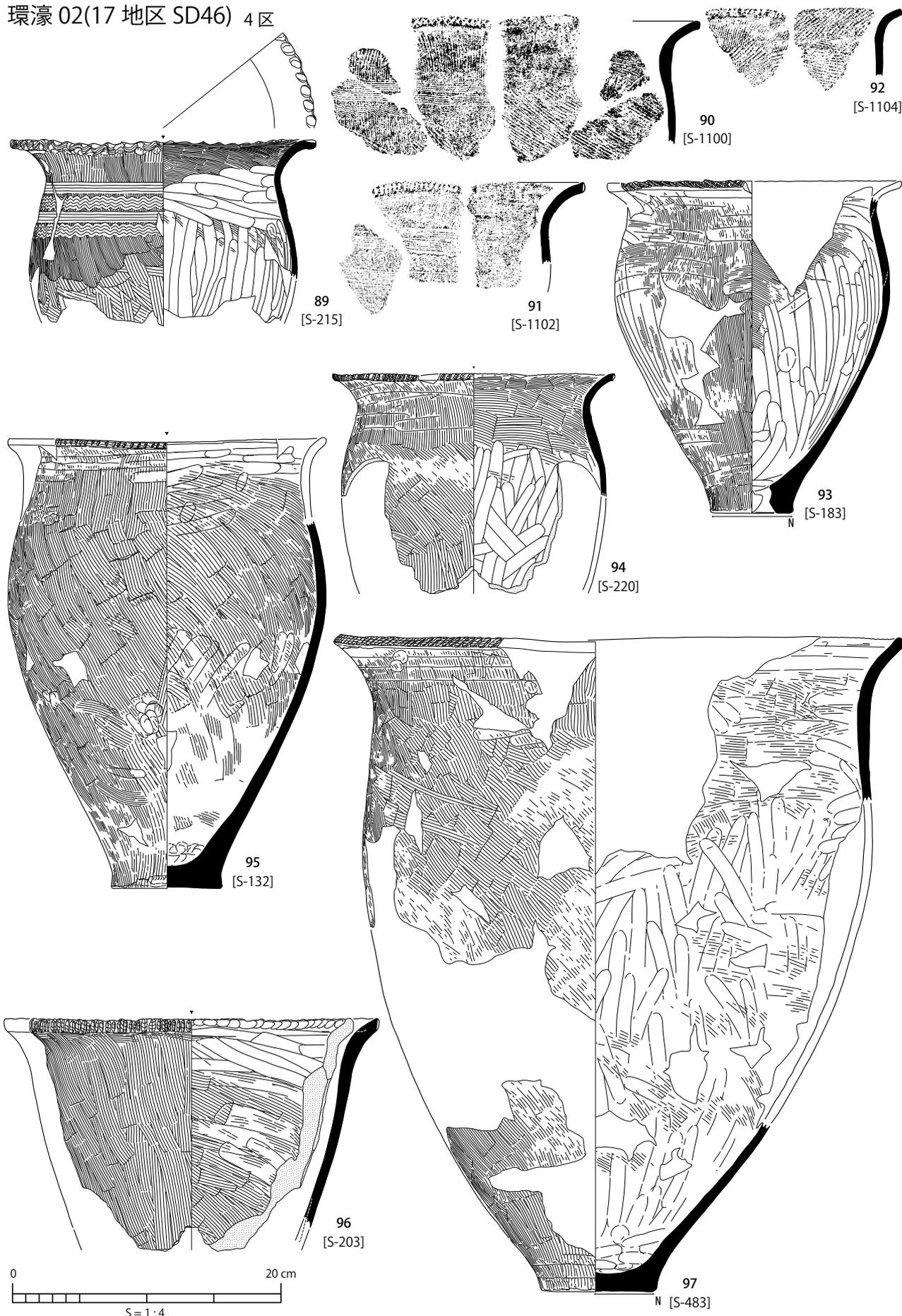
第 12 図 環濠 02 出土土器 6(S=1/4)

環濠 02(17 地区 SD46) 4 区



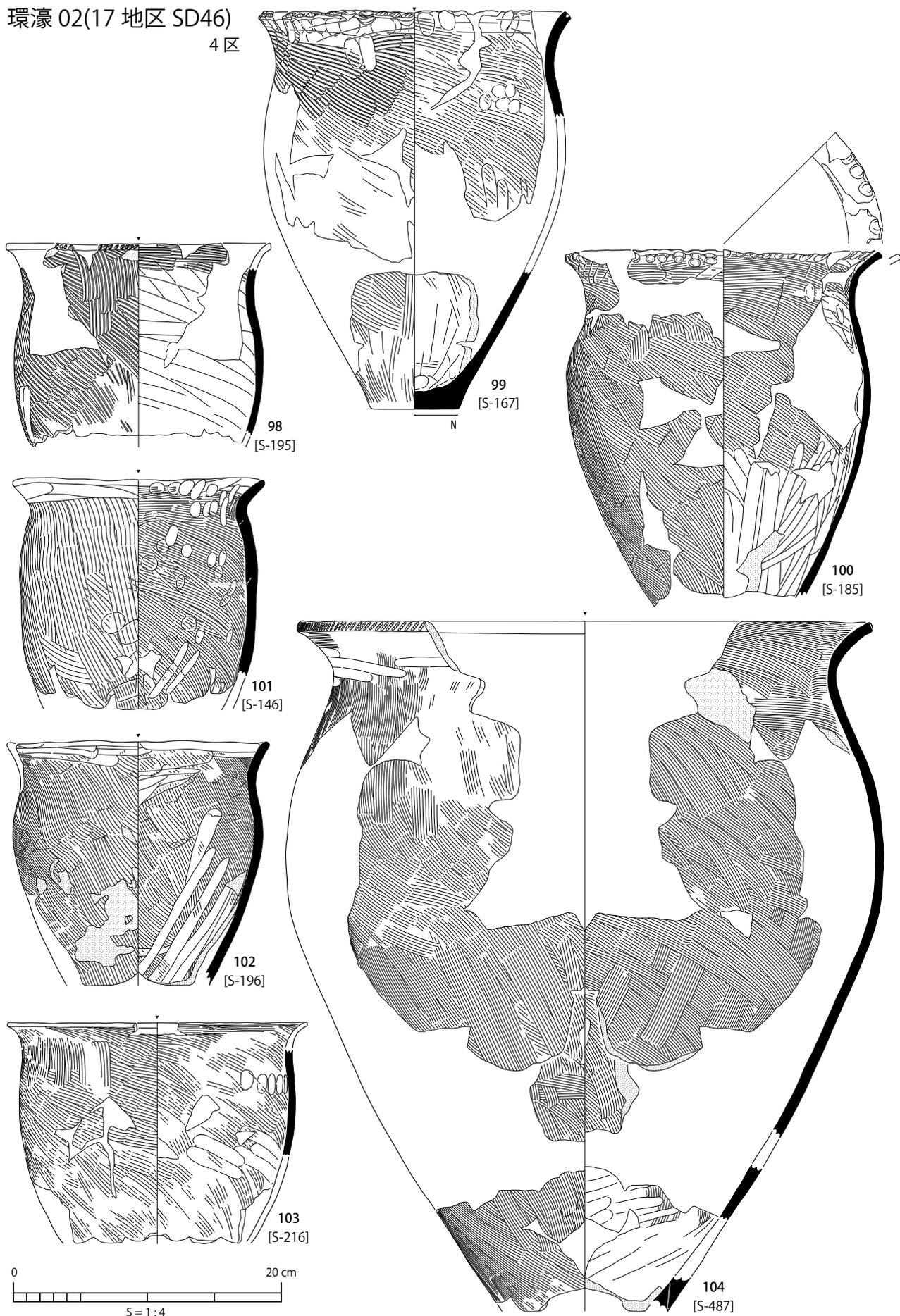
第 13 图 環濠 02 出土土器 7(S=1/4)

環濠 02(17 地区 SD46) 4区



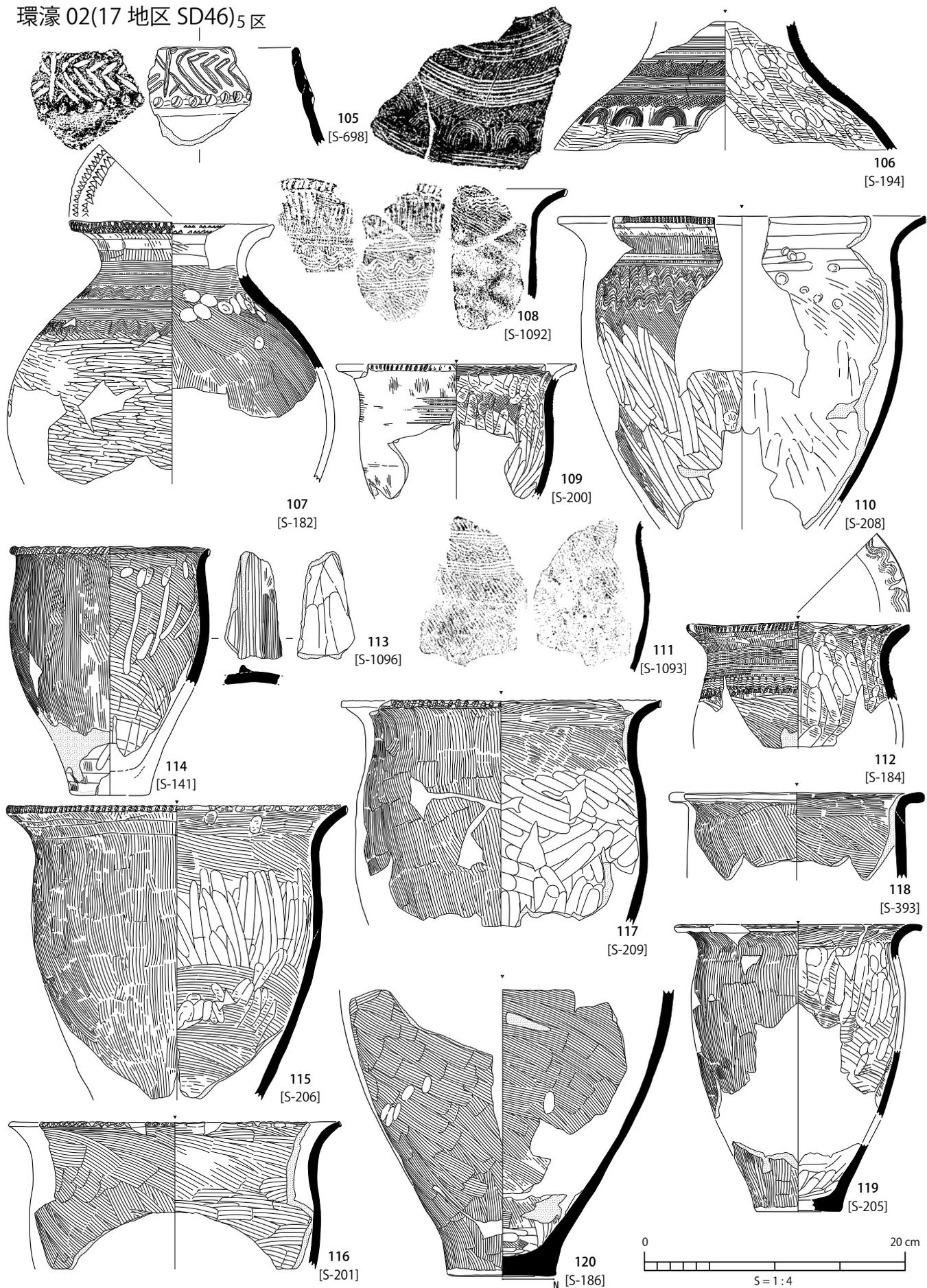
第 14 图 環濠 02 出土土器 8(S=1/4)

環濠 02(17 地区 SD46)
4 区



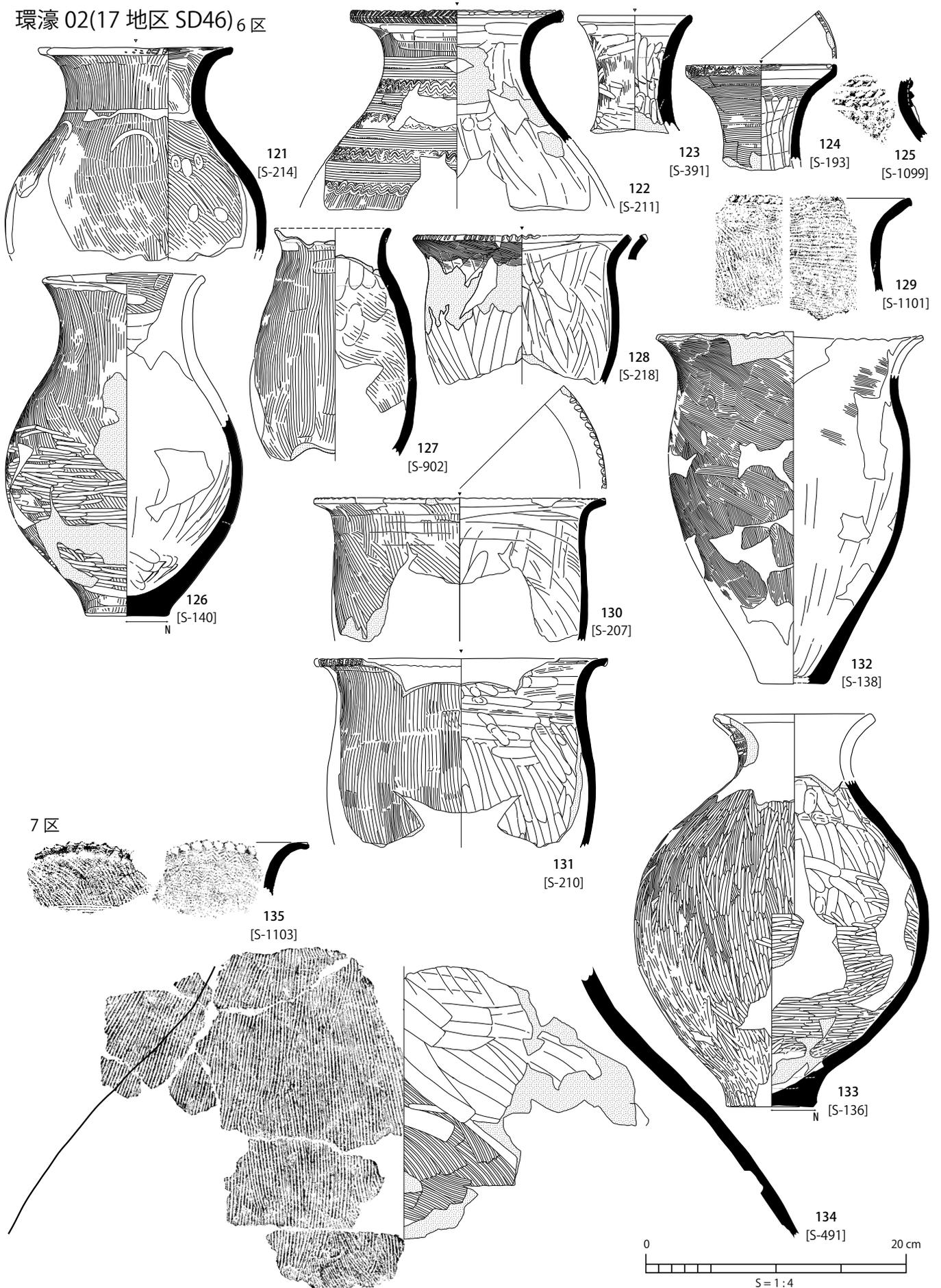
第 15 图 環濠 02 出土土器 9(S=1/4)

環濠 02(17 地区 SD46)5 区



第 16 图 環濠 02 出土土器 10(S=1/4)

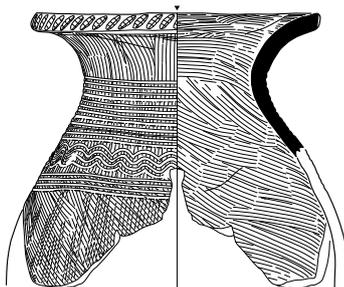
環濠 02(17 地区 SD46) 6 区



第 17 图 環濠 02 出土土器 11(S=1/4)

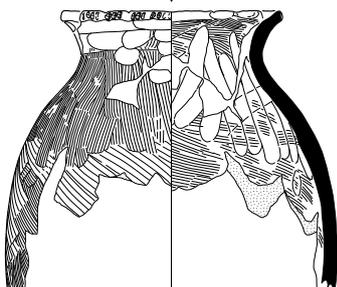
環濠 02(17 地区 SD46)

8 区

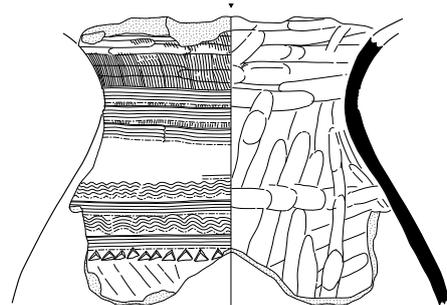


136
[S-217]

9 区

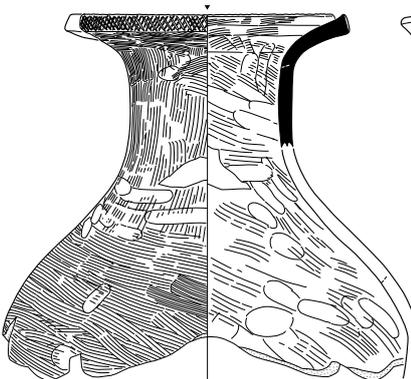


137
[S-219]

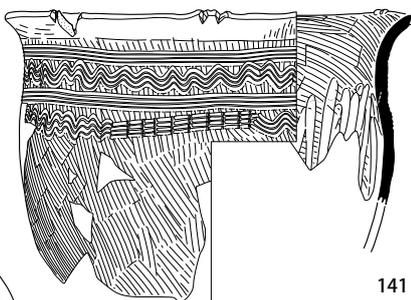


138
[S-421]

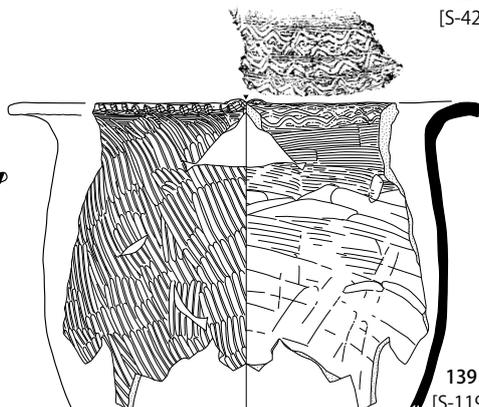
環濠 03A(12 地区 SD16)



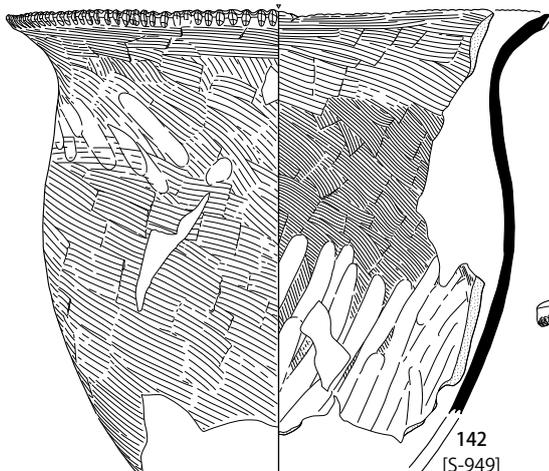
140
[S-662]



141
[S-952]



139
[S-119]



142
[S-949]

環濠 03B(12 地区 SD20)



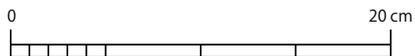
143
[S-371]



144
[S-558]



145
[S-961]

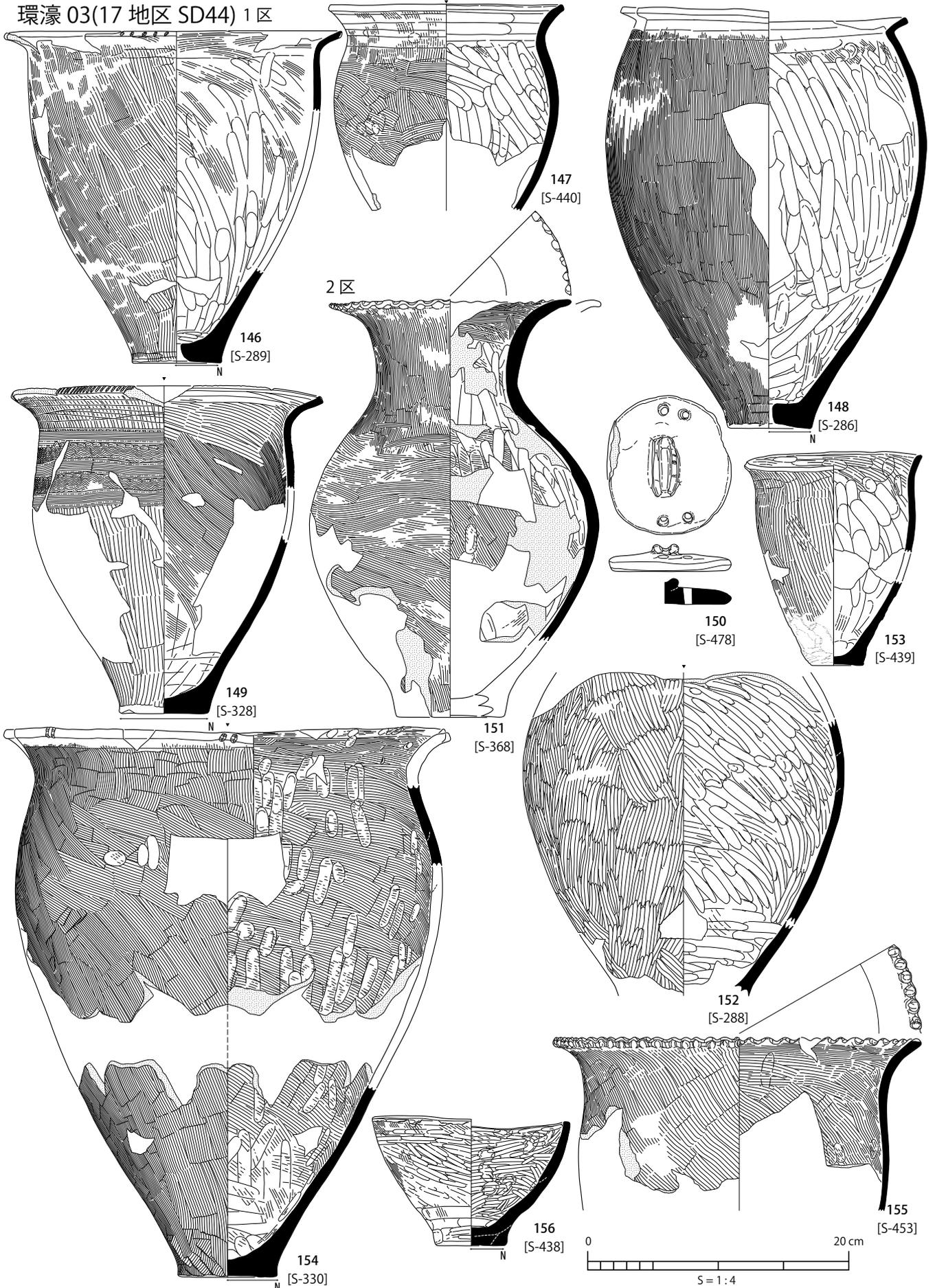


S=1:4

砂目敷

第 18 图 環濠 02, 環濠 03 出土土器 (S=1/4)

環濠 03(17 地区 SD44) 1 区

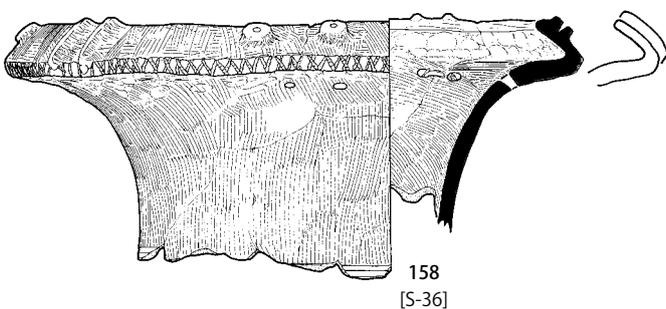
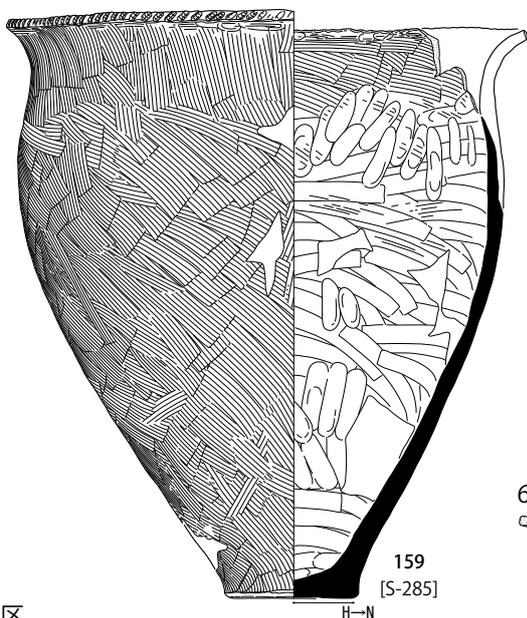
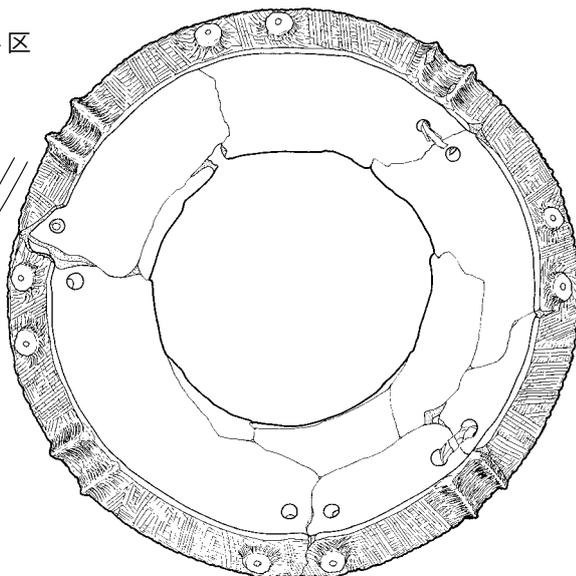
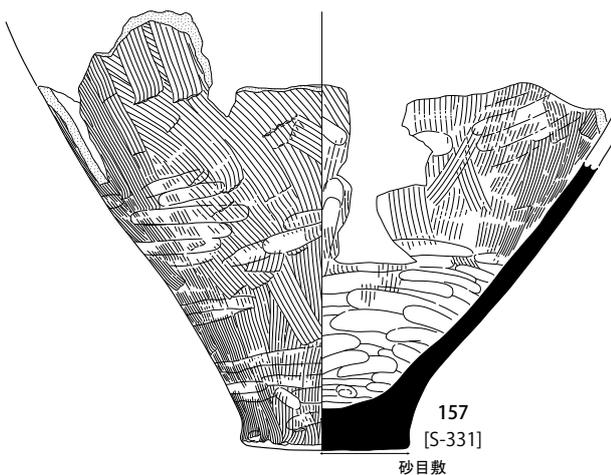


第 19 图 環濠 03 出土土器 2(S=1/4)

環濠 03(17 地区 SD44)

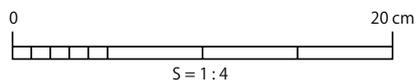
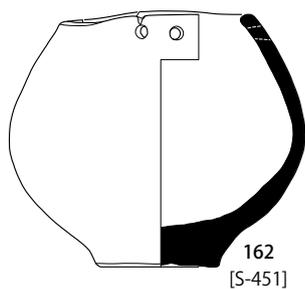
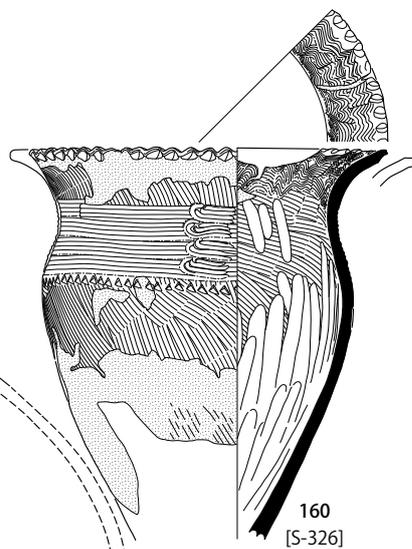
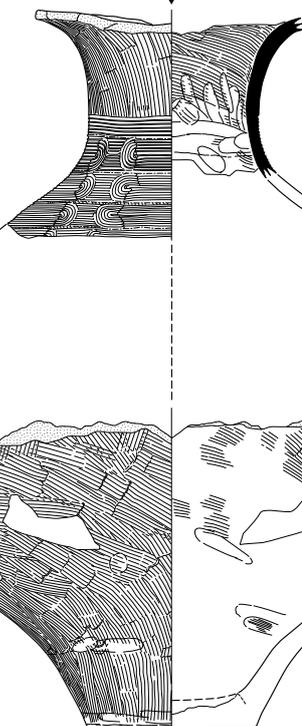
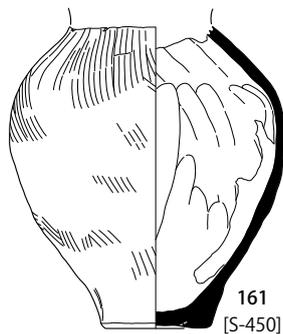
3 区

4 区



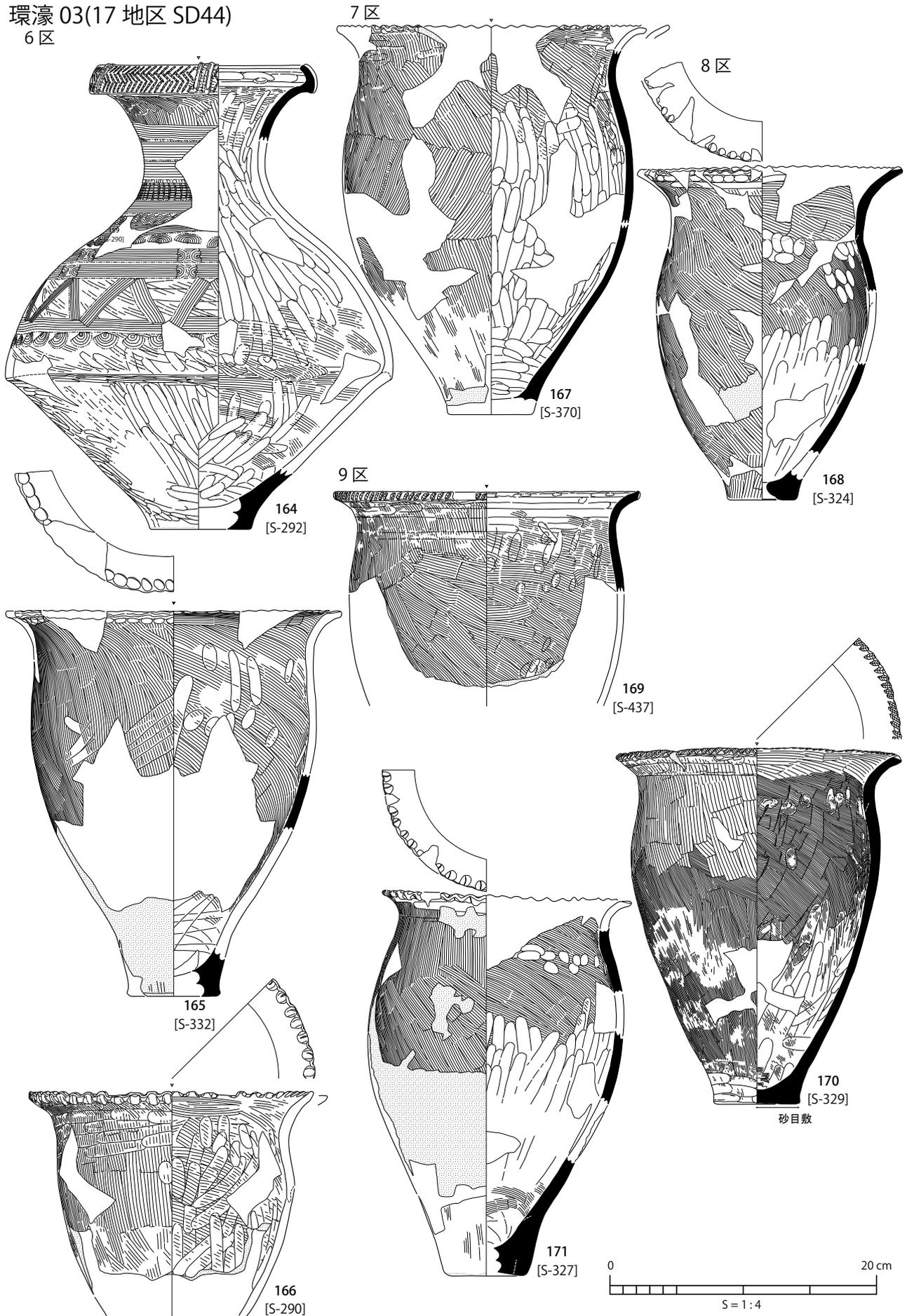
5 区

6 区



第 20 图 環濠 03 出土土器 3(S=1/4)

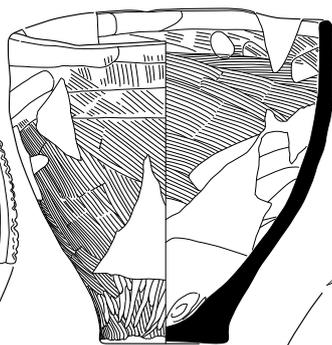
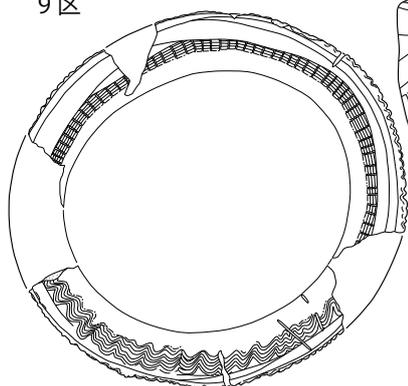
環濠 03(17 地区 SD44)
6 区



第 21 图 環濠 03 出土土器 4(S=1/4)

環濠 03(17 地区 SD44)

9 区



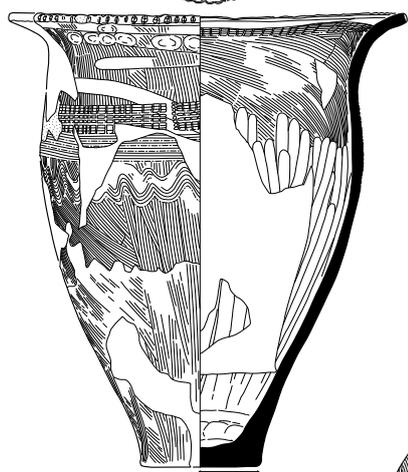
173
[S-452]

11 区

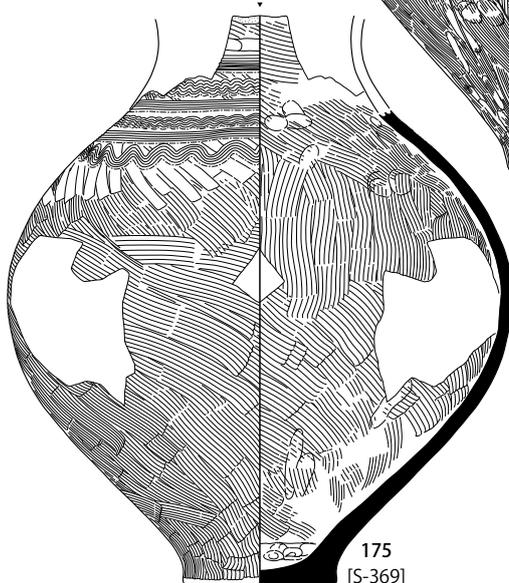


174
[S-287]

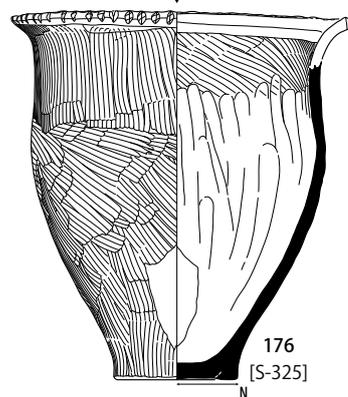
砂目敷



172
[S-323]

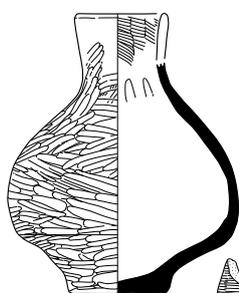


175
[S-369]

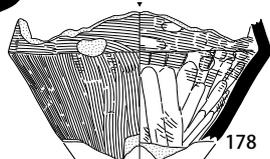


176
[S-325]

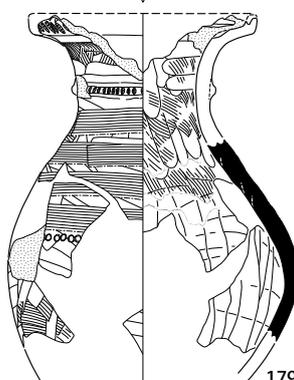
環濠 02・03(17 地区 SD39)



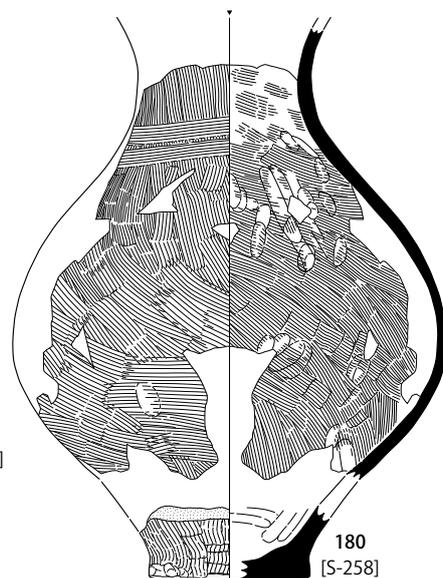
177
[S-445]



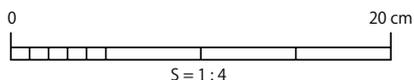
178
[S-432]



179
[S-310]



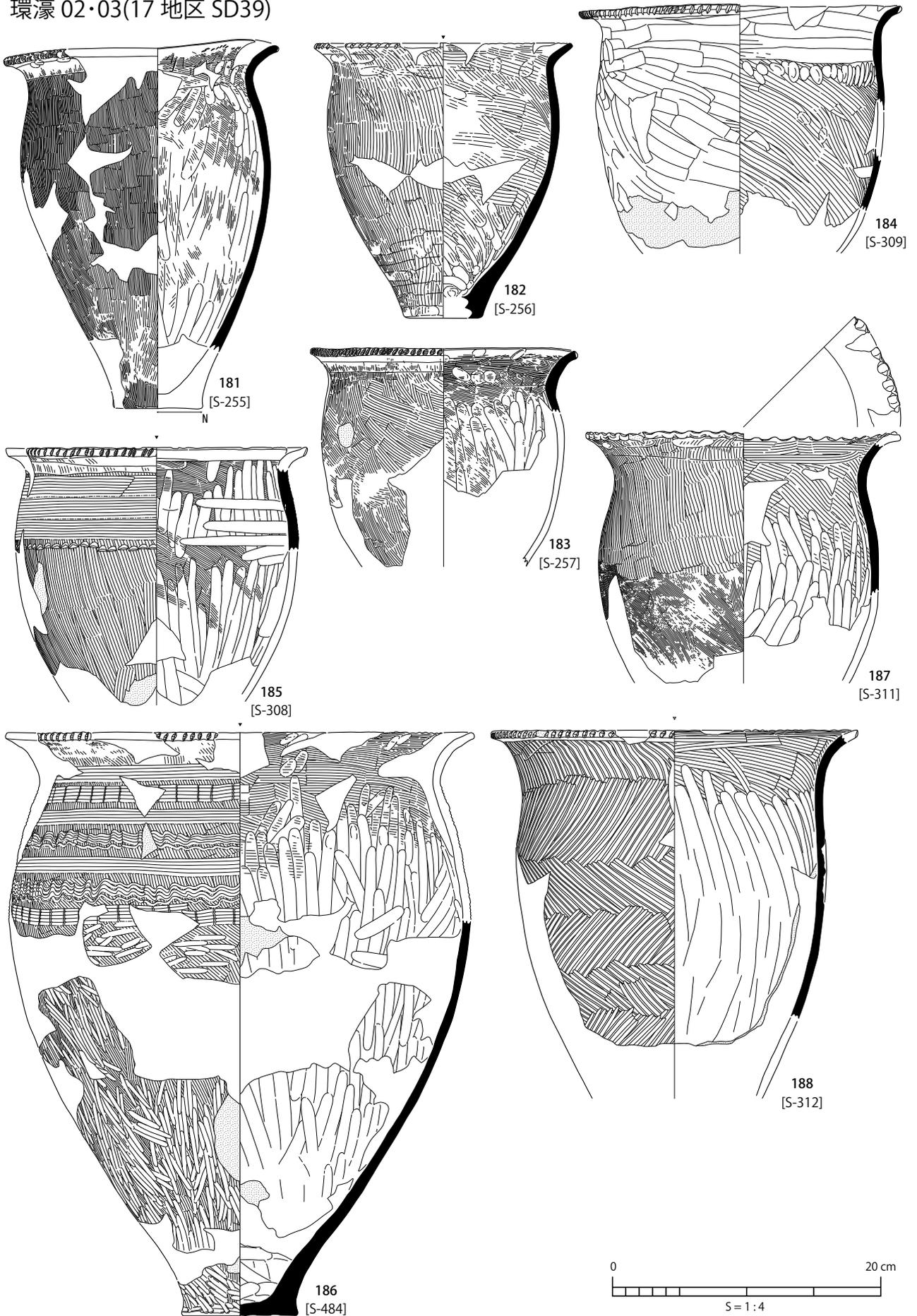
180
[S-258]



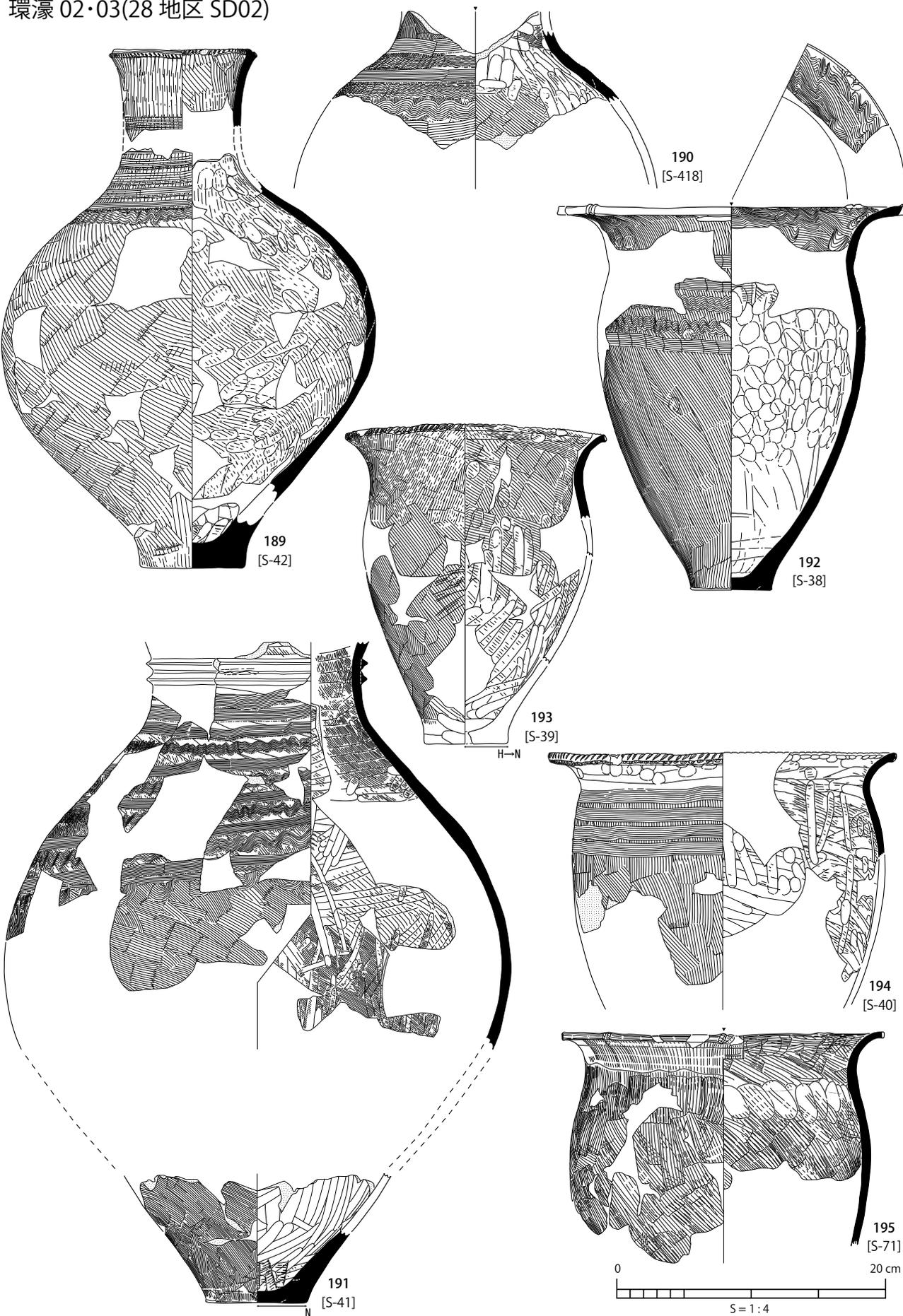
S=1:4

第 22 図 環濠 03 出土土器 5(S=1/4)

環濠 02·03(17 地区 SD39)

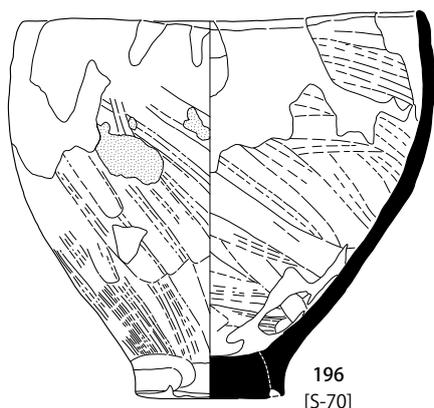


第 23 图 環濠 02·03 出土土器 (S=1/4)

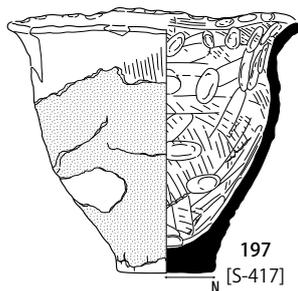


第 24 图 環濠 02·03 出土土器 2(S=1/4)

環濠 02·03(28 地区 SD02)



196
[S-70]



197
[S-417]

環濠 04(12 地区 SD01) 1 層



198
[S-1038]



202
[S-1039]



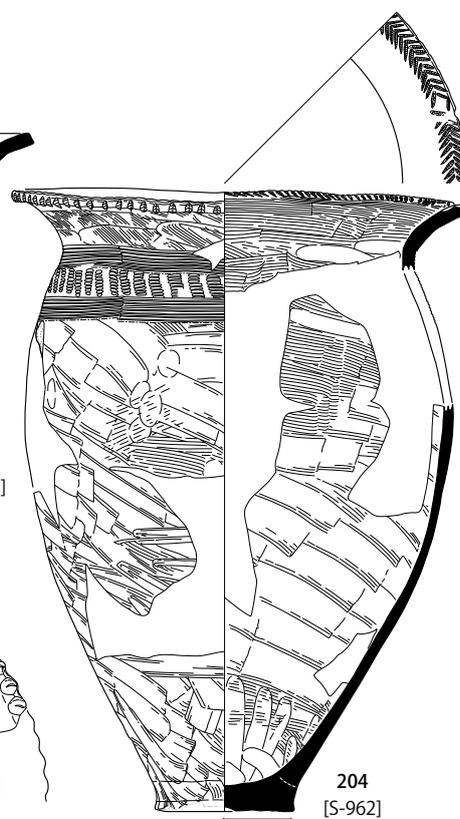
199
[S-1045]



203
[S-1047]

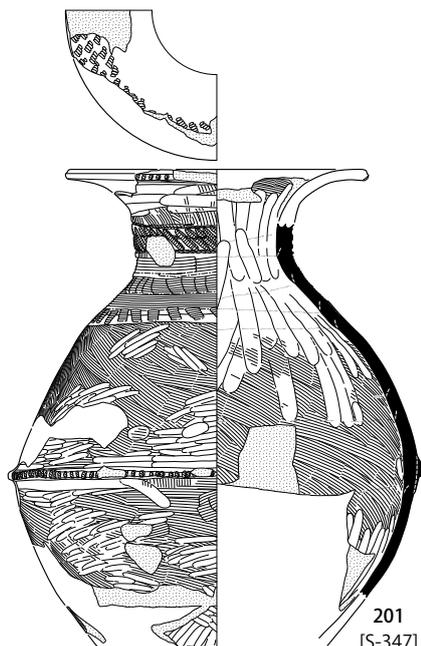


200
[S-1036]

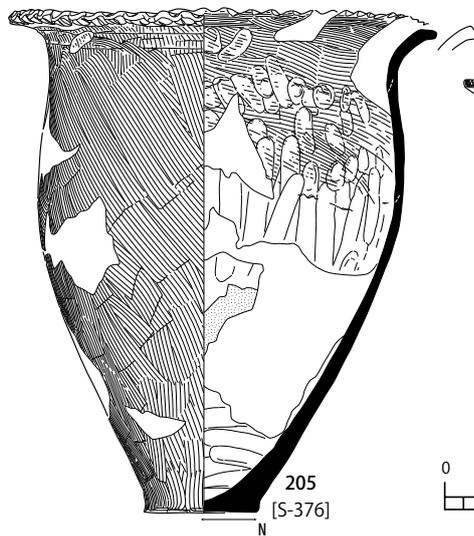


204
[S-962]

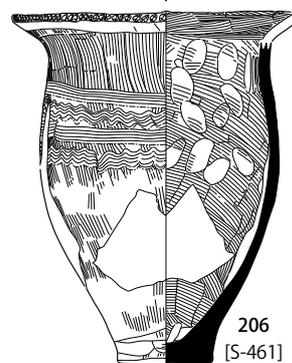
砂目敷-N



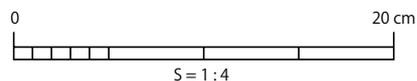
201
[S-347]



205
[S-376]

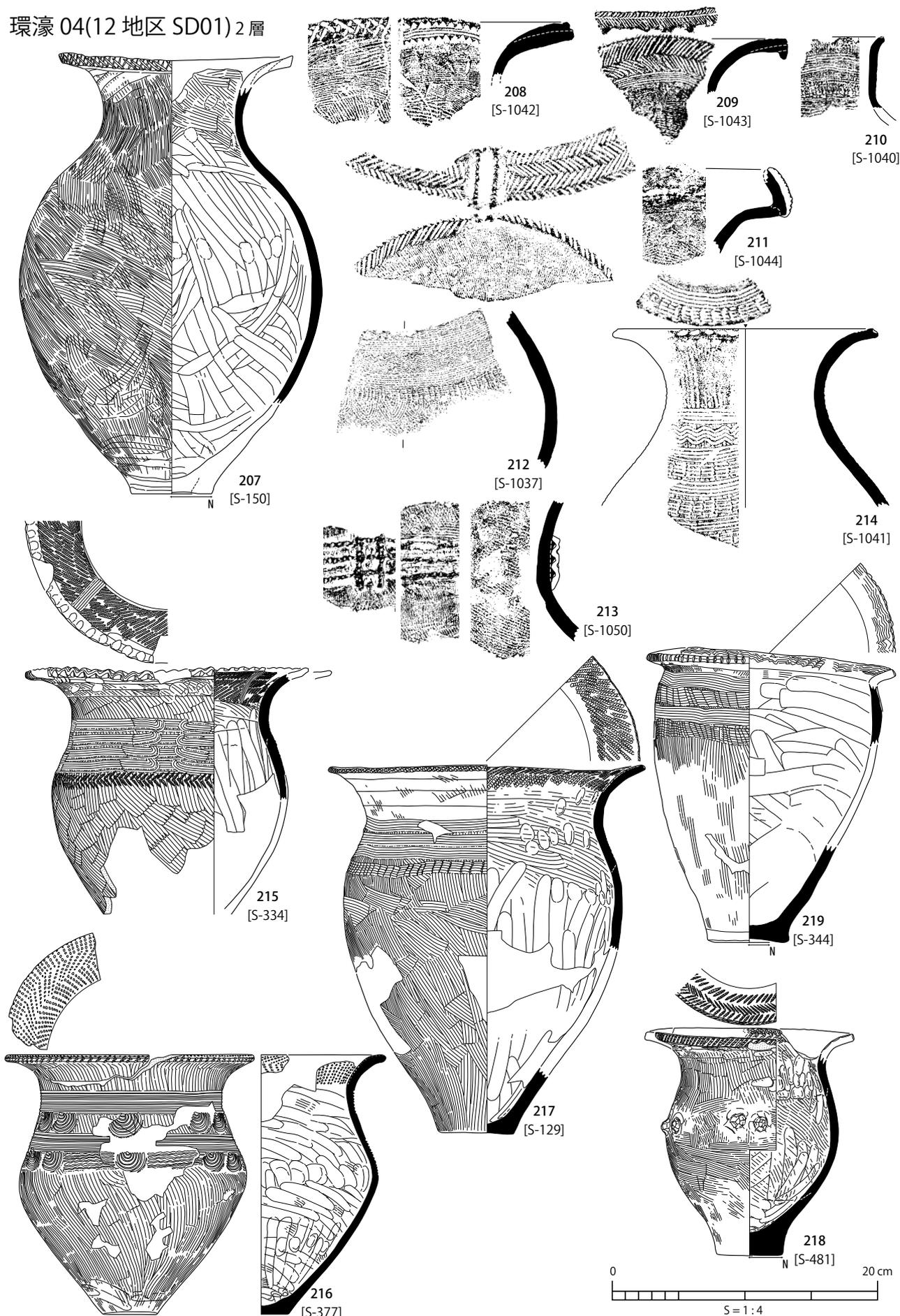


206
[S-461]



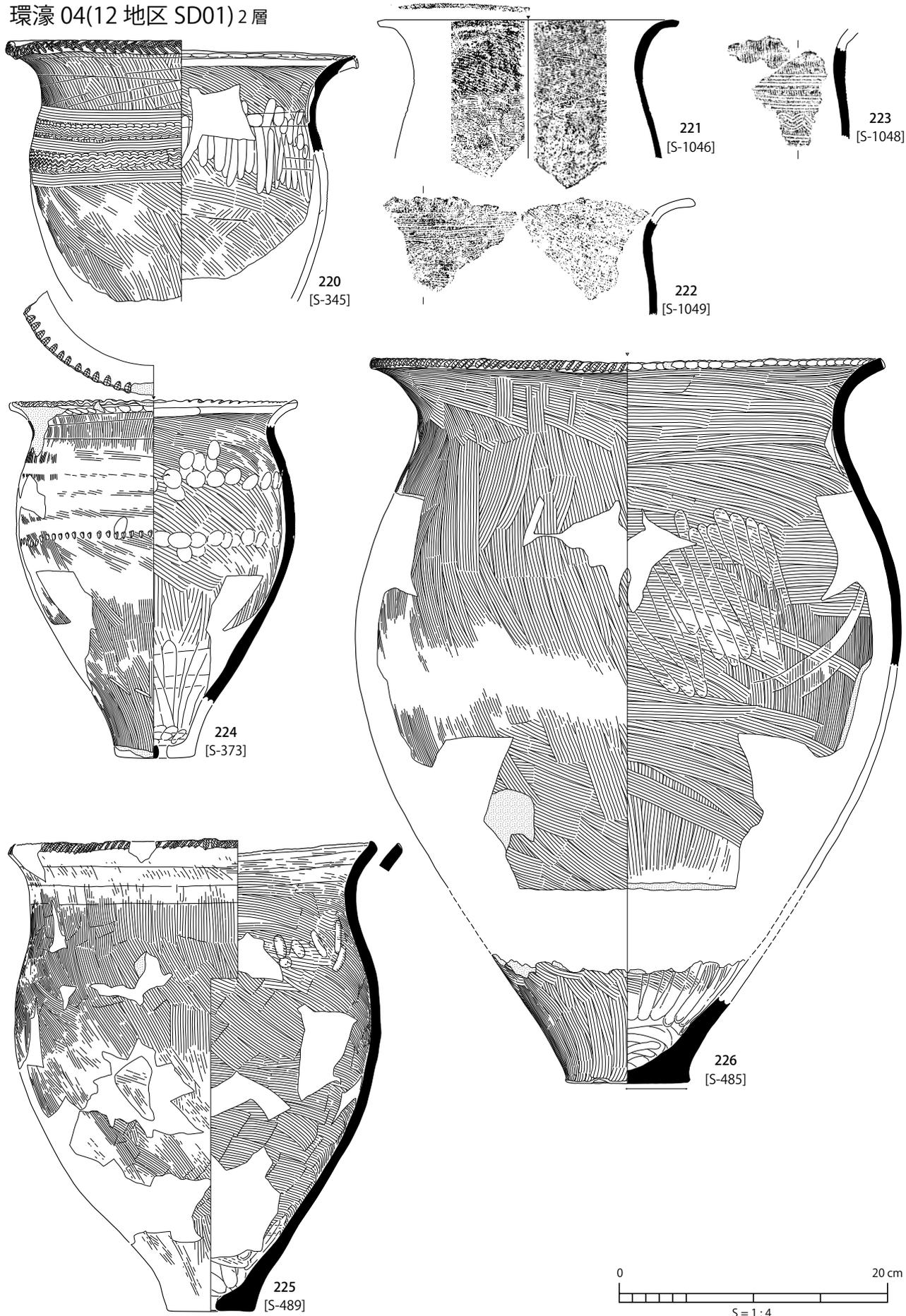
第 25 图 環濠 02·03, 環濠 04 出土土器 (S=1/4)

環濠 04(12 地区 SD01) 2 層



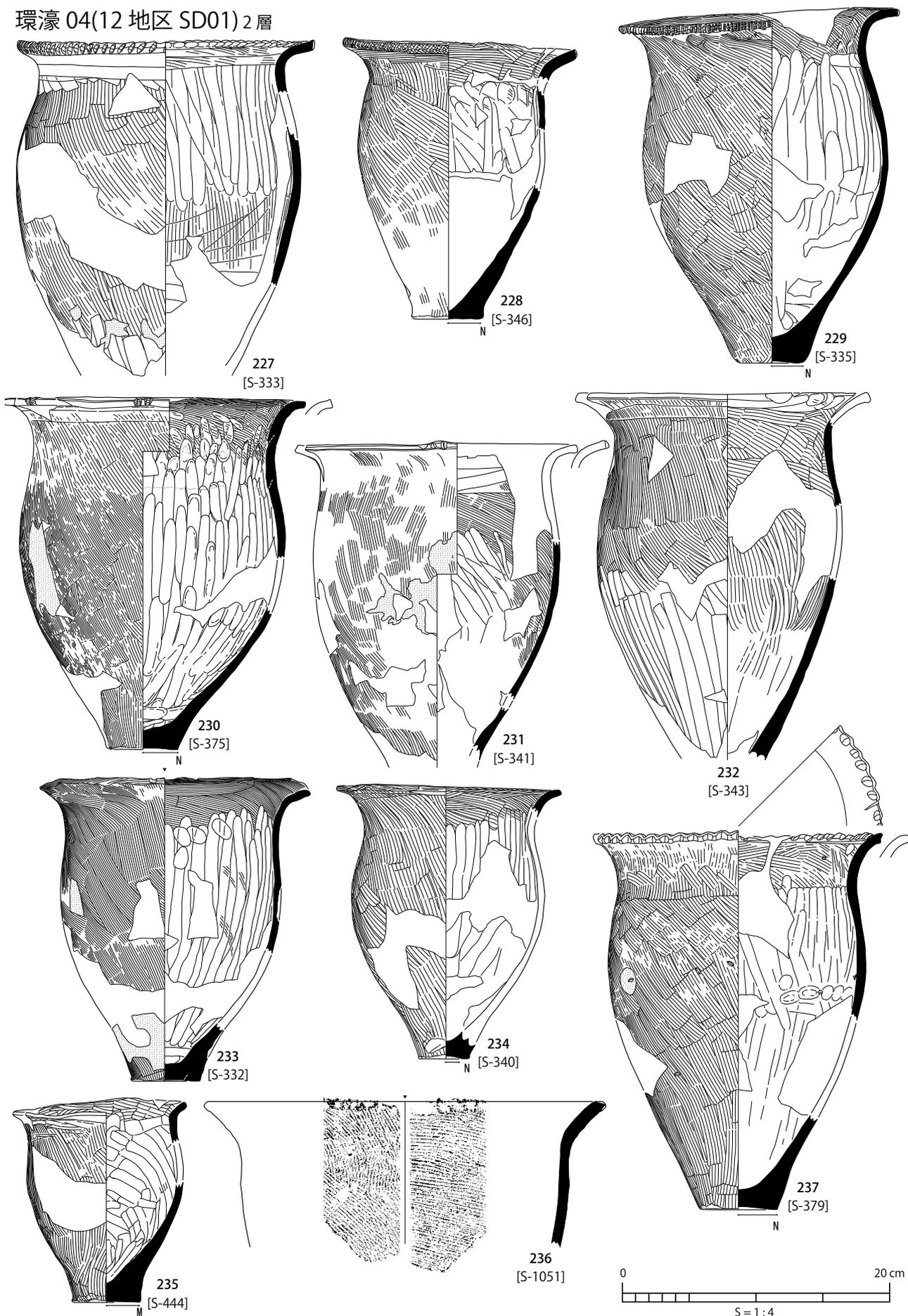
第 26 図 環濠 04 出土土器 2(S=1/4)

環濠 04(12 地区 SD01) 2 層



第 27 図 環濠 04 出土土器 3(S=1/4)

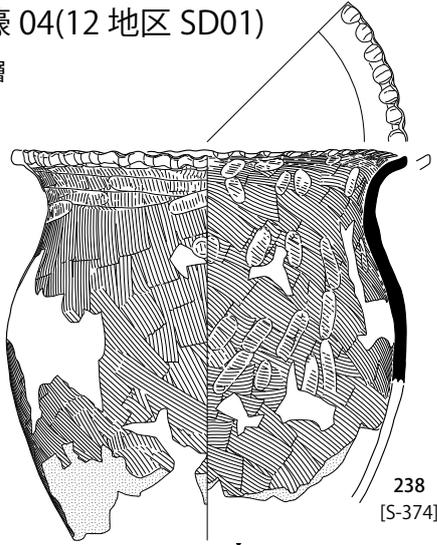
環濠 04(12 地区 SD01) 2 層



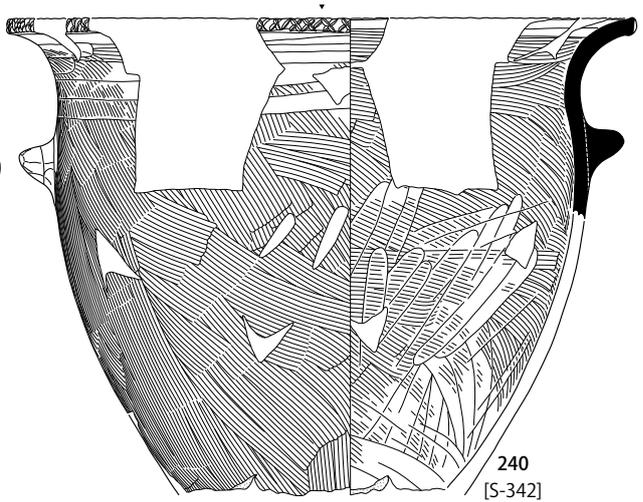
第 28 図 環濠 04 出土土器 4(S=1/4)

環濠 04(12 地区 SD01)

2 層



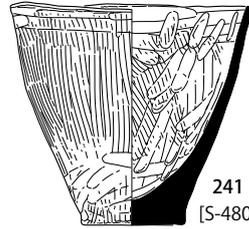
238
[S-374]



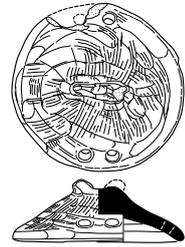
240
[S-342]



239
[S-1052]



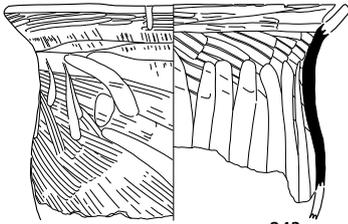
241
[S-480]



242
[S-479]

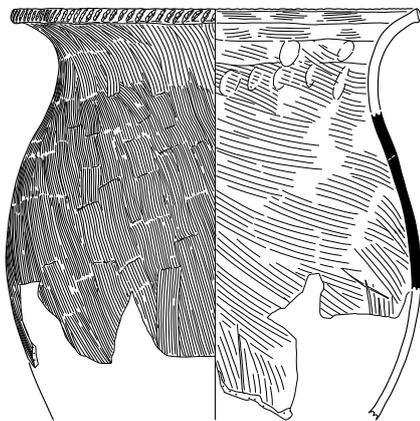
環濠 04(16 地区 SD8)

A 区

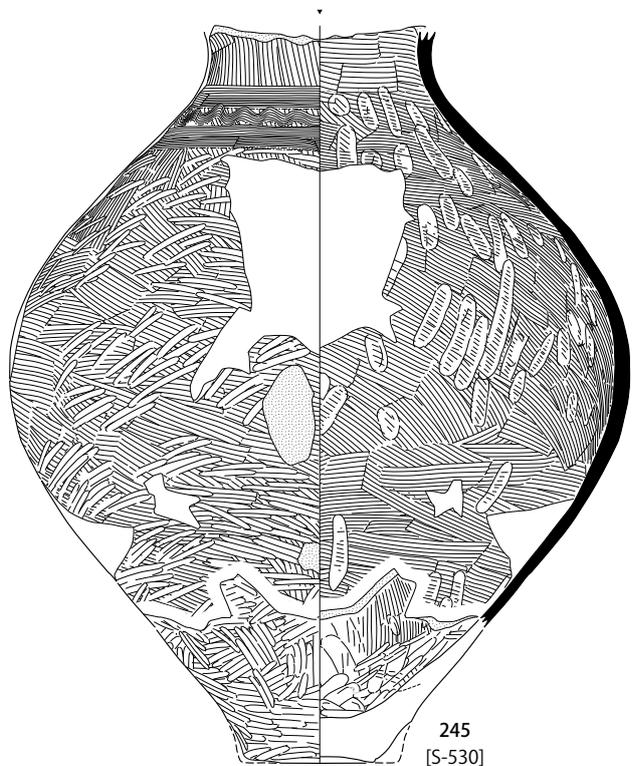


243
[S-426]

B 区

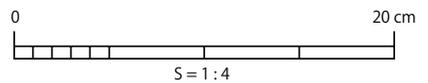


244
[S-522]



245
[S-530]

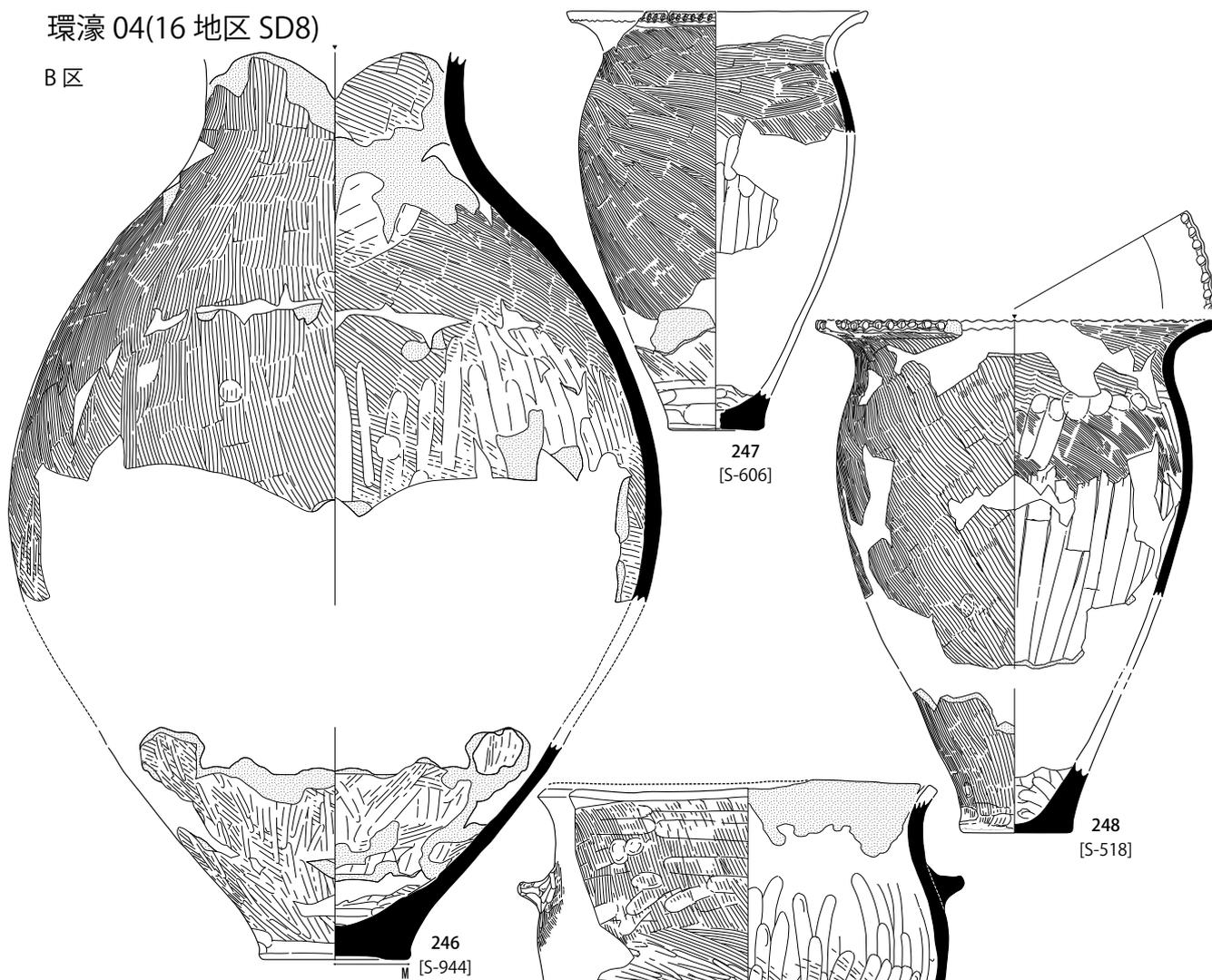
砂目数-N



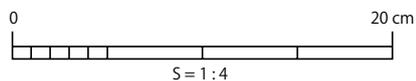
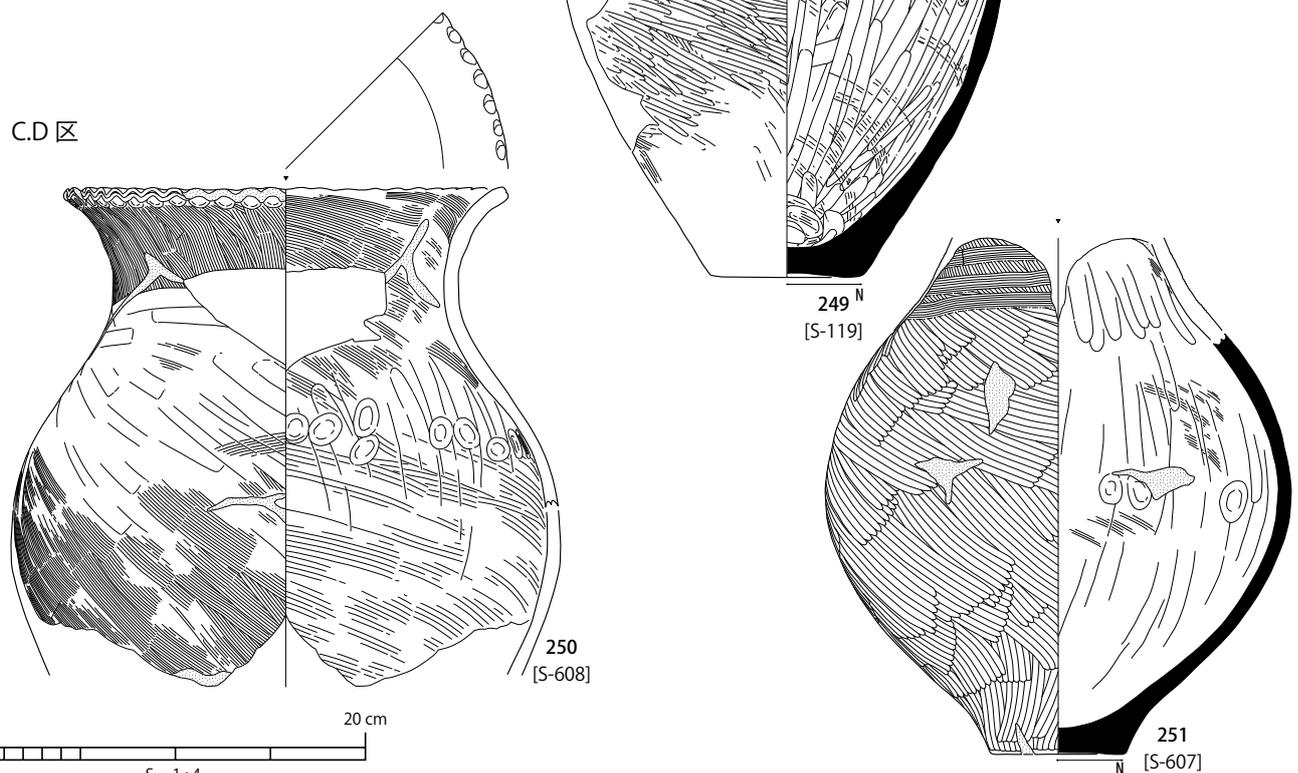
第 29 图 環濠 04 出土土器 5(S=1/4)

環濠 04(16 地区 SD8)

B 区



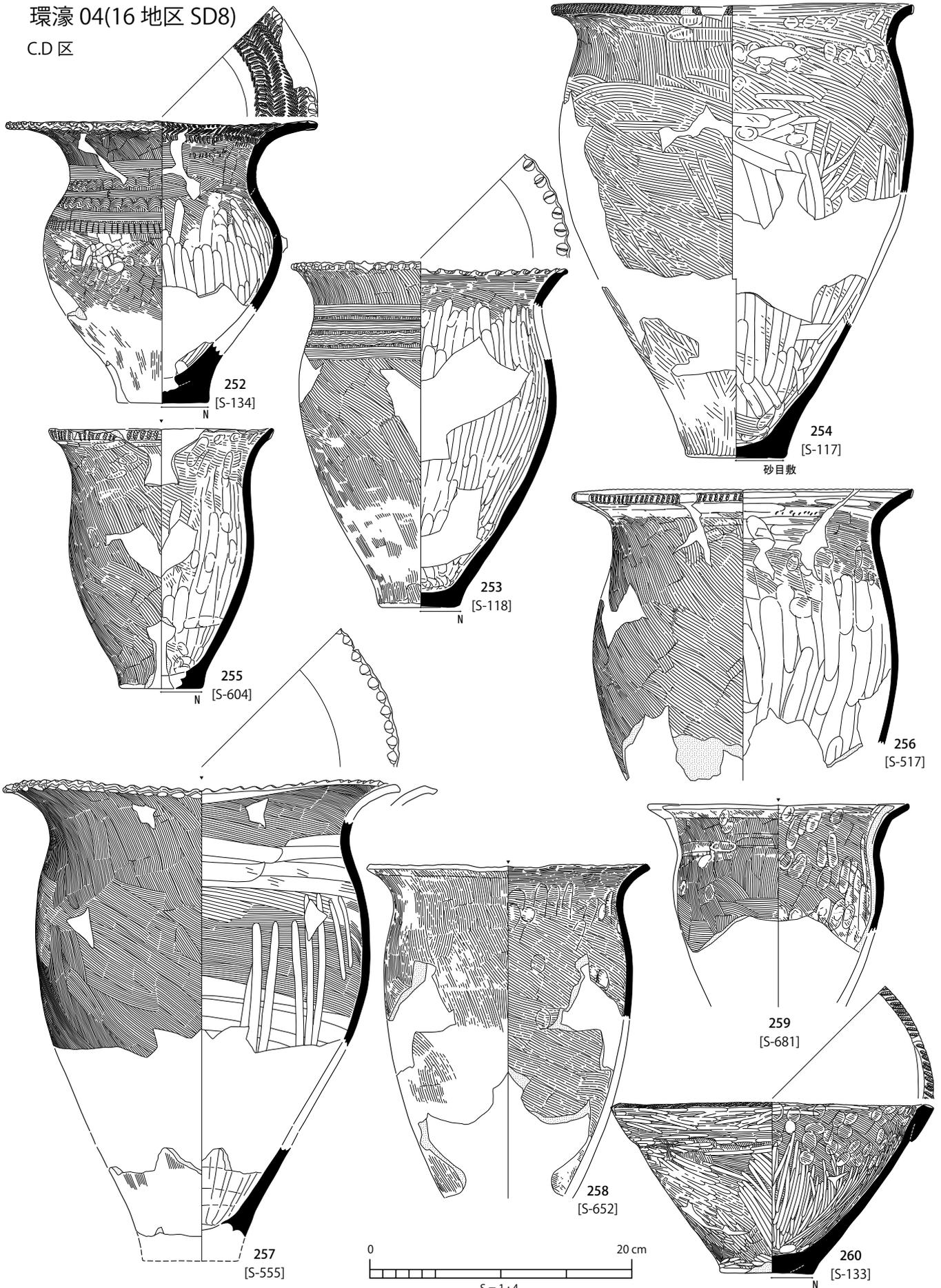
C.D 区



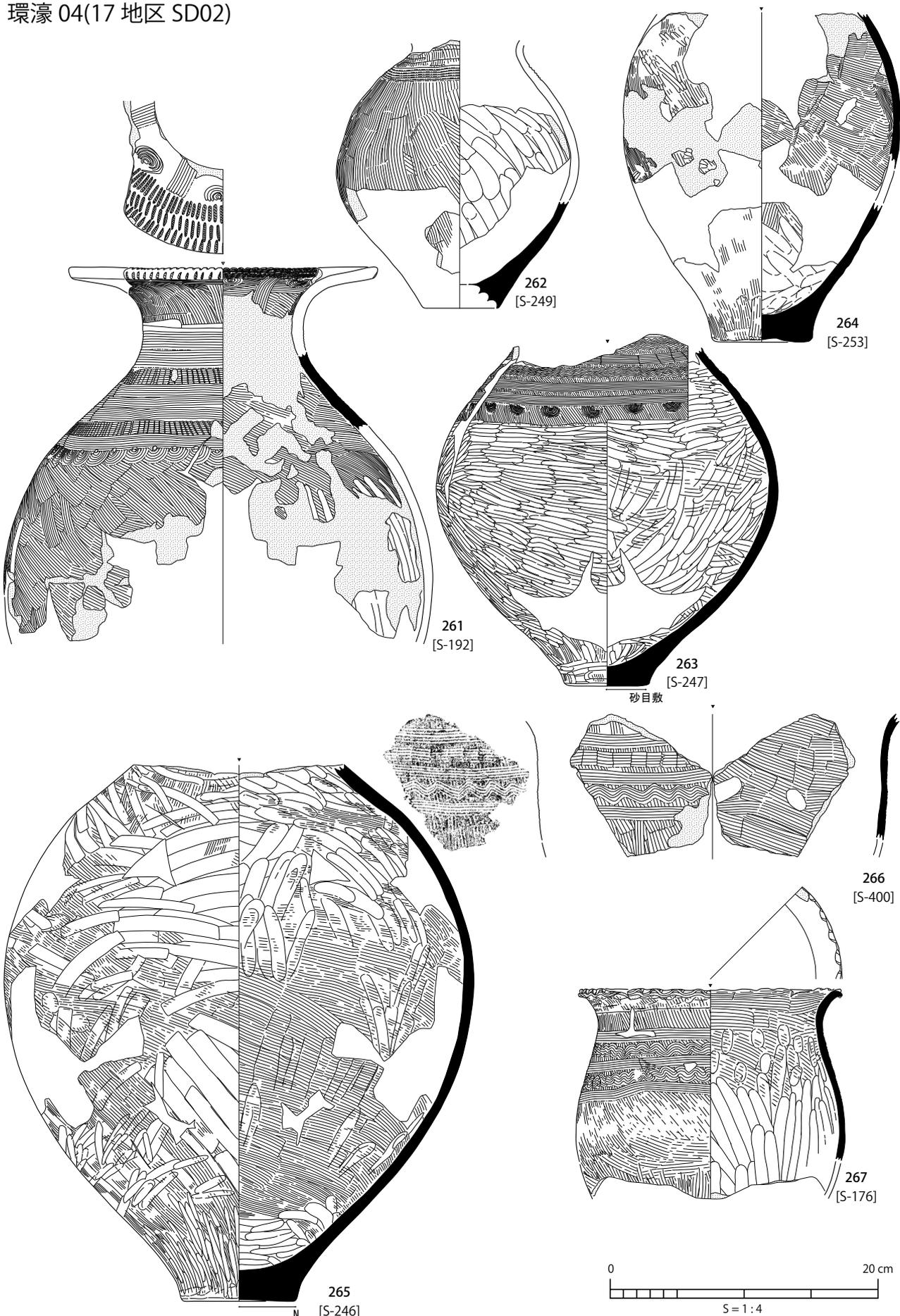
第 30 图 環濠 04 出土土器 6(S=1/4)

環濠 04(16 地区 SD8)

C.D 区

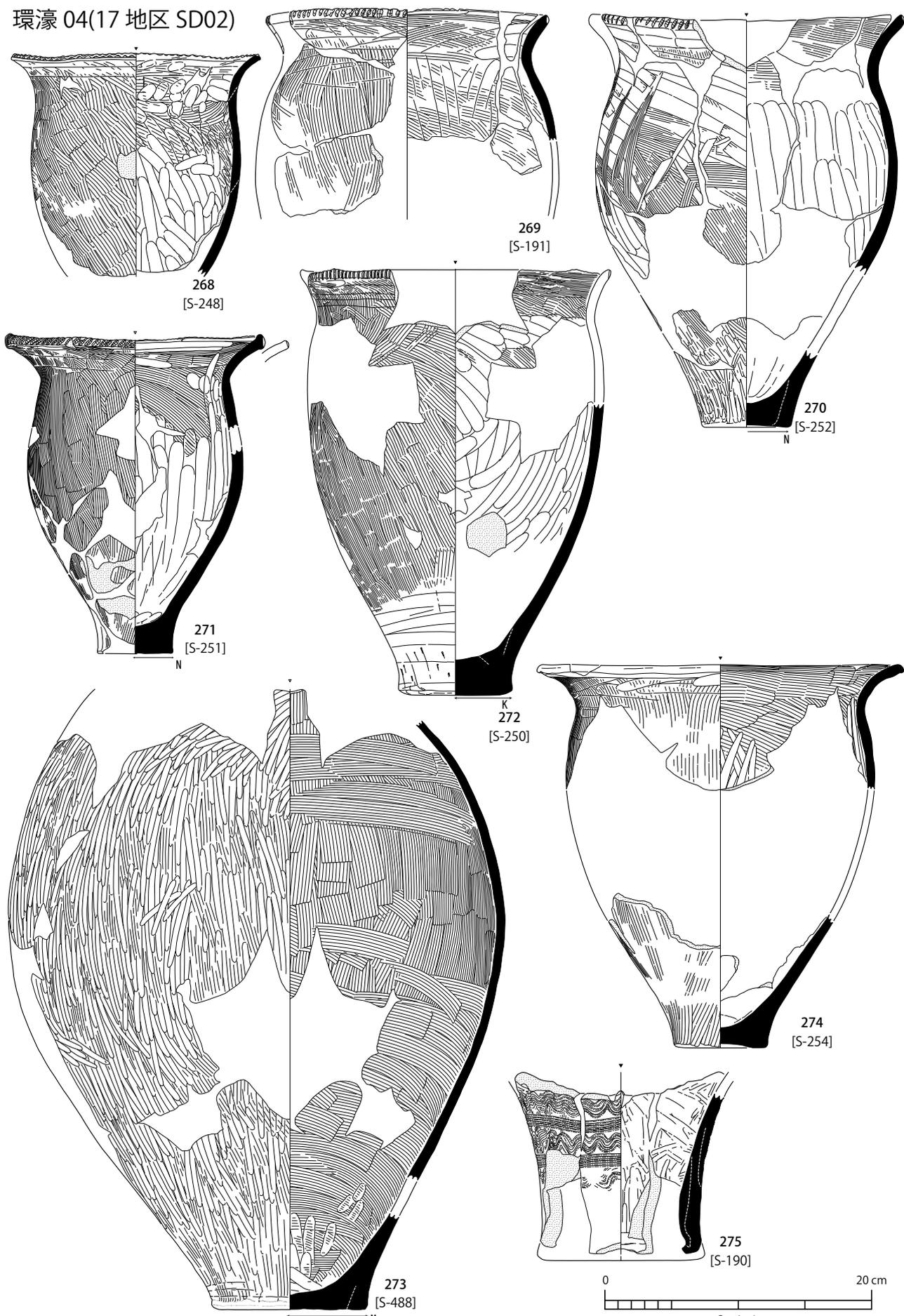


第 31 图 環濠 04 出土土器 7(S=1/4)



第 32 图 環濠 04 出土土器 8(S=1/4)

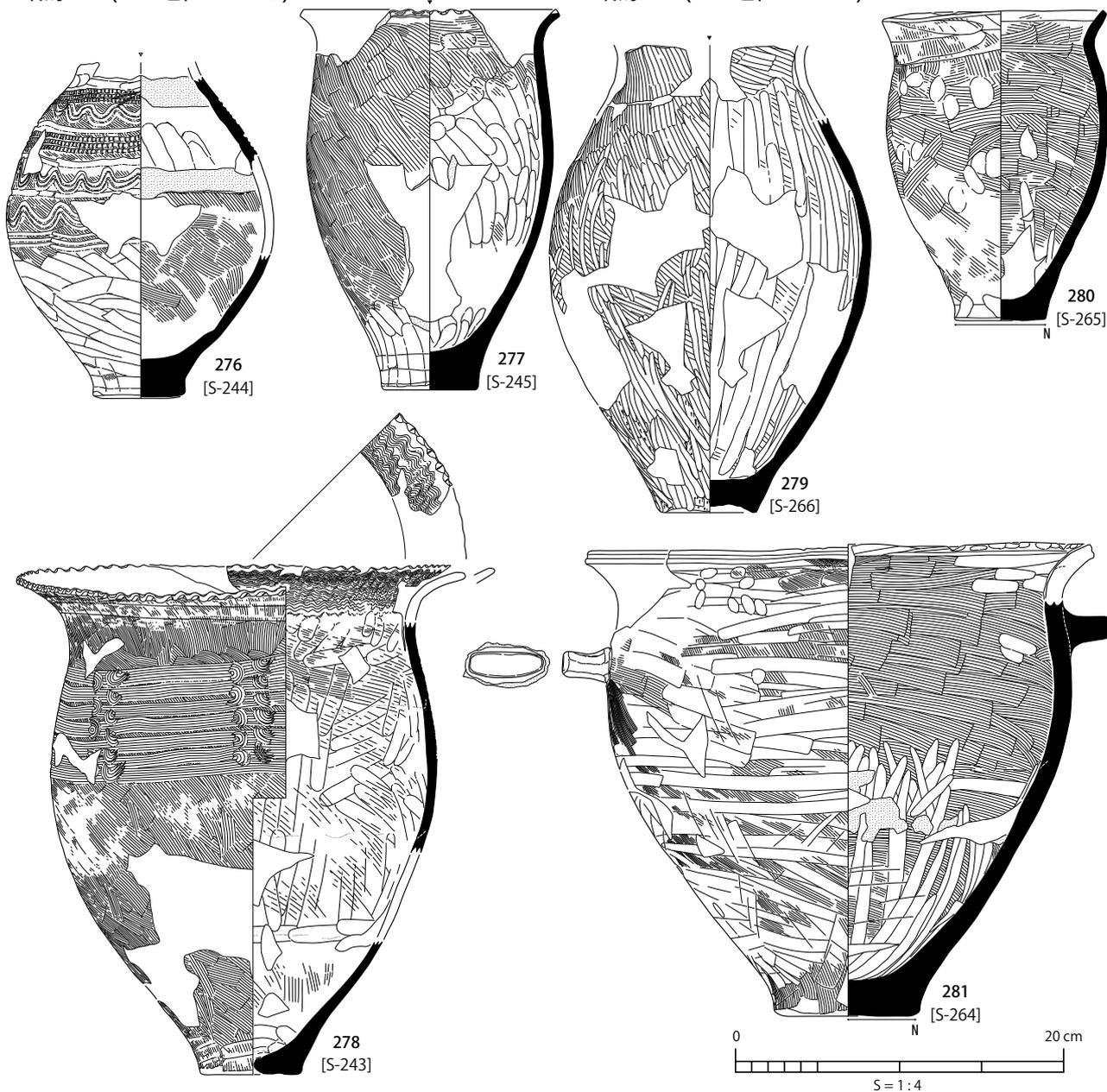
環濠 04(17 地区 SD02)



第 33 图 環濠 04 出土土器 9(S=1/4)

環濠 05(17 地区 SD12)

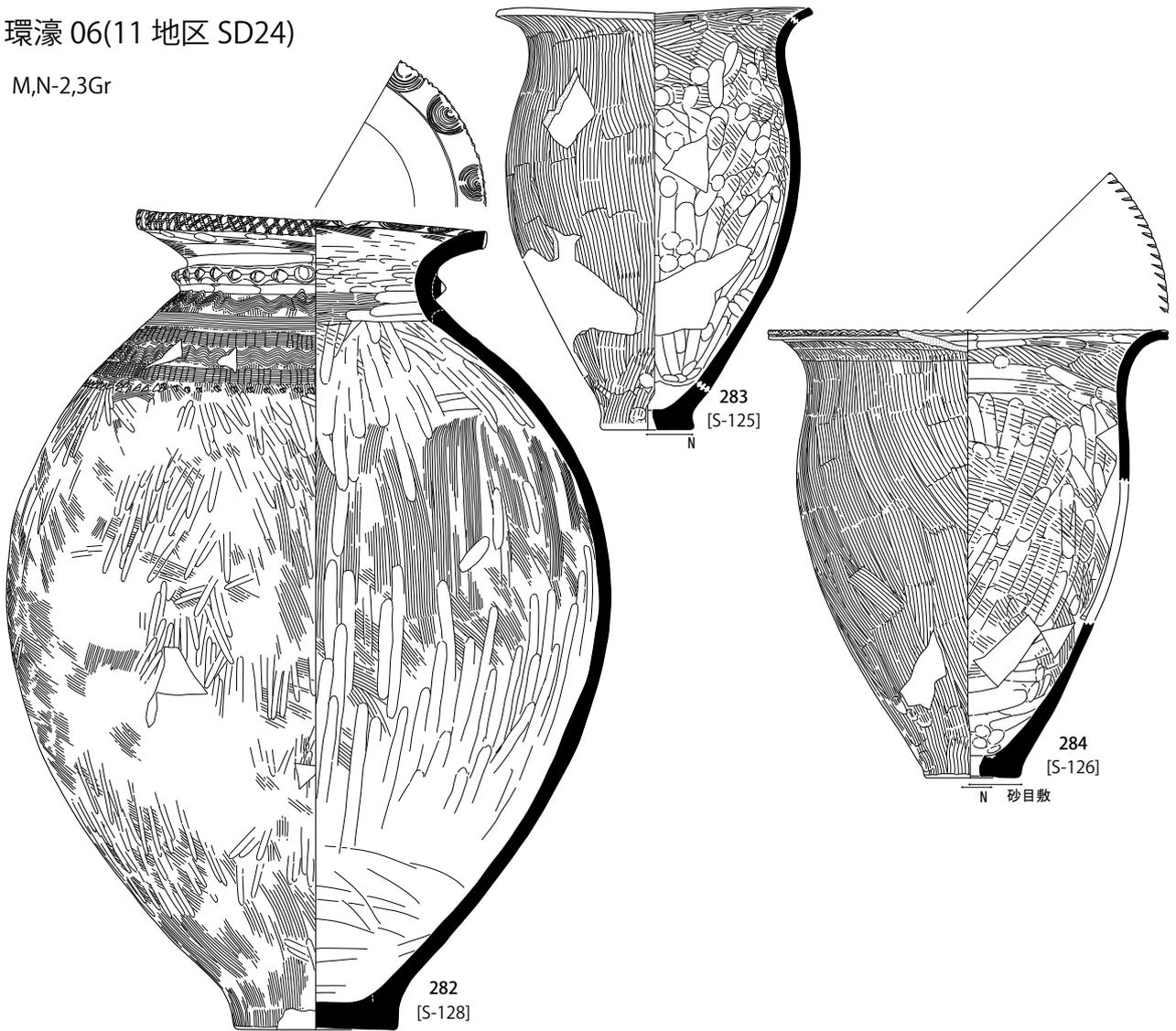
環濠 05(17 地区 SD38)



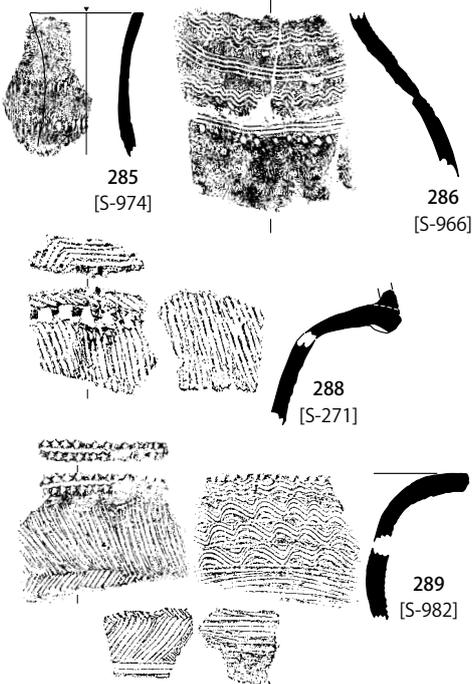
第 34 图 環濠 05 出土土器 (S=1/4)

環濠 06(11 地区 SD24)

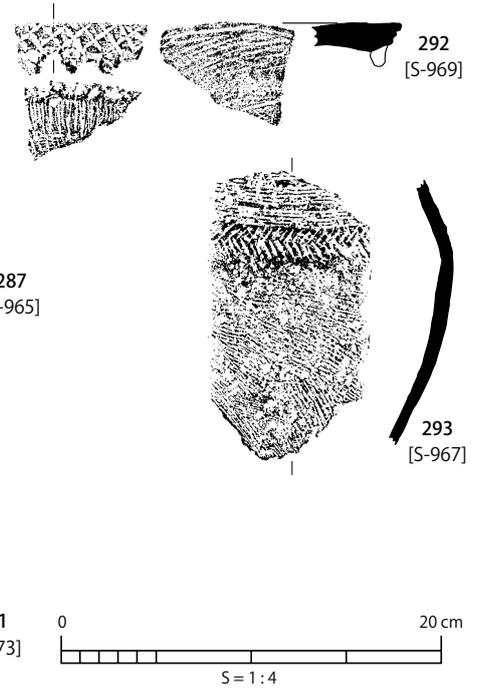
M,N-2,3Gr



M-4,5Gr



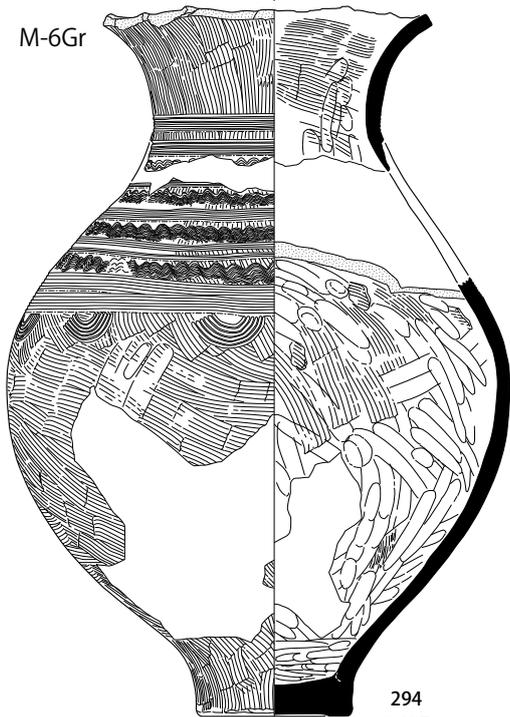
M-6,7Gr



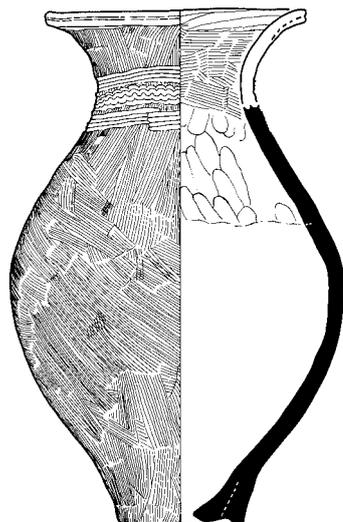
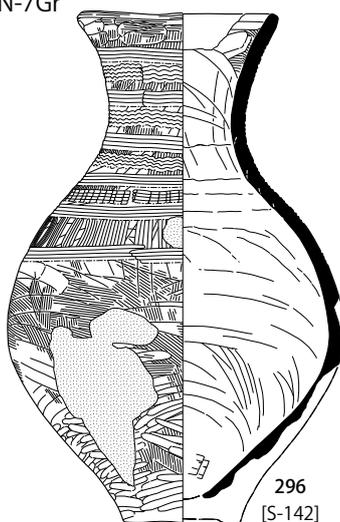
第 35 图 環濠 06 出土土器 1(S=1/4)

環濠 06(11 地区 SD24)

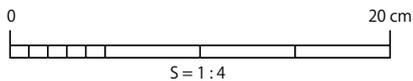
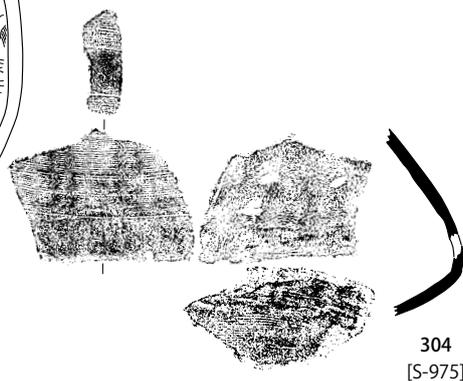
M-6Gr



N-7Gr

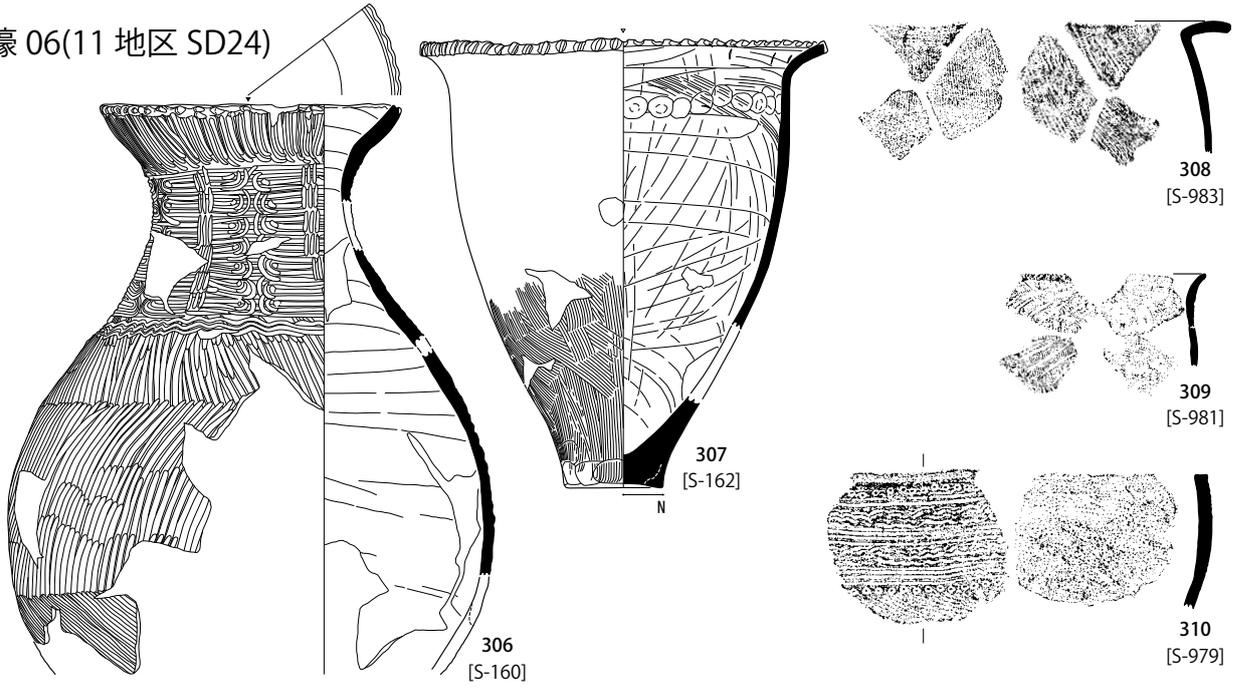


M.N-9.10Gr

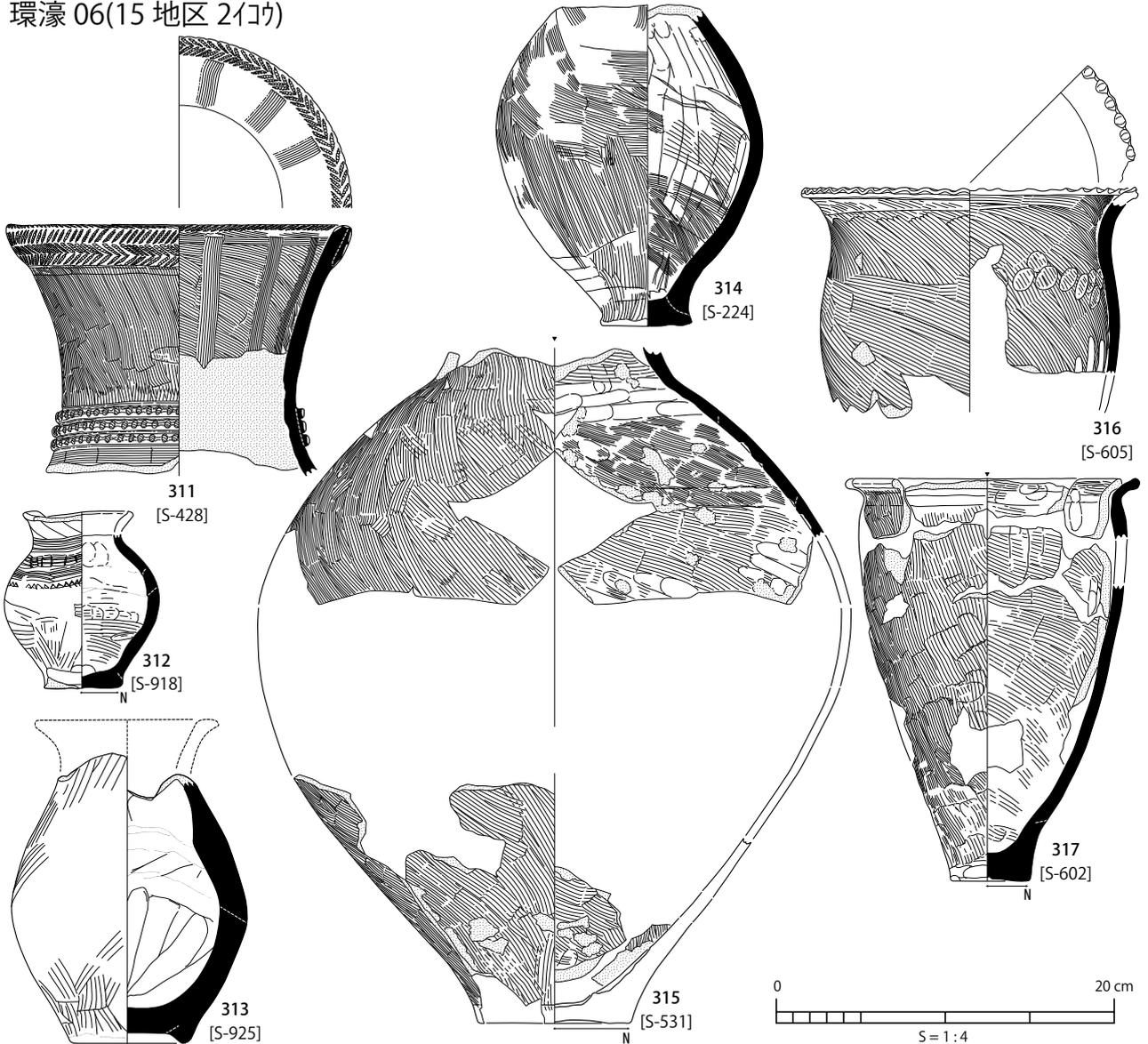


第 36 图 環濠 06 出土土器 2(S=1/4)

環濠 06(11 地区 SD24)



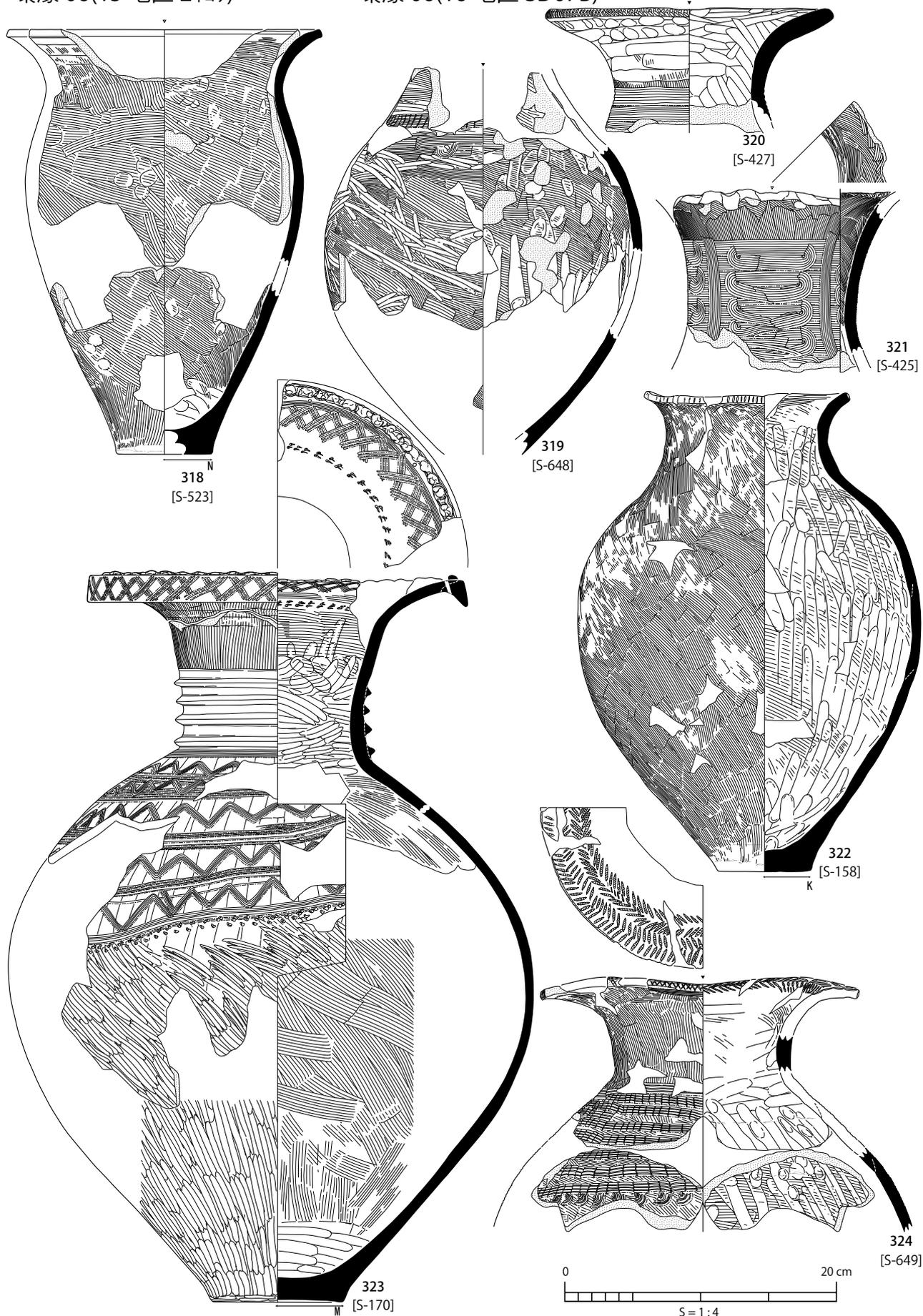
環濠 06(15 地区 210)



第 37 图 環濠 06 出土土器 3(S=1/4)

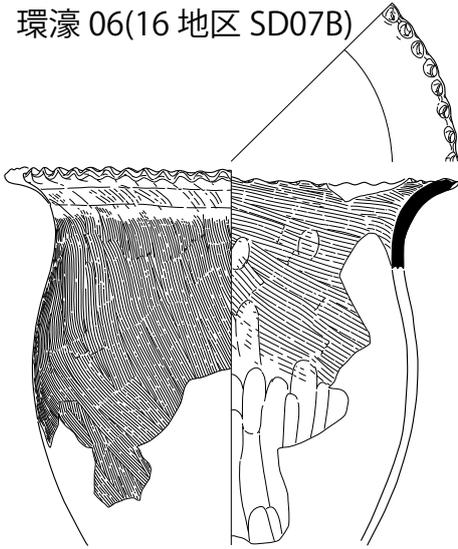
環濠 06(15 地区 210)

環濠 06(16 地区 SD07B)



第 38 图 環濠 06 出土土器 4(S=1/4)

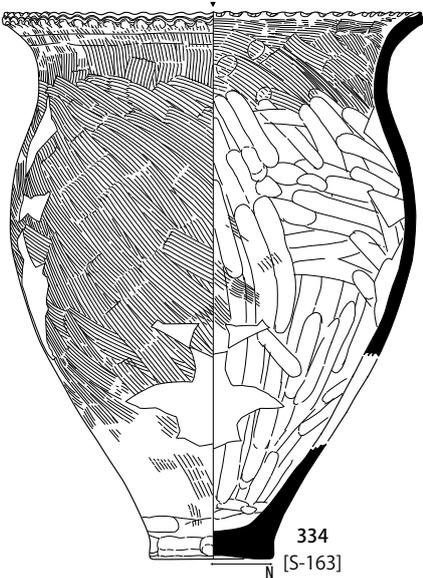
環濠 06(16 地区 SD07B)



325
[S-629]

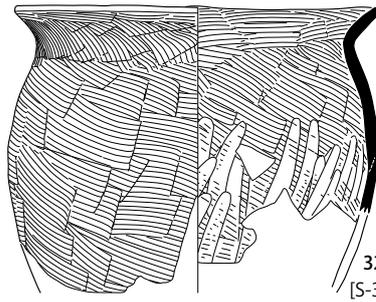


326
[S-630]

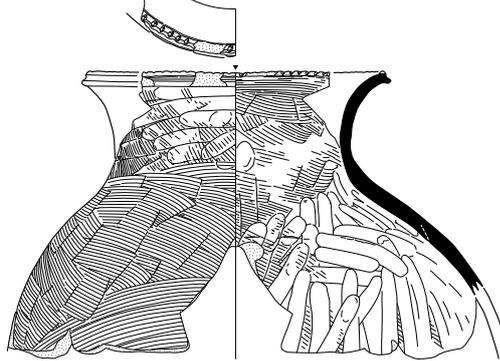


334
[S-163]

環濠 06(17 地区 SD01)

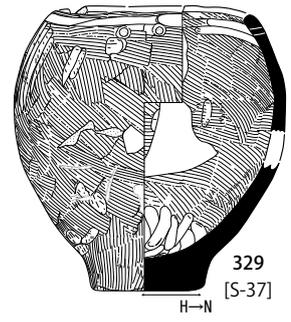


327
[S-306]



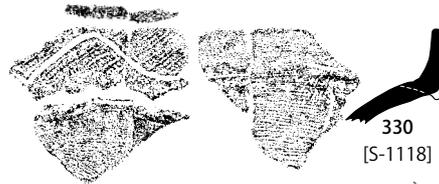
328
[S-307]

環濠 05·06(28 地区 SD01)



329
[S-37]

環濠 07(11 地区 SD22) a 区



330
[S-1118]



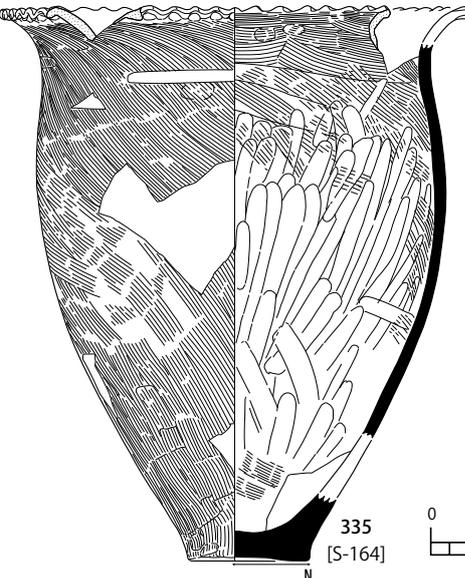
331
[S-1123]



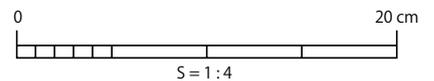
332
[S-1119]



333
[S-1112]

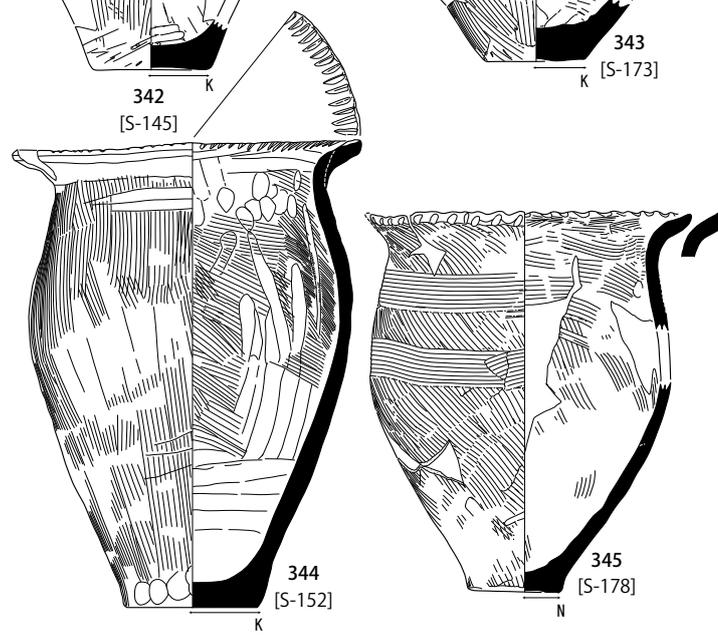
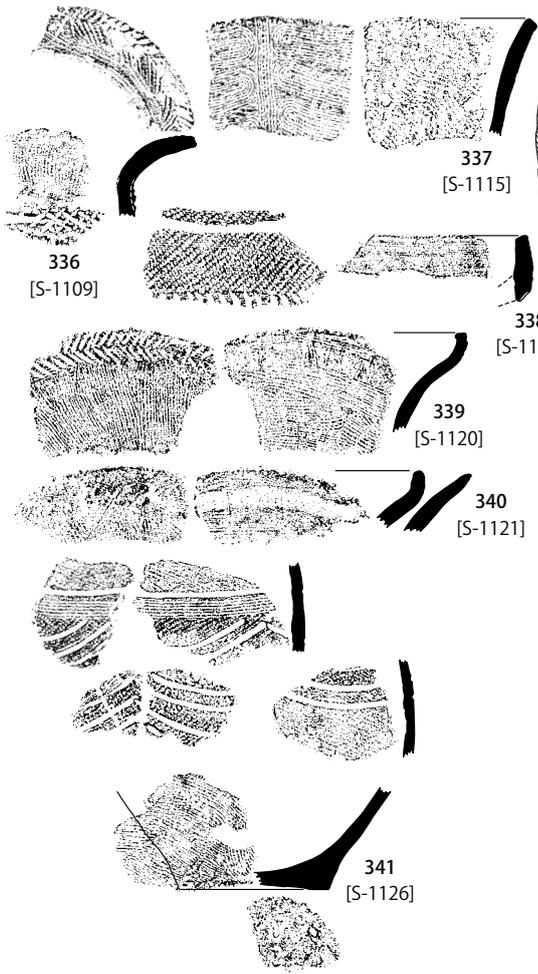


335
[S-164]

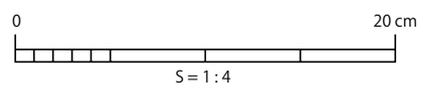
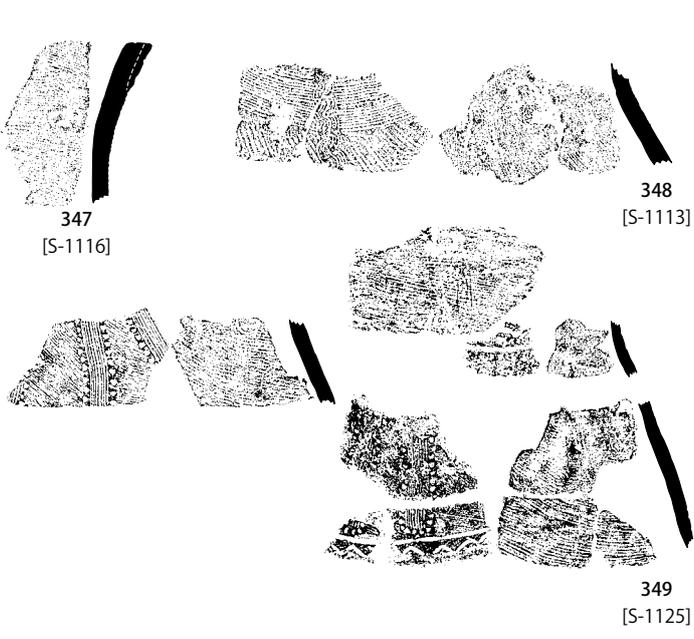
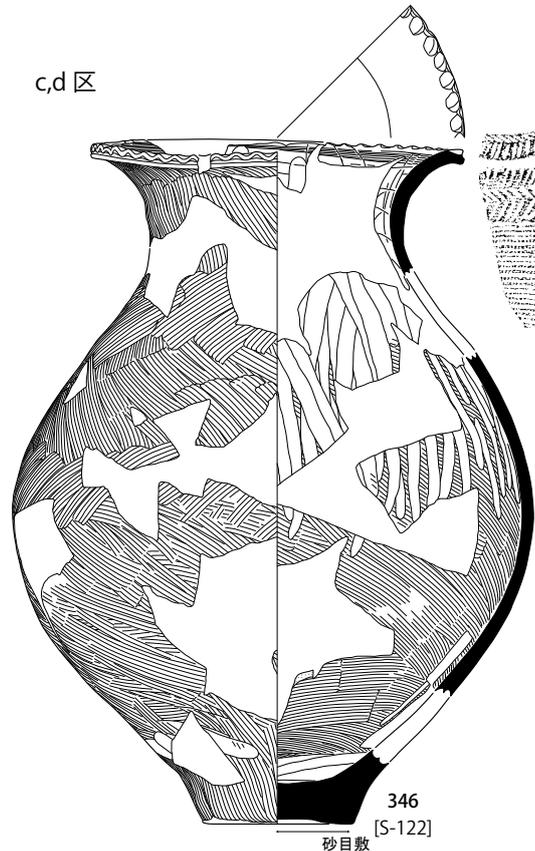


第 39 图 環濠 06, 環濠 05·06, 環濠 07 出土土器 (S=1/4)

環濠 07(11 地区 SD22) b 区

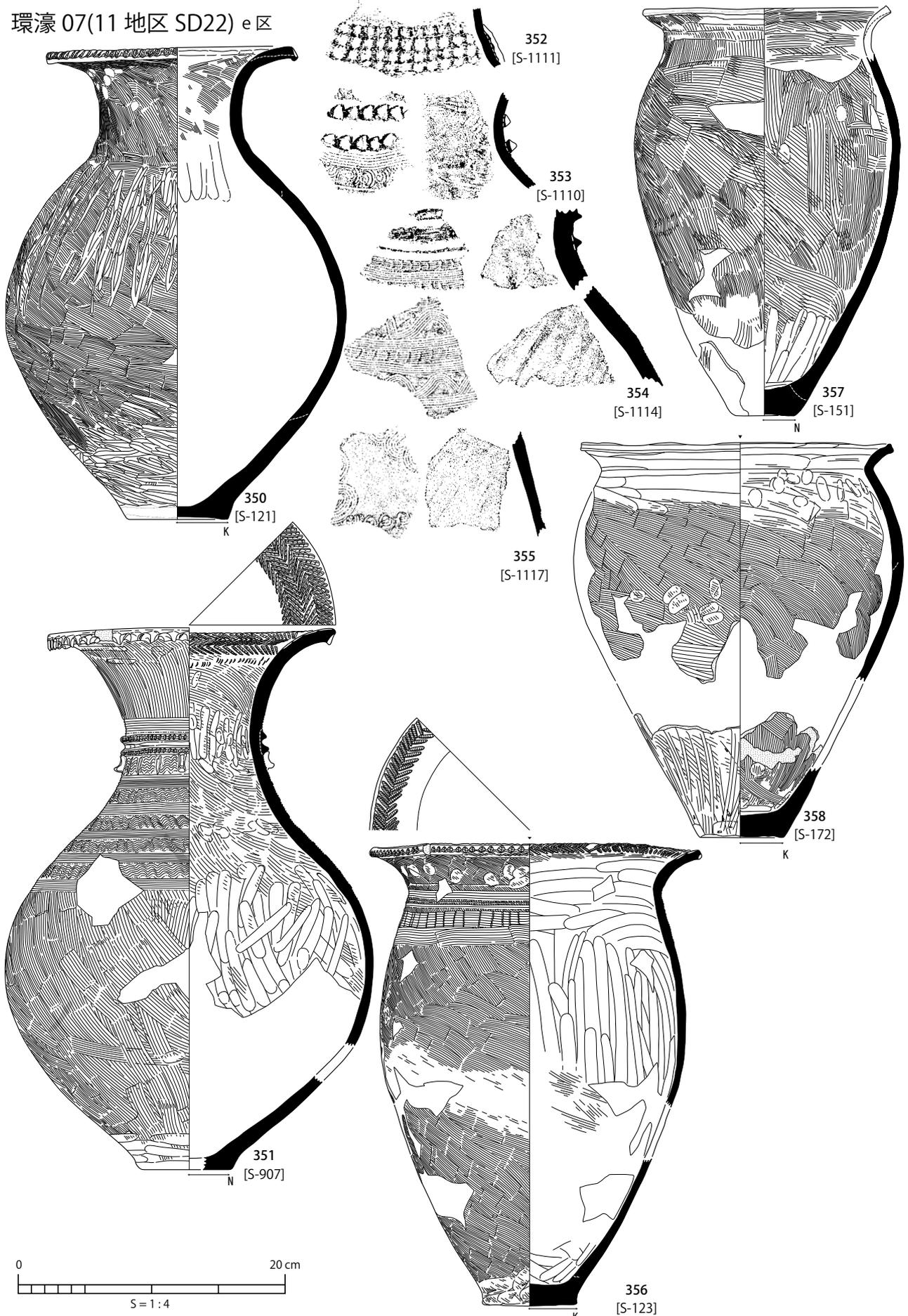


c,d 区



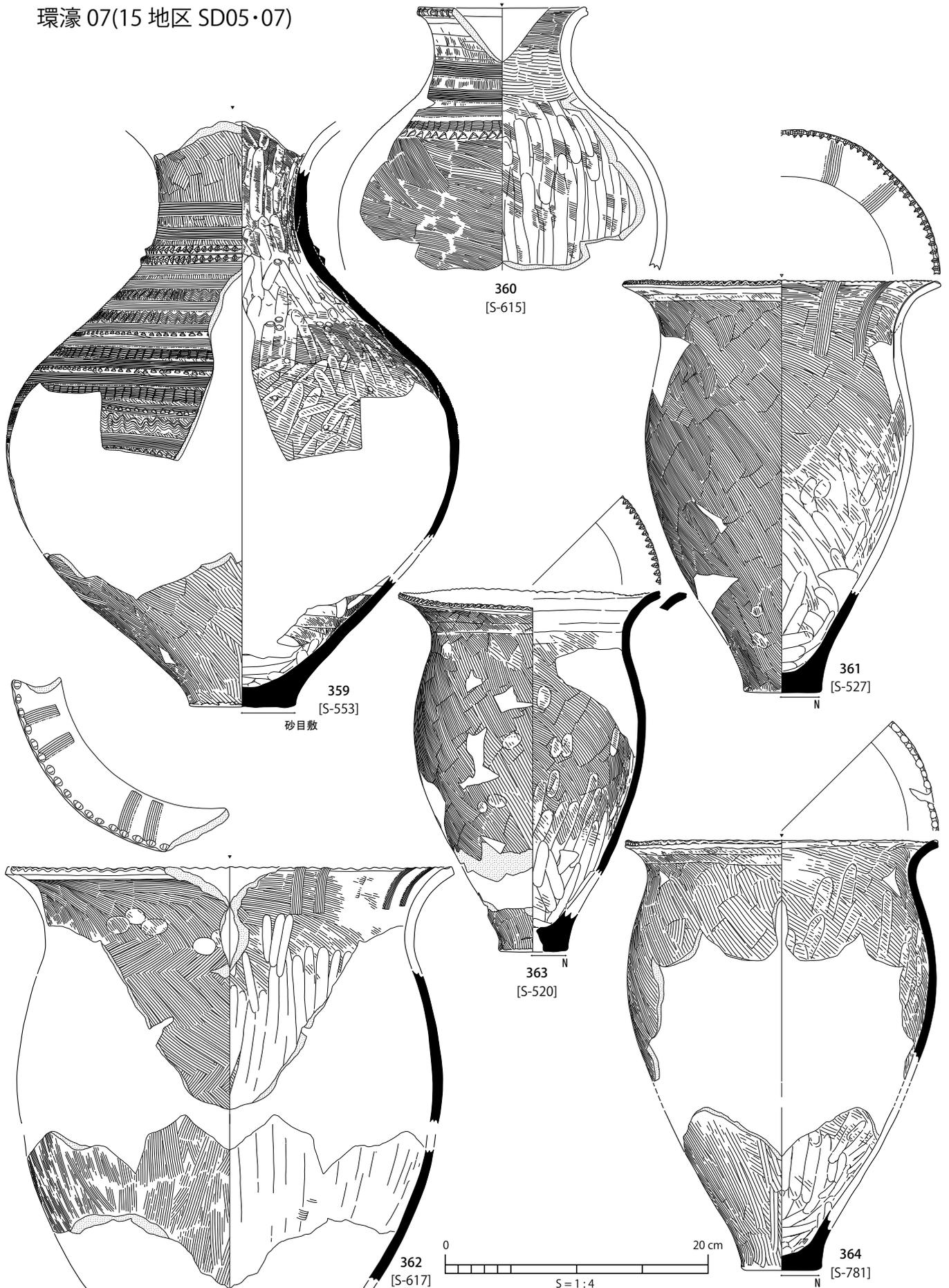
第 40 图 環濠 07 出土土器 2(S=1/4)

環濠 07(11 地区 SD22) e 区



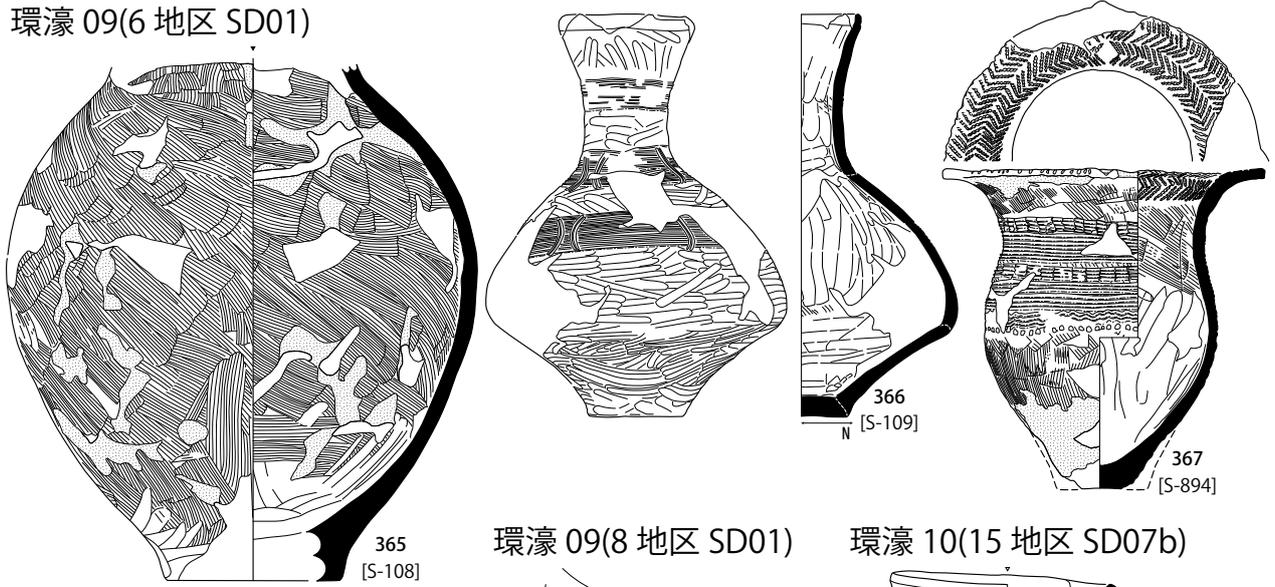
第 41 图 環濠 07 出土土器 3(S=1/4)

環濠 07(15 地区 SD05·07)



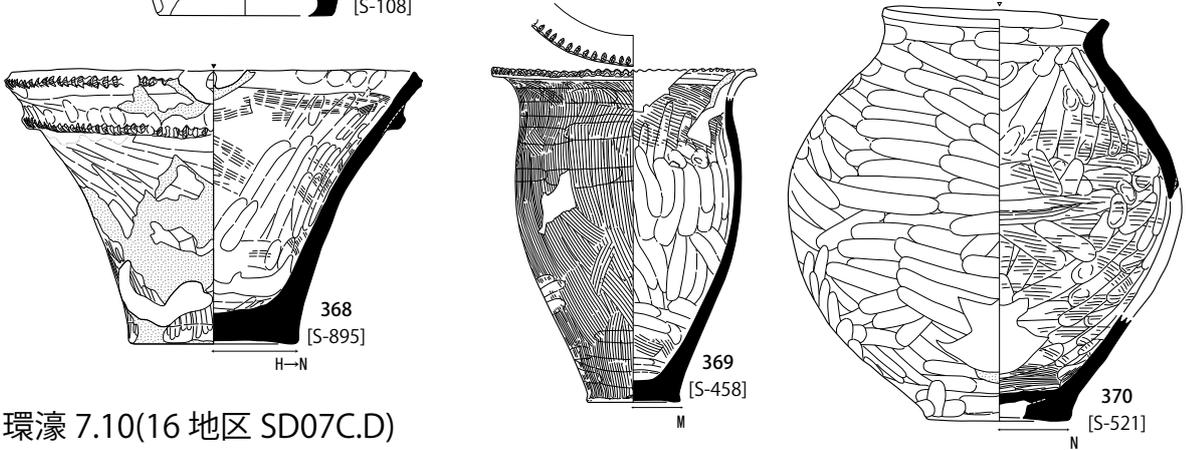
第 42 图 環濠 07 出土土器 4(S=1/4)

環濠 09(6 地区 SD01)

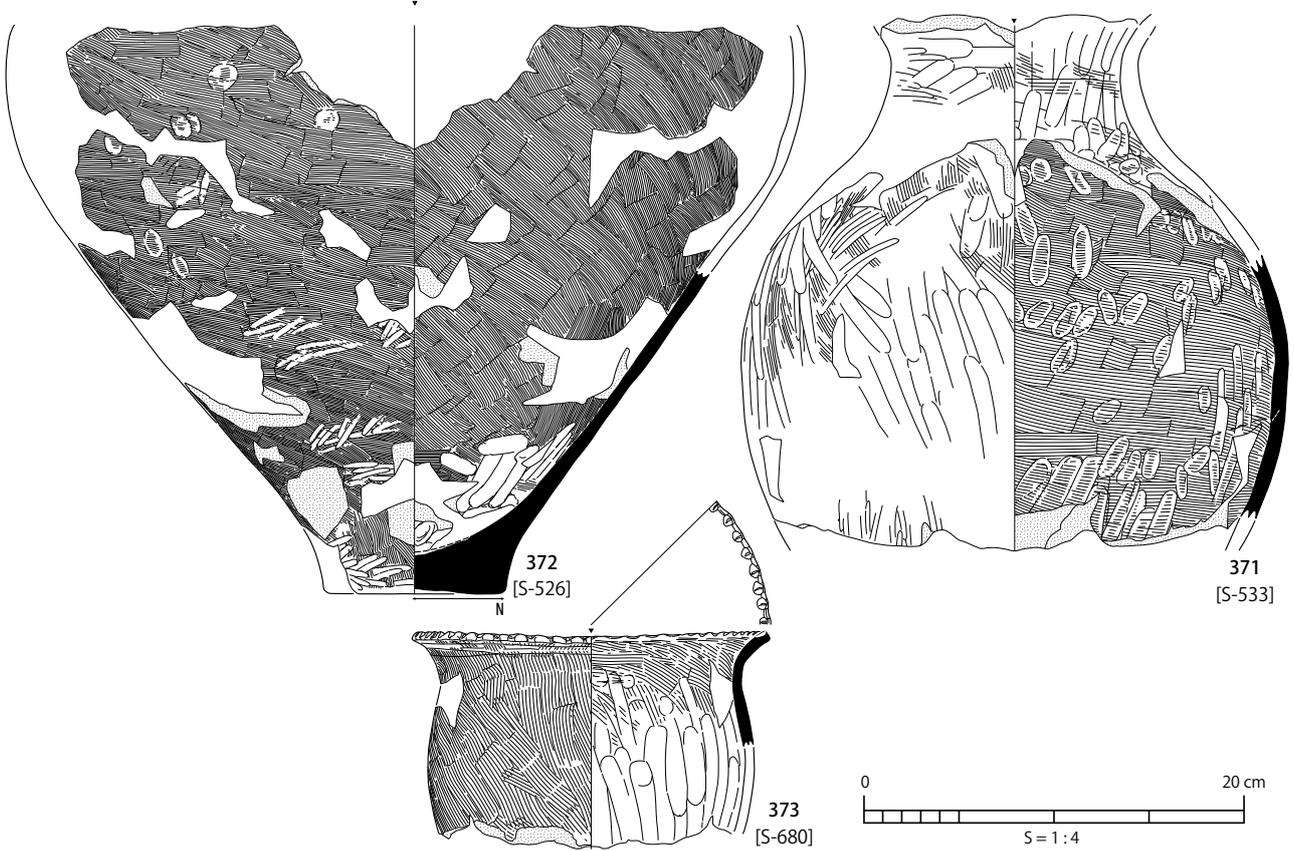


環濠 09(8 地区 SD01)

環濠 10(15 地区 SD07b)

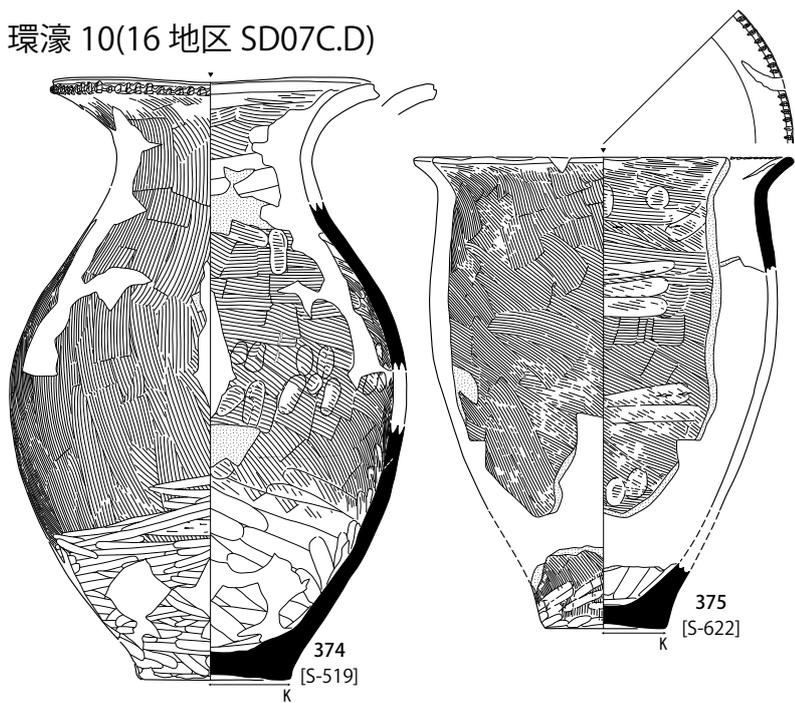


環濠 7.10(16 地区 SD07C.D)

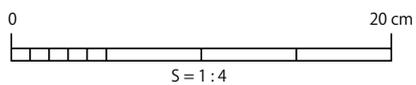
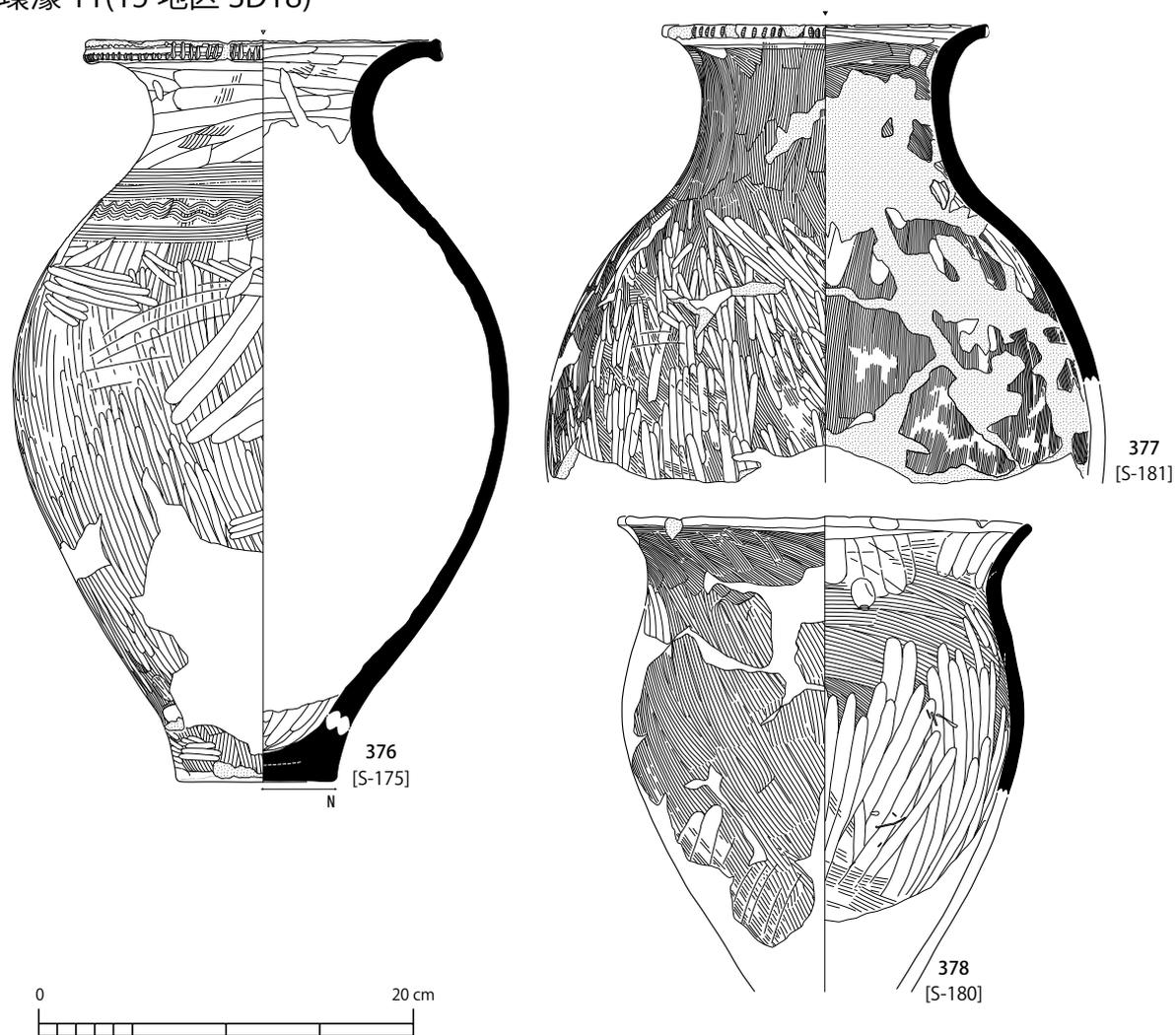


第 43 图 環濠 09,10 出土土器 (S=1/4)

環濠 10(16 地区 SD07C.D)

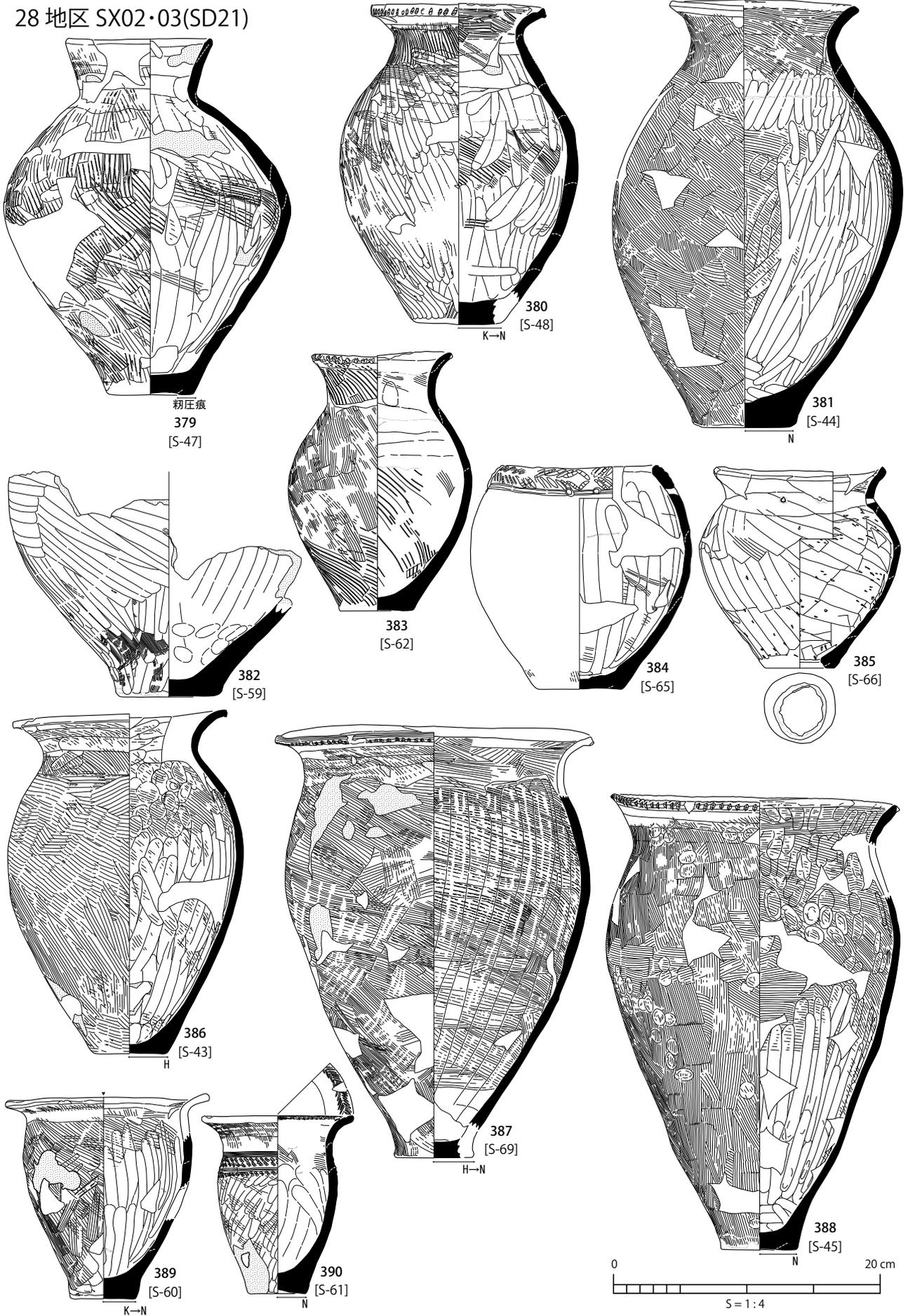


環濠 11(15 地区 SD18)



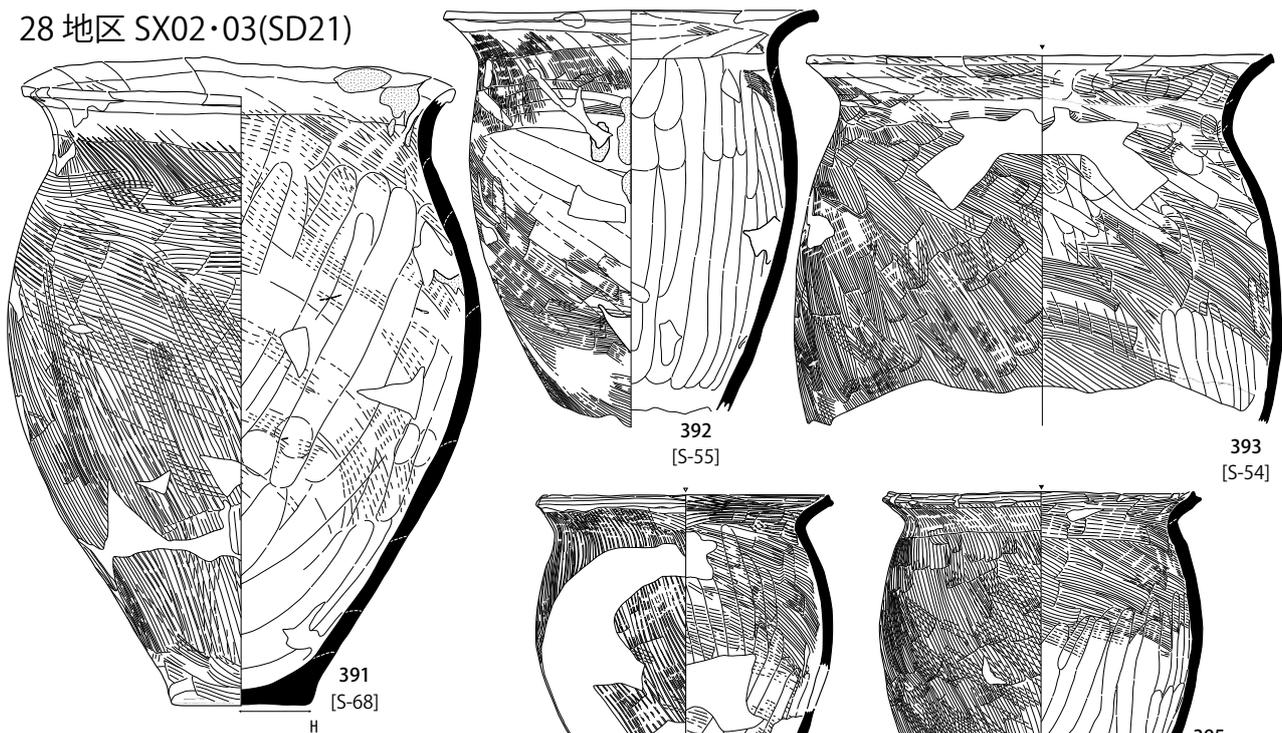
第 44 图 環濠 10,11 出土土器 (S=1/4)

28 地区 SX02·03(SD21)

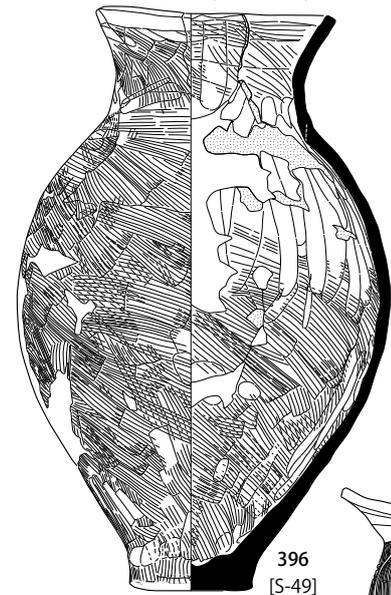


第 45 图 28 地区 SX02·03 方形周溝墓出土土器 (S=1/4)

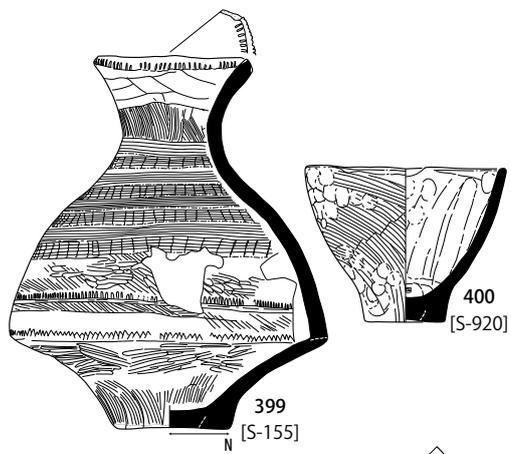
28 地区 SX02·03(SD21)



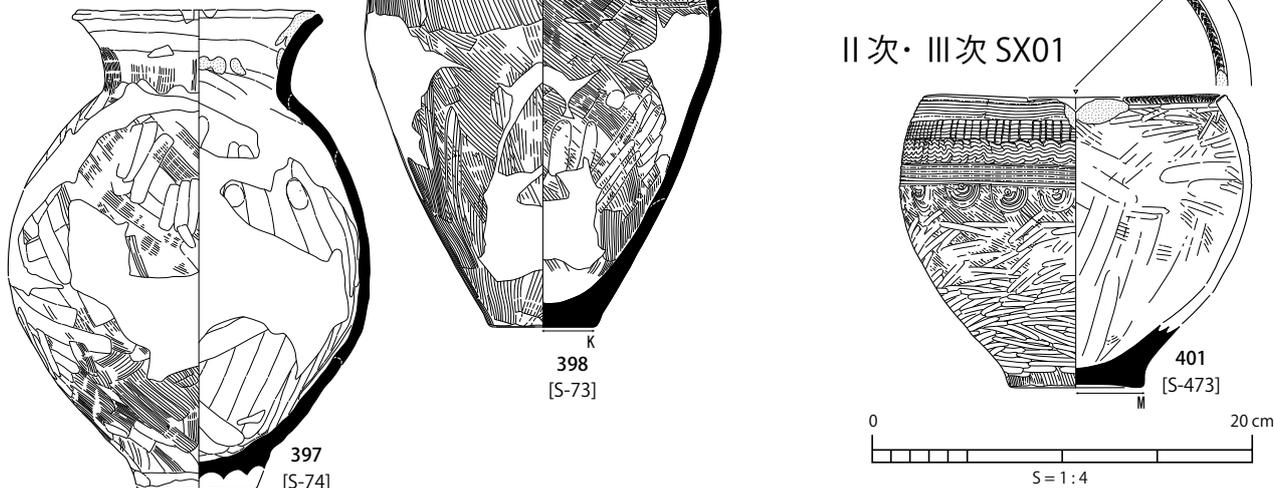
31 地区 SX02(SD1-b)



II 次· III 次 SX08

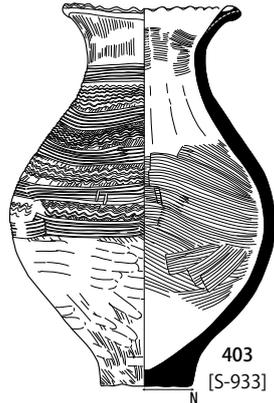
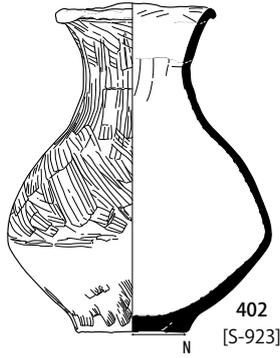


II 次· III 次 SX01

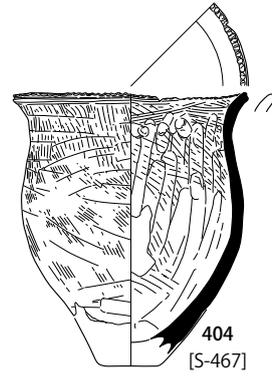


第 46 图 28,31 地区, II·III 次方形周溝墓出土土器 (S=1/4)

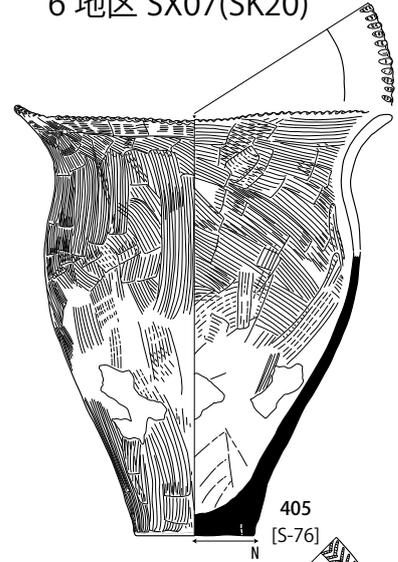
II次·III次 SX10



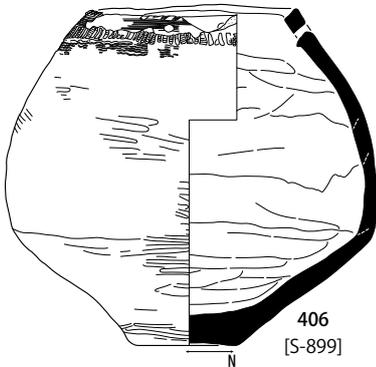
6地区 SX01(SK03)



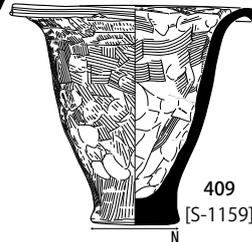
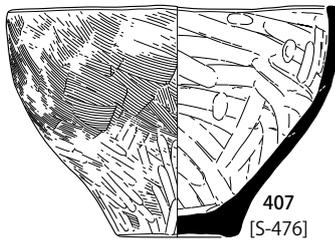
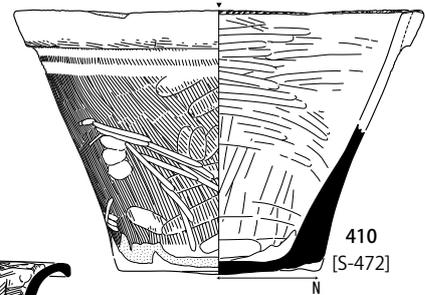
6地区 SX07(SK20)



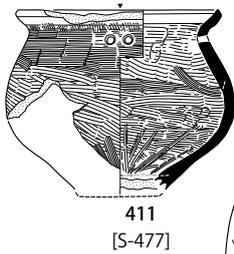
6地区 SX08(SK24)



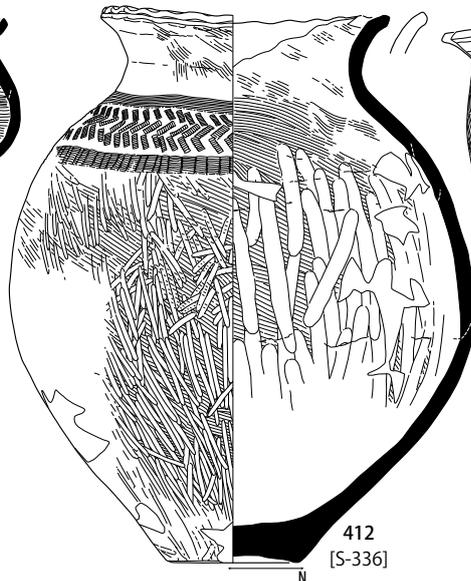
6地区 SX08(SK25)



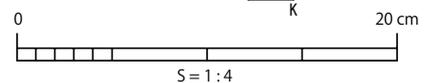
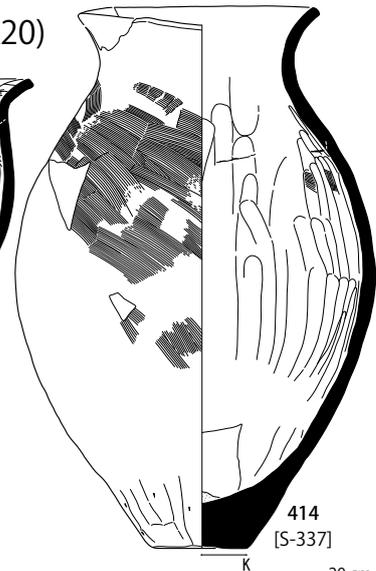
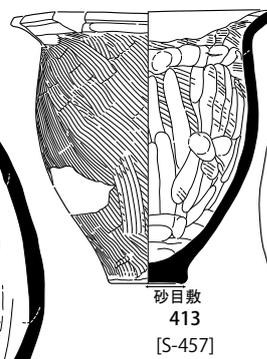
6地区 SX09(SK49)



8地区 SX01(SK23)



8地区 SX01(SK20)

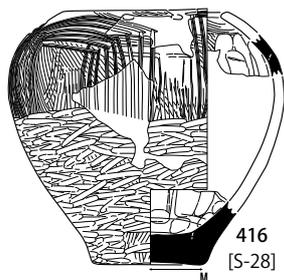
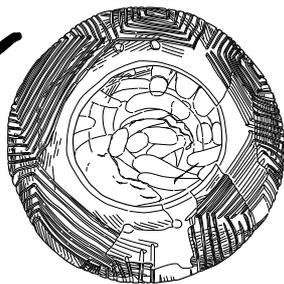


第 47 图 II·III次,6,8地区方形周沟墓出土土器 (S=1/4)

18 地区 SX08,09(SD04,SD02)



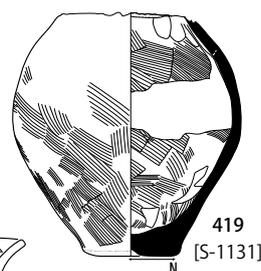
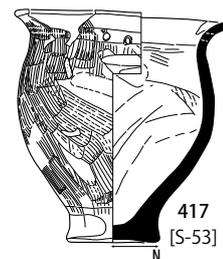
18 地区 SX09(SD02)



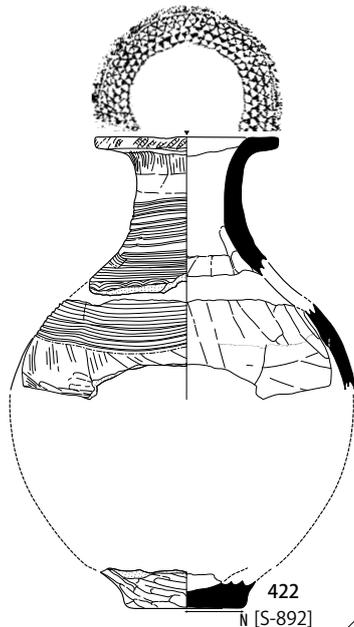
20 地区 SX01



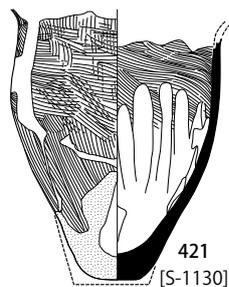
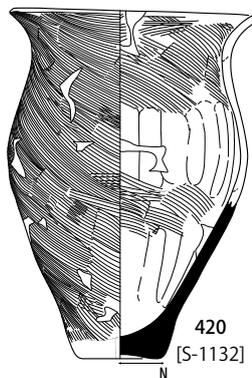
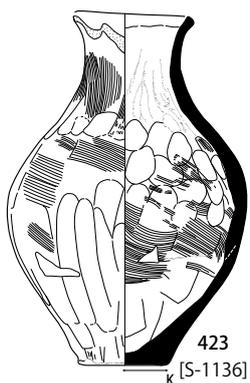
18 地区 SX02



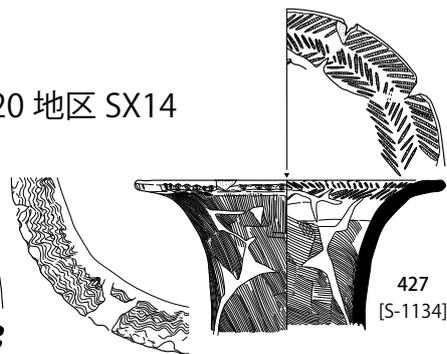
20 地区 SX02



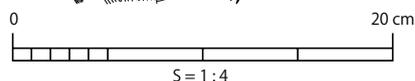
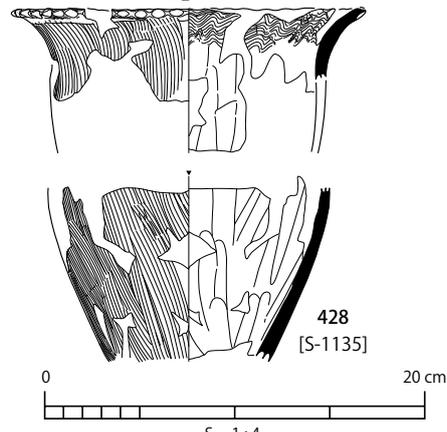
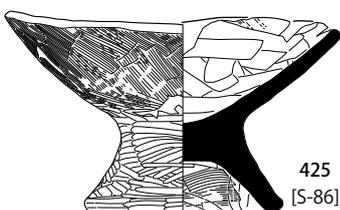
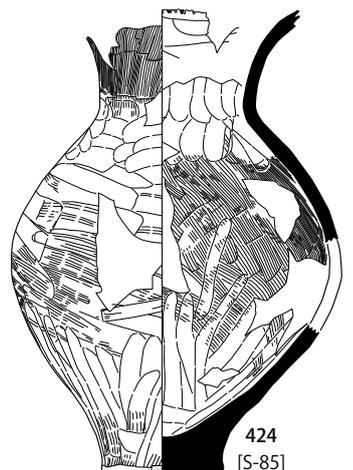
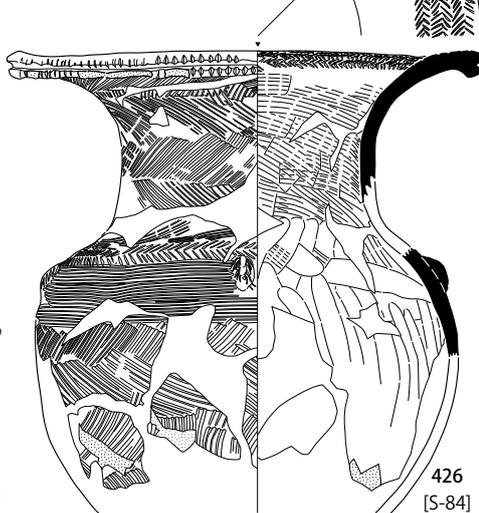
20 地区 SX04



20 地区 SX14

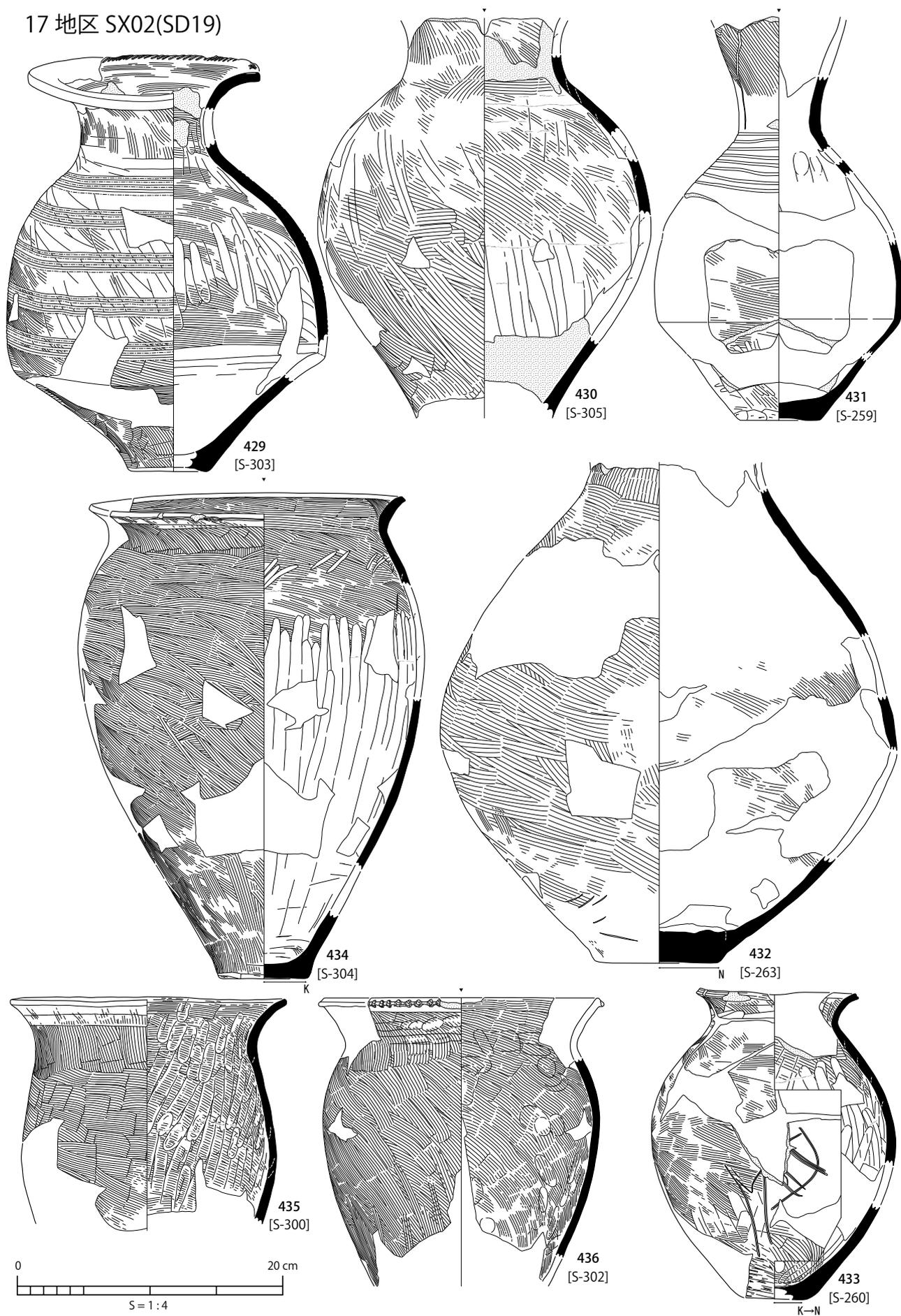


20 地区 SX16



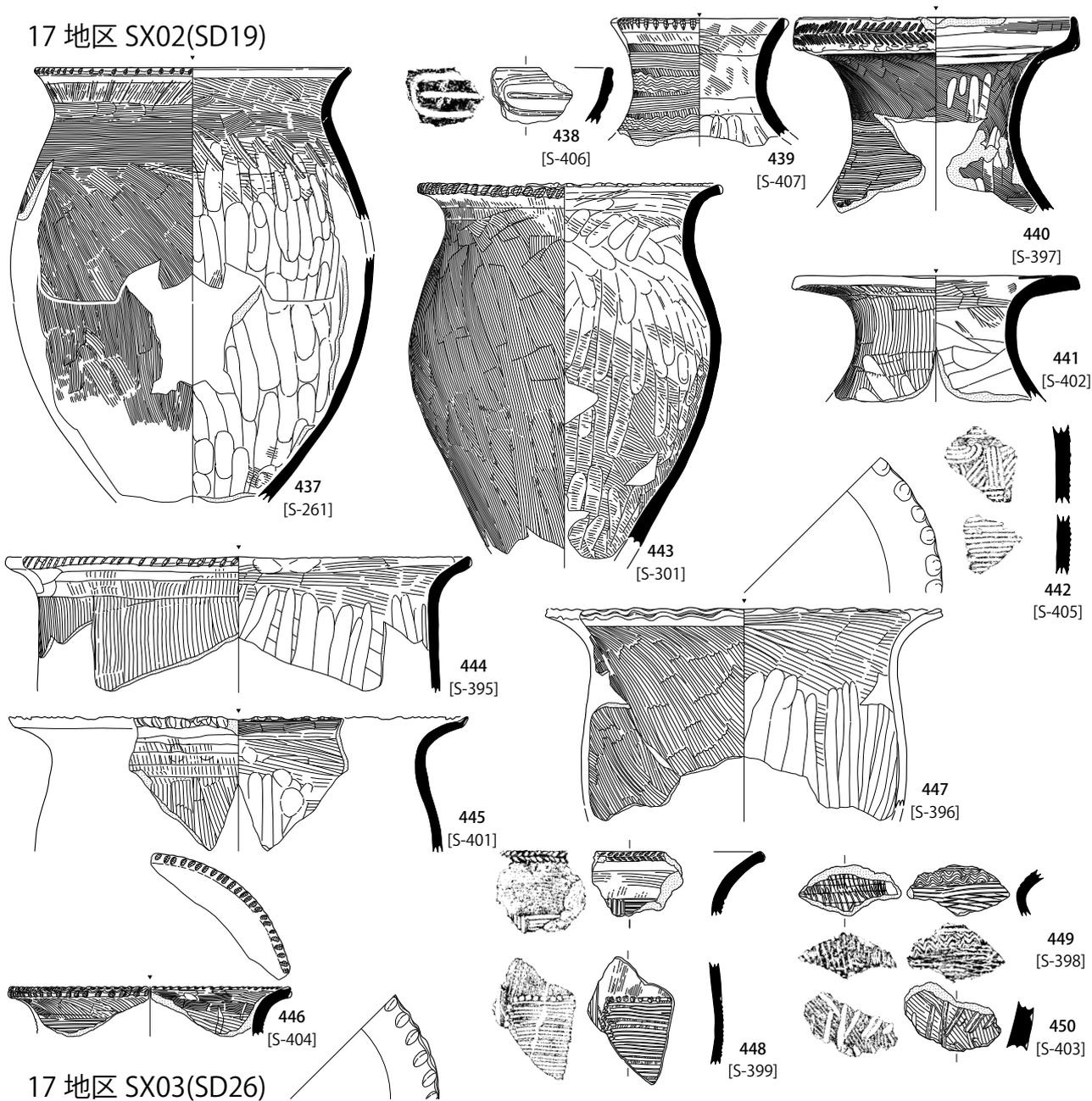
第 48 图 18,20 地区方形周沟墓出土土器 (S=1/4)

17 地区 SX02(SD19)

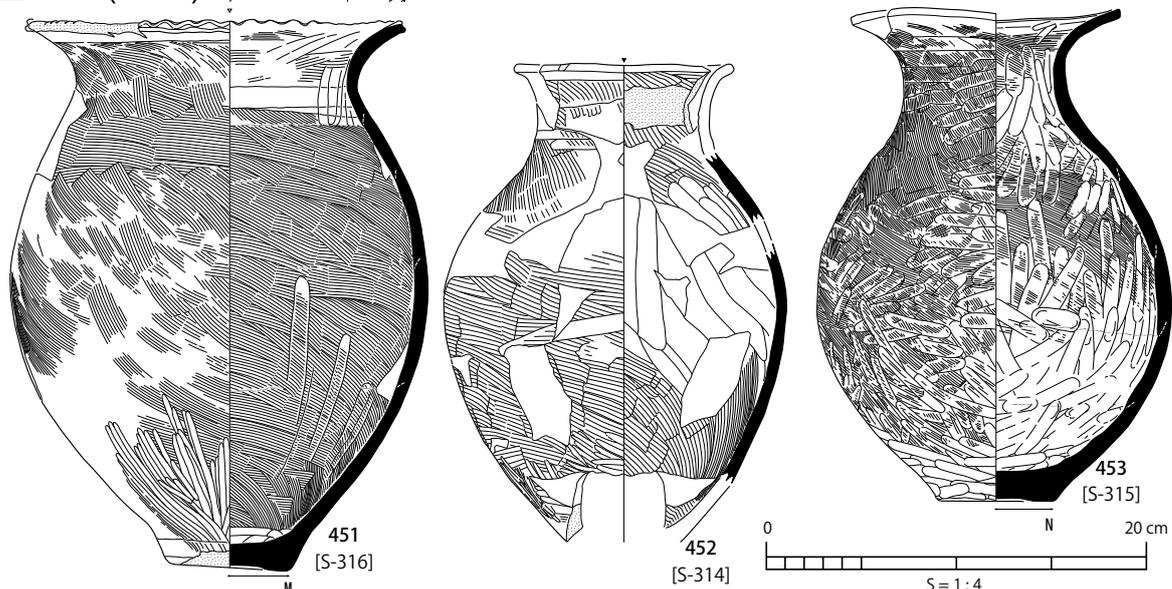


第 49 图 17 地区方形周沟墓出土土器 (S=1/4)

17 地区 SX02(SD19)

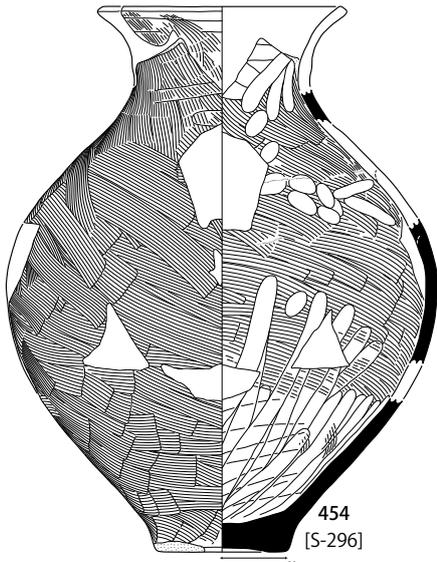


17 地区 SX03(SD26)



第 50 图 17 地区方形周满墓出土土器 2(S=1/4)

17 地区 SX03(SD26)

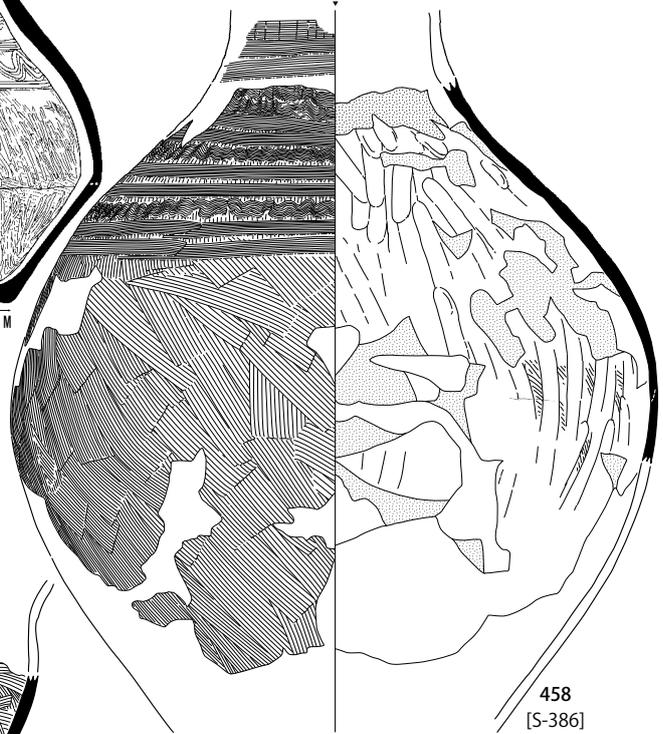


454
[S-296]

17 地区 SX04(SD28)



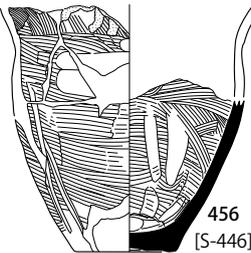
457
[S-1160]



458
[S-386]

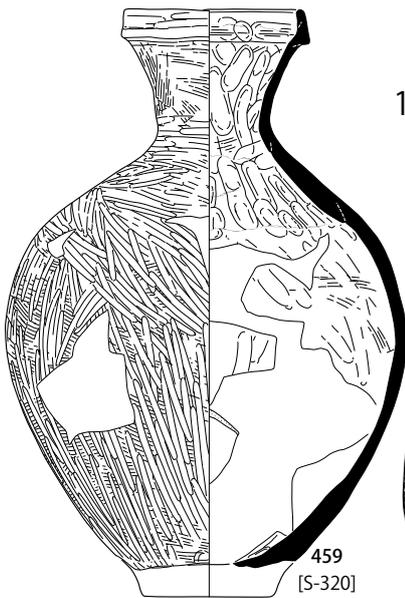


455
[S-313]



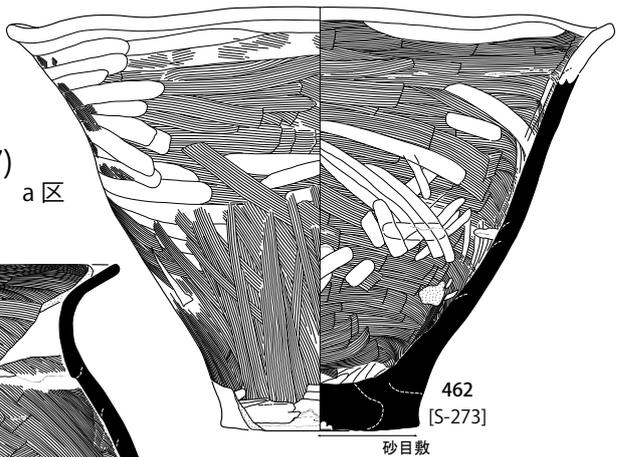
456
[S-446]

17 地区 SX05(SD30)



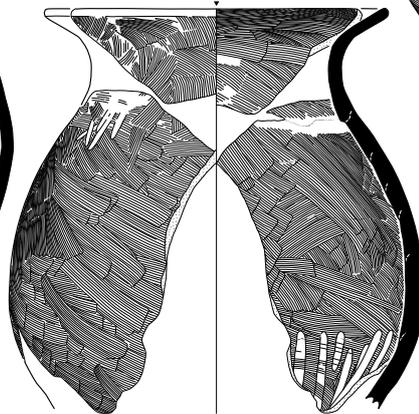
459
[S-320]

17 地区 SX06(SD27)

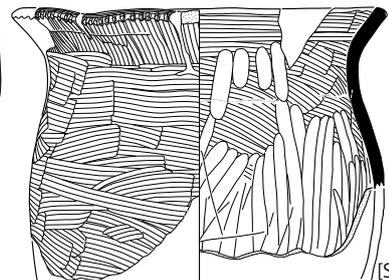


462
[S-273]

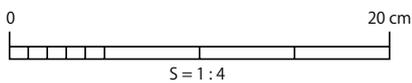
砂目敷



460
[S-295]

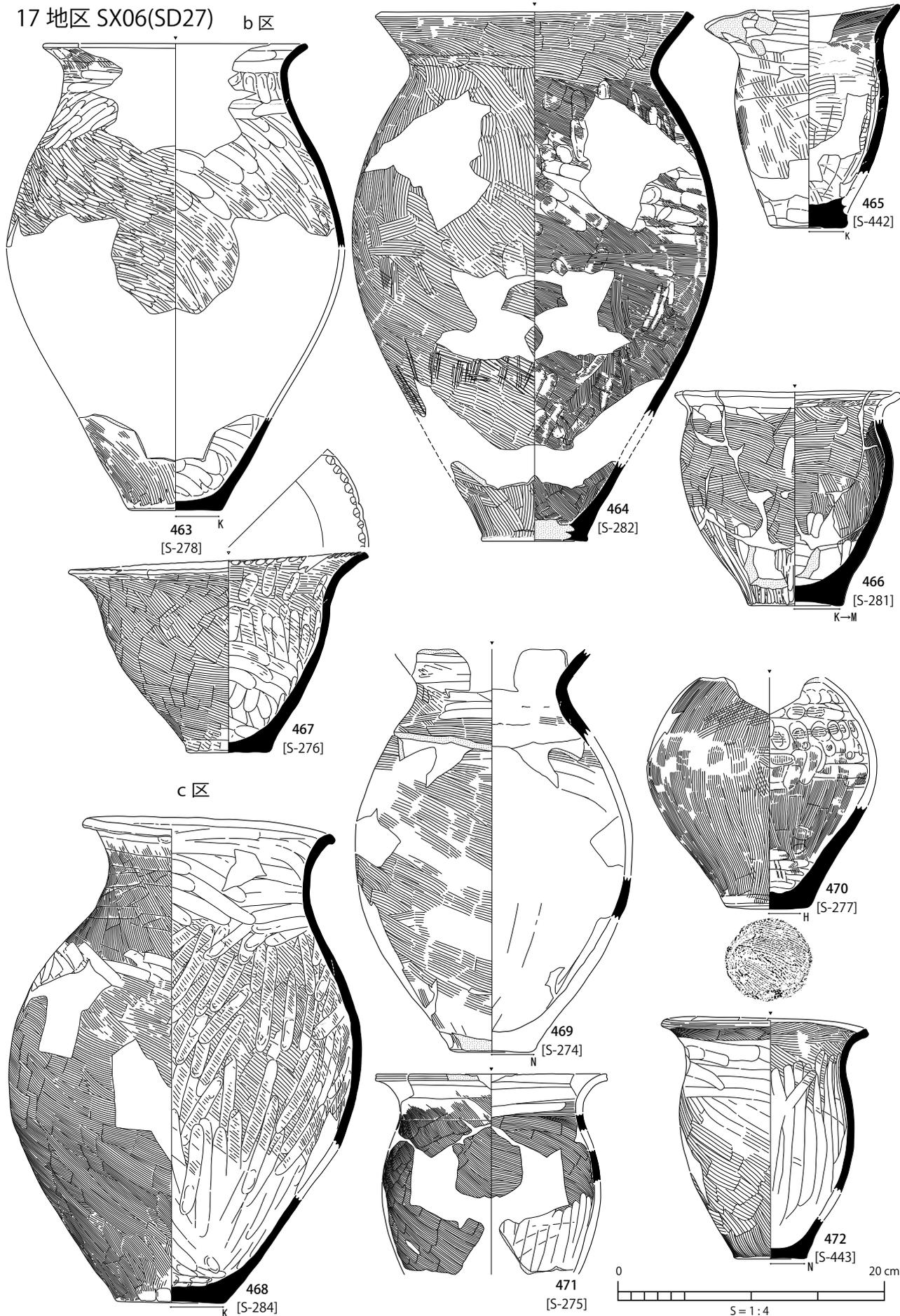


461
[S-280]



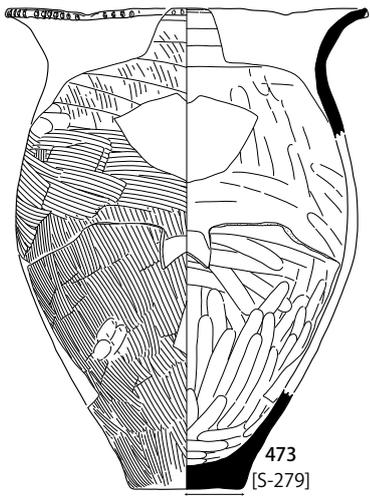
第 51 图 17 地区方形周满墓出土土器 3(S=1/4)

17 地区 SX06(SD27) b 区



第 52 图 17 地区方形周满墓出土土器 4(S=1/4)

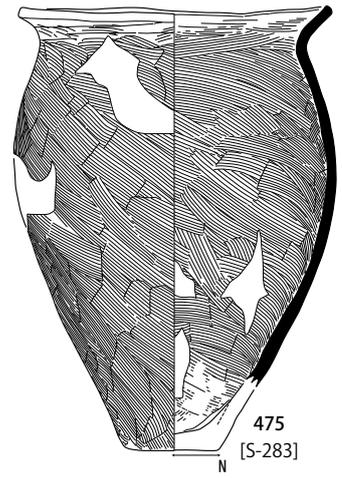
17 地区 SX06(SD27) c 区



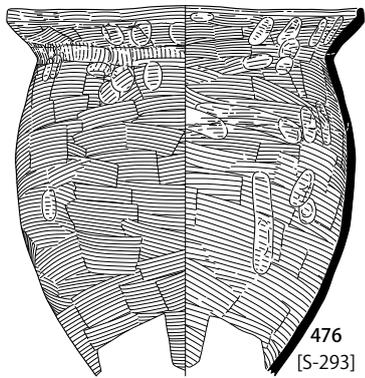
473
[S-279]



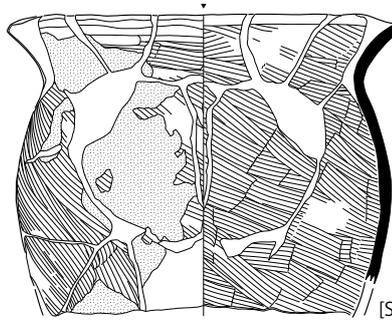
474
[S-294]



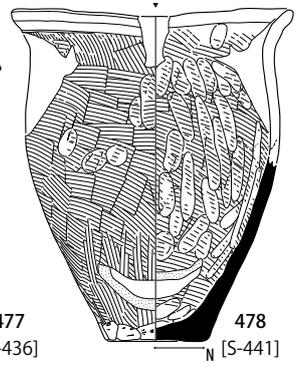
475
[S-283]



476
[S-293]



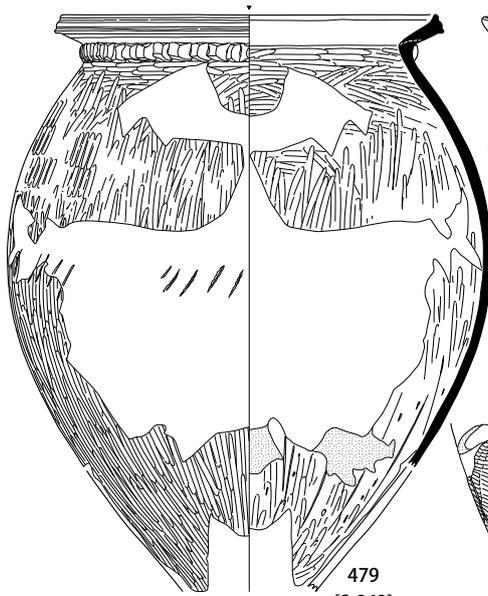
477
[S-436]



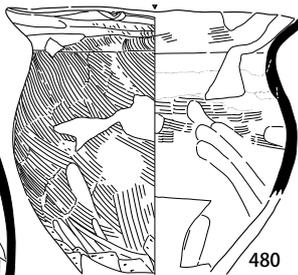
478
[S-441]

d 区

17 地区 SX08(SD19)

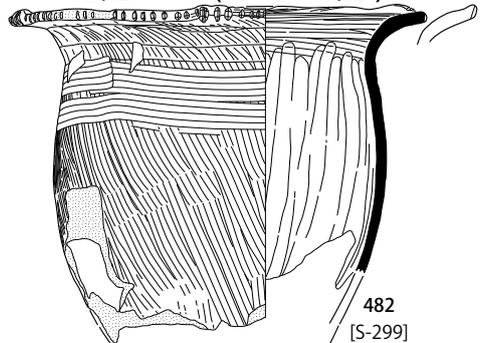


479
[S-262]



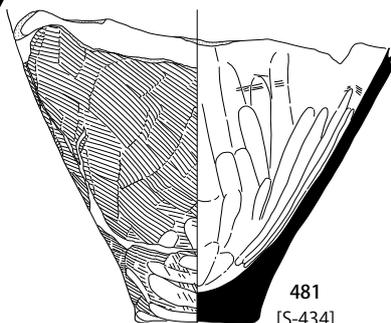
480
[S-433]

17 地区 SX09(SD19 G 区)

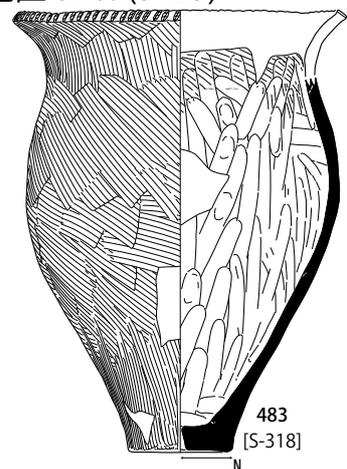


482
[S-299]

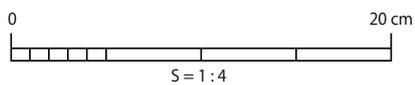
17 地区 SX09(SK25)



481
[S-434]

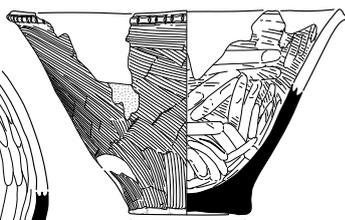
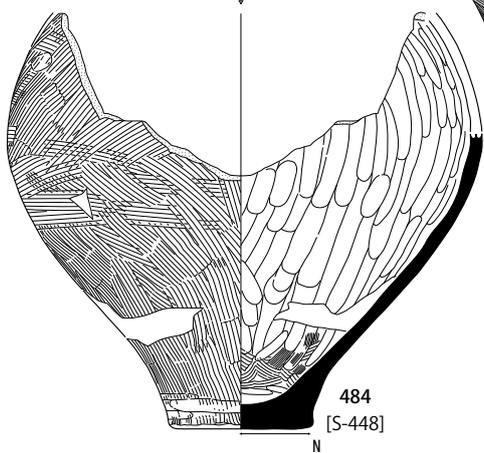


483
[S-318]

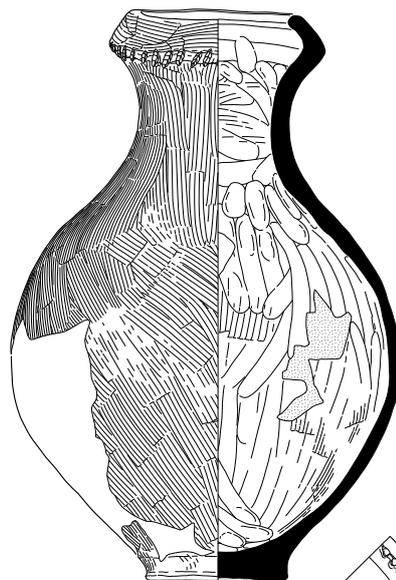


第 53 图 17 地区方形周溝墓出土土器 5(S=1/4)

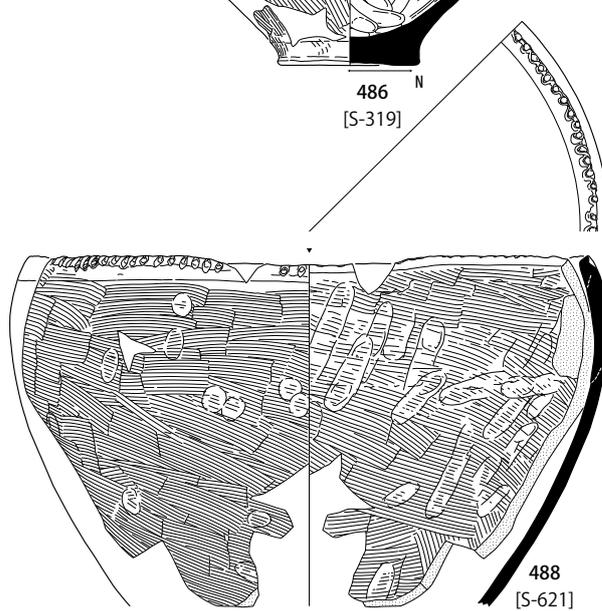
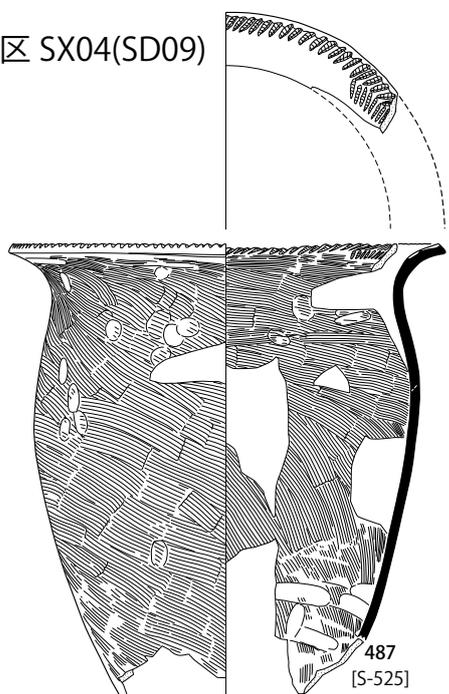
17 地区 SX14(SD35)



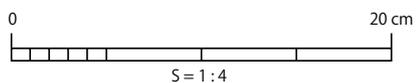
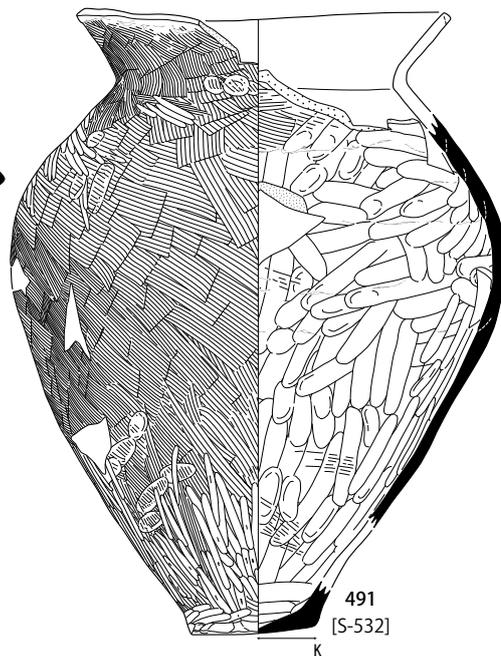
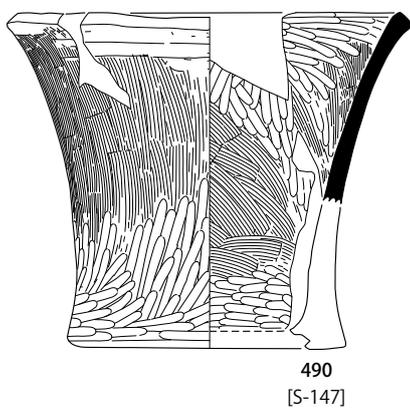
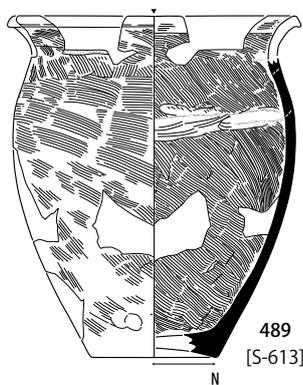
17 地区 SX16(SD10)



15 地区 SX04(SD09)

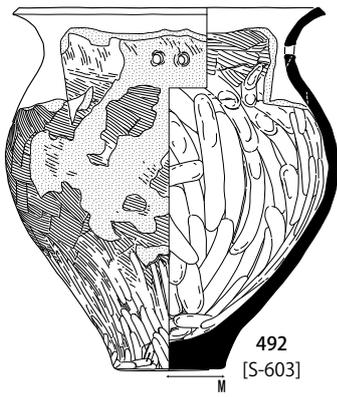


15 地区 SX04(SD13)

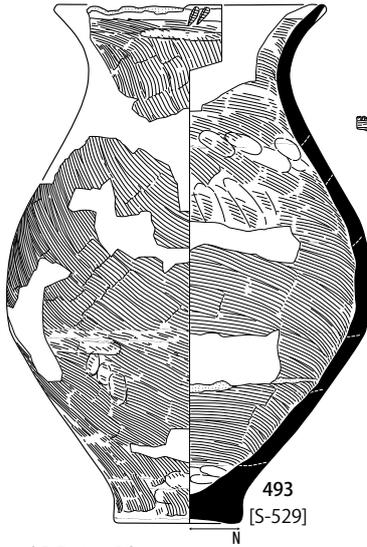


第 54 图 17 地区,15 地区方形周沟墓出土土器 (S=1/4)

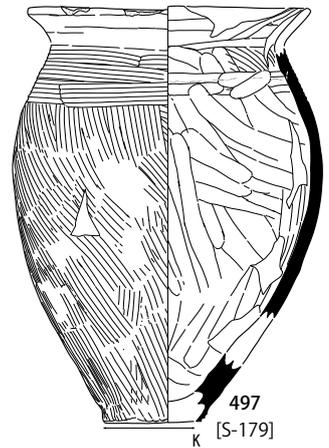
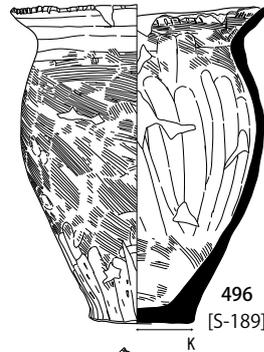
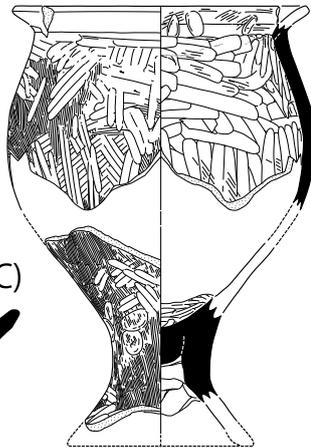
15 地区 SX02(SD2)



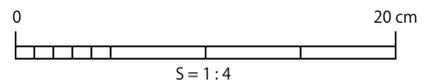
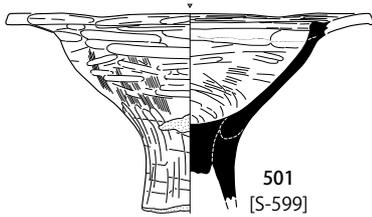
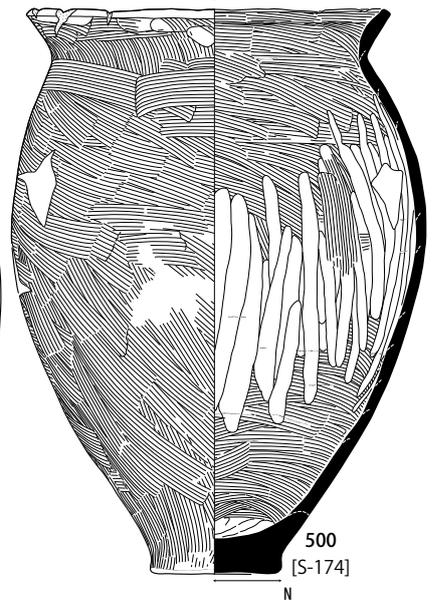
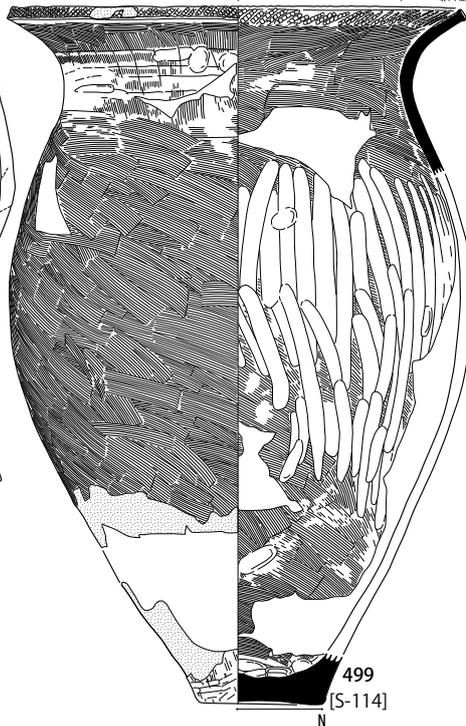
15 地区 SX03(SD7c)



15 地区 SX05(SD04B)



15 地区 SX05(SD04C)

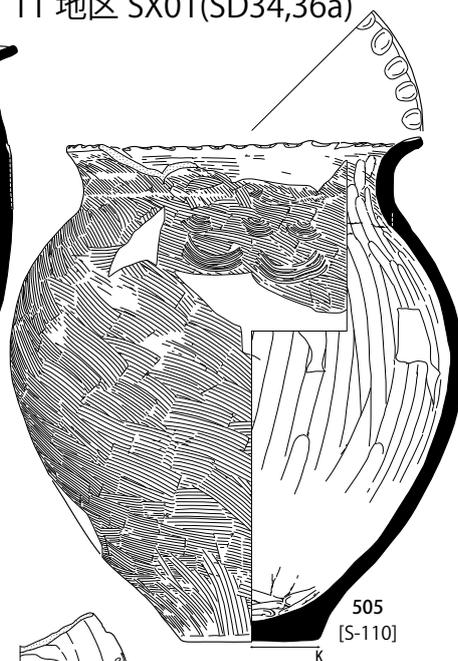
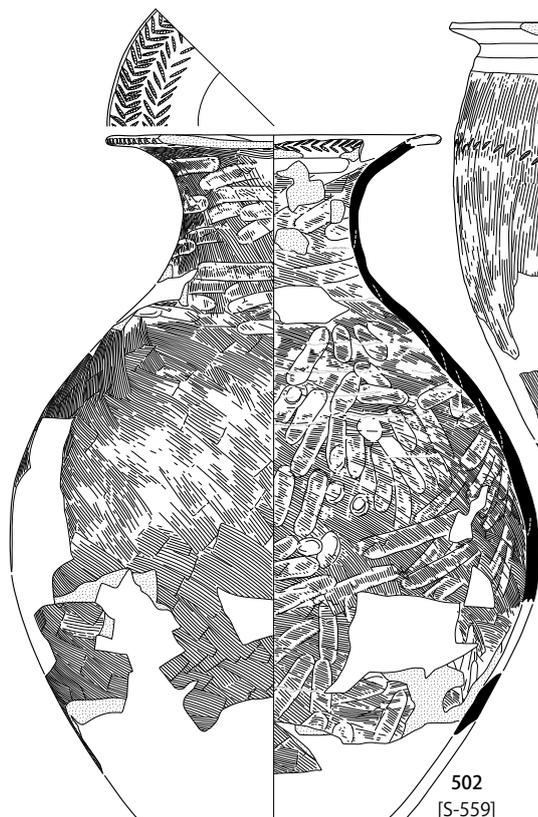


第 55 图 15 地区方形周满墓出土土器 2(S=1/4)

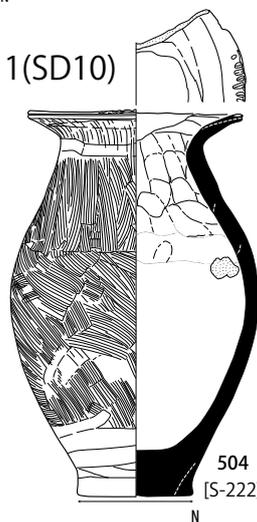
15 地区 SX09(SD1-2)

15 地区 SX09 か (SK10)

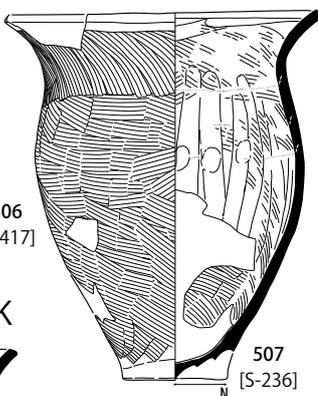
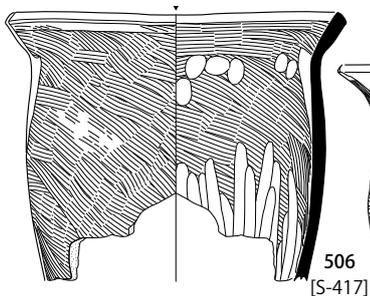
11 地区 SX01(SD34,36a)



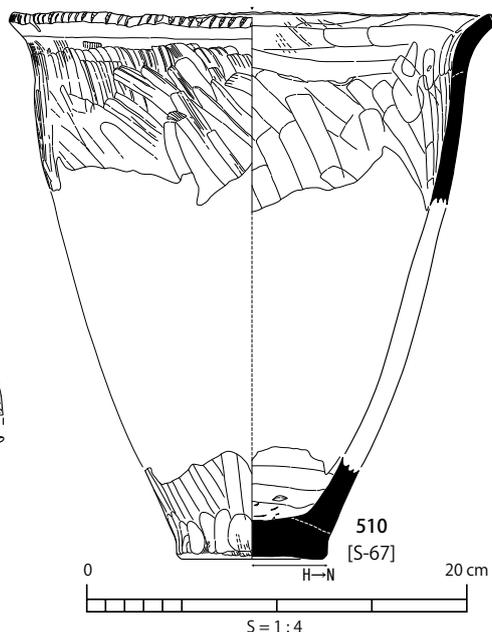
16 地区 SX11(SD10)



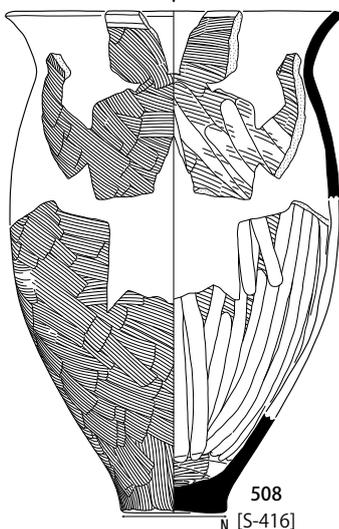
28③A 地区 SD13



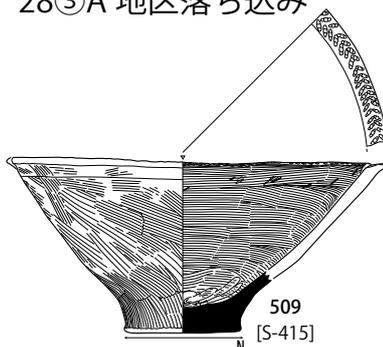
28③B 地区



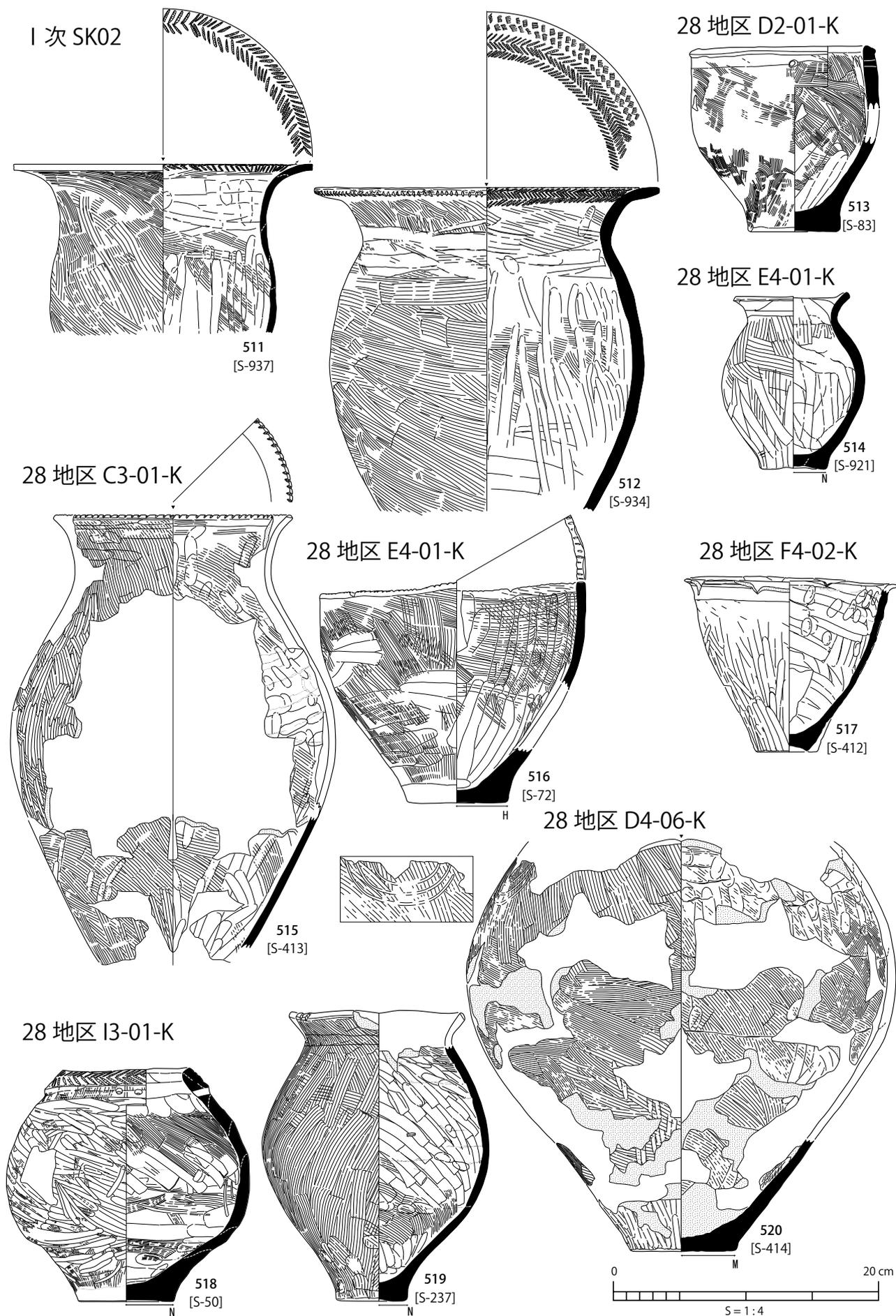
28③A 地区 36-80-01K



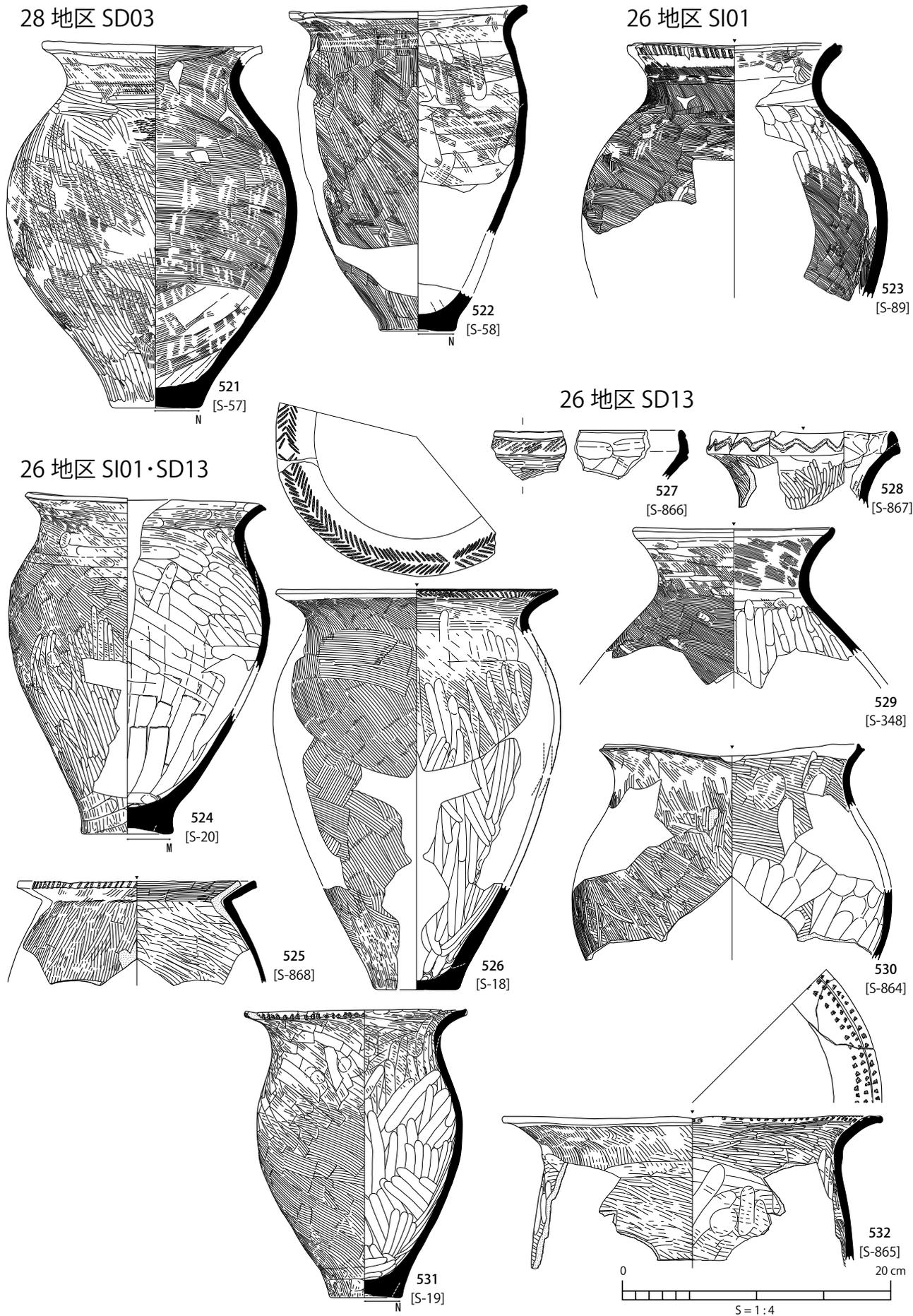
28③A 地区落ち込み



第 56 图 15 地区,11 地区方形周溝墓,28 地区遺構出土土器 (S=1/4)

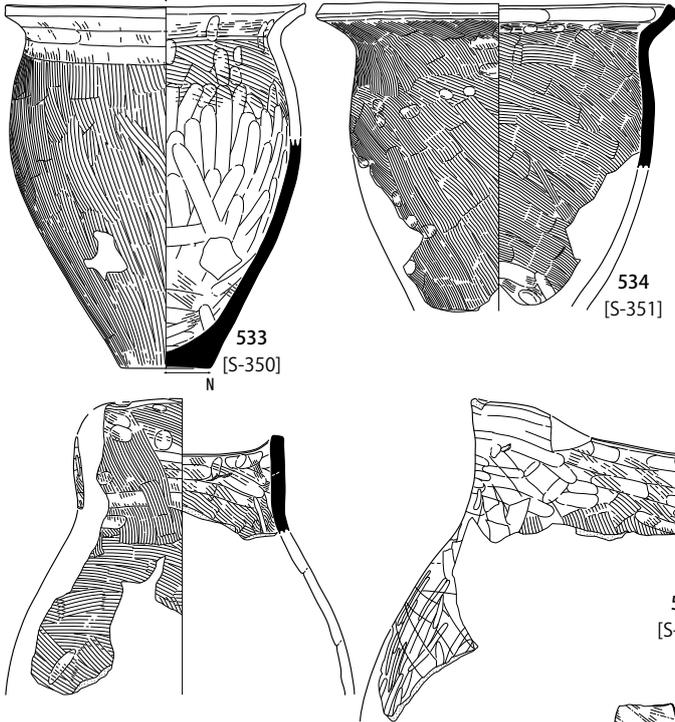


第 57 图 1次,28 地区遺構出土土器 (S=1/4)

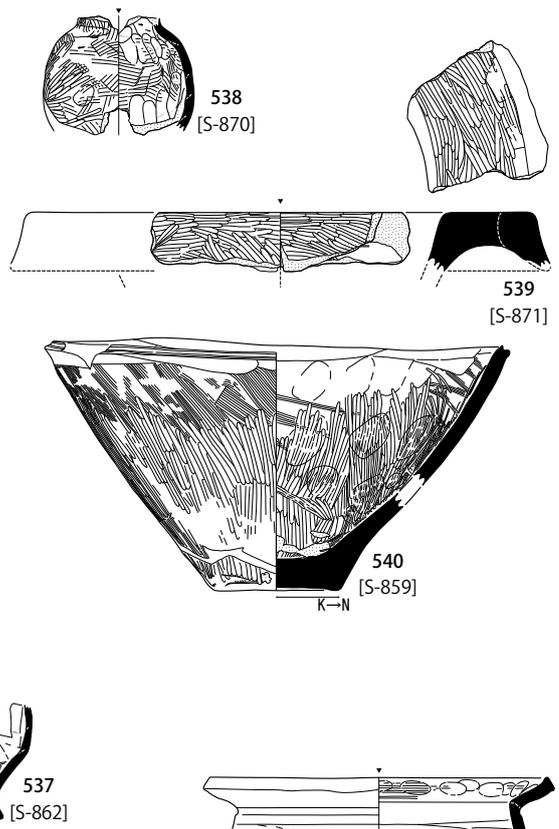


第 58 图 26 地区遺構出土土器 (S=1/4)

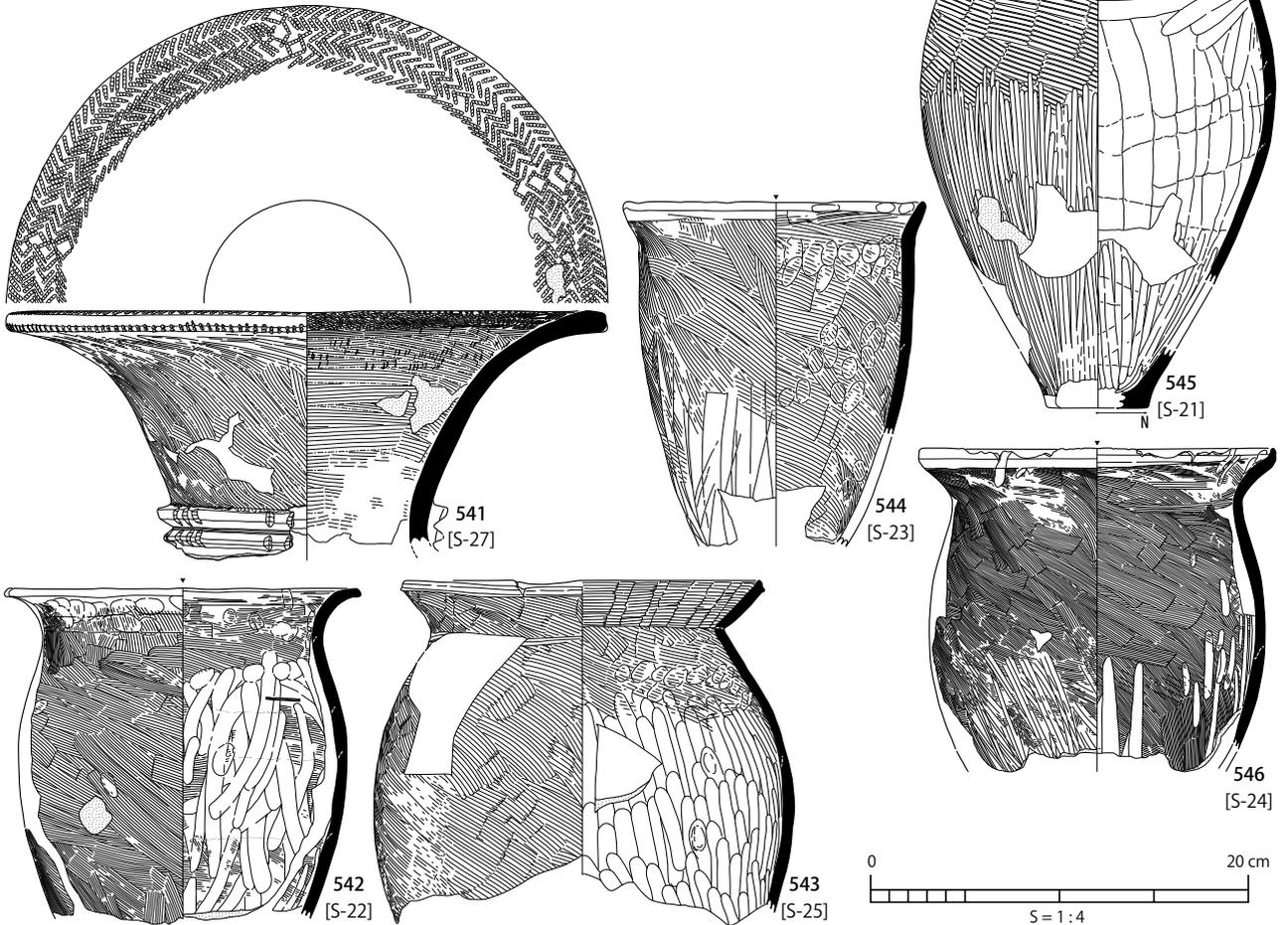
26 地区 SD13



26 地区 SD14

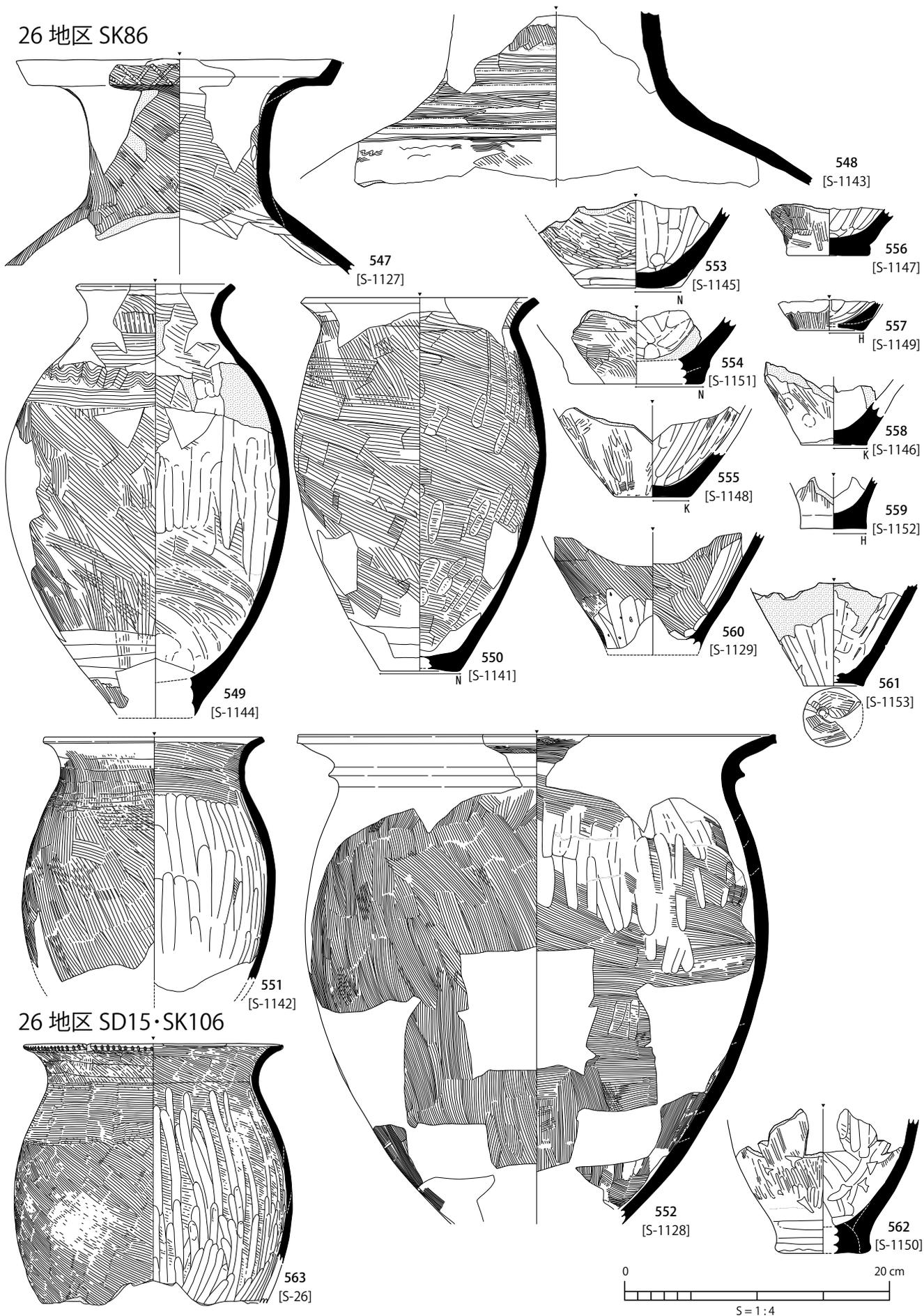


26 地区 SD15



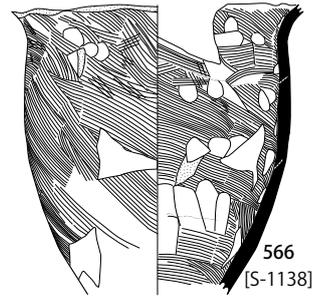
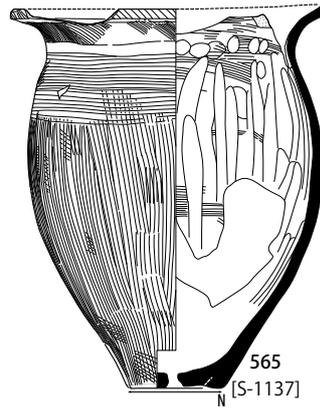
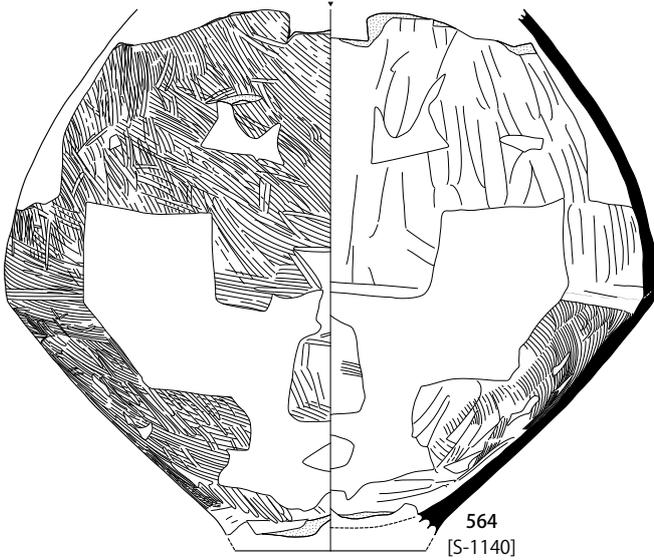
第 59 图 26 地区遺構出土土器 2(S=1/4)

26 地区 SK86

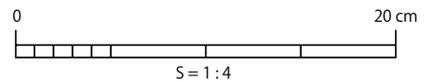
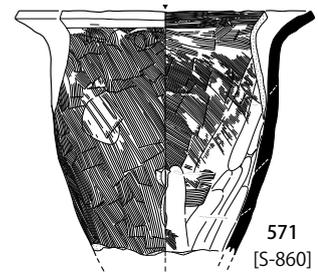
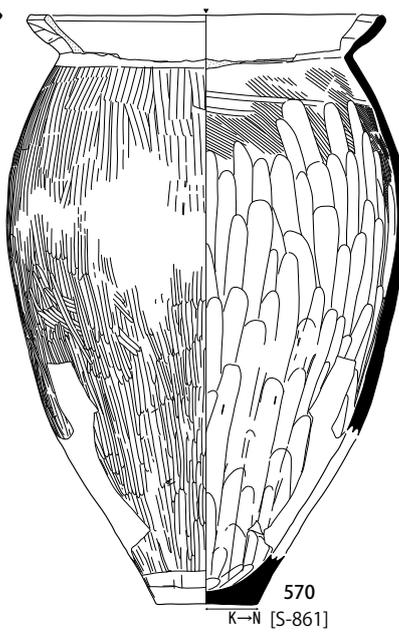
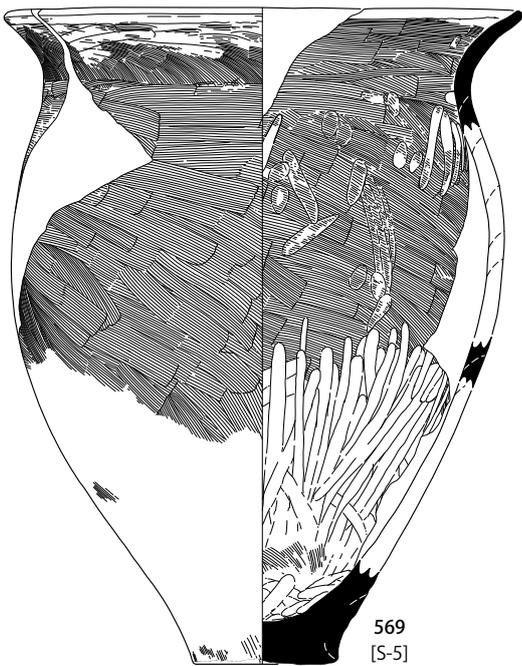
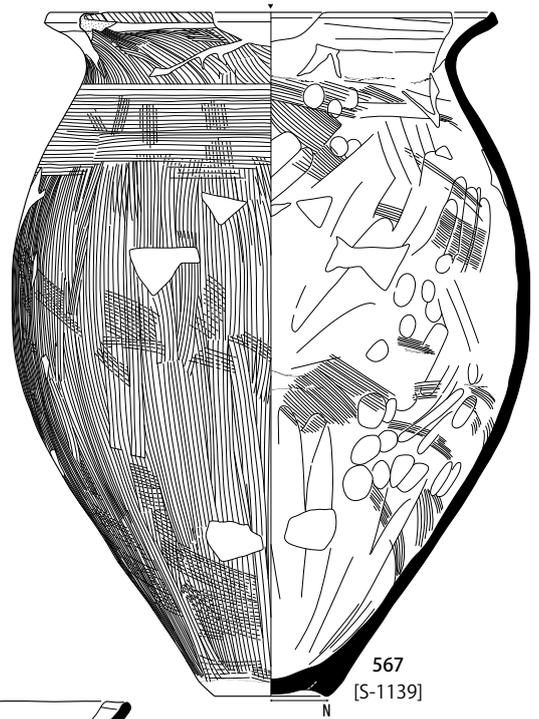
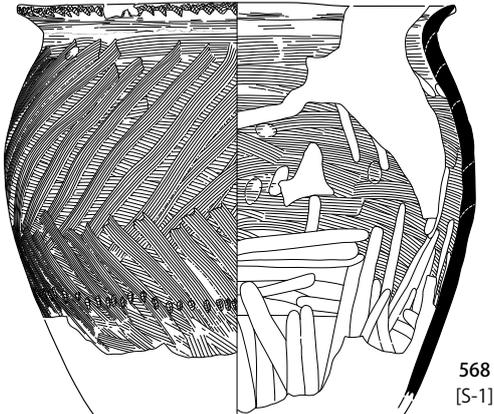


第 60 图 26 地区遺構出土土器 3(S=1/4)

26 地区 SK08

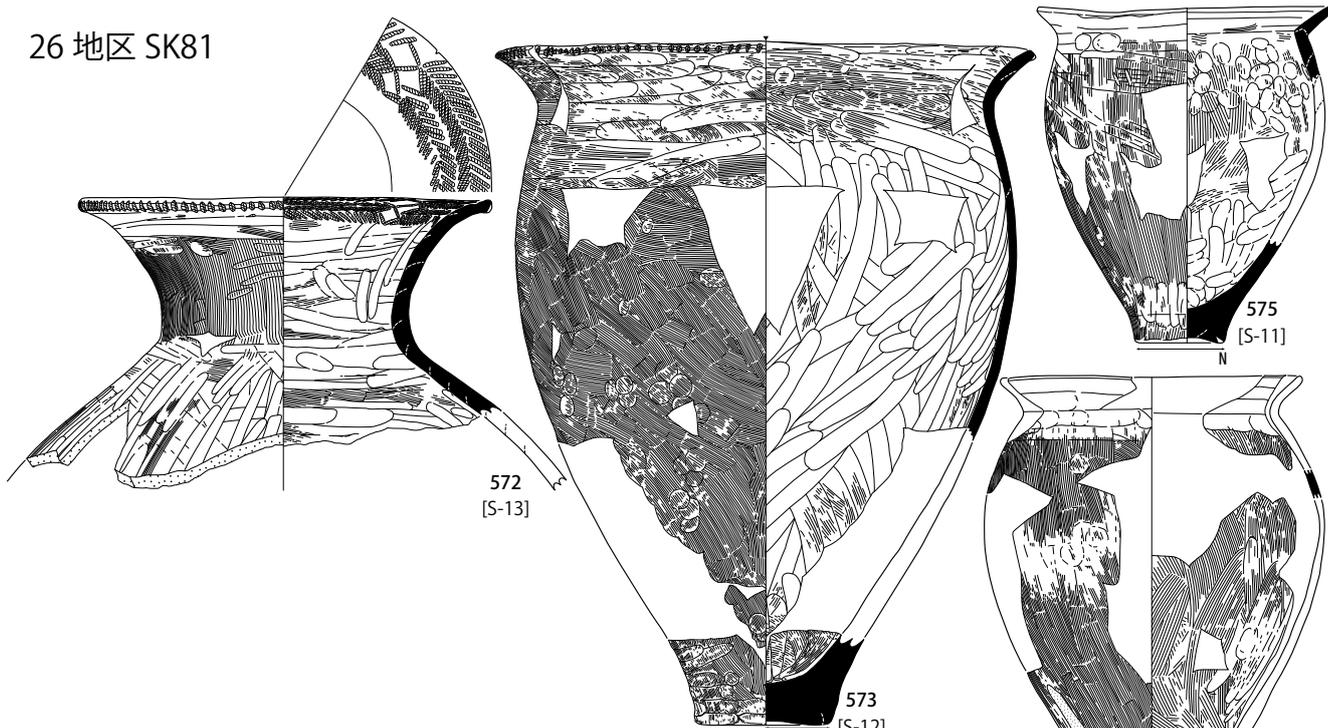


26 地区 SK77

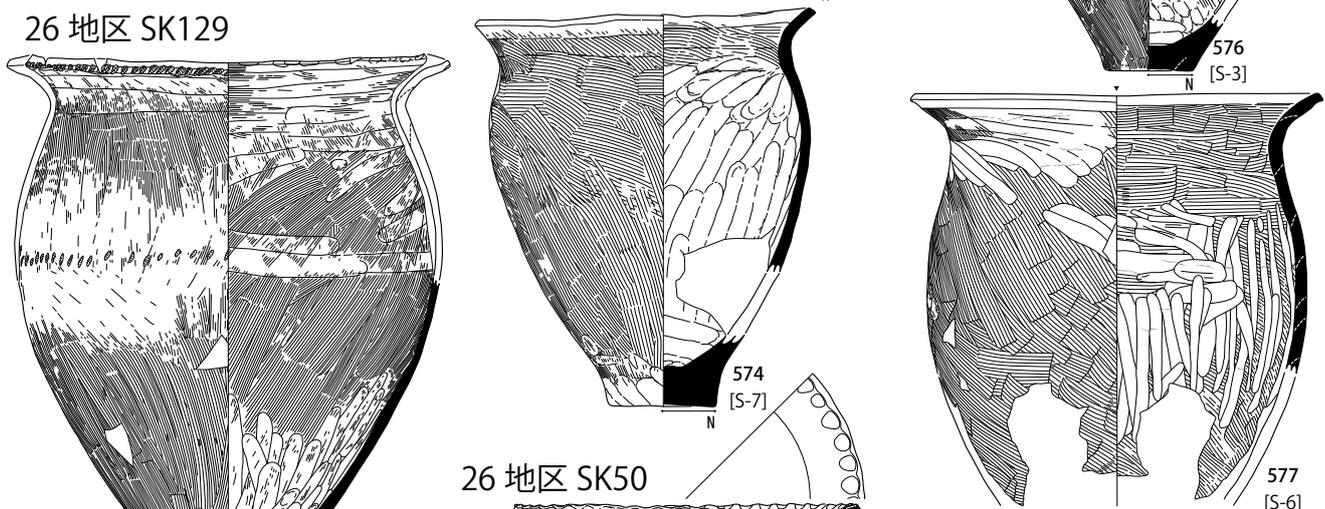


第 61 图 26 地区遺構出土土器 4(S=1/4)

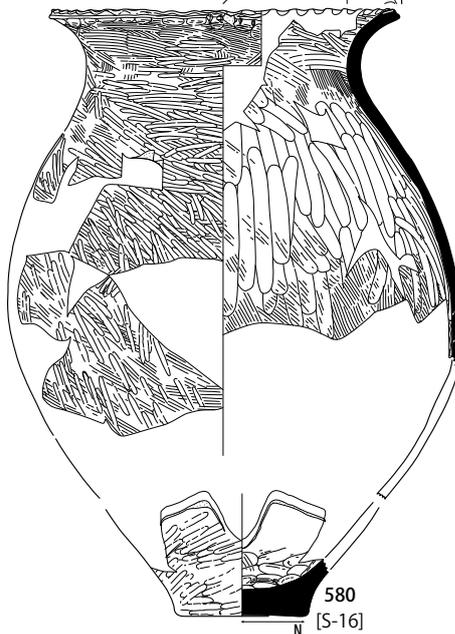
26 地区 SK81



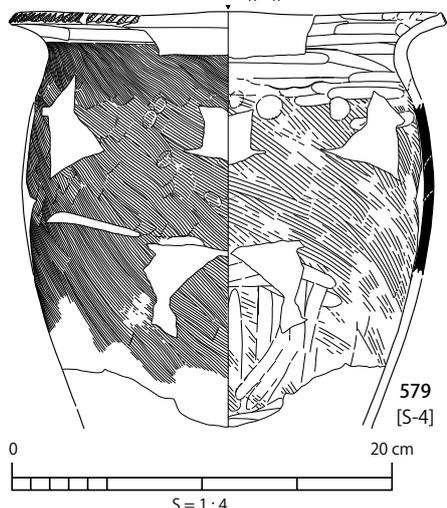
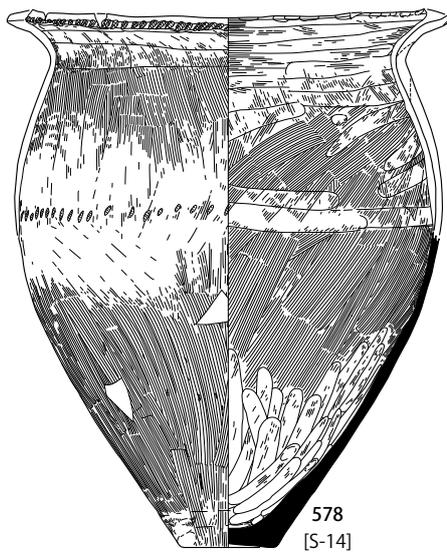
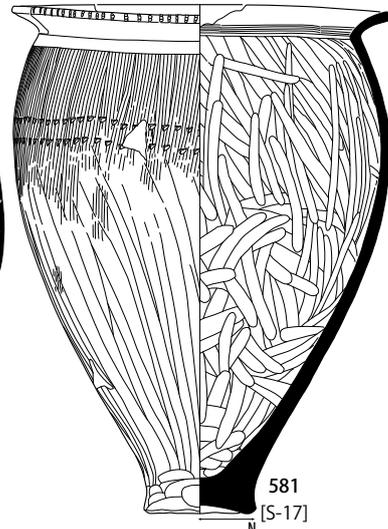
26 地区 SK129



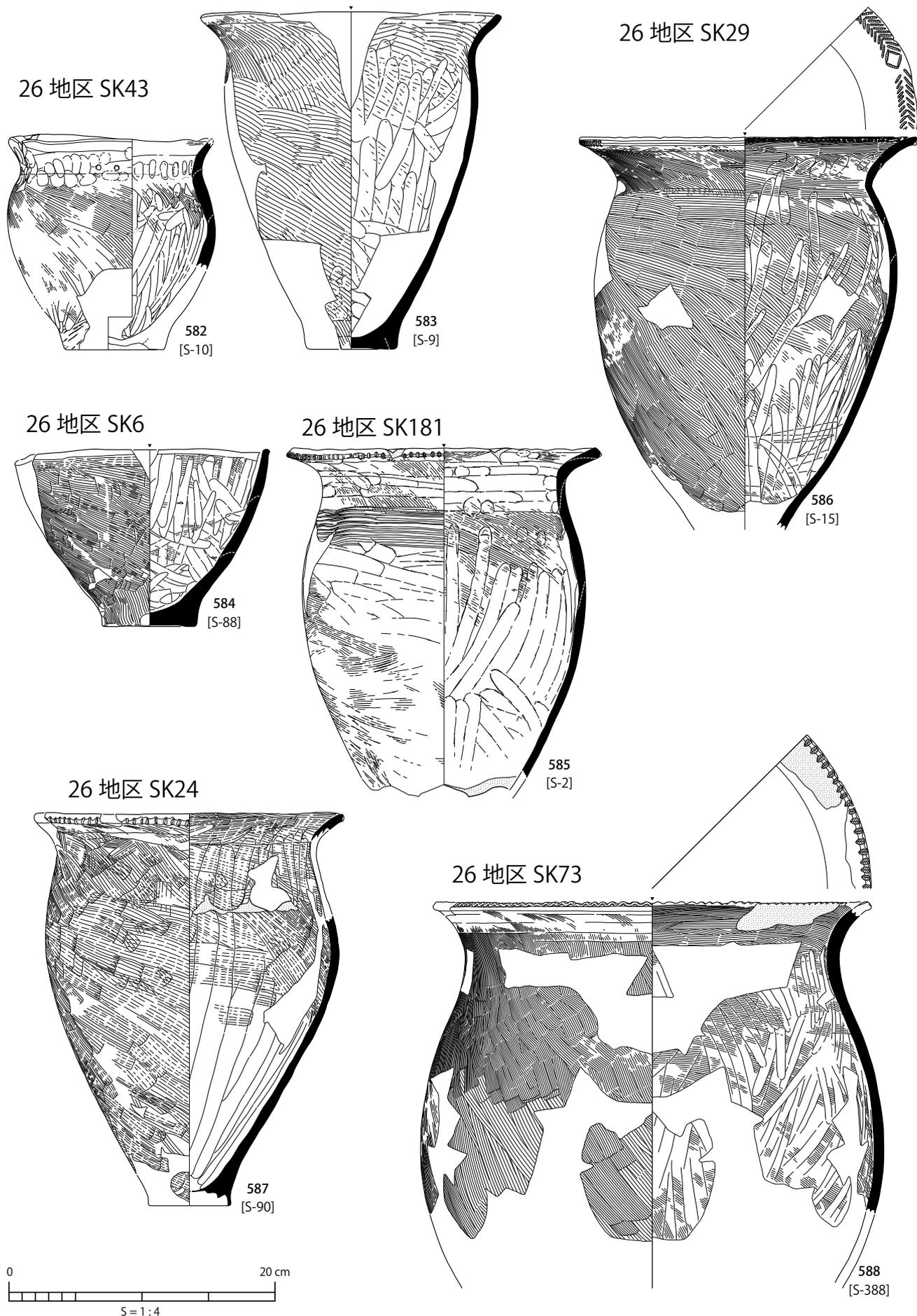
26 地区 SK50



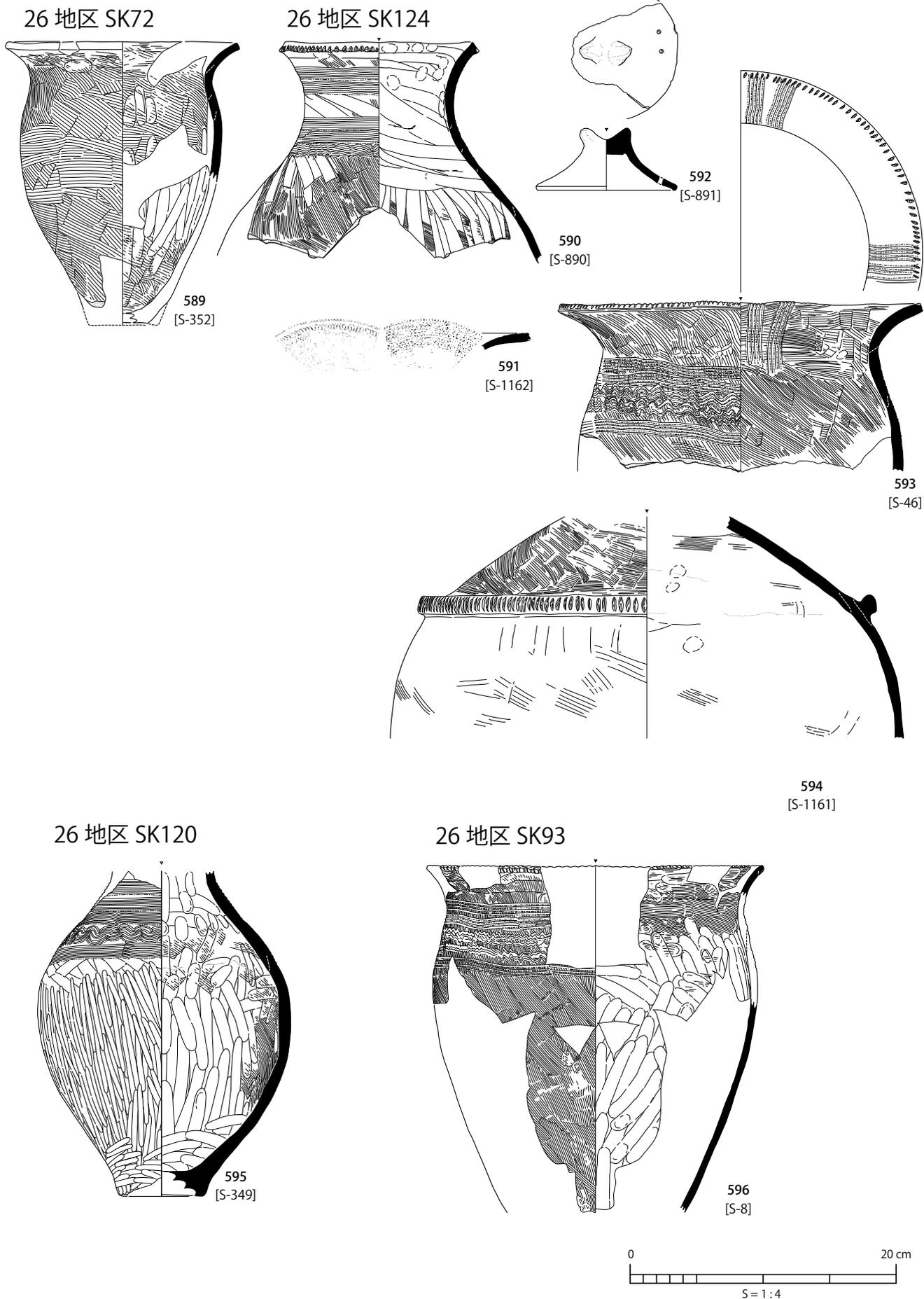
26 地区 SK140



第 62 图 26 地区遺構出土土器 5(S=1/4)

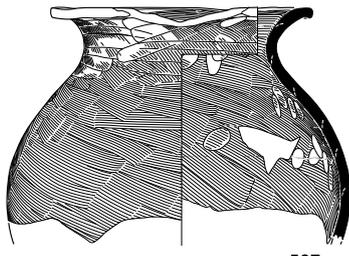


第 63 图 26 地区遺構出土土器 6(S=1/4)

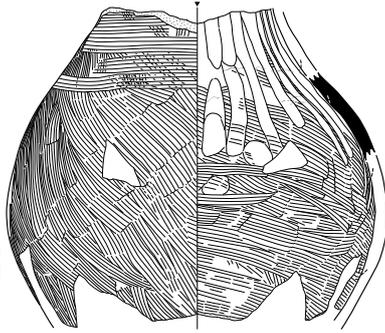


第 64 图 26 地区遺構出土土器 7(S=1/4)

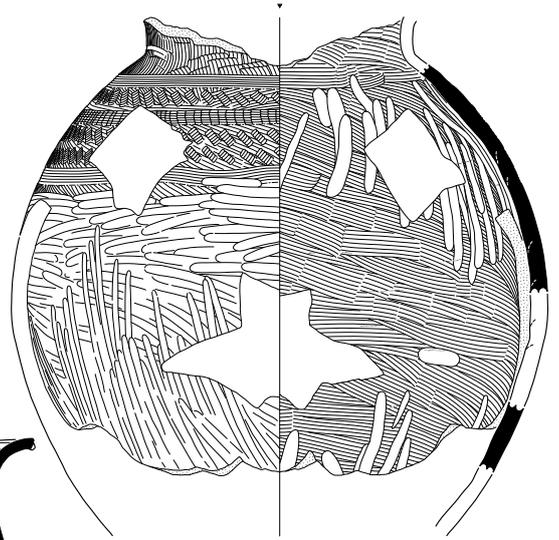
II次 SD02



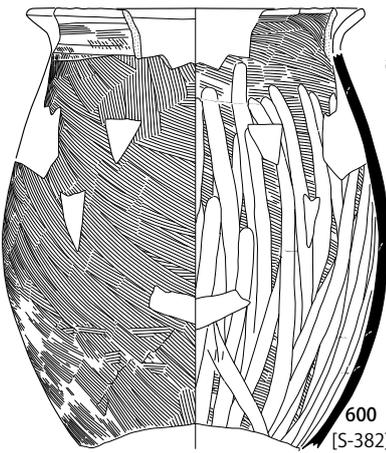
597
[S-482]



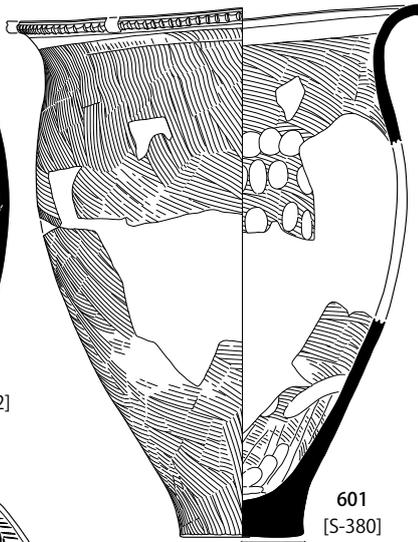
598
[S-339]



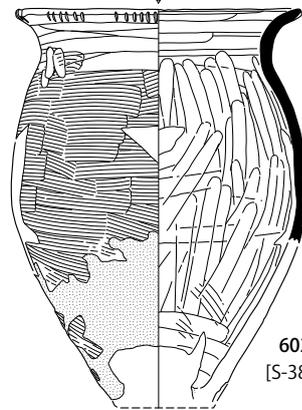
599
[S-381]



600
[S-382]



601
[S-380]

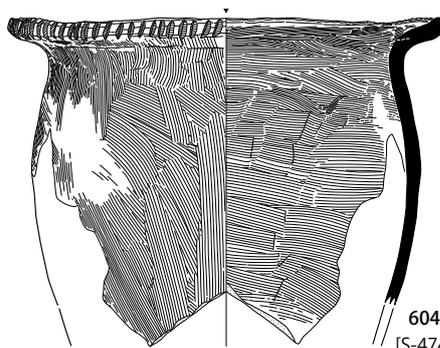


602
[S-383]

II次 SK02

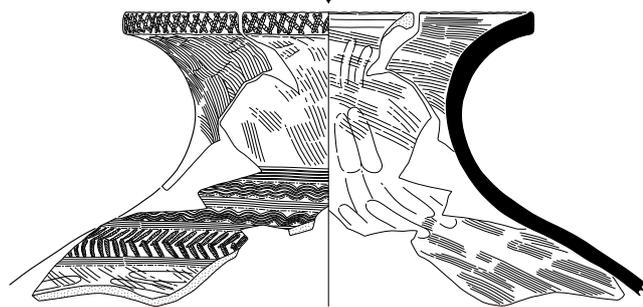


603
[S-363]

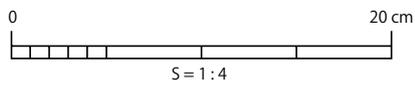


604
[S-474]

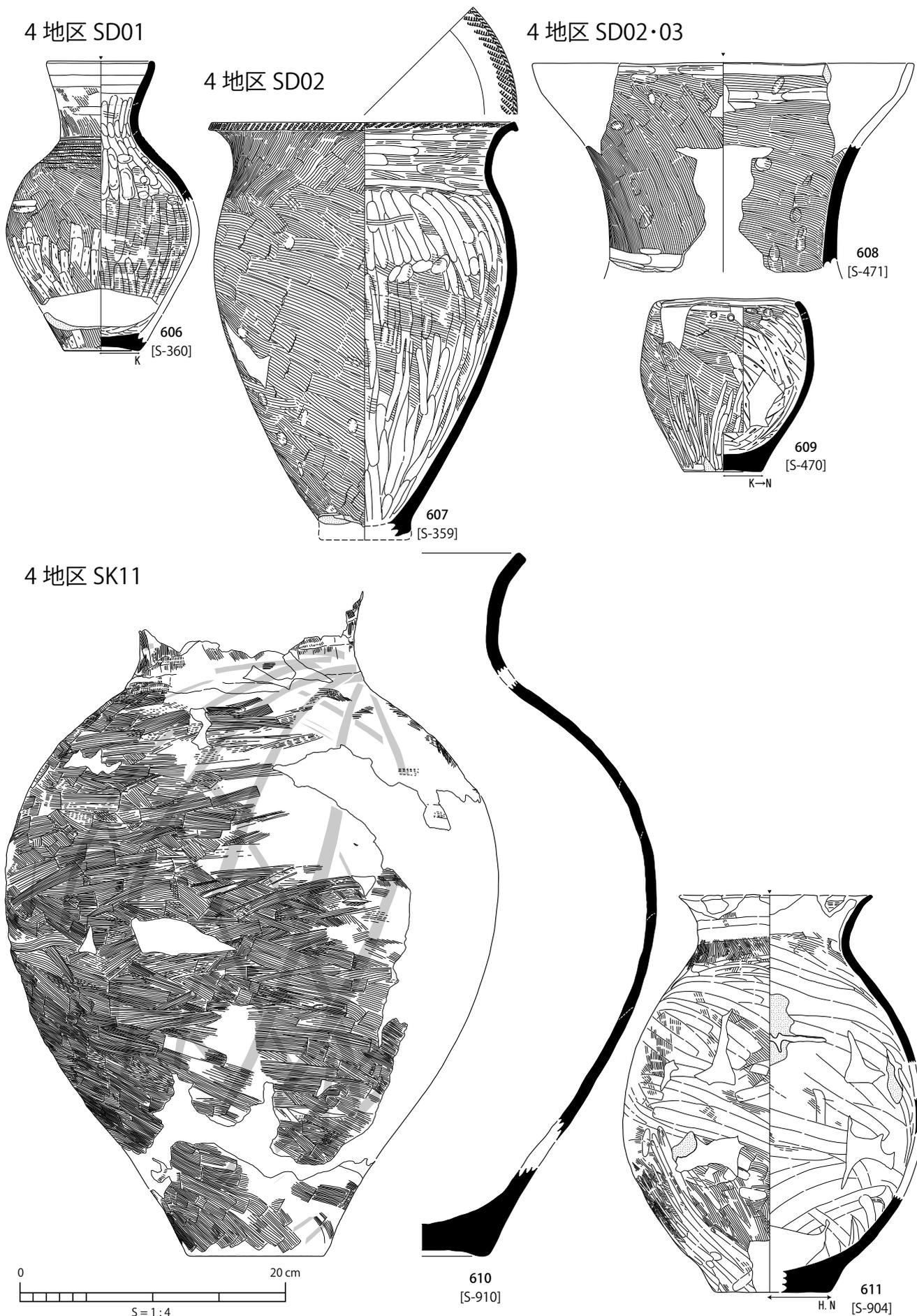
II次 SK05



605
[S-475]



第 65 图 II次遺構出土土器 (S=1/4)

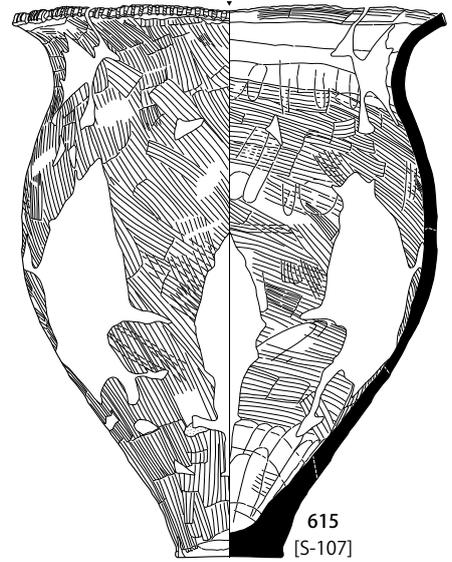


第 66 图 4 地区遺構出土土器 (S=1/4)

4 地区 SK27

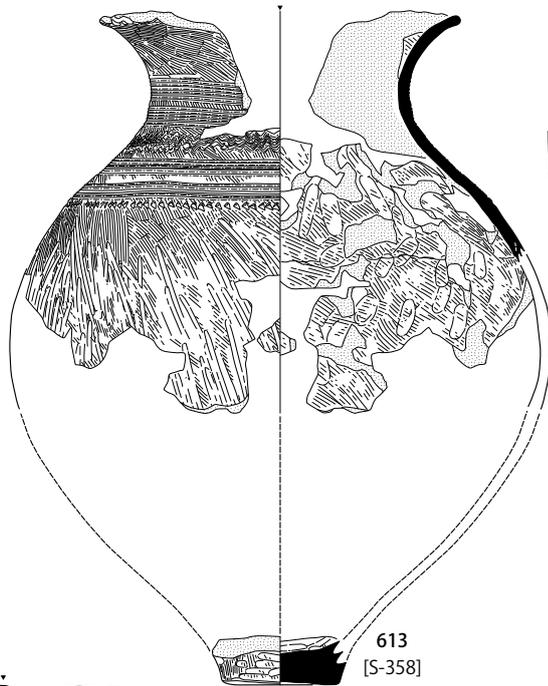


612
[S-354]

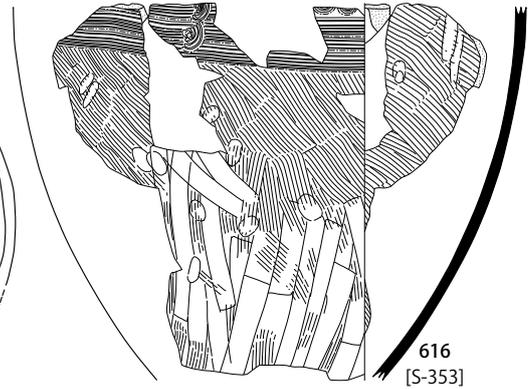


615
[S-107]

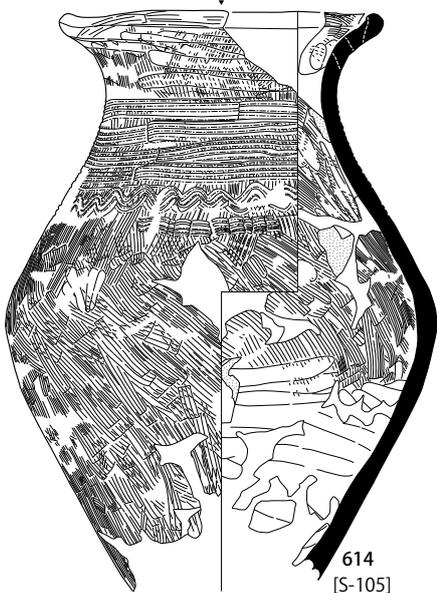
4 地区 SK02



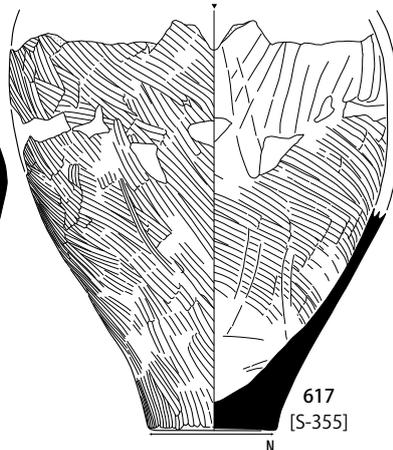
613
[S-358]



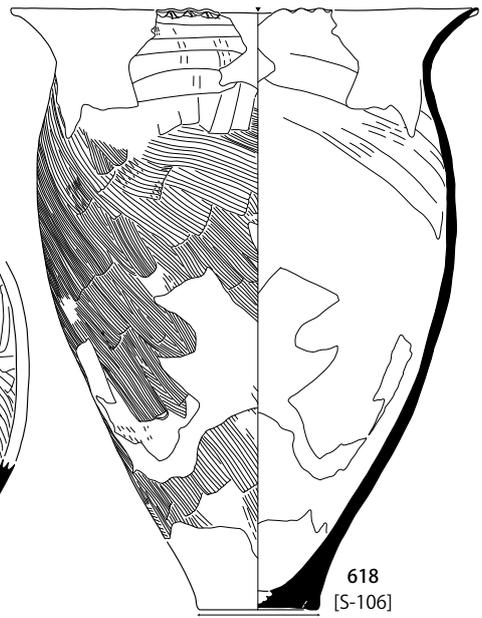
616
[S-353]



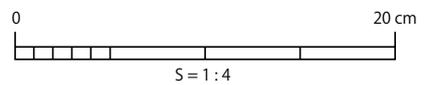
614
[S-105]



617
[S-355]

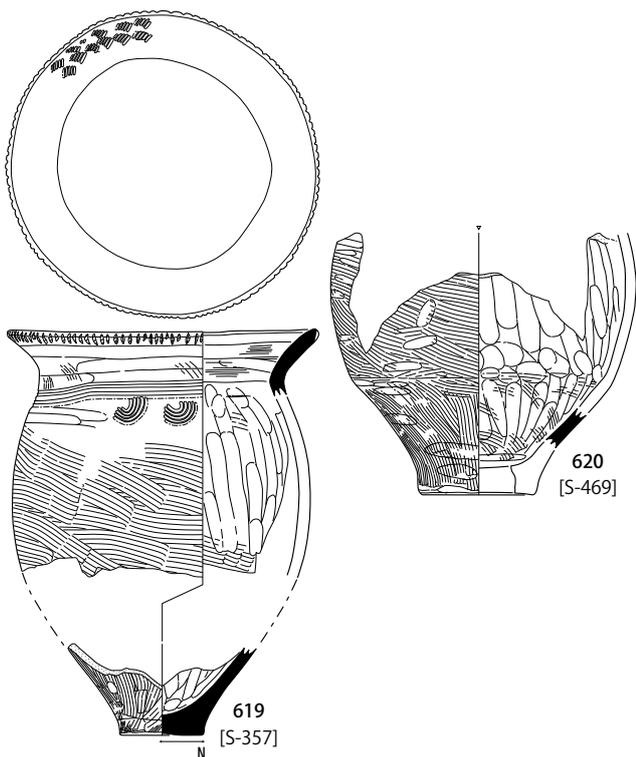


618
[S-106]

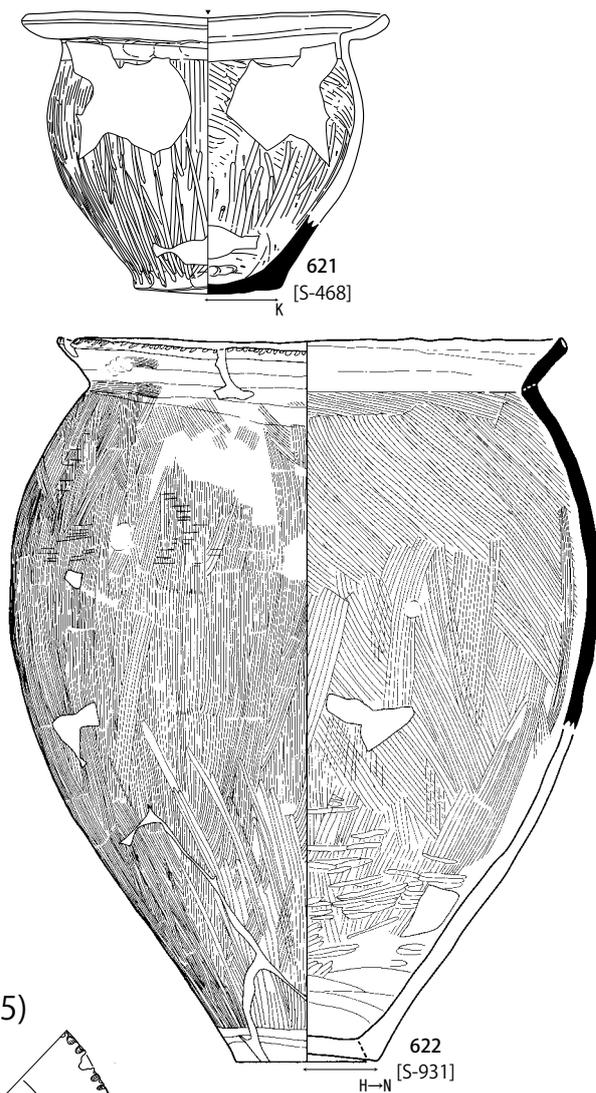


第 67 图 4 地区遺構出土土器 2(S=1/4)

4 地区 SK33·37



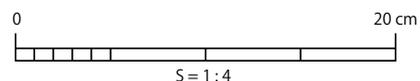
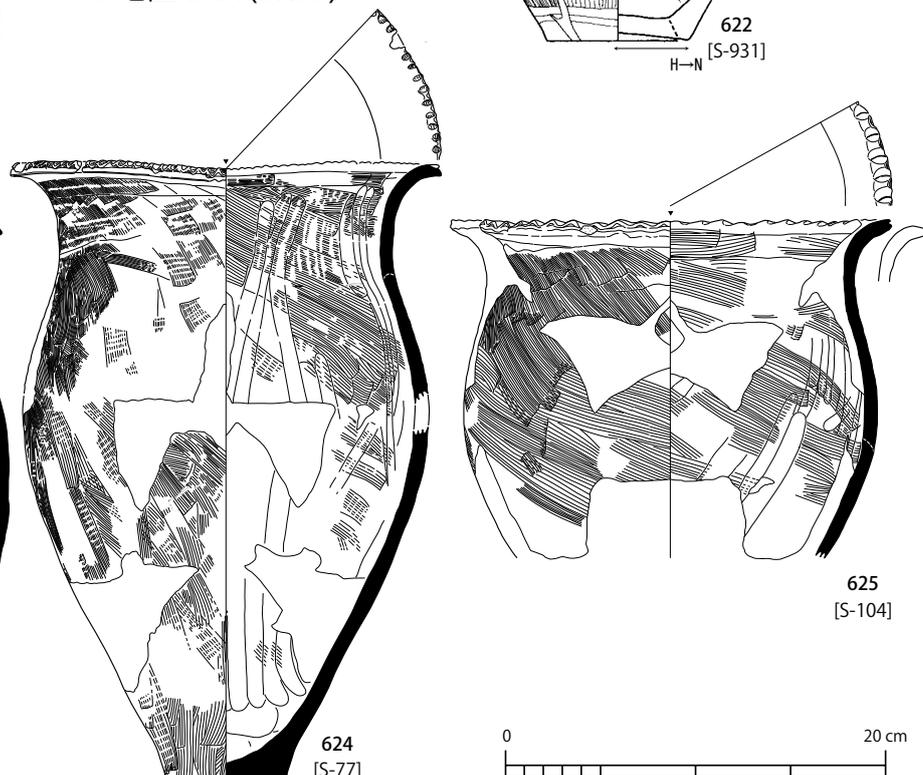
4 地区 SK32



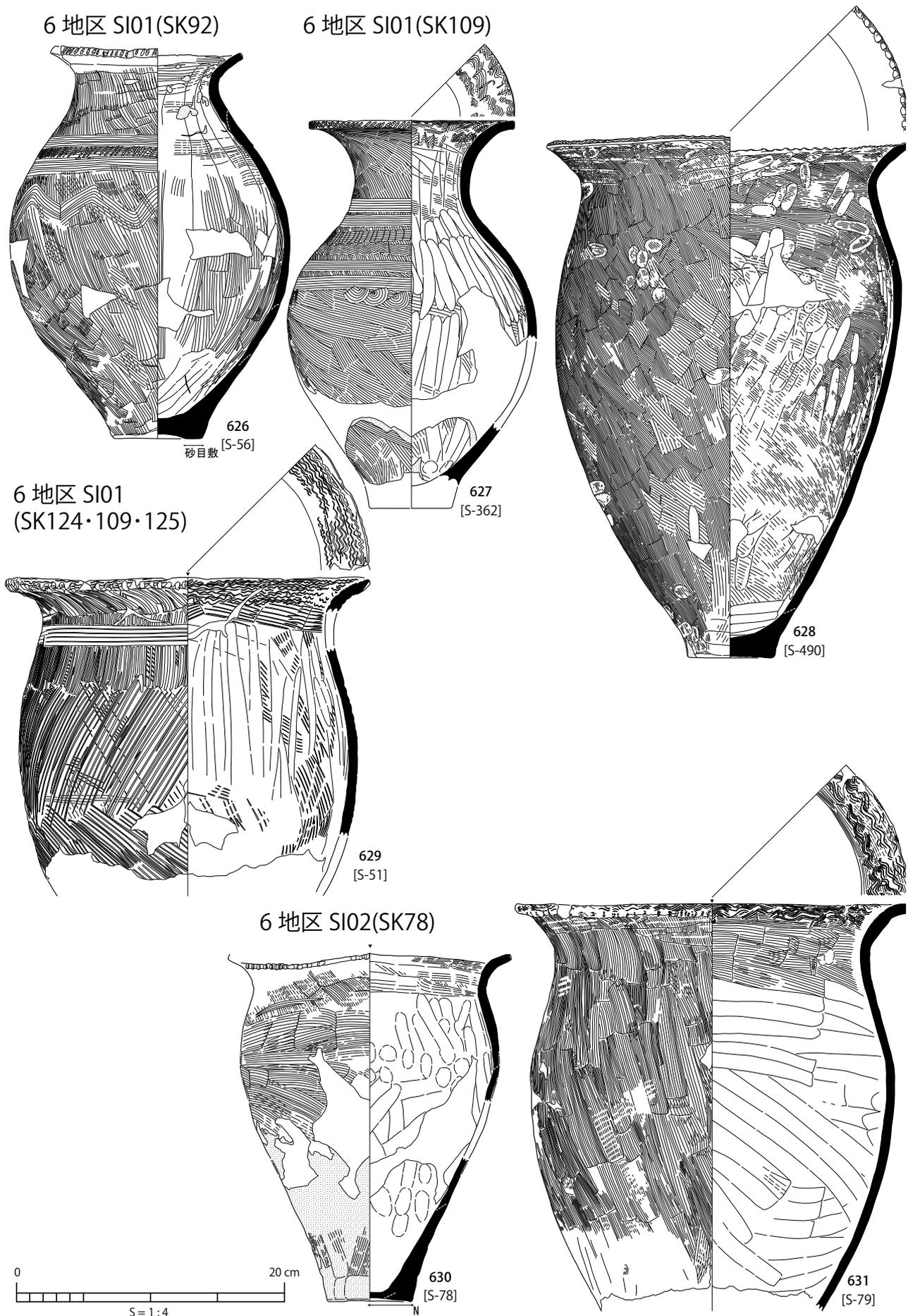
6 地区 SI01(SK95)



6 地区 SI01(SK65)

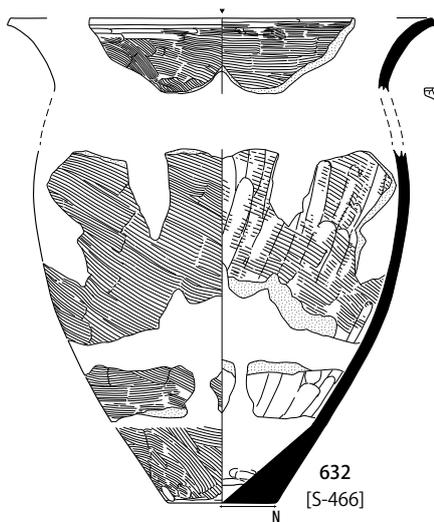


第 68 图 4 地区, 6 地区遺構出土土器 (S=1/4)

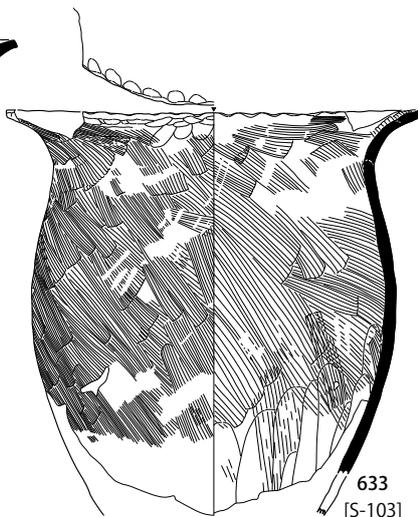


第 69 图 6 地区遺構出土土器 2(S=1/4)

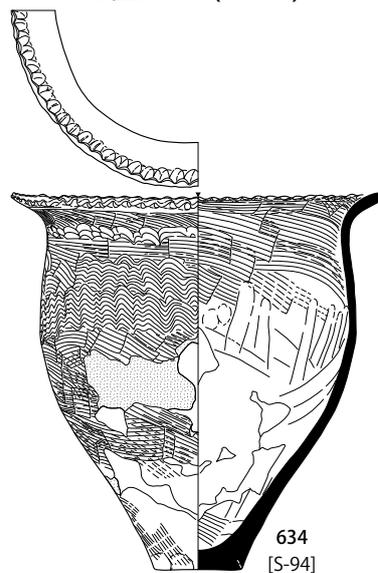
6 地区 SI01(SK137.138)



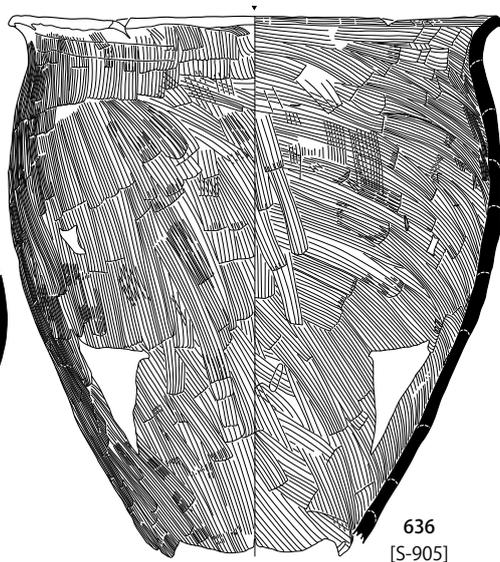
6 地区 SI01(SK122)



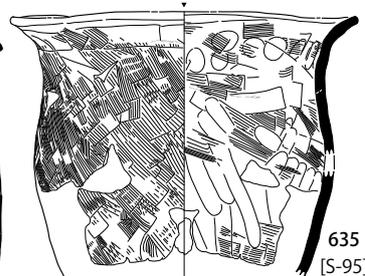
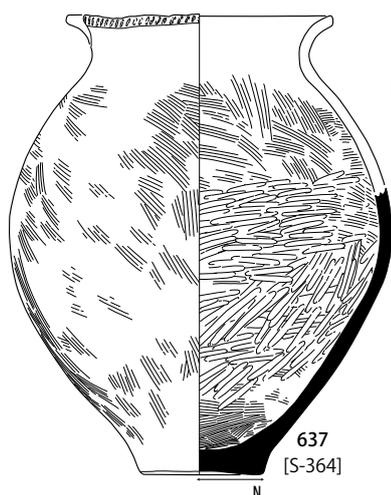
6 地区 SI01(SK85)



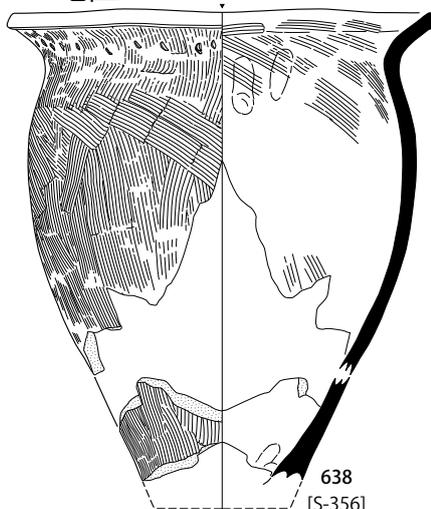
6 地区 SI01(SK120)



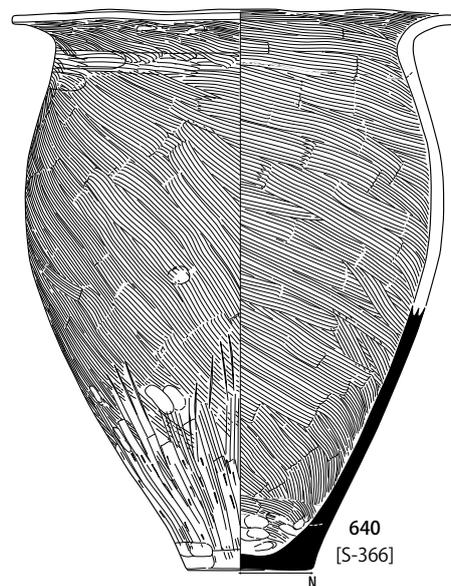
6 地区 SK156



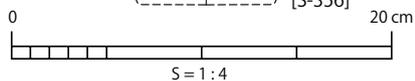
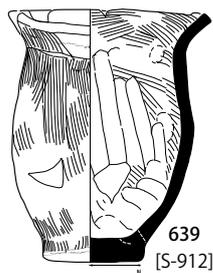
6 地区 SK34



6 地区 SK97

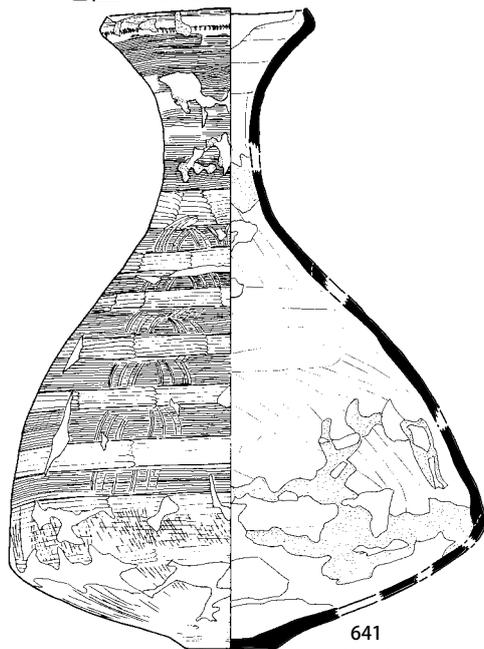


6 地区 SK26

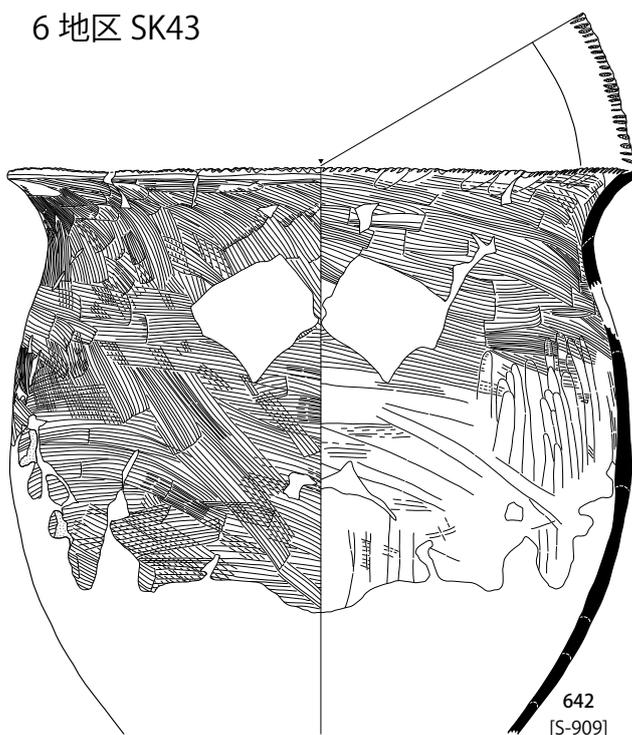


第 70 图 6 地区遺構出土土器 3(S=1/4)

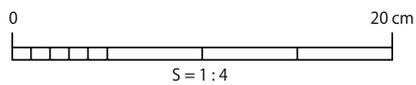
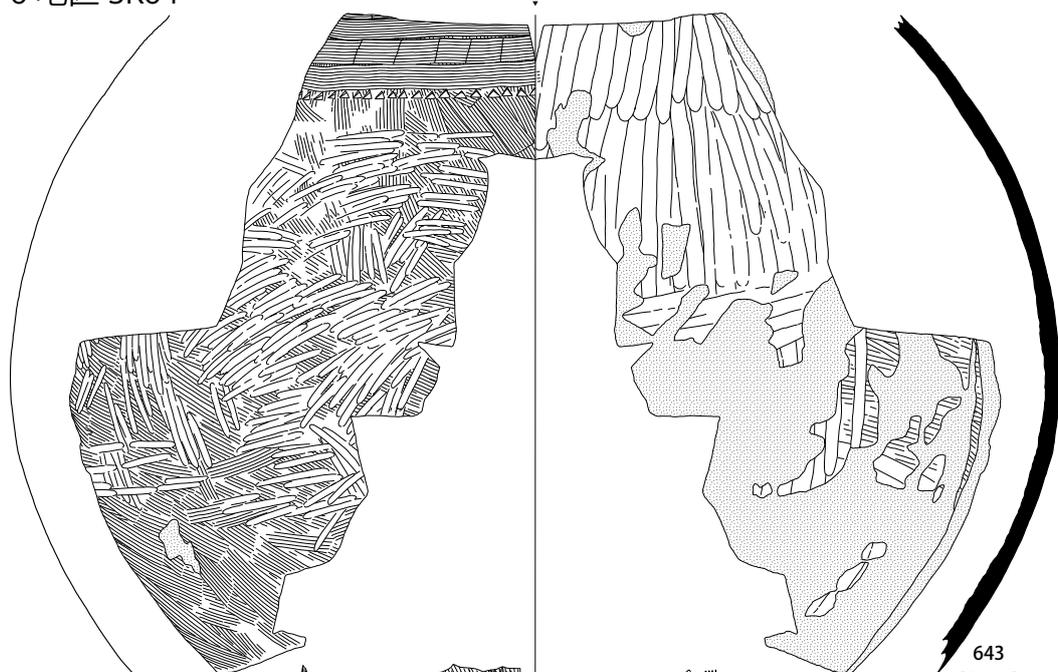
6 地区 SK64·43



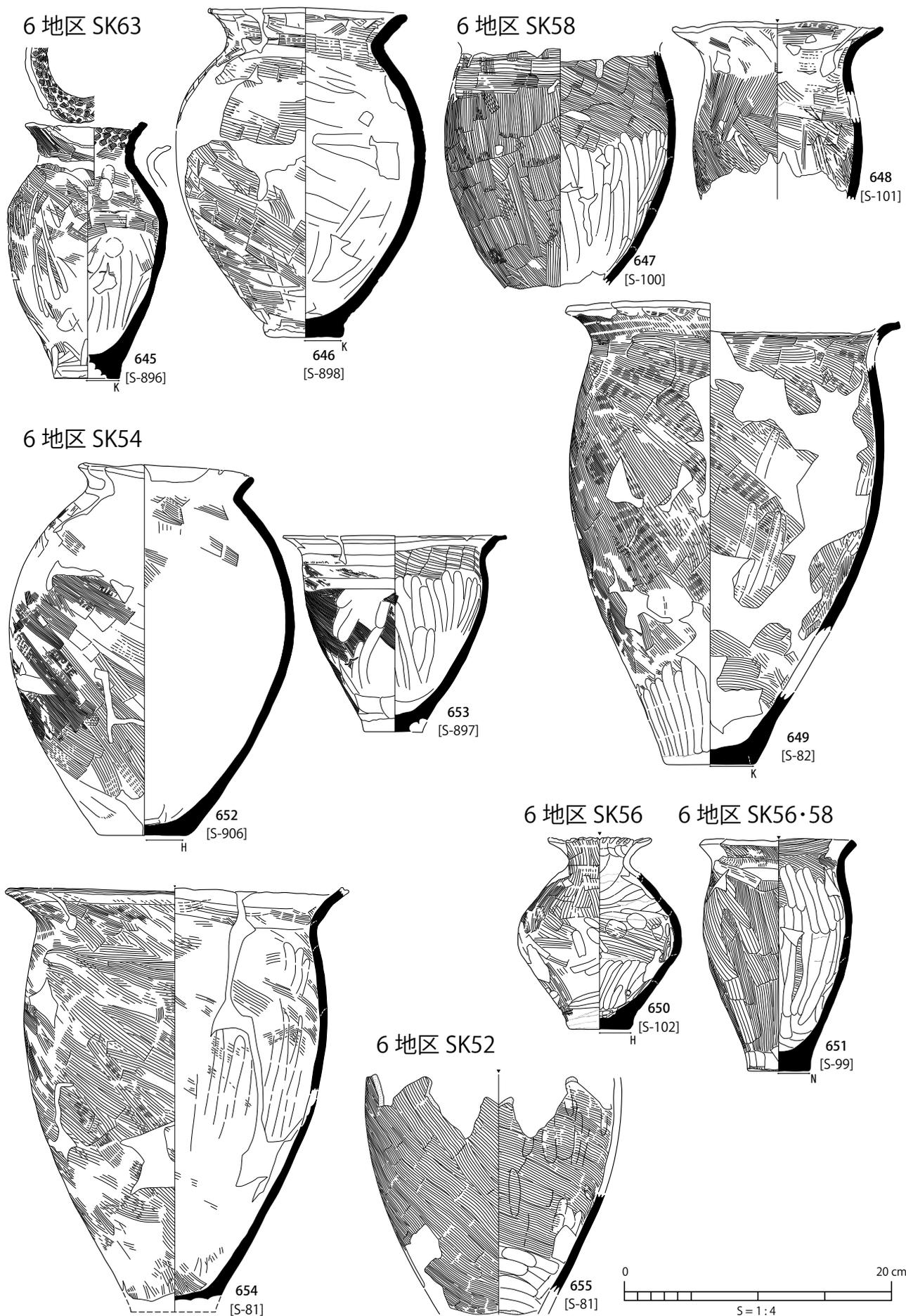
6 地区 SK43



6 地区 SK64



第 71 图 6 地区遺構出土土器 4(S=1/4)



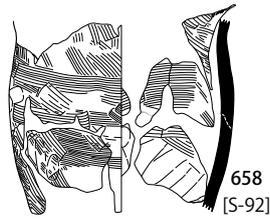
第 72 图 6 地区遺構出土土器 5(S=1/4)

6 地区 SK45



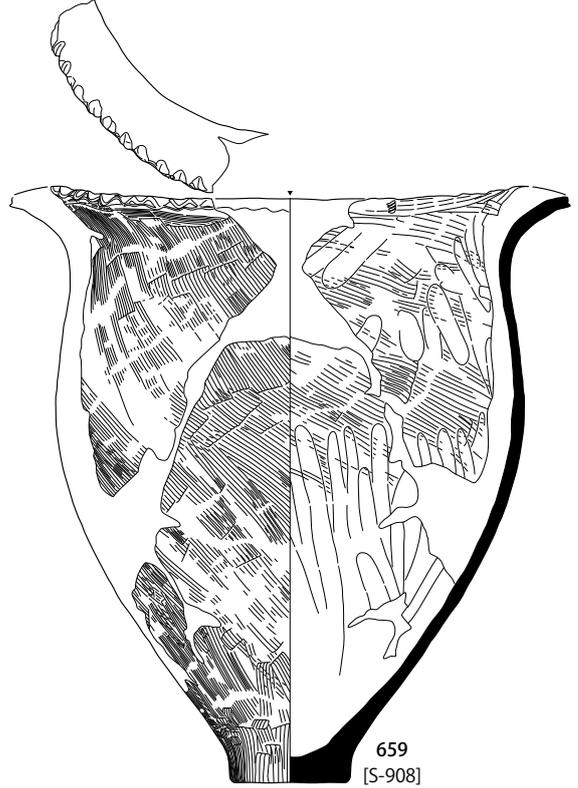
656
[S-93]

6 地区 SK44



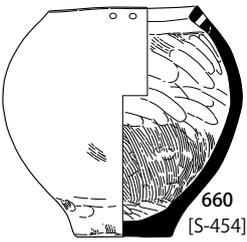
658
[S-92]

6 地区 SK48

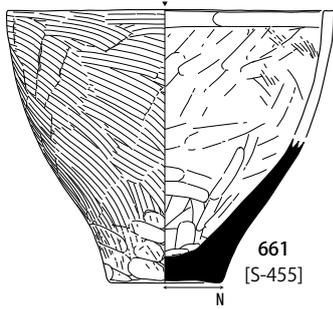


659
[S-908]

8 地区 SK11

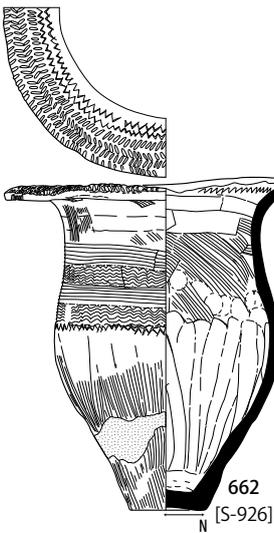


660
[S-454]



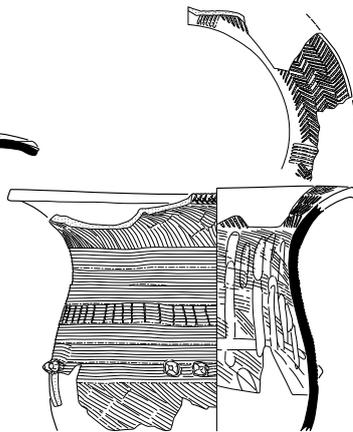
661
[S-455]

N



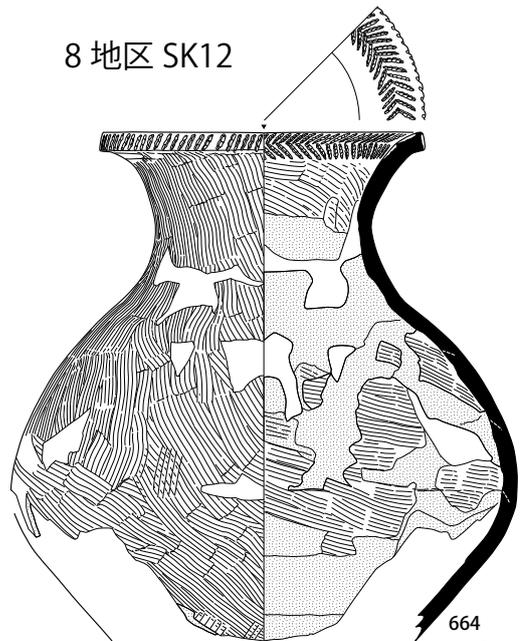
662
[S-926]

N

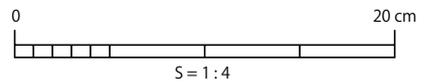


663
[S-456]

8 地区 SK12

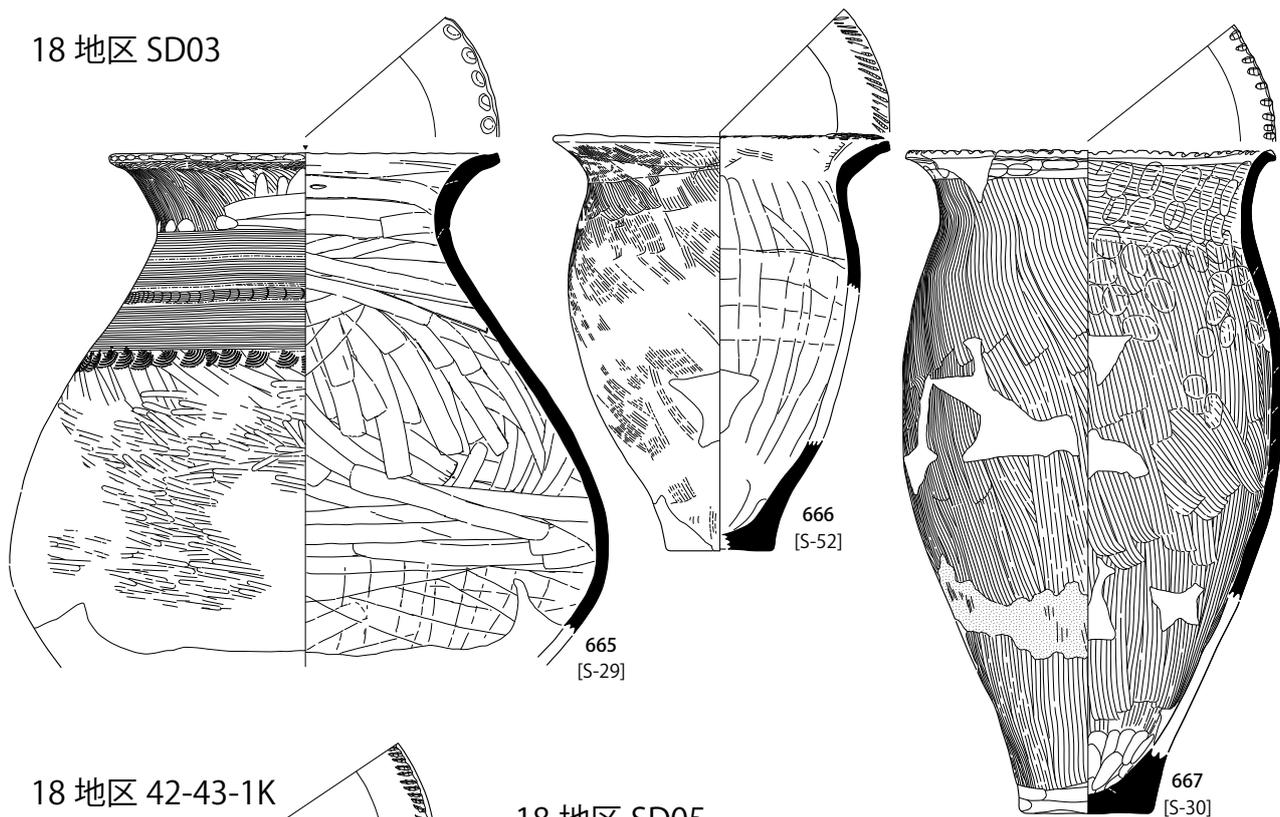


664
[S-365]



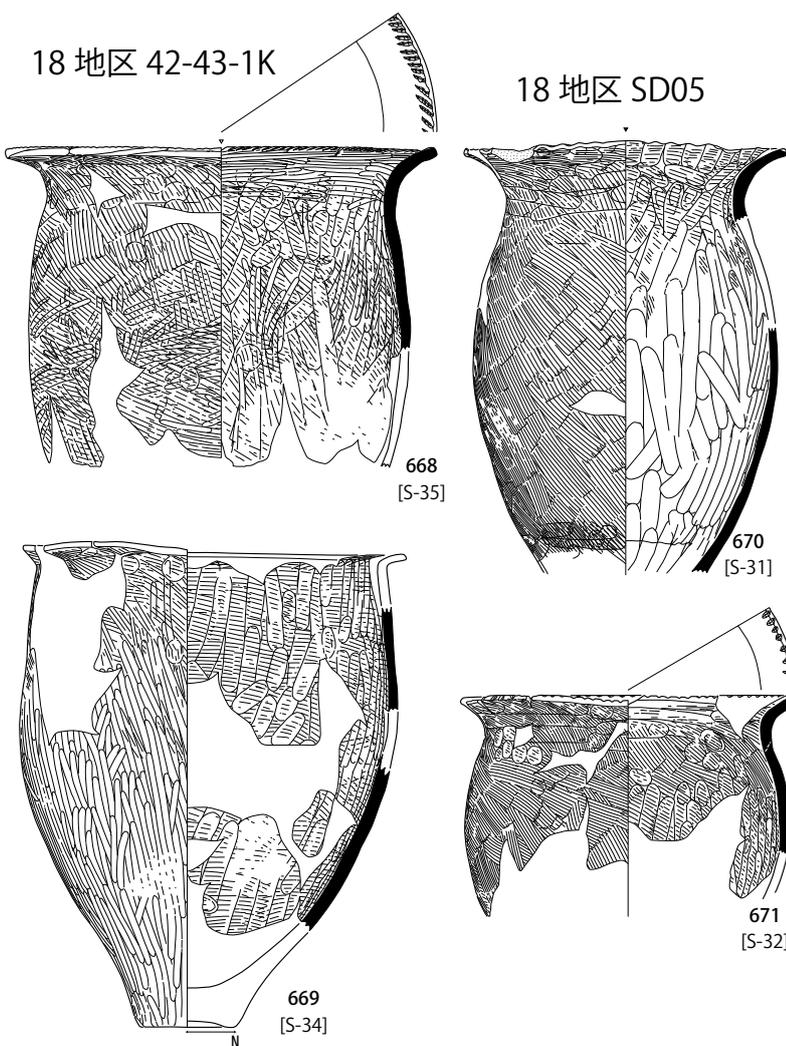
第 73 图 6 地区, 8 地区遺構出土土器 (S=1/4)

18 地区 SD03

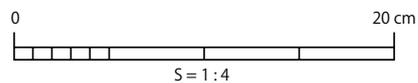
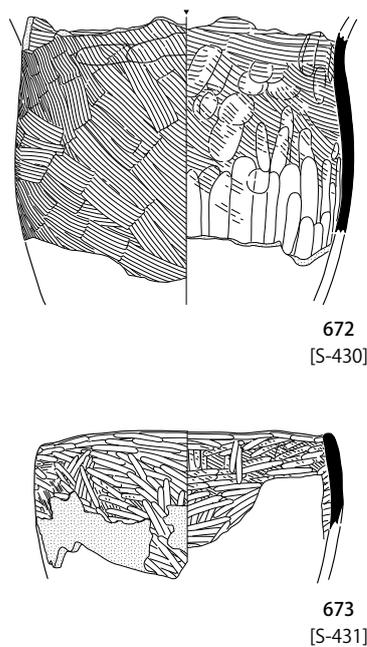


18 地区 42-43-1K

18 地区 SD05

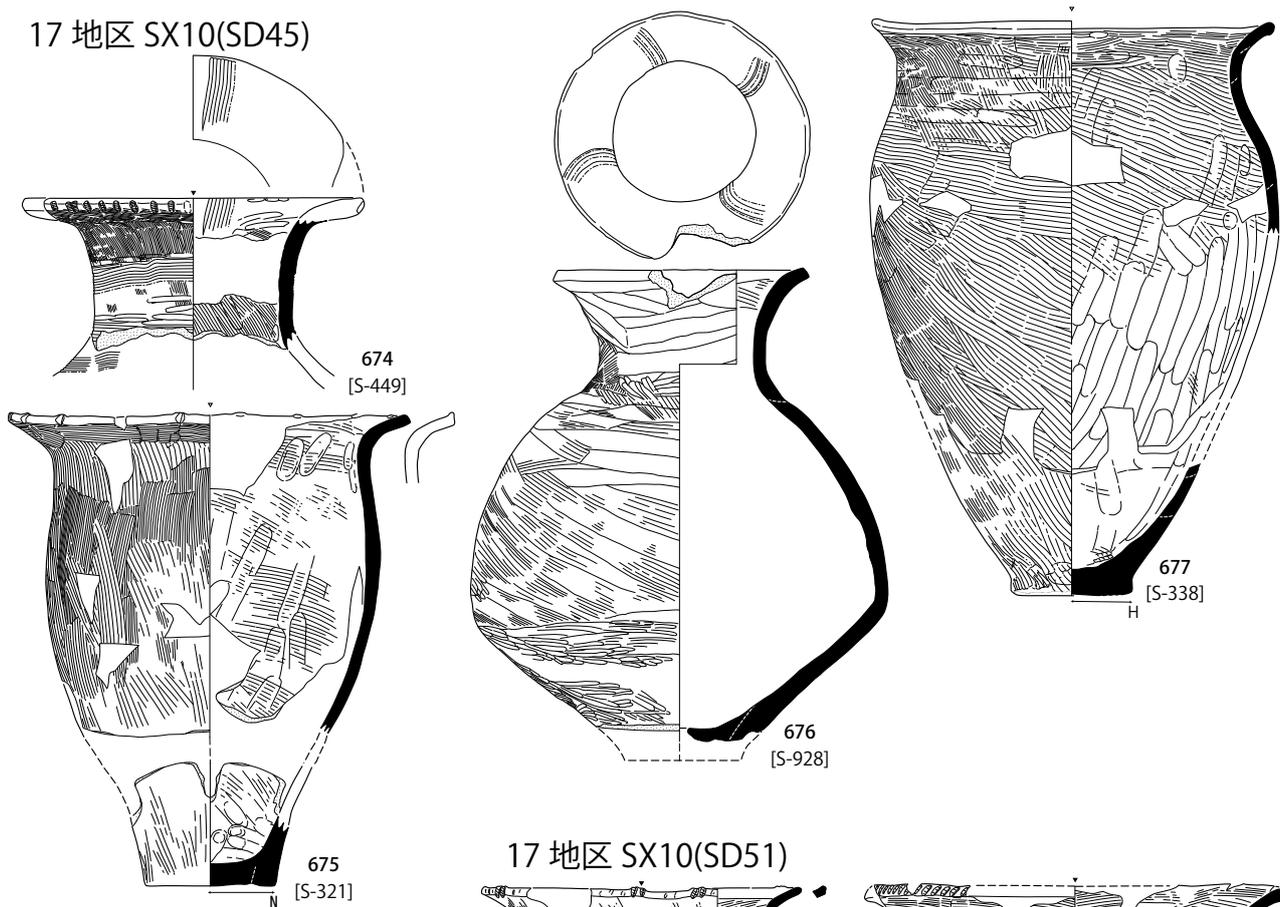


17 地区 SD49

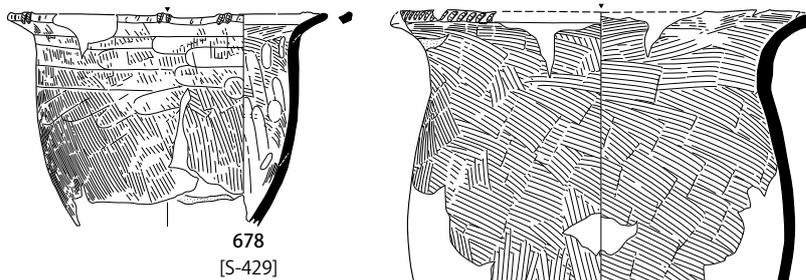


第 74 图 18 地区,17 地区遺構出土土器 (S=1/4)

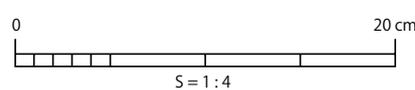
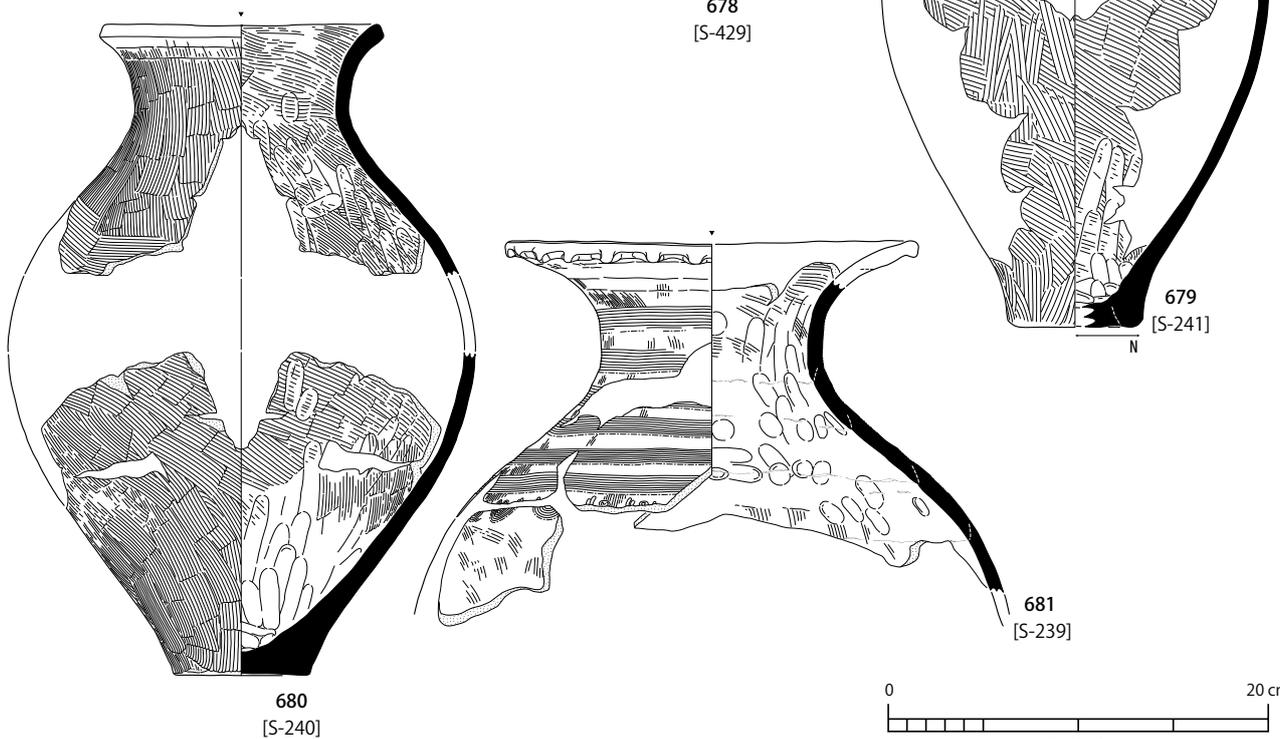
17 地区 SX10(SD45)



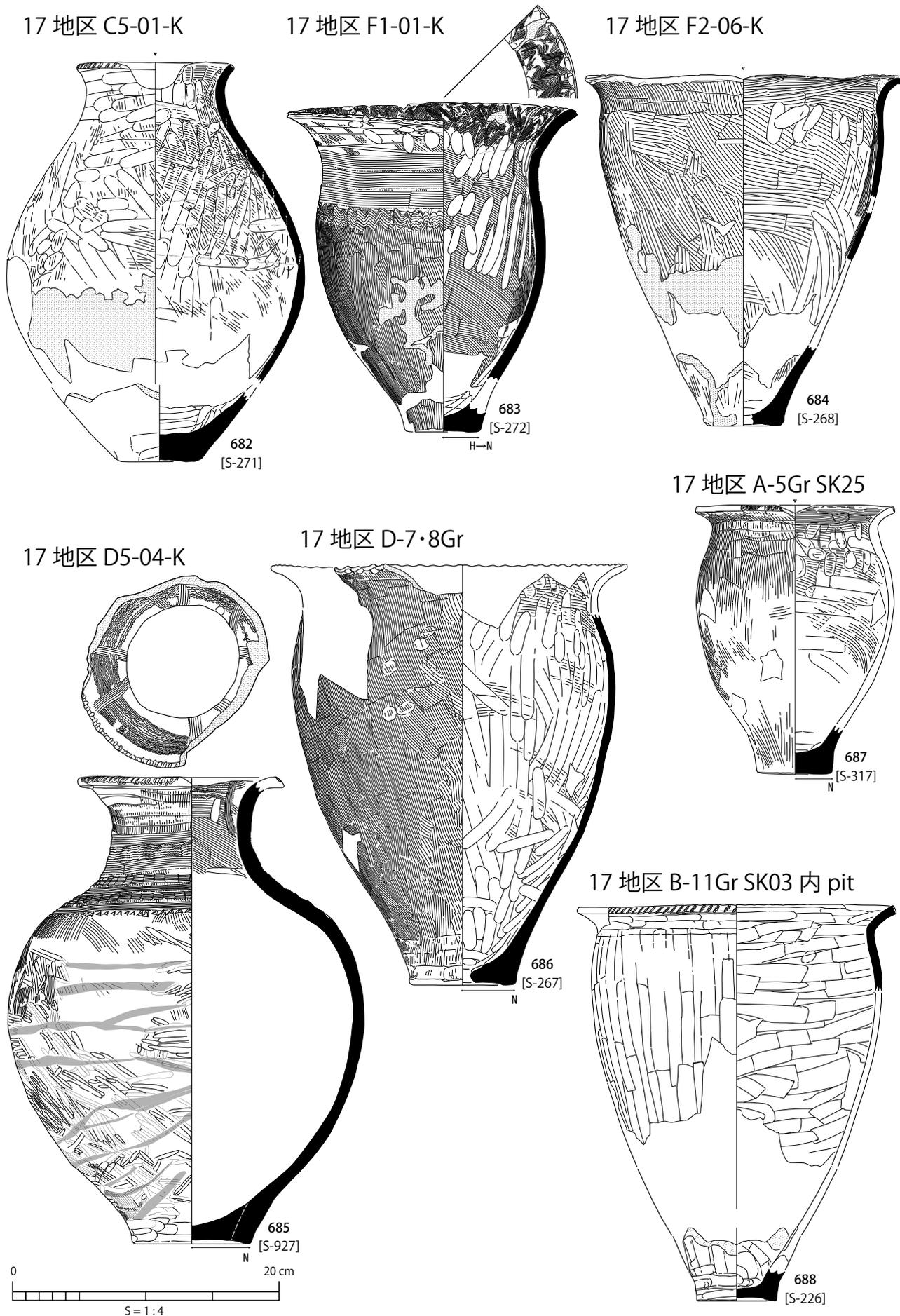
17 地区 SX10(SD51)



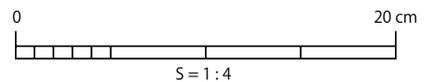
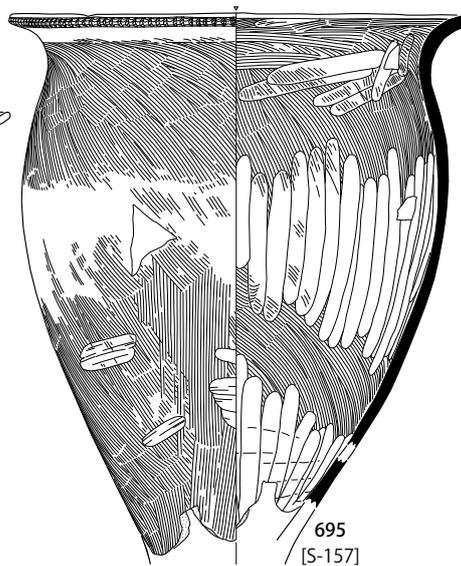
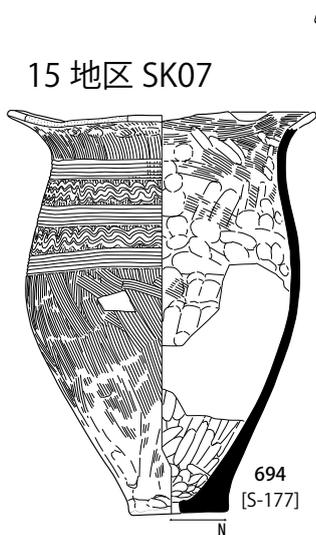
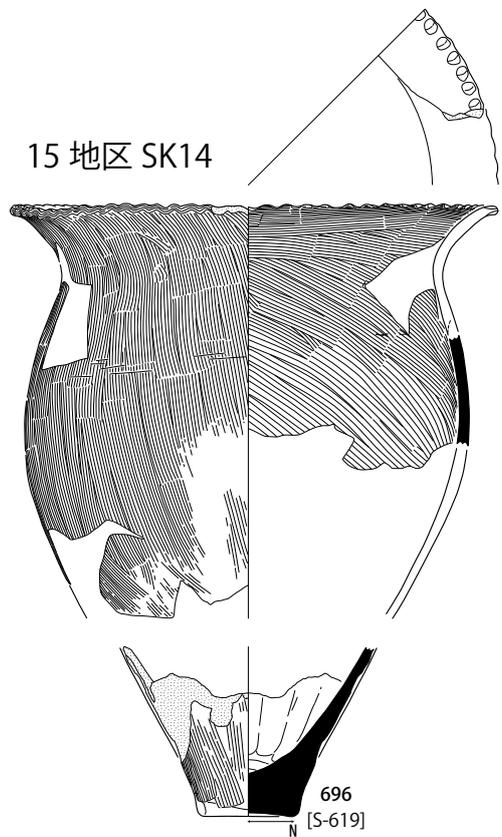
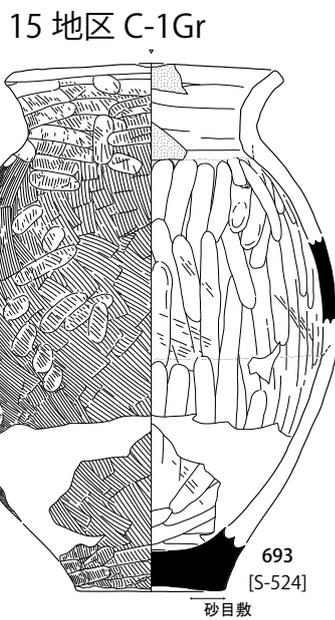
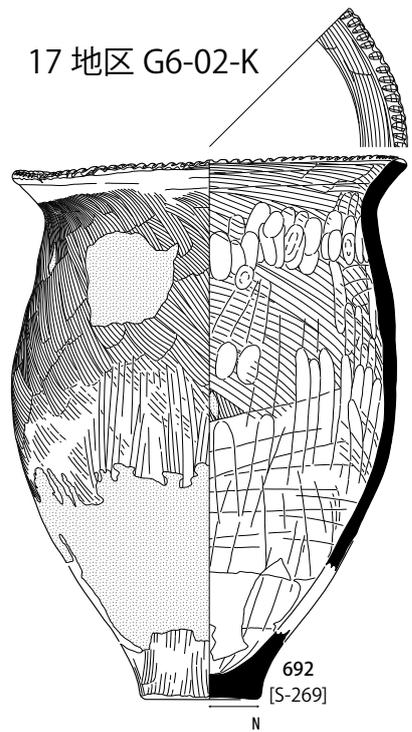
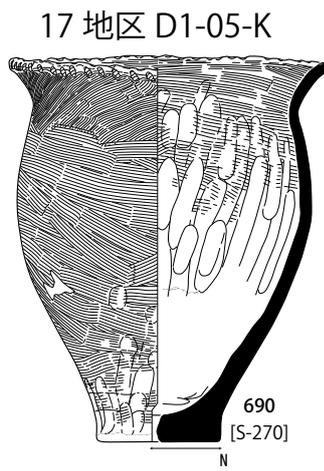
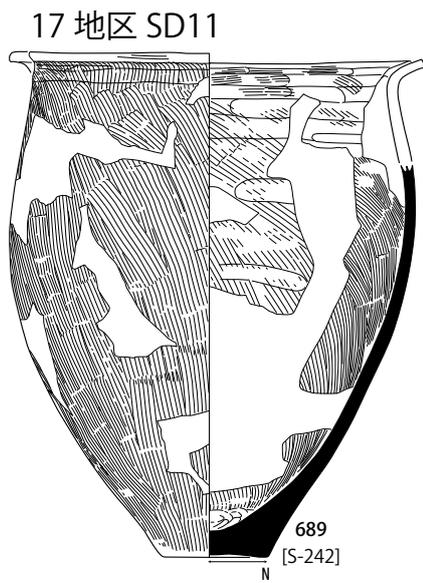
17 地区 SX10(C8-02-K)



第 75 图 17 地区遺構出土土器 2(S=1/4)



第 76 图 17 地区遺構出土土器 3(S=1/4)

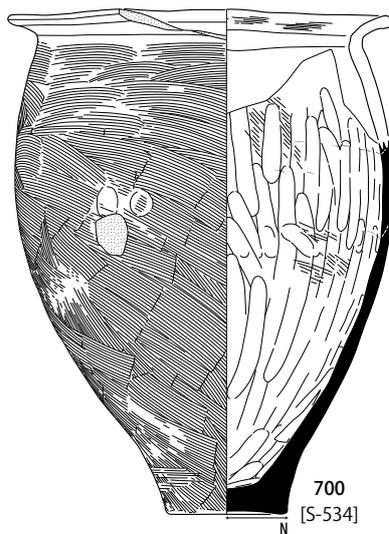


第 77 图 17 地区,15 地区遺構出土土器 (S=1/4)

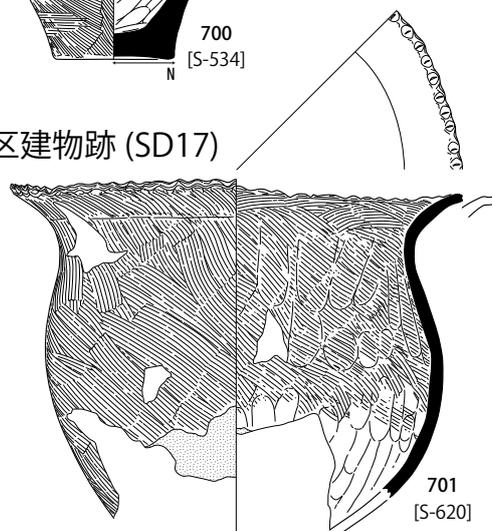
15 地区建物跡 (SD10)



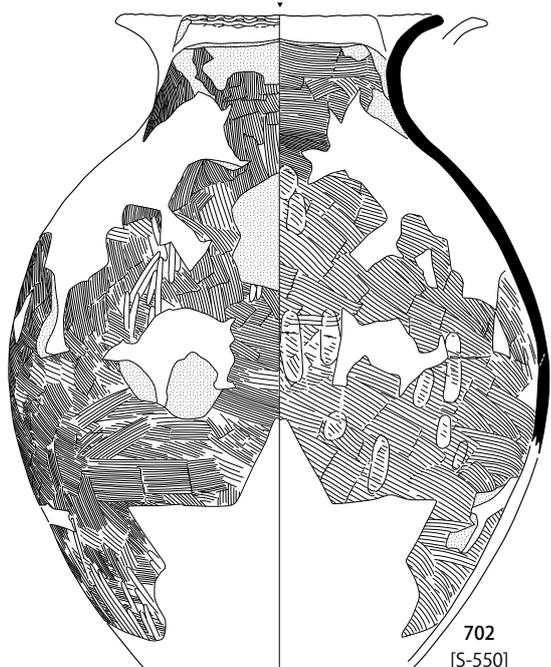
15 地区建物跡 (SD14)



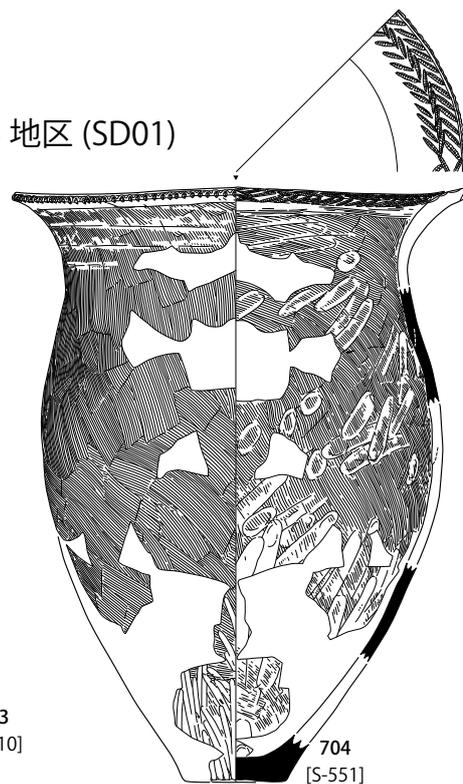
15 地区建物跡 (SD17)



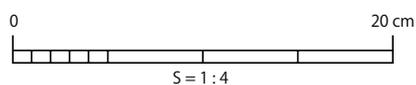
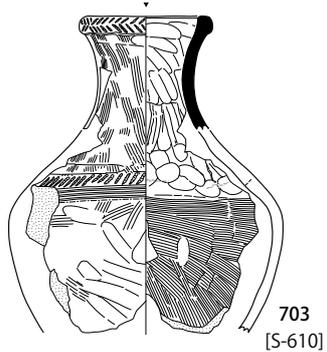
15 地区 (SK17)



15 地区 (SD01)

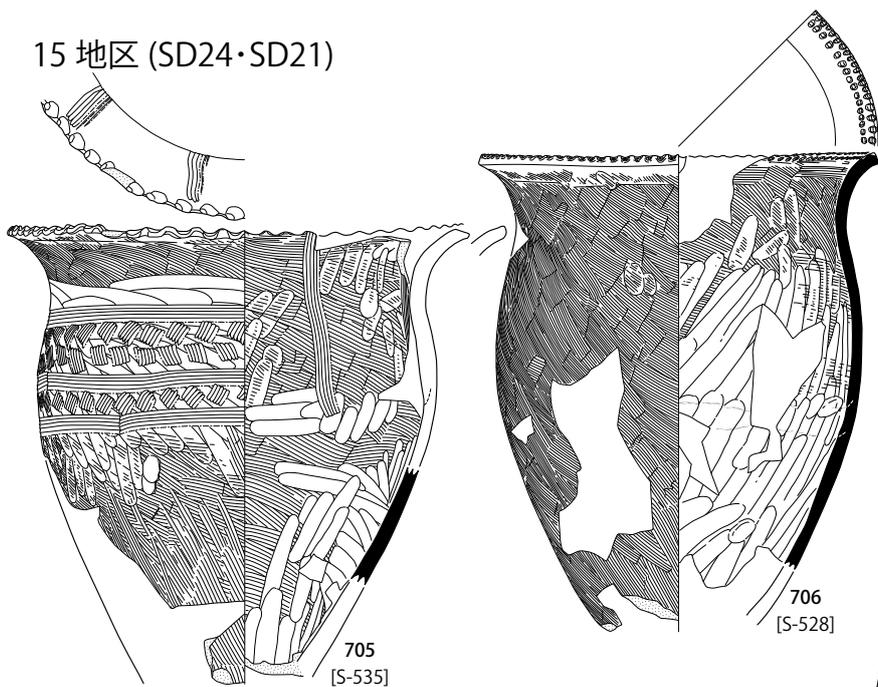


15 地区 (SK20)

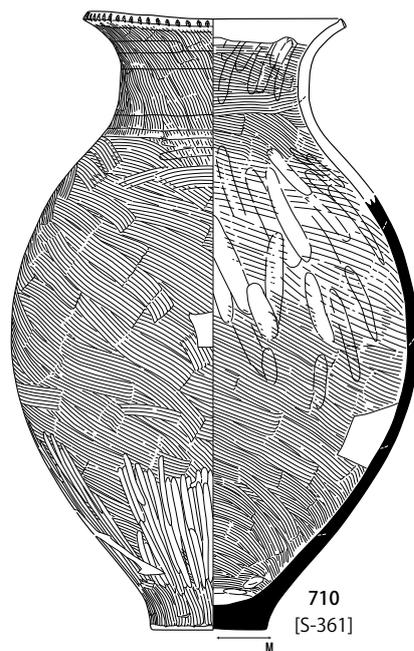


第 78 图 15 地区遺構出土土器 2(S=1/4)

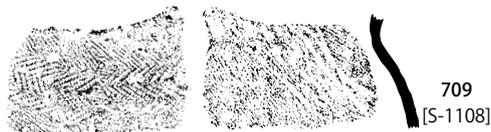
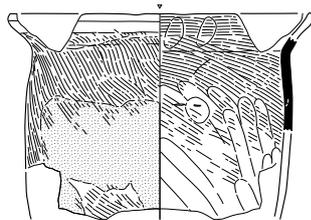
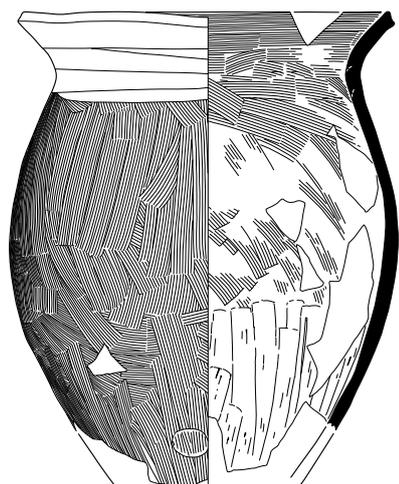
15 地区 (SD24·SD21)



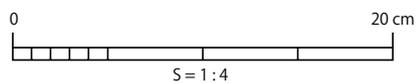
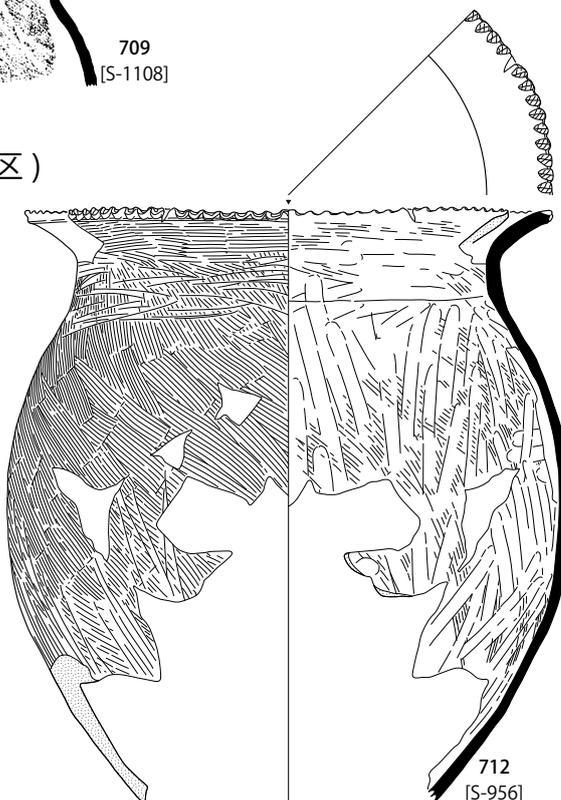
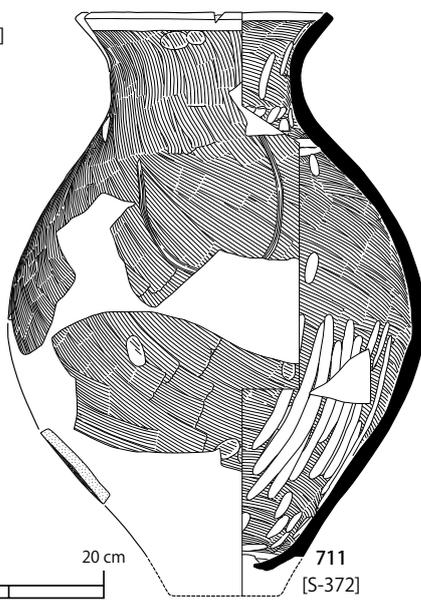
12 地区 (SX01 周溝 1 区)



12 地区 (SD17)

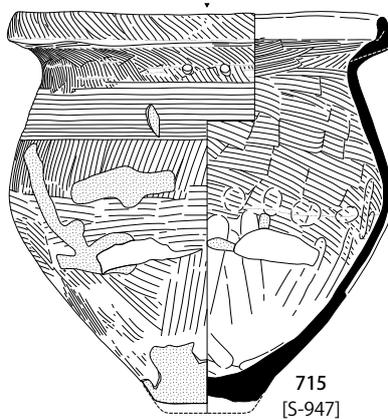
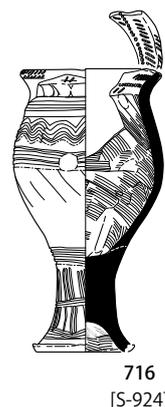
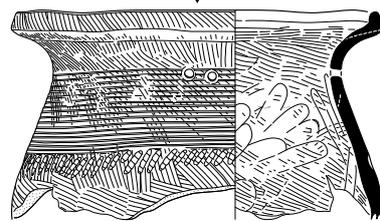
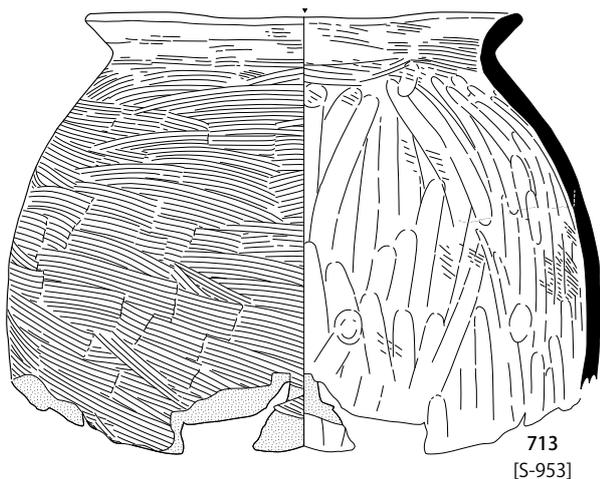


12 地区 (SX01 周溝 2 区)

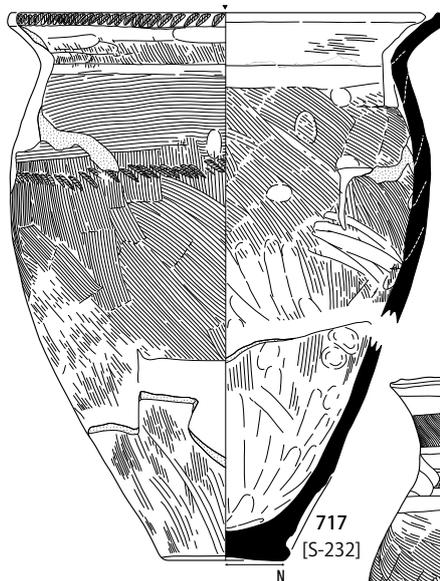


第 79 图 15 地区, 12 地区遺構出土土器 (S=1/4)

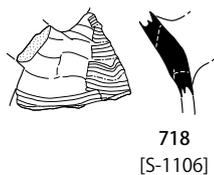
12 地区 SX02(SD18)



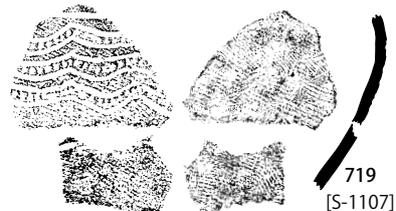
12 地区 SX02(33-64-04K)



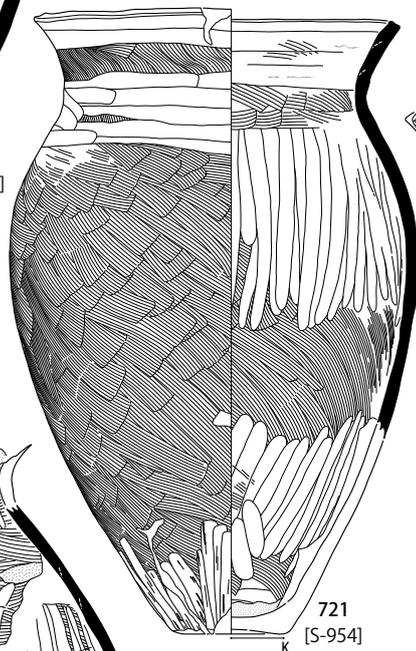
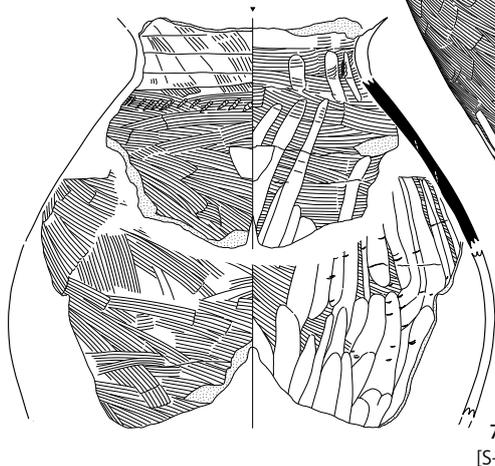
12 地区 SD14



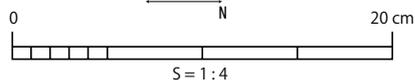
12 地区 SD15



12 地区 30-65-02K

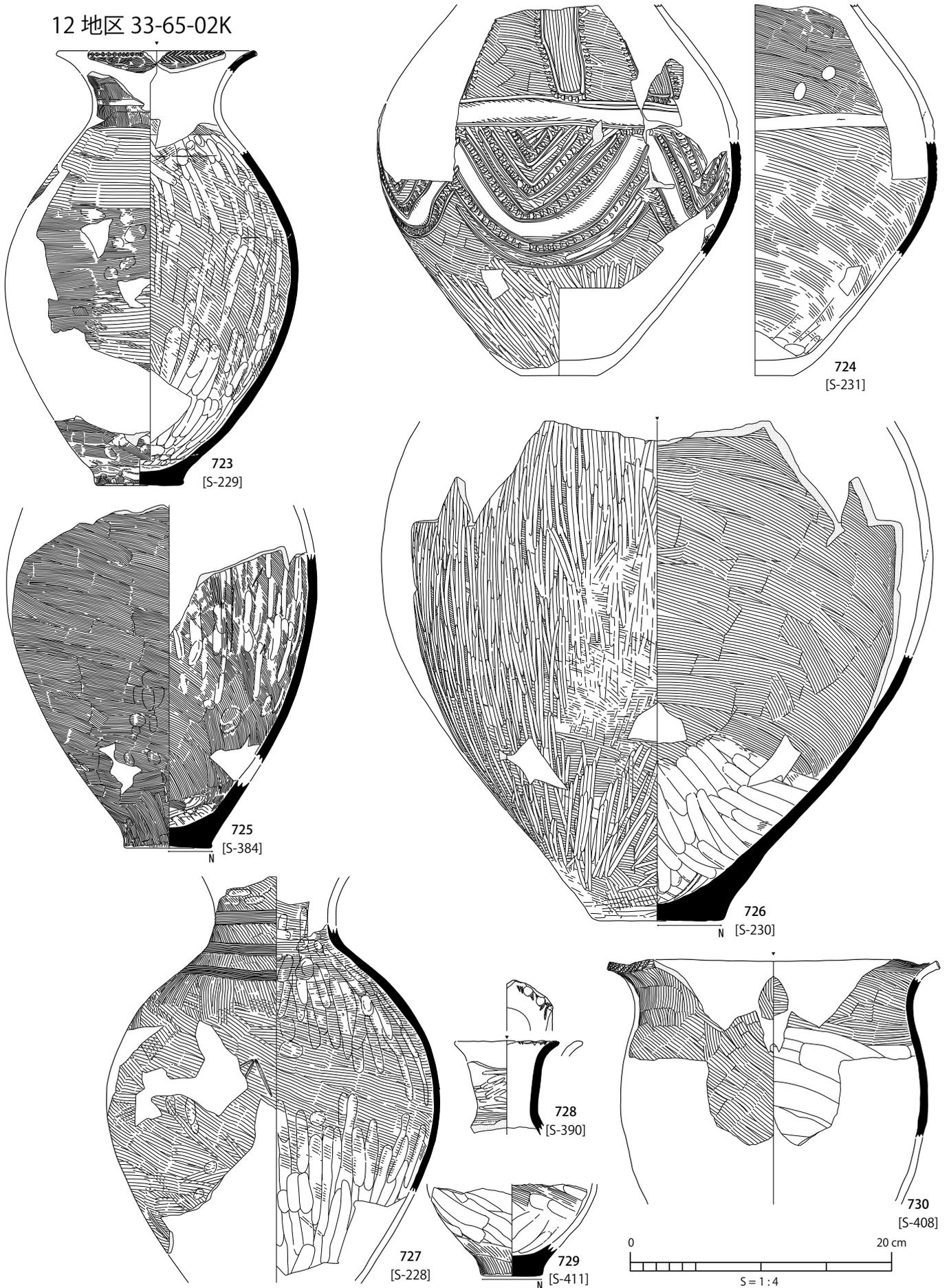


12 地区 SD12



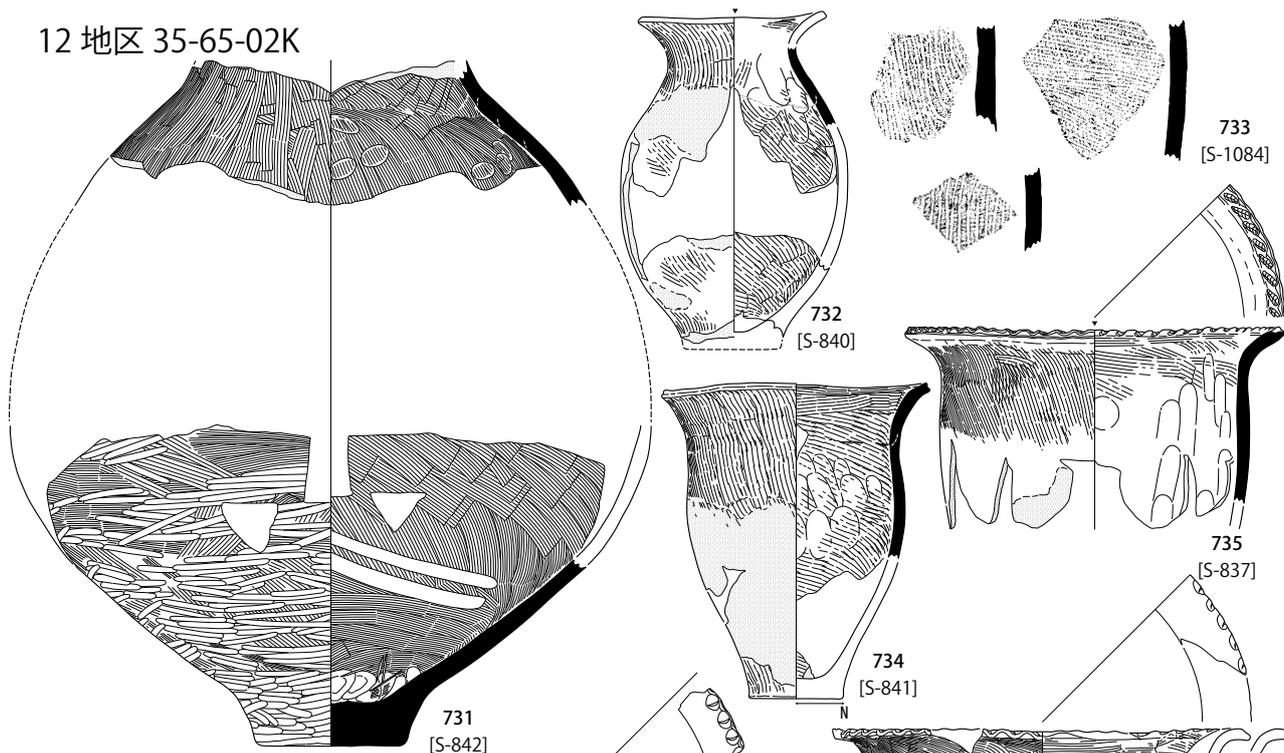
第 80 图 12 地区遺構出土土器 2(S=1/4)

12 地区 33-65-02K

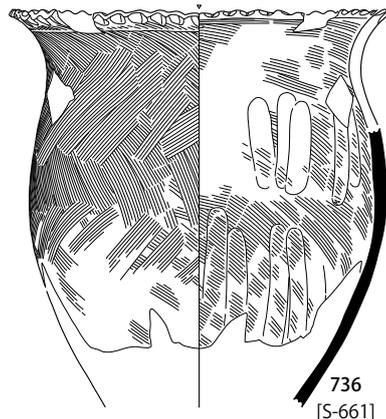
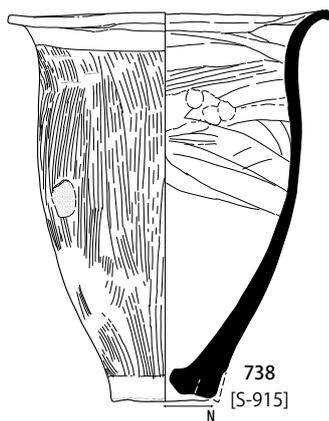


第 81 图 12 地区遺構出土土器 3(S=1/4)

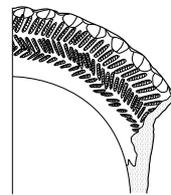
12 地区 35-65-02K



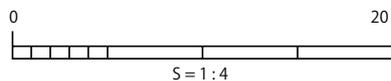
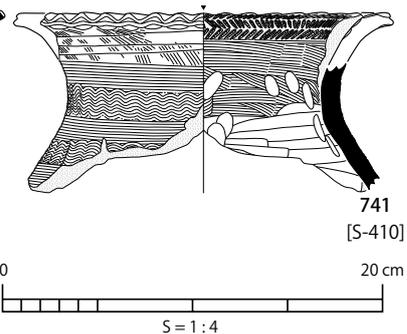
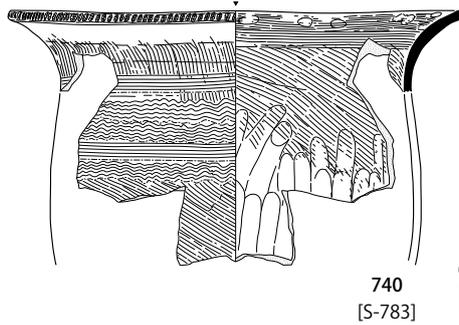
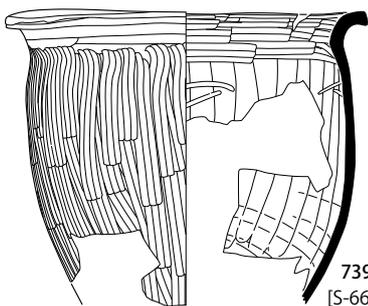
12 地区 33-64-06K



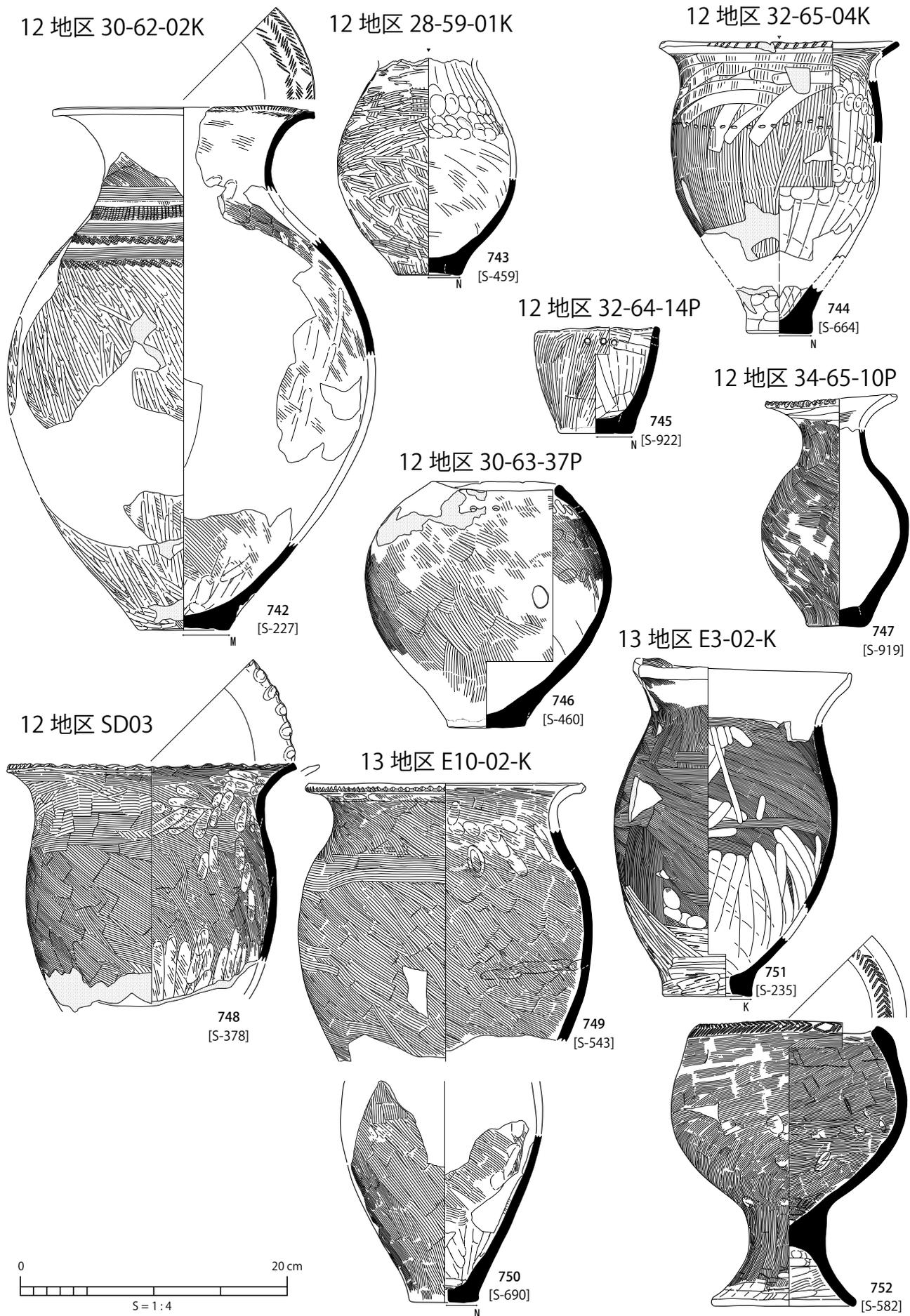
12 地区 31-65-05K



12 地区 27-58-30K

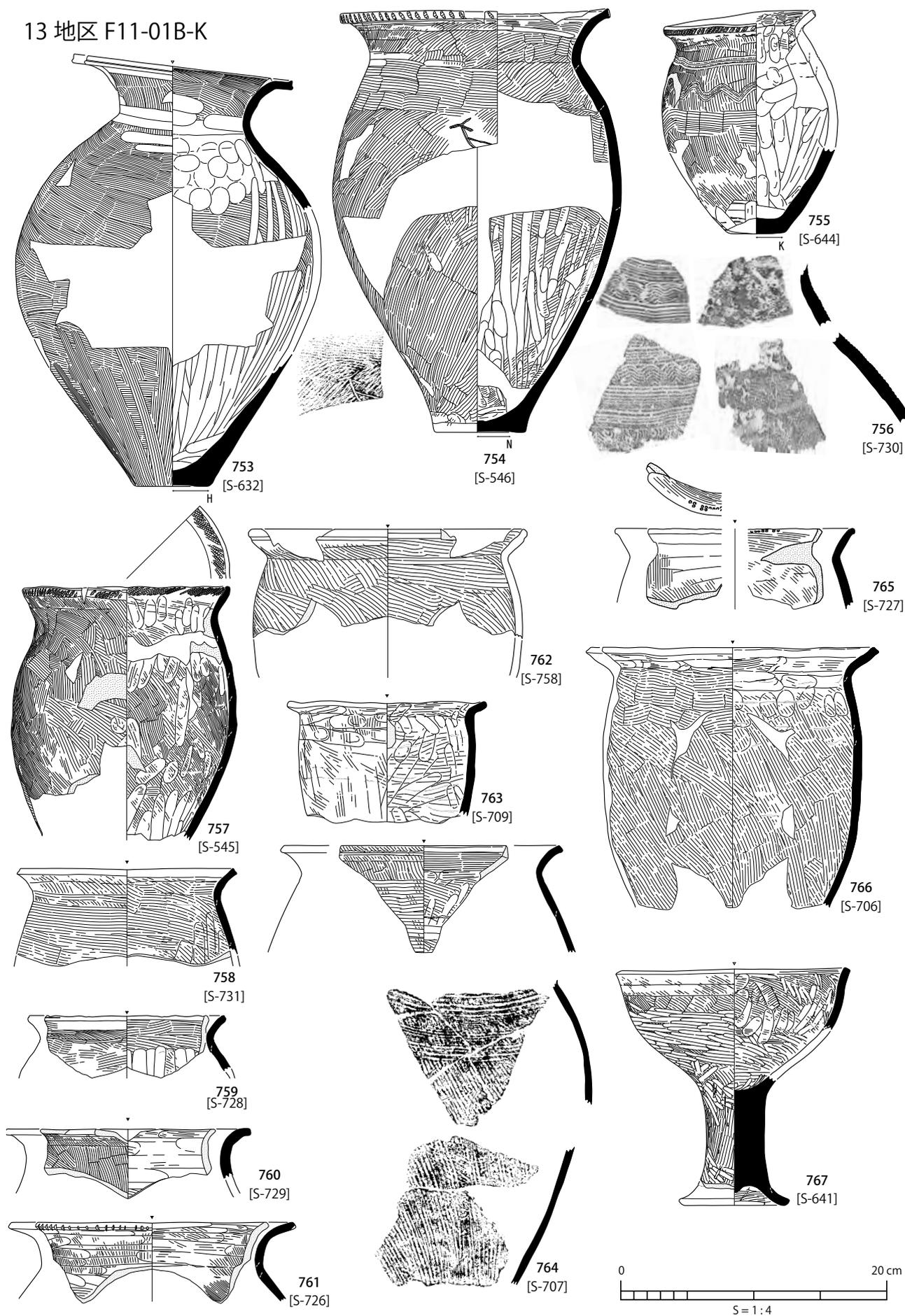


第 82 图 12 地区遺構出土土器 4(S=1/4)



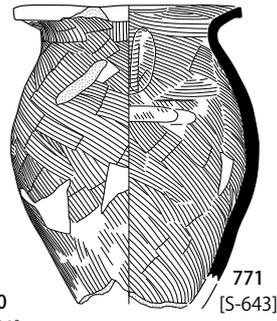
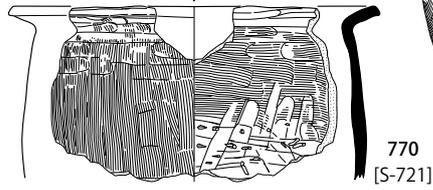
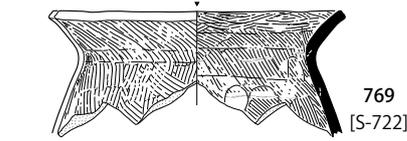
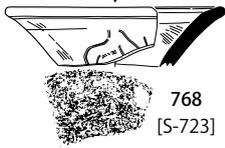
第 83 图 12 地区, 13 地区遺構出土土器 (S=1/4)

13 地区 F11-01B-K

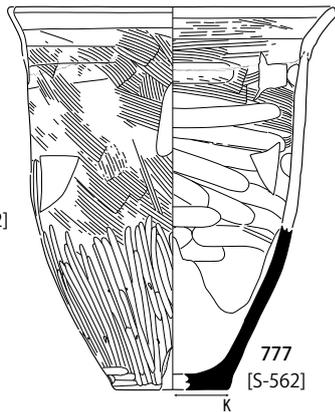
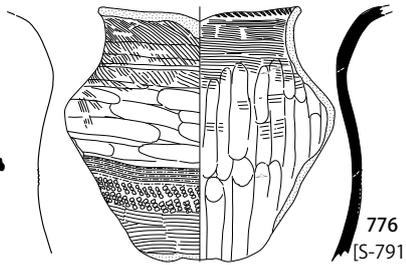
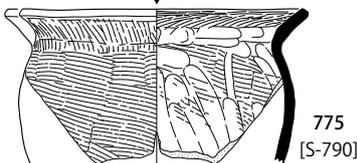
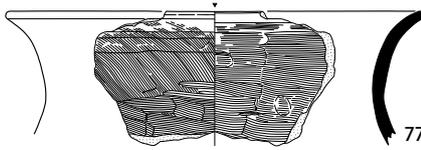
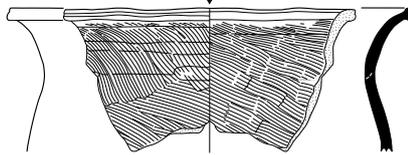
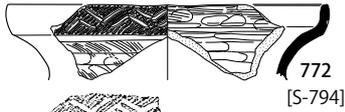


第 84 图 13 地区遺構出土土器 2(S=1/4)

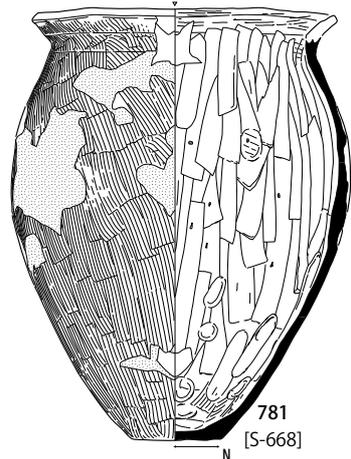
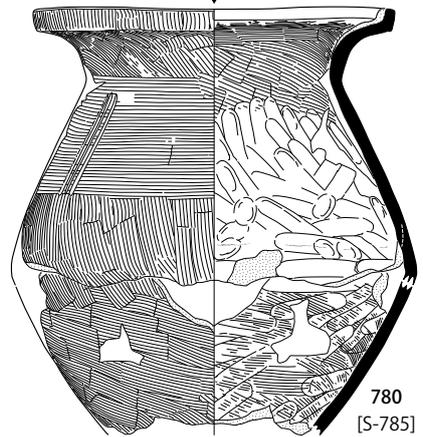
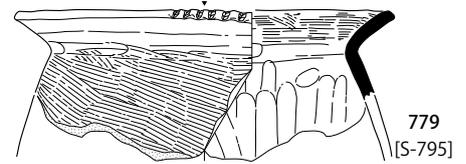
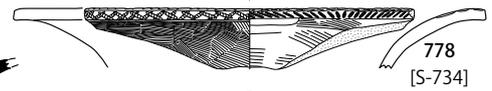
13 地区 F11-01A-K



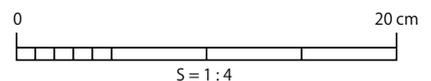
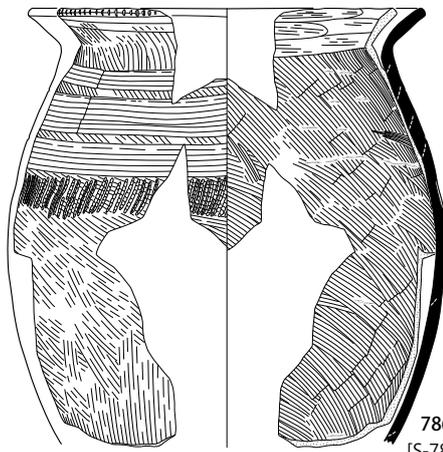
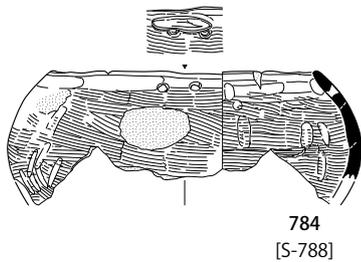
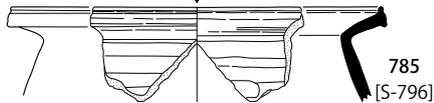
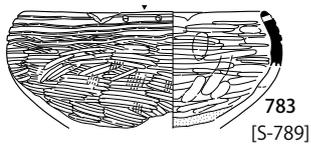
13 地区 H11-02-K



13 地区 G11-10-K

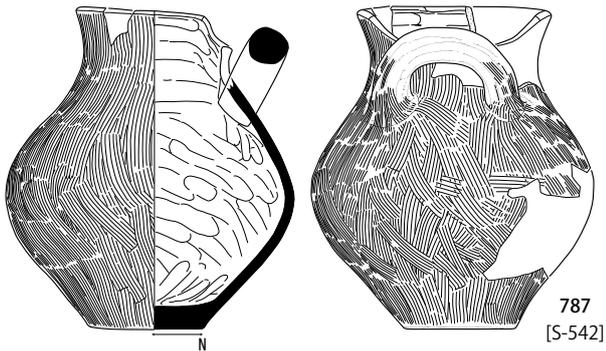


13 地区 H9-06-K

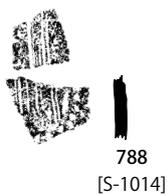


第 85 图 13 地区遺構出土土器 3(S=1/4)

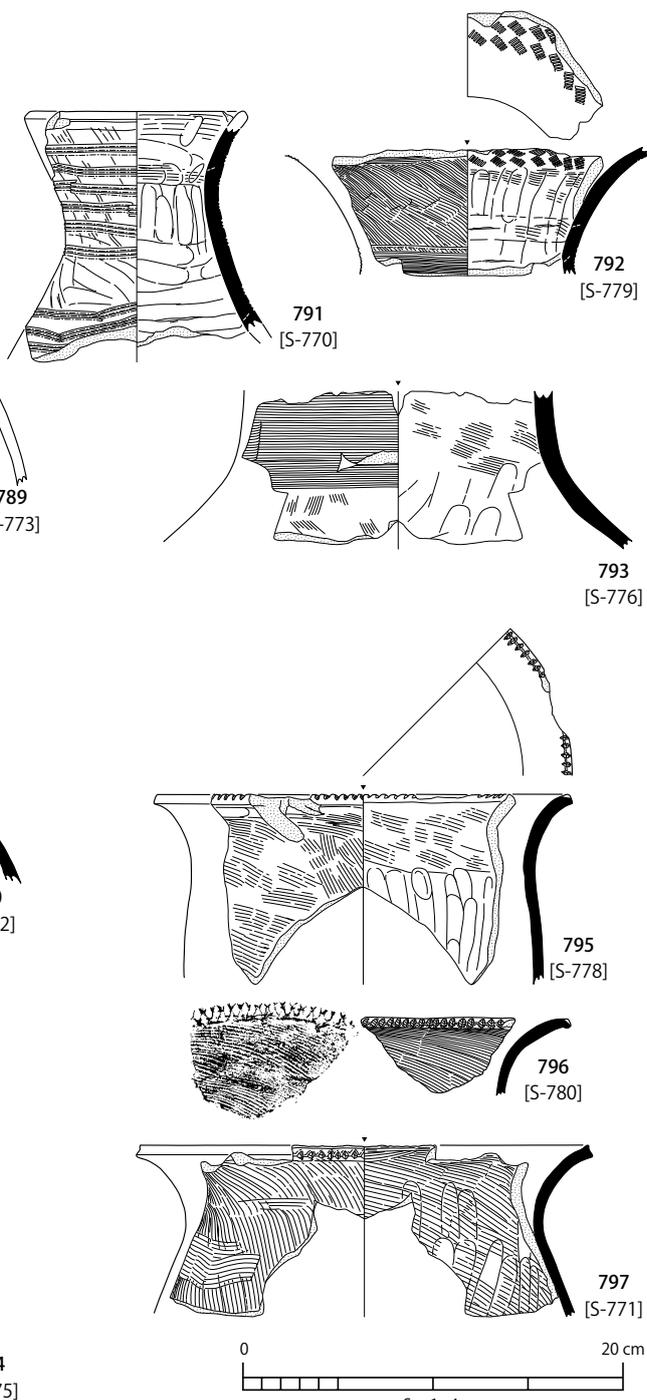
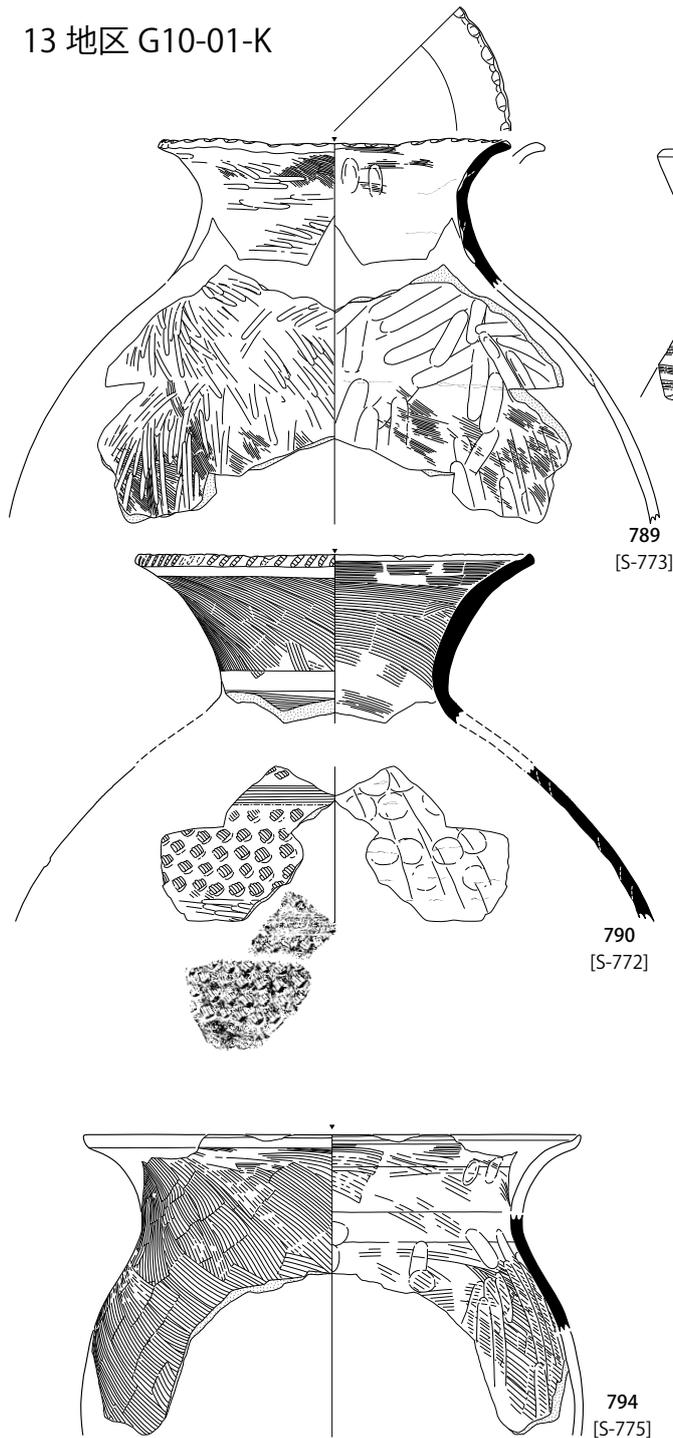
13 地区 SX02



13 地区 F10-01-K

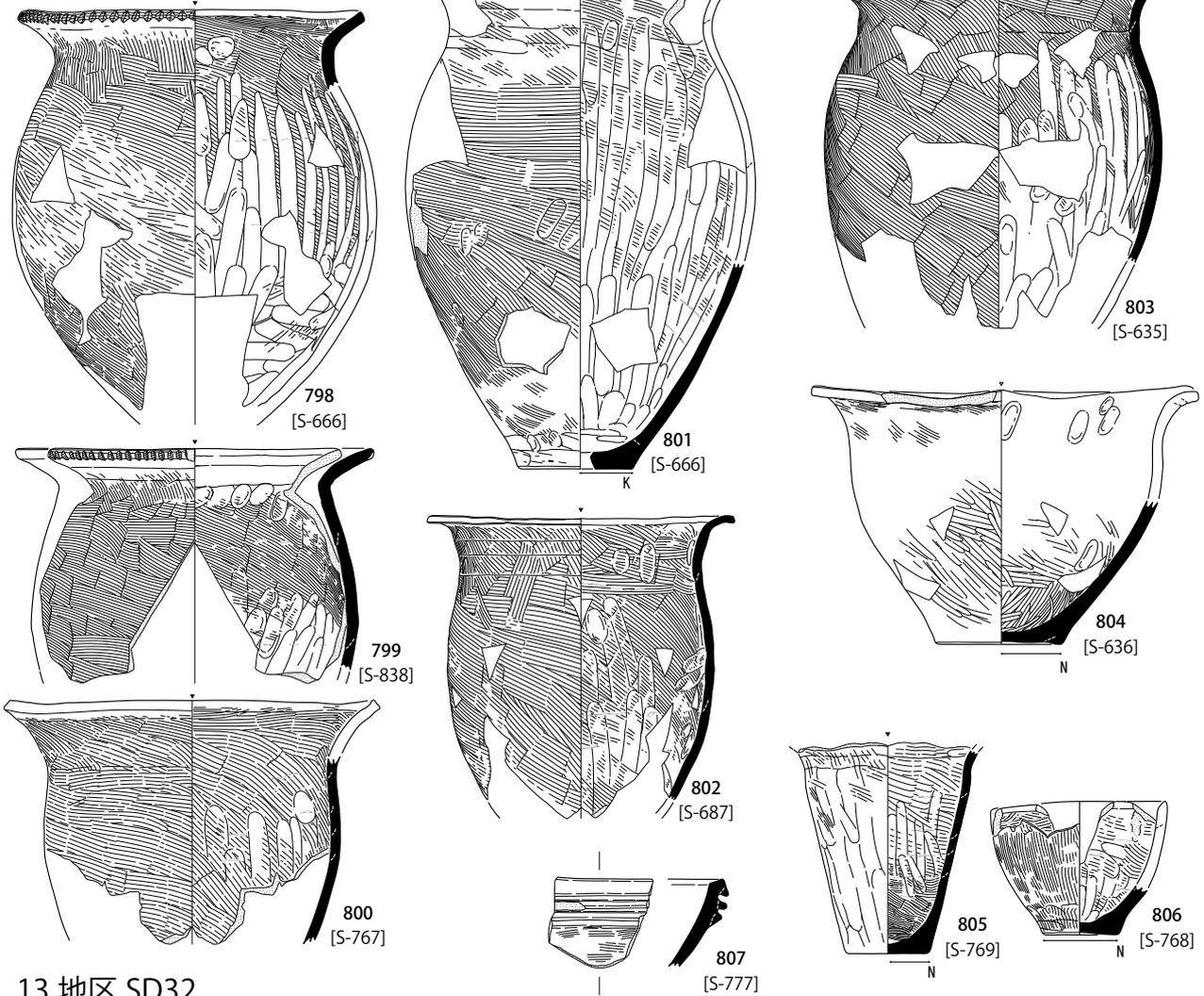


13 地区 G10-01-K

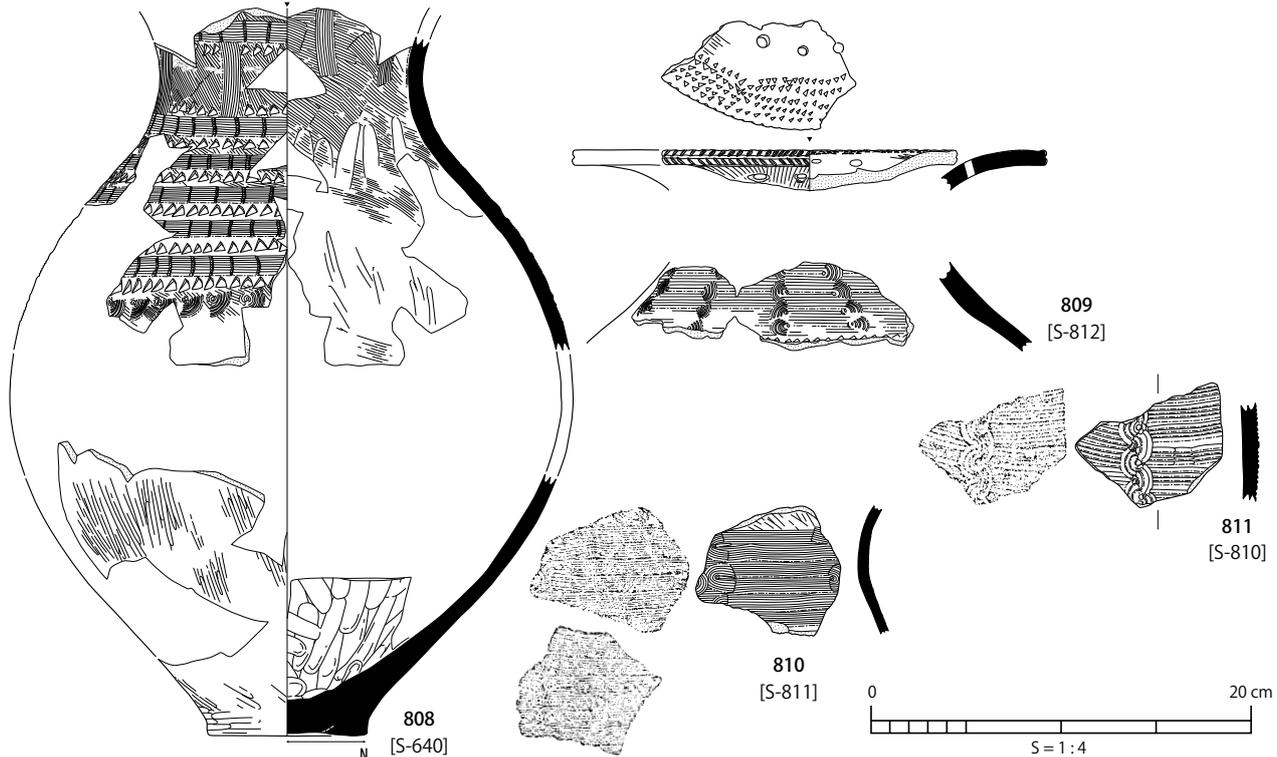


第 86 图 13 地区遺構出土土器 4(S=1/4)

13 地区 G10-01-K

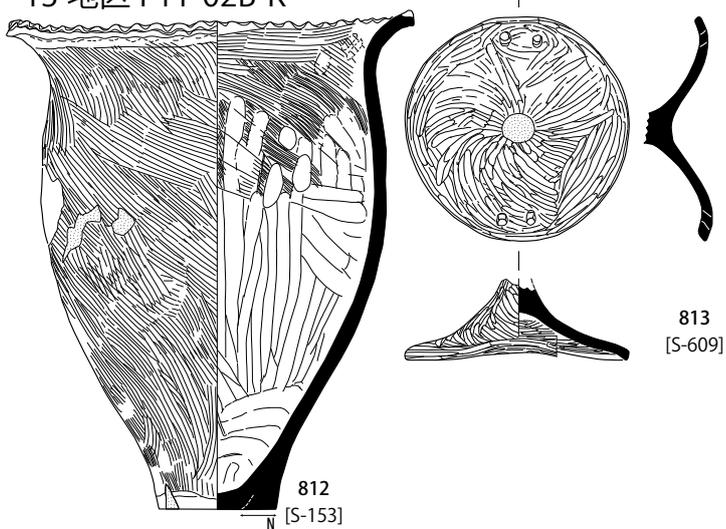


13 地区 SD32

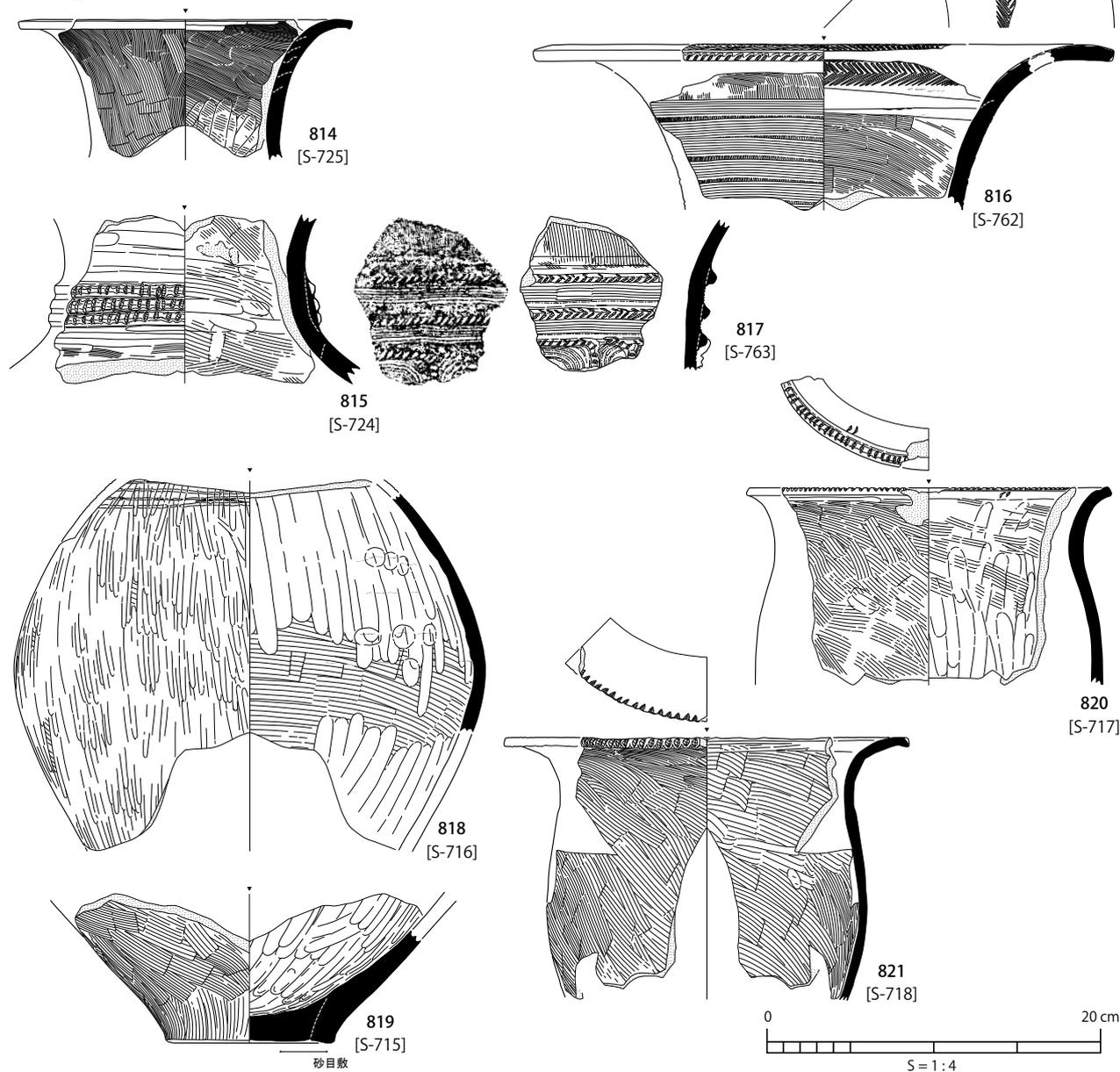


第 87 图 13 地区遺構出土土器 5(S=1/4)

13 地区 F11-02B-K

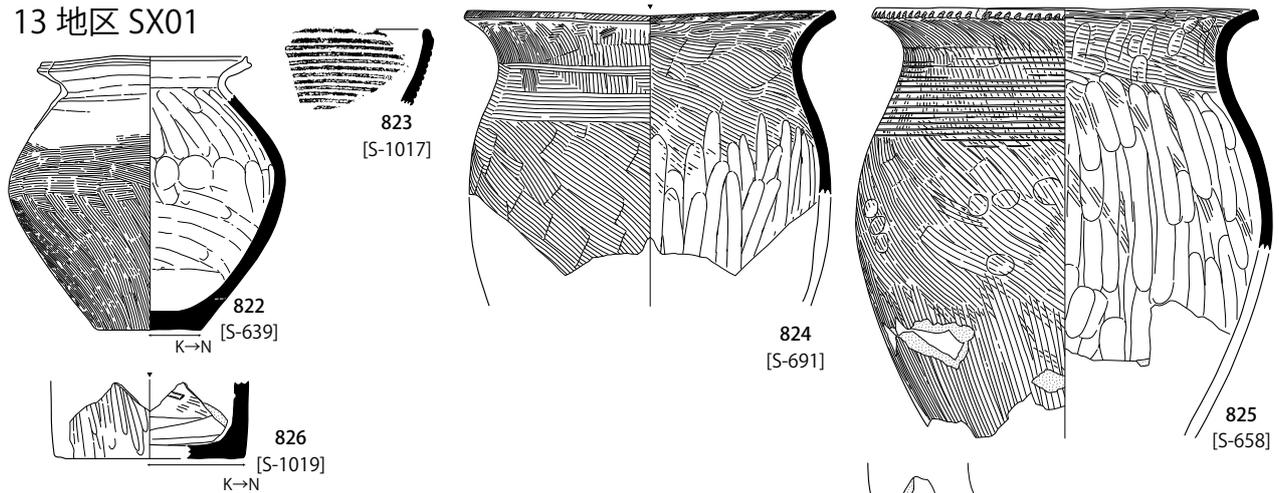


13 地区 F11-02-K

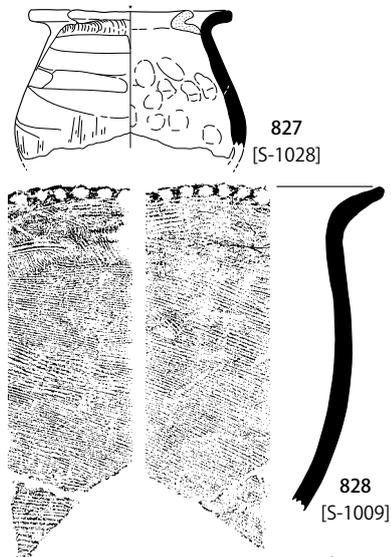


第 88 图 13 地区遺構出土土器 6(S=1/4)

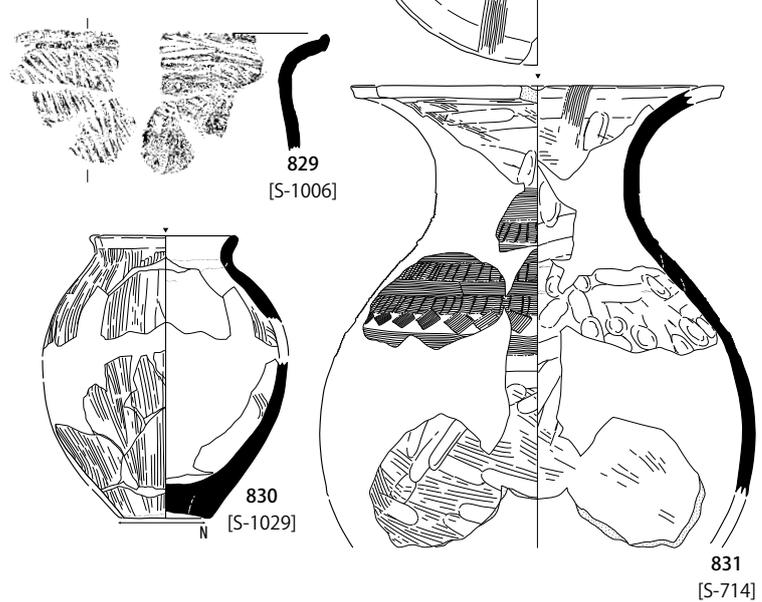
13 地区 SX01



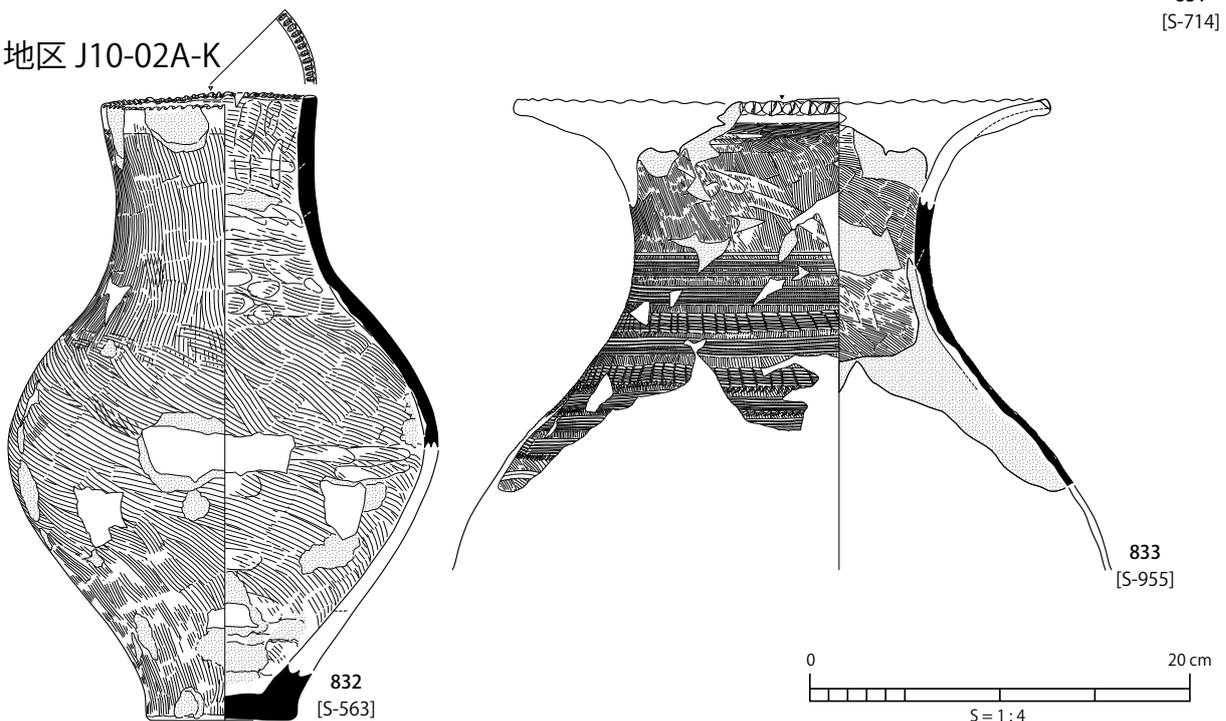
13 地区 J10-02B-K



13 地区 J10-02-K

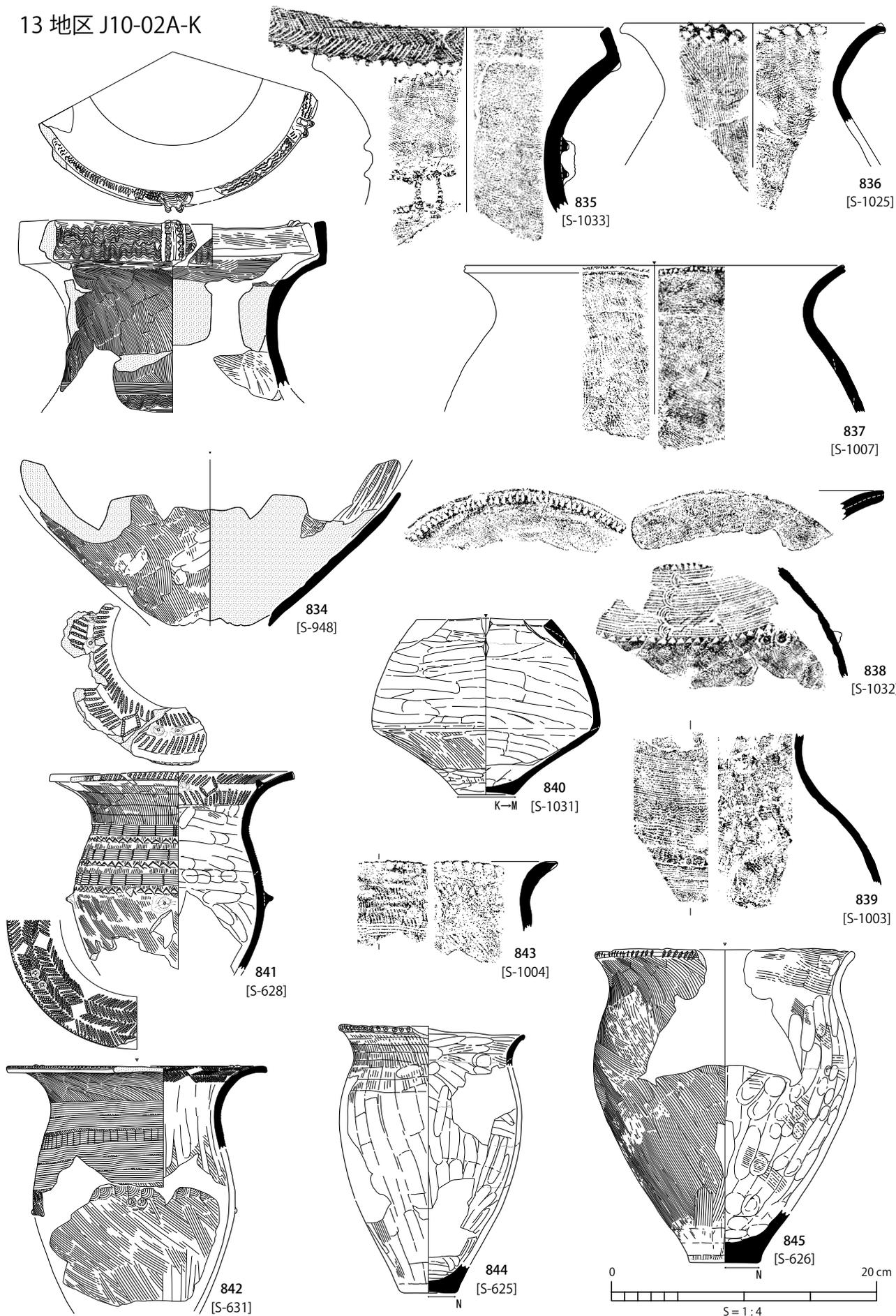


13 地区 J10-02A-K



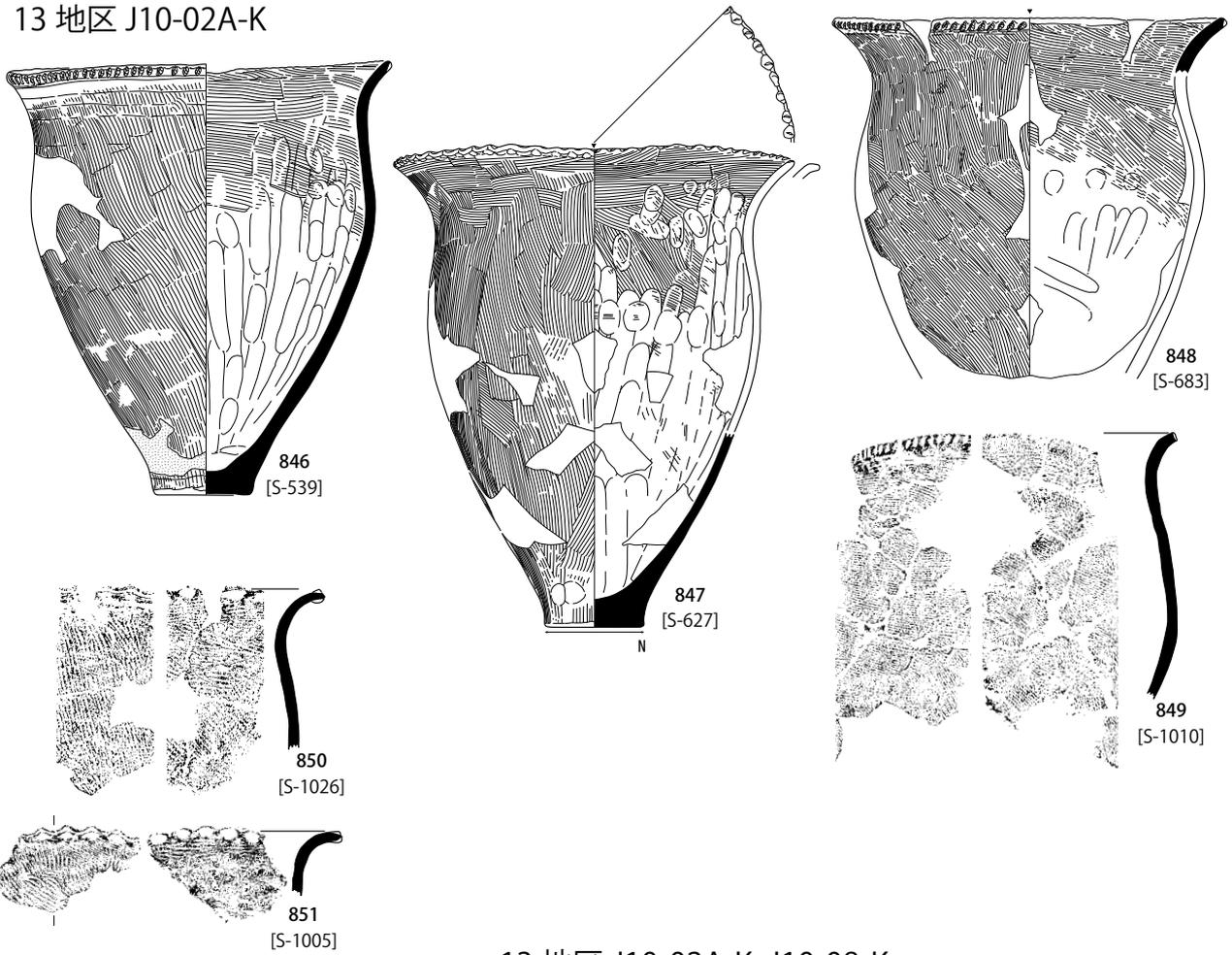
第 89 图 13 地区遺構出土土器 7(S=1/4)

13 地区 J10-02A-K

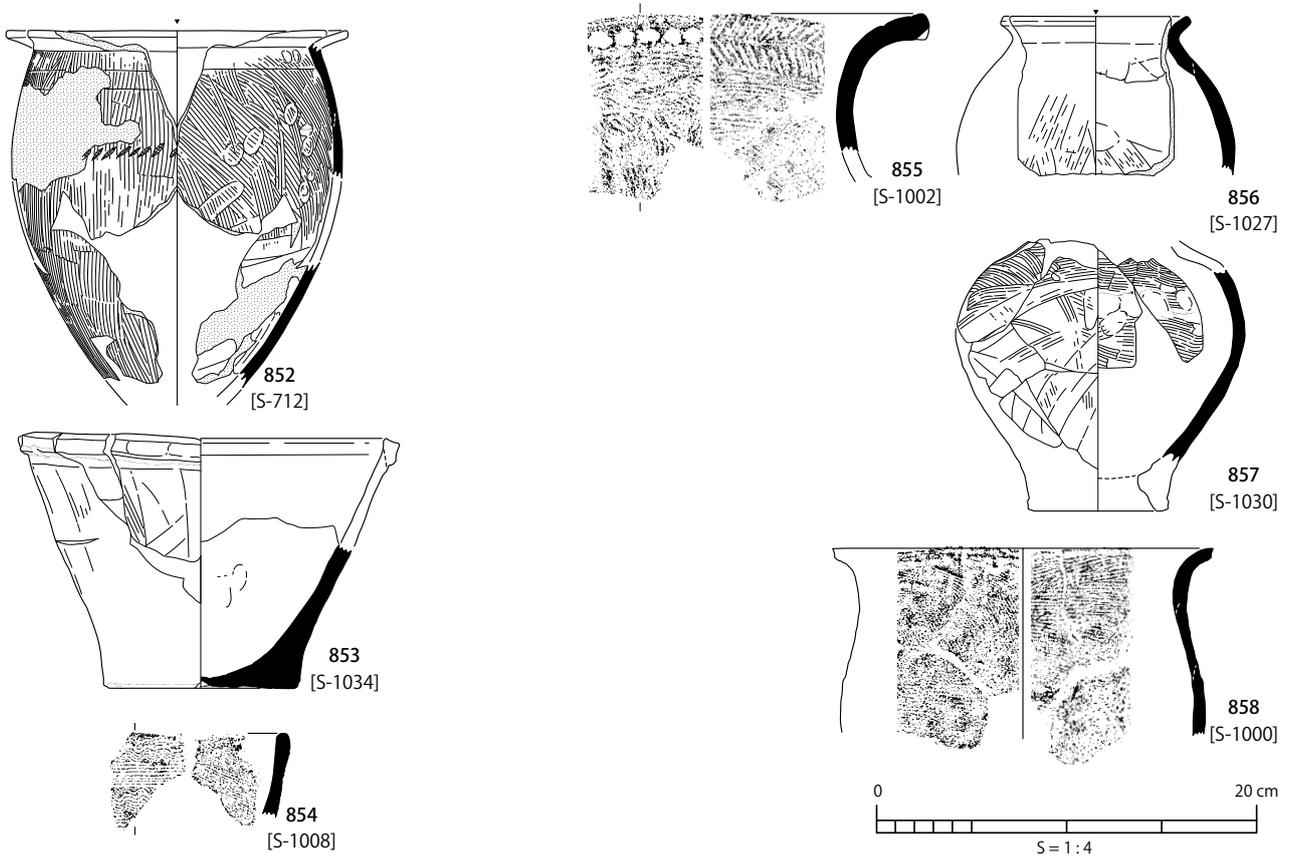


第 90 图 13 地区遺構出土土器 8(S=1/4)

13 地区 J10-02A-K



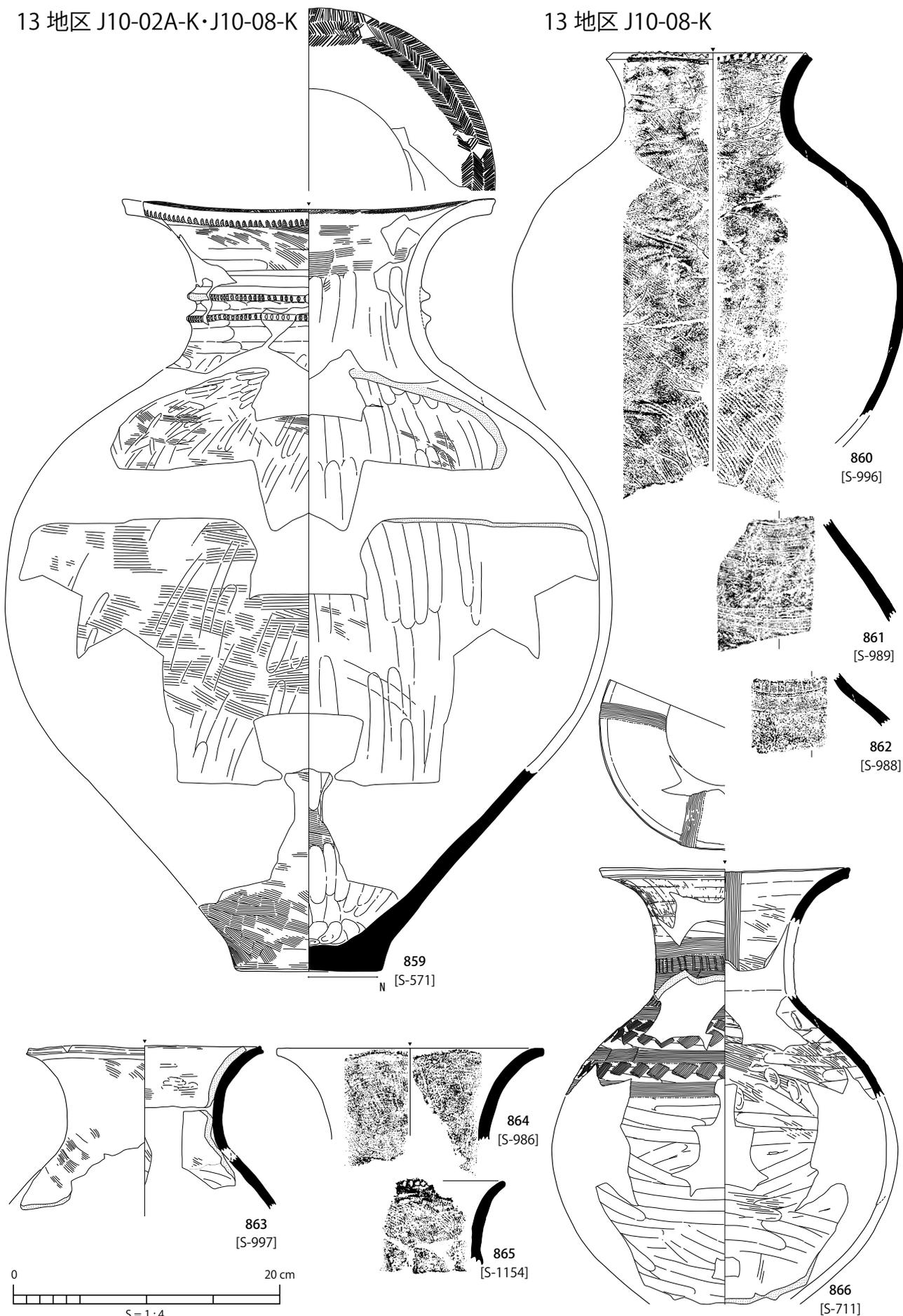
13 地区 J10-02A-K·J10-08-K



第 91 图 13 地区遺構出土土器 9(S=1/4)

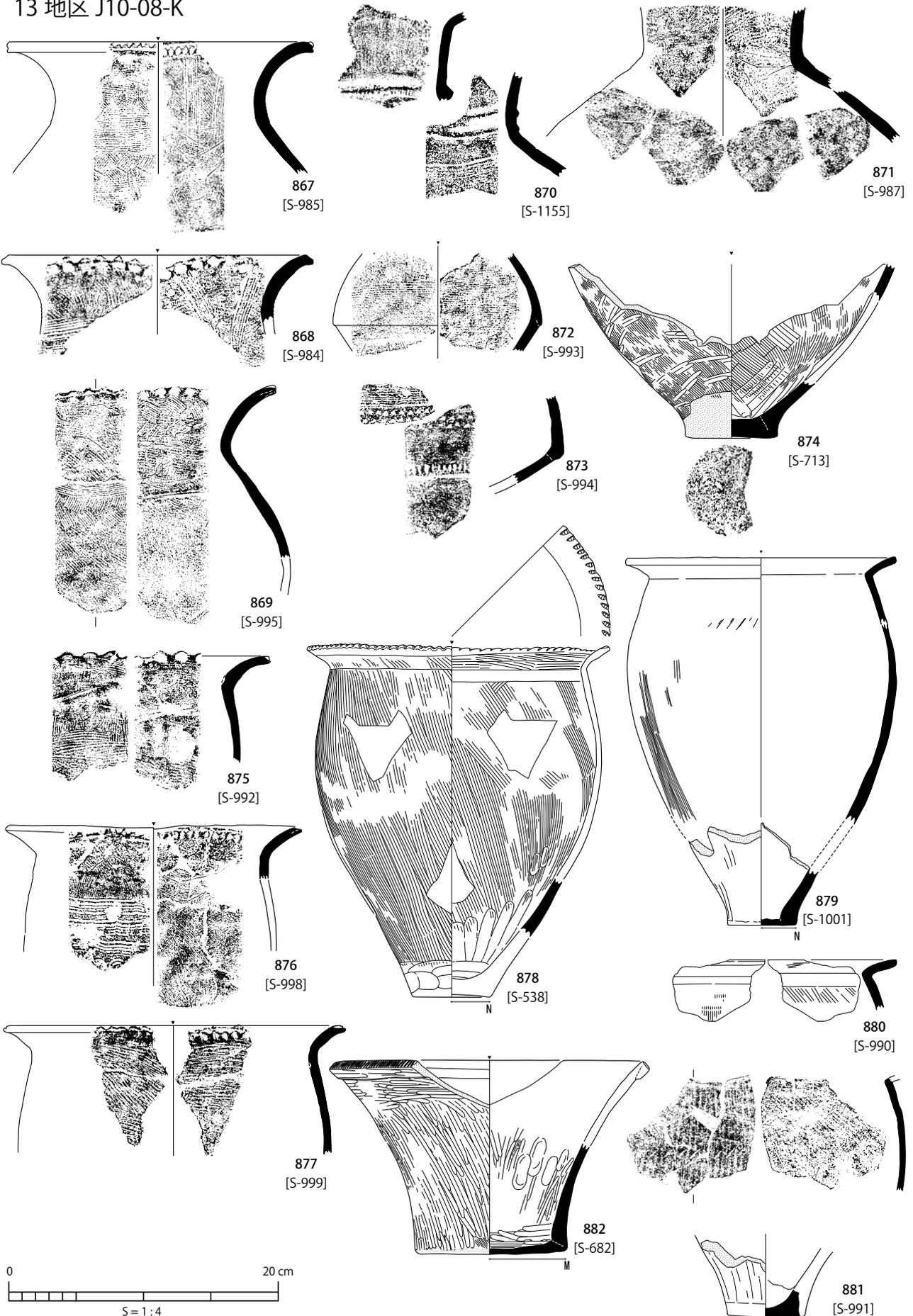
13 地区 J10-02A-K·J10-08-K

13 地区 J10-08-K



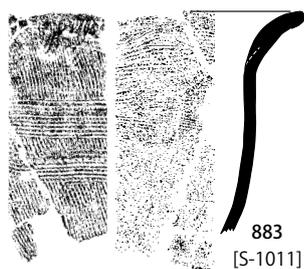
第 92 图 13 地区遺構出土土器 10(S=1/4)

13 地区 J10-08-K

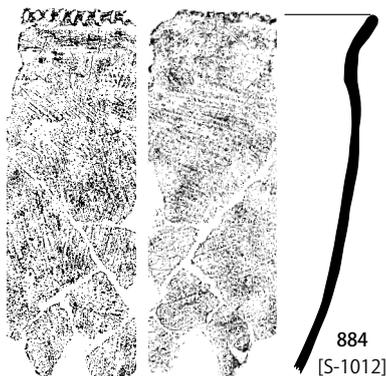


第 93 图 13 地区遺構出土土器 11(S=1/4)

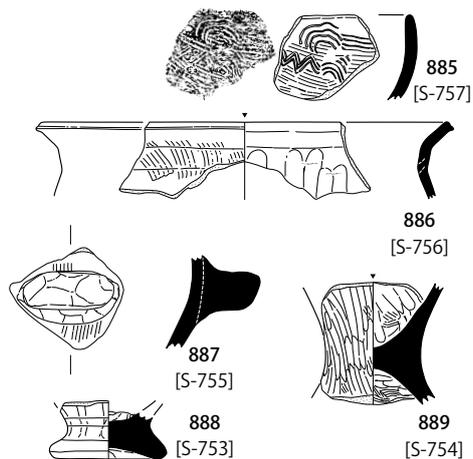
13 地区 J10-03-K



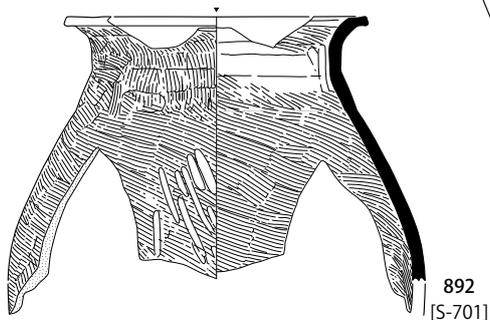
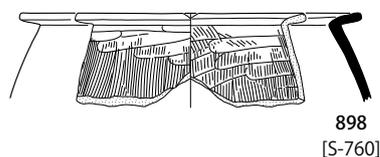
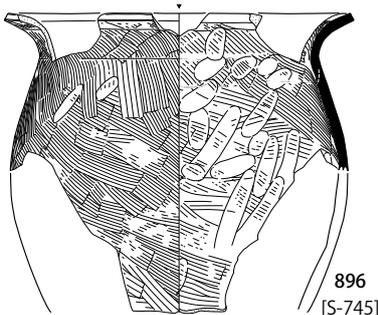
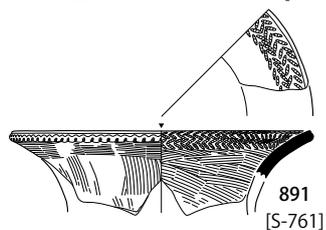
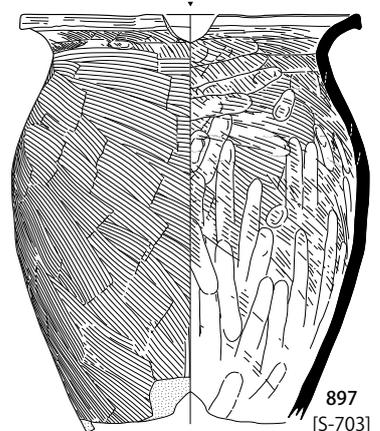
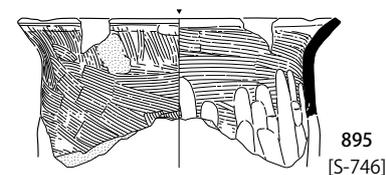
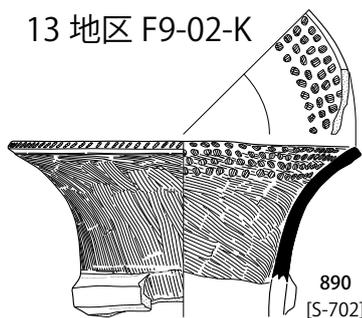
13 地区 J10-04-K



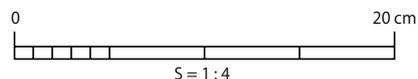
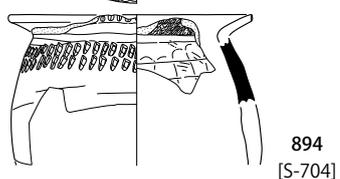
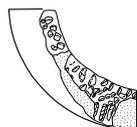
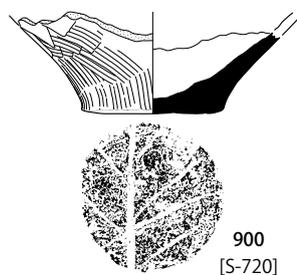
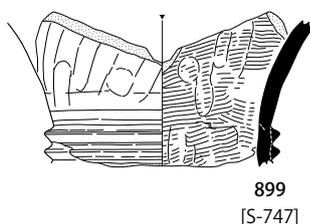
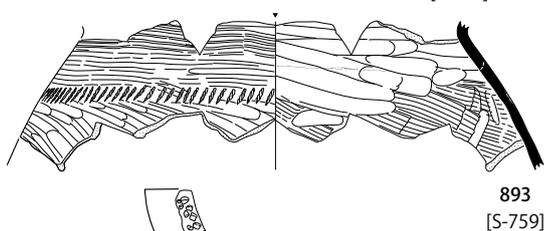
13 地区 F9-01-K



13 地区 F9-02-K

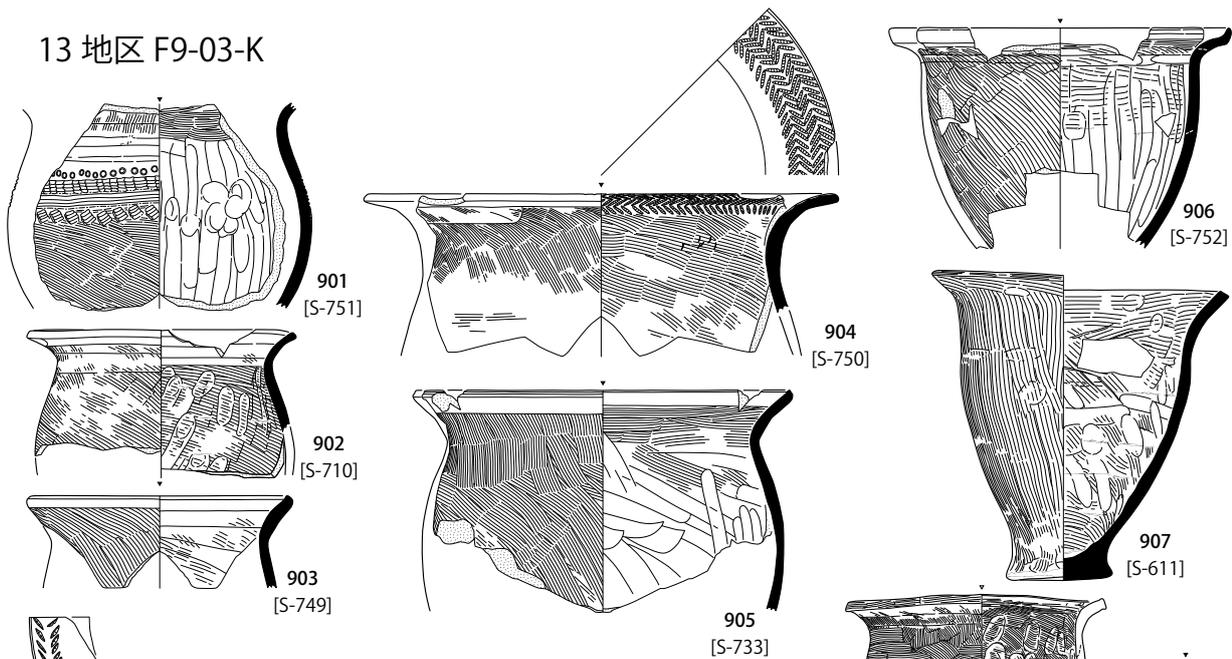


13 地区 F9-03-K

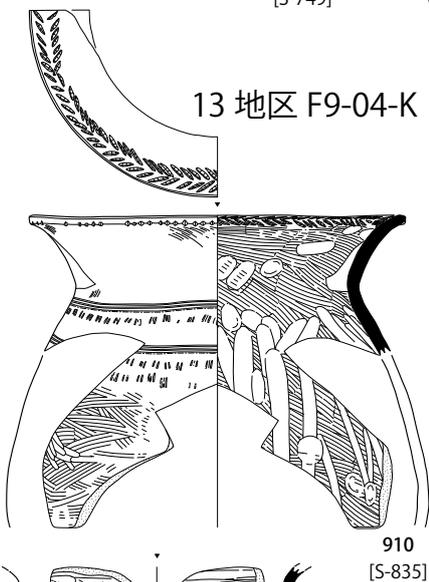


第 94 图 13 地区遺構出土土器 12(S=1/4)

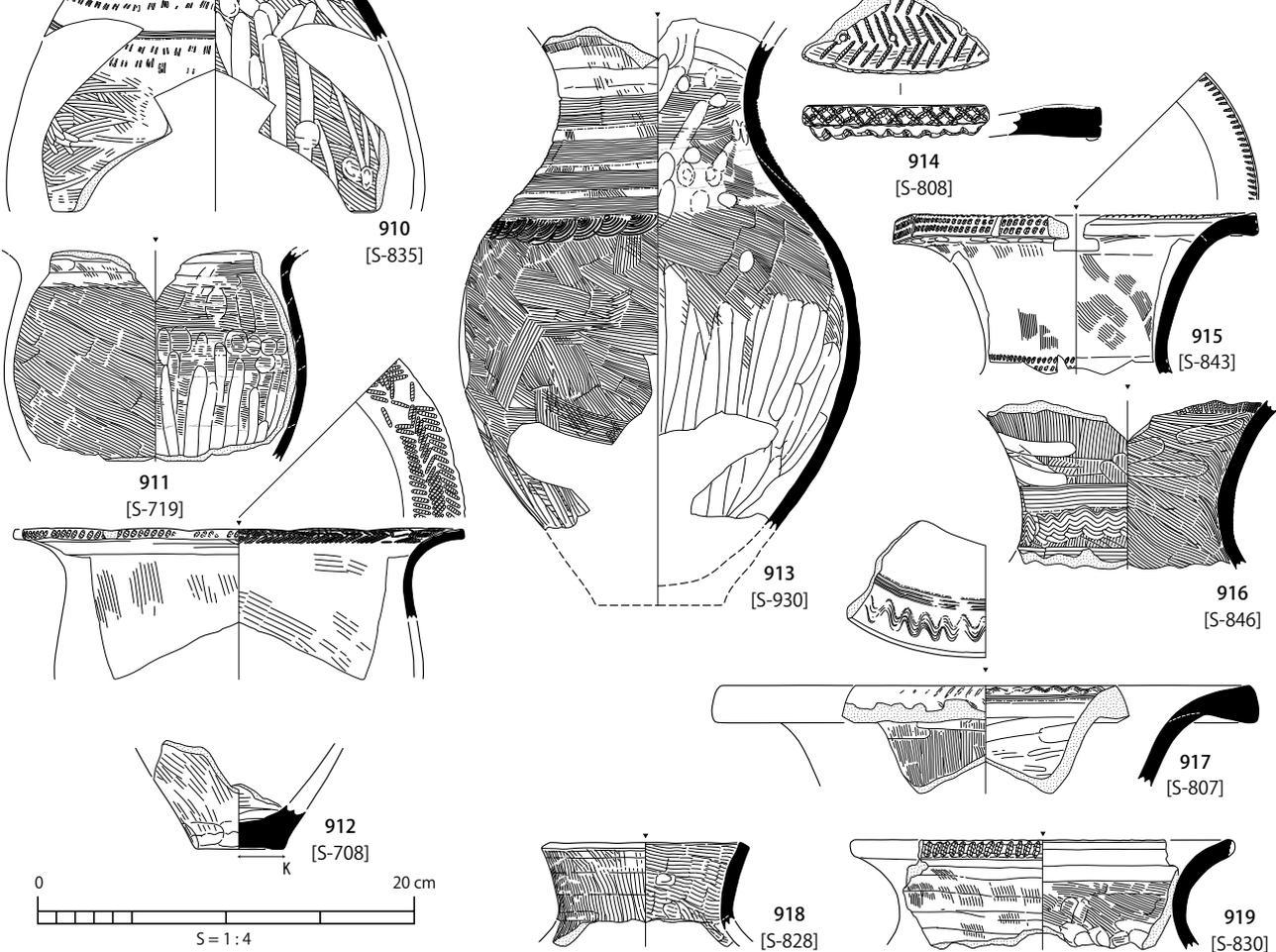
13 地区 F9-03-K



13 地区 F9-04-K

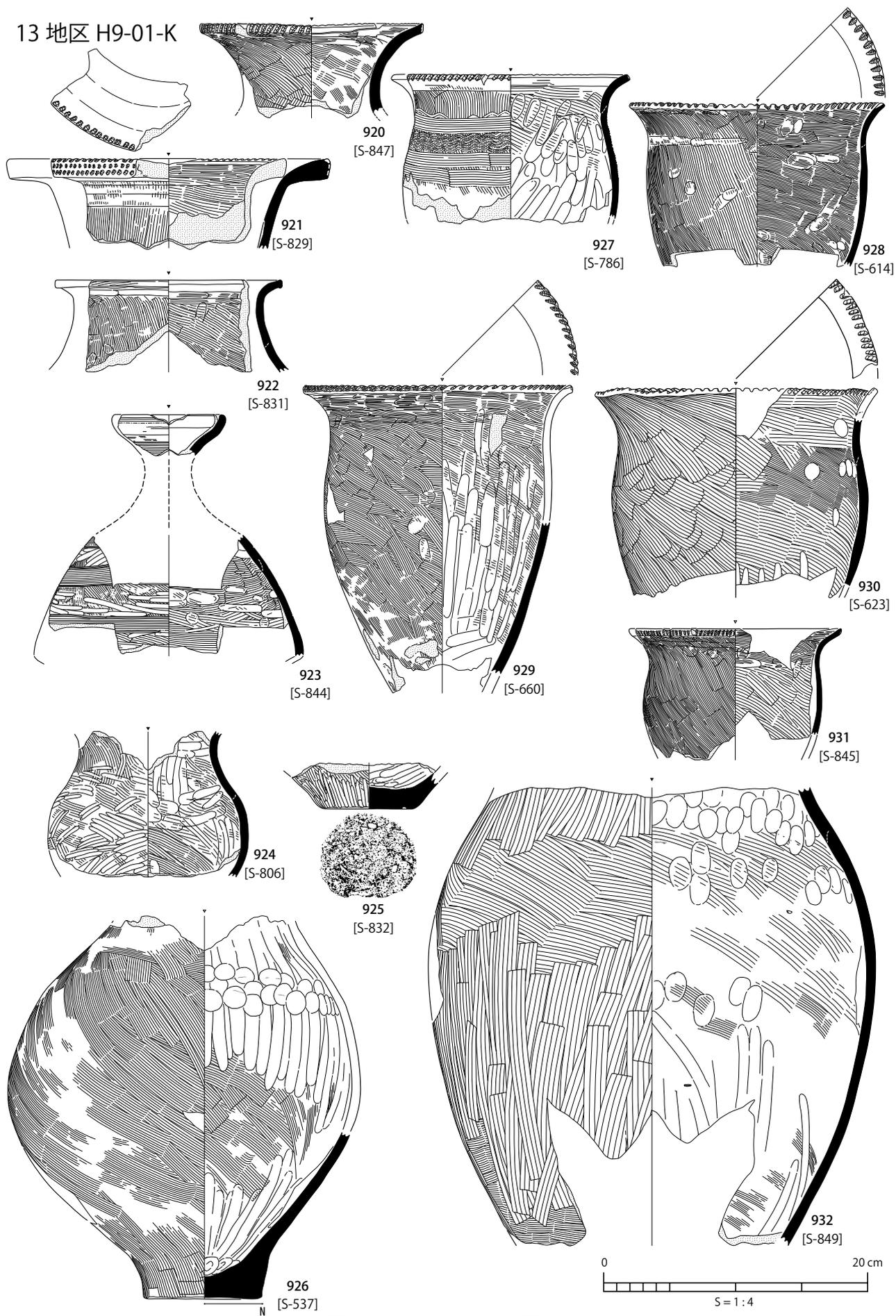


13 地区 H9-01-K



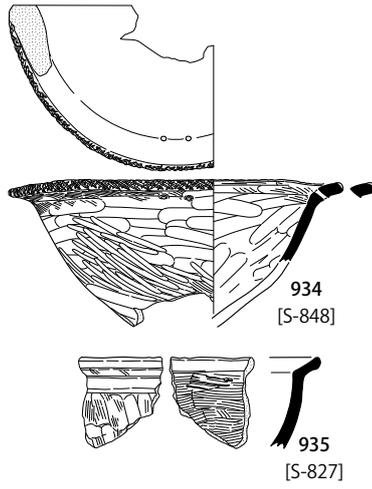
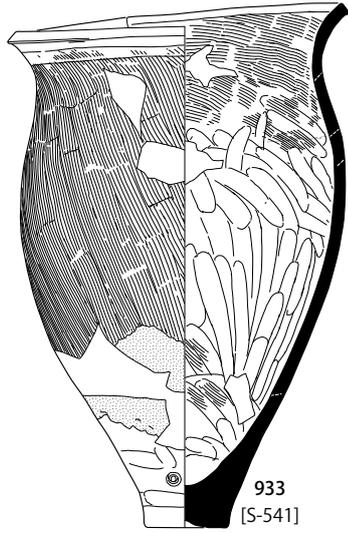
第 95 图 13 地区遺構出土土器 13(S=1/4)

13 地区 H9-01-K

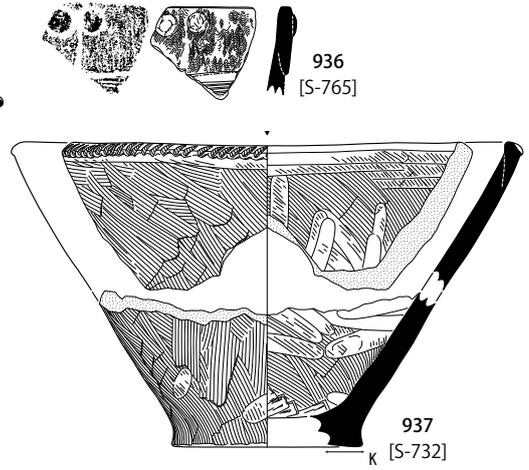


第 96 图 13 地区遺構出土土器 14(S=1/4)

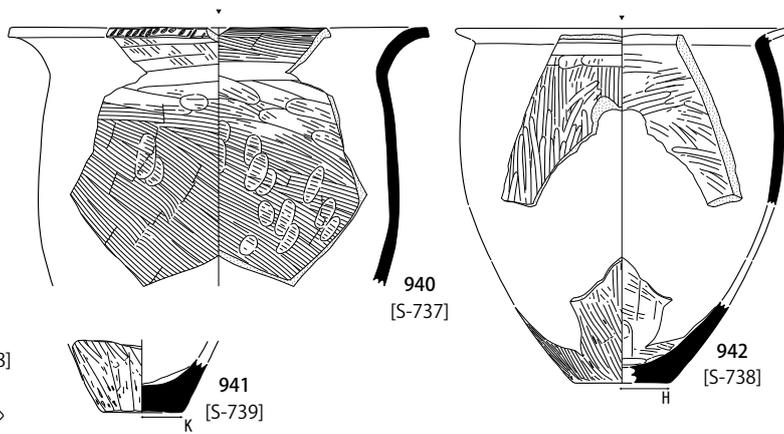
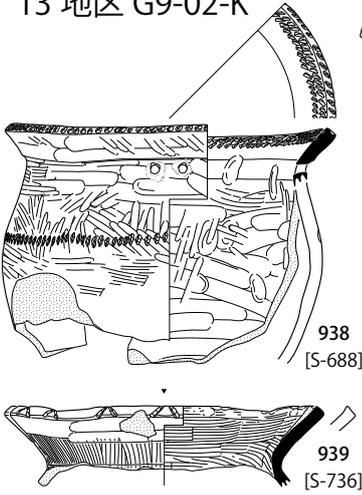
13 地区 H9-01-K



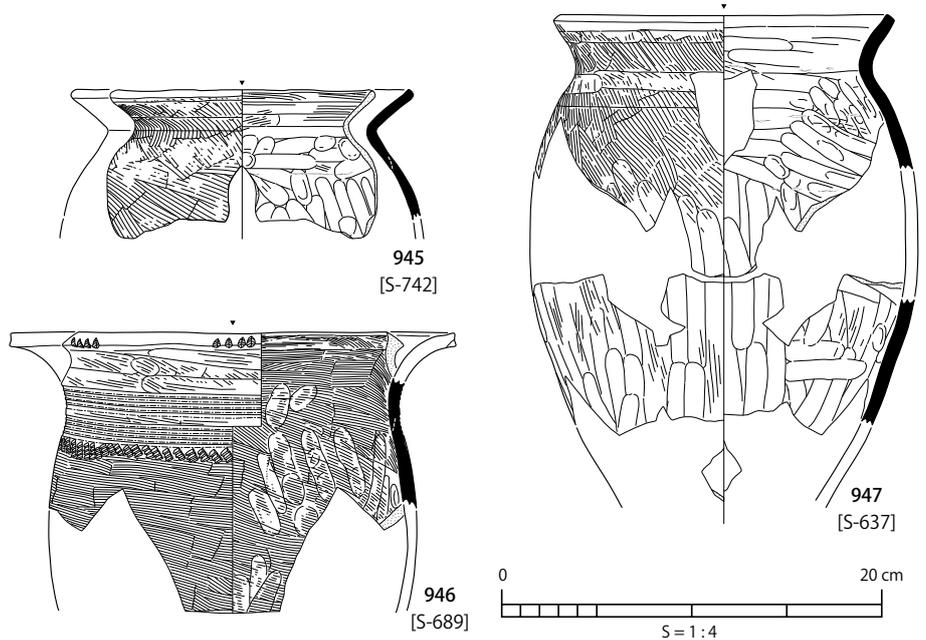
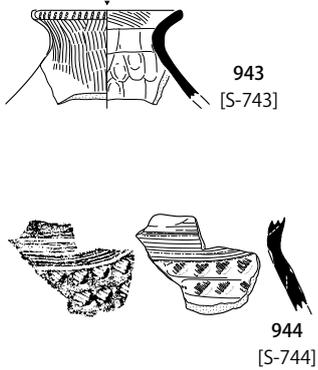
13 地区 G9-01-K



13 地区 G9-02-K

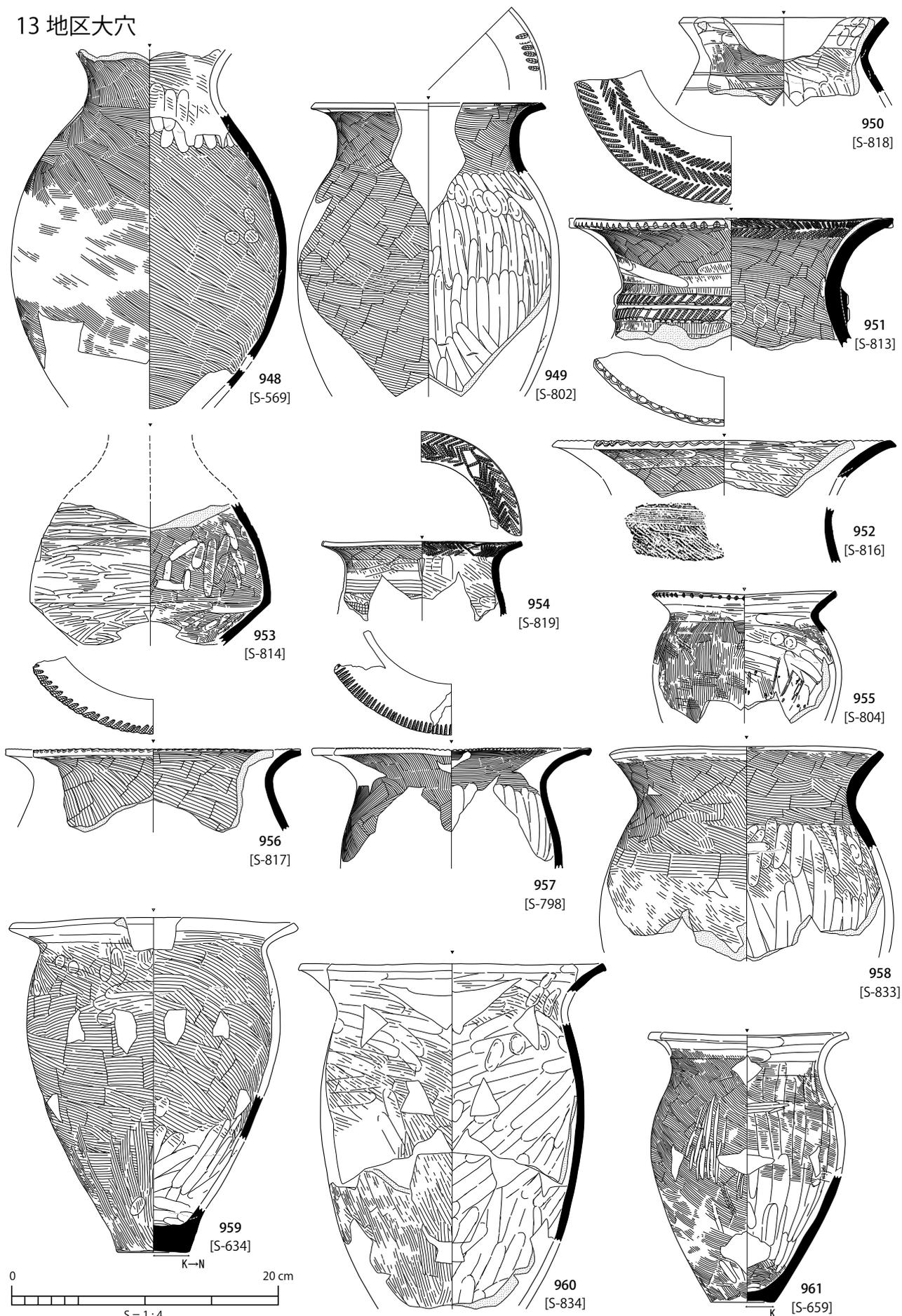


13 地区 G9-03-K



第 97 图 13 地区遺構出土土器 15(S=1/4)

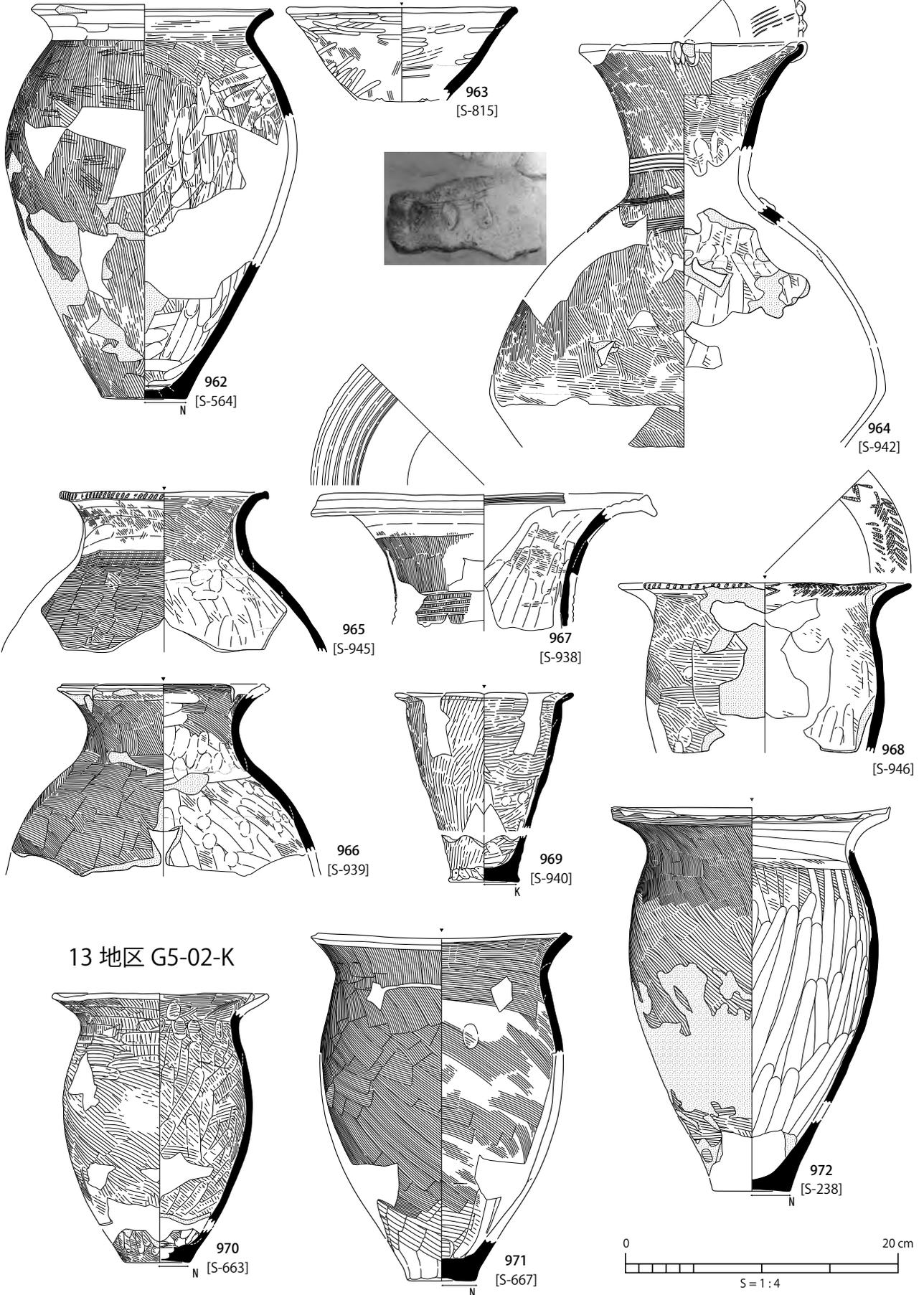
13 地区大穴



第 98 图 13 地区遺構出土土器 16(S=1/4)

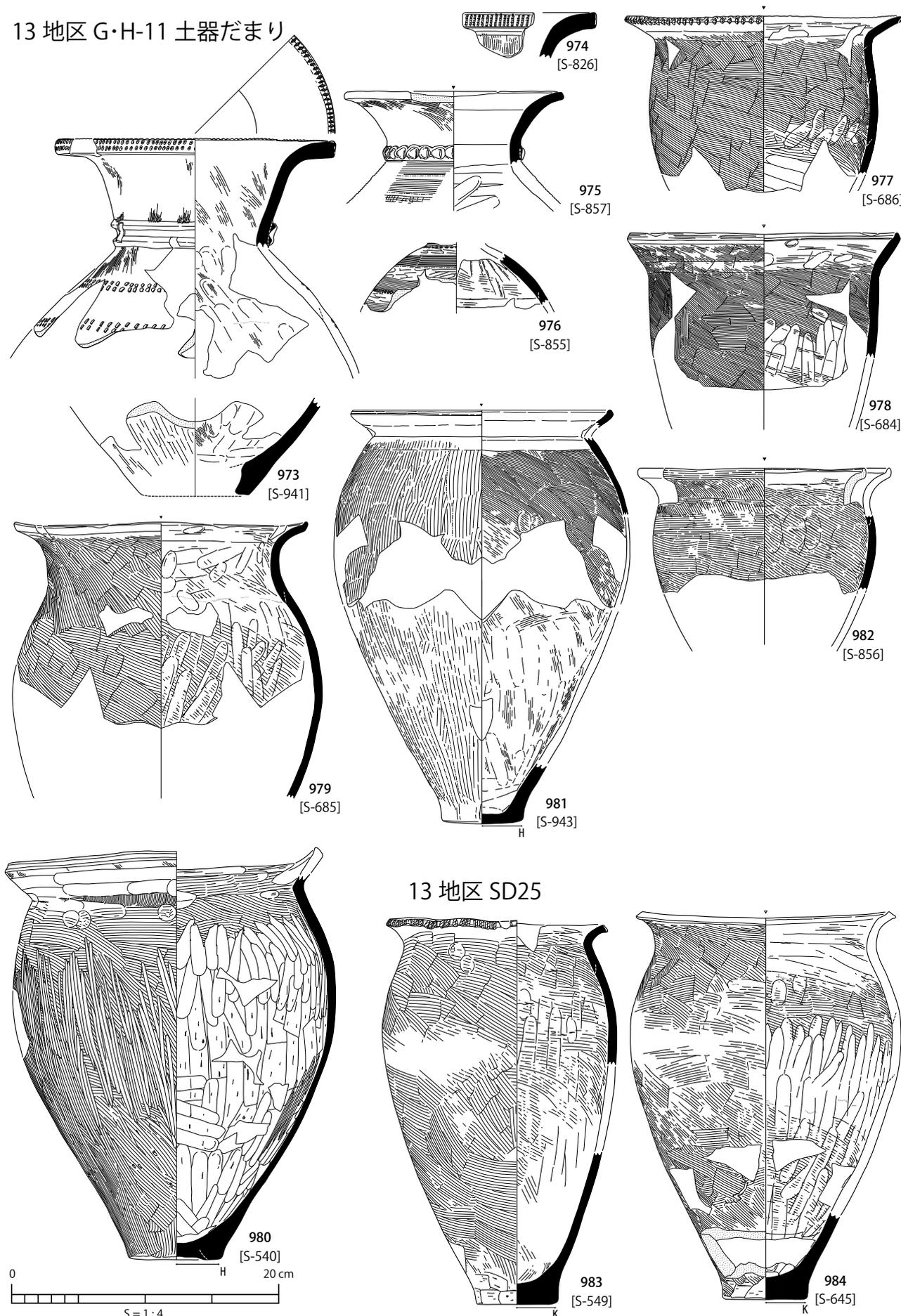
13 地区大穴

13 地区 SD02



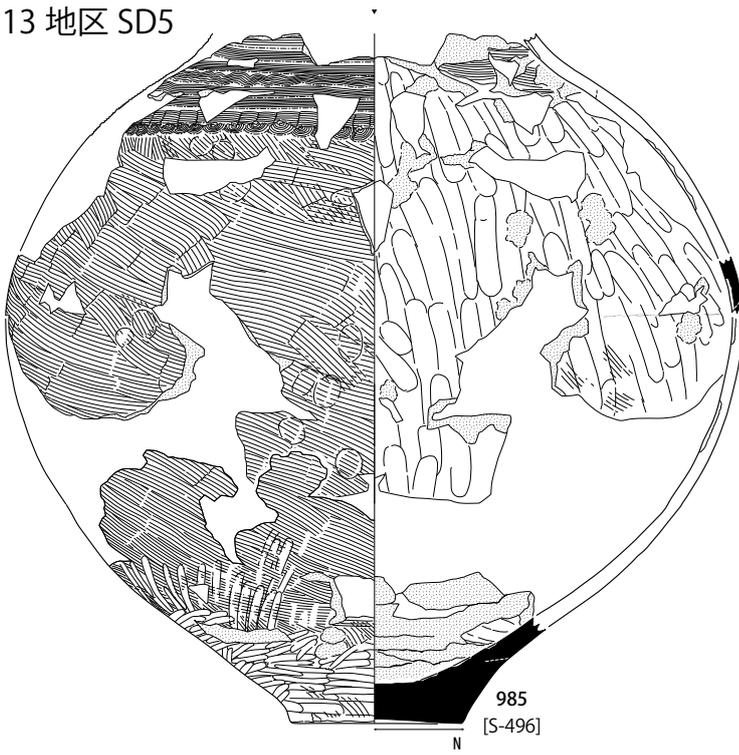
第 99 图 13 地区遺構出土土器 17(S=1/4)

13 地区 G・H-11 土器だまり

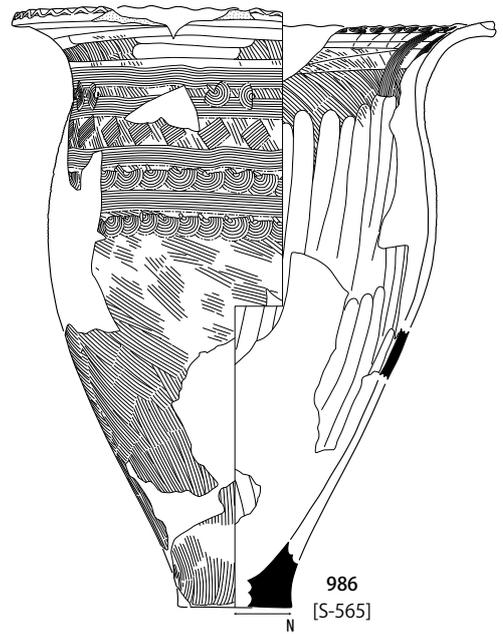
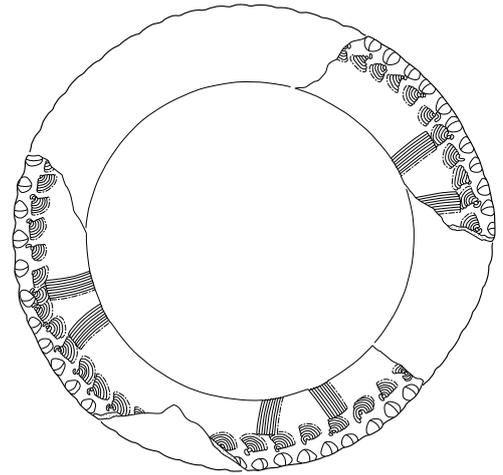


第 100 図 13 地区遺構出土土器 18(S=1/4)

13 地区 SD5

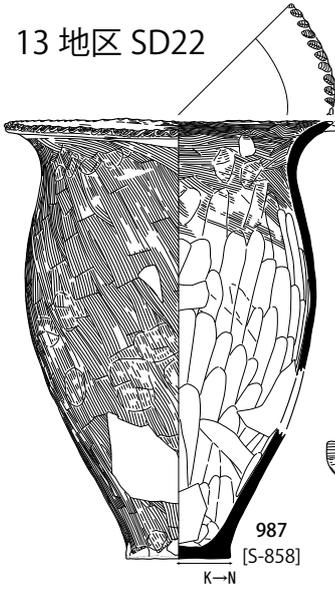


985
[S-496]



986
[S-565]

13 地区 SD22



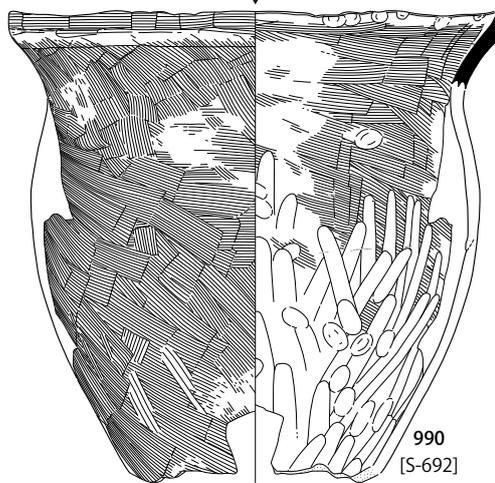
987
[S-858]

13 地区 SD33

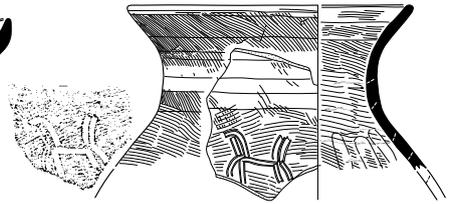


989
[S-1015]

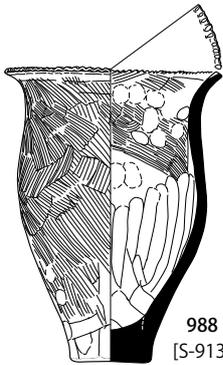
13 地区 I2-20-K



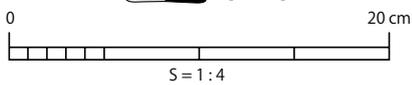
990
[S-692]



991
[S-803]

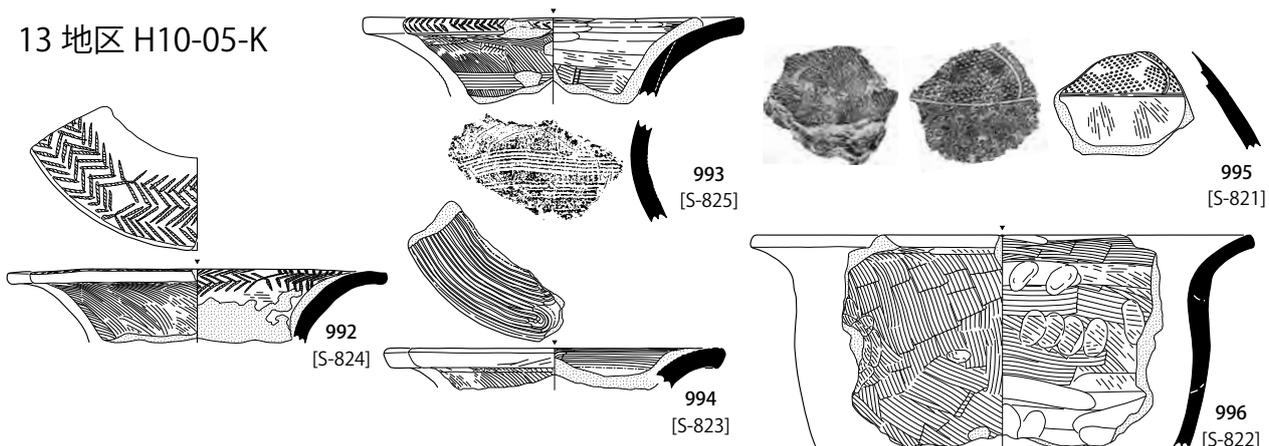


988
[S-913]

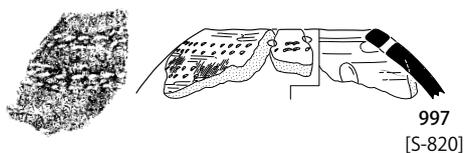


第 101 图 13 地区遺構出土土器 19(S=1/4)

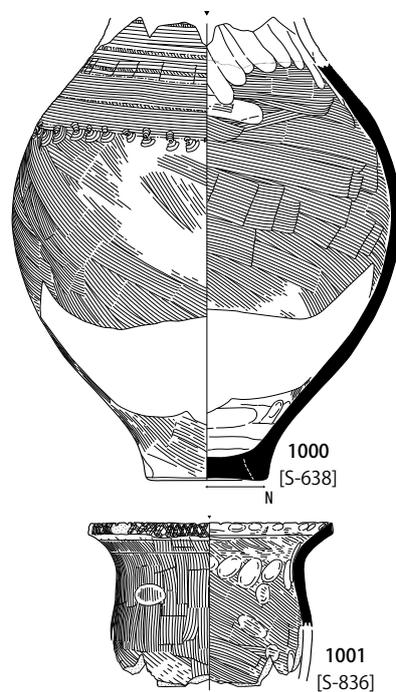
13 地区 H10-05-K



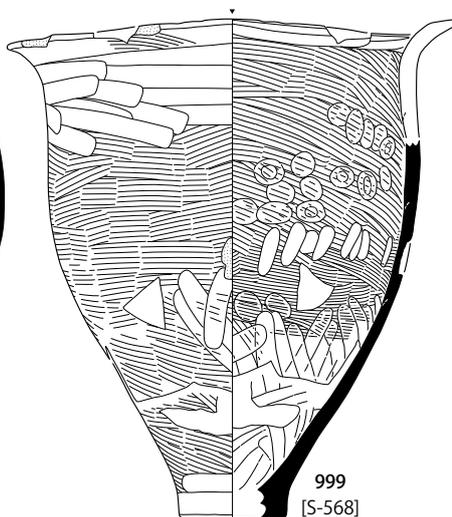
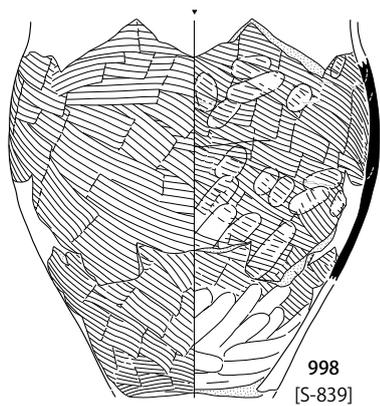
13 地区 H10-05-K·I9-01-K



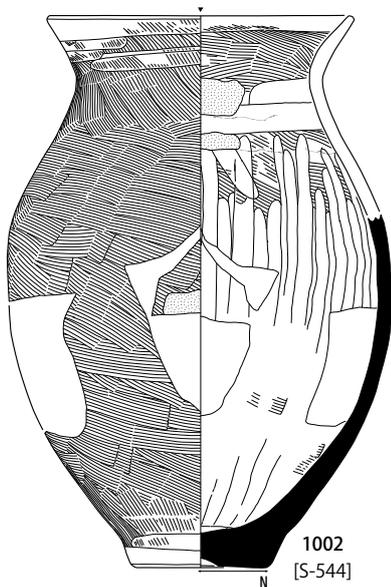
13 地区 H9-03-K



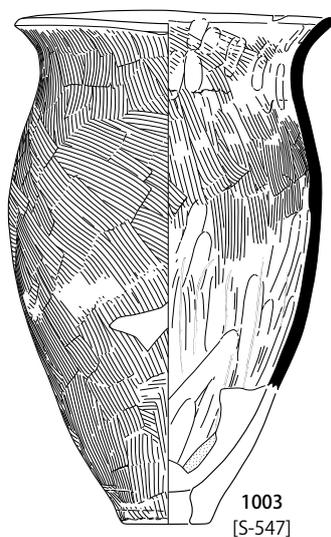
13 地区 F5-02-K



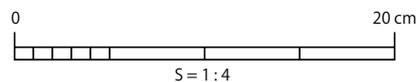
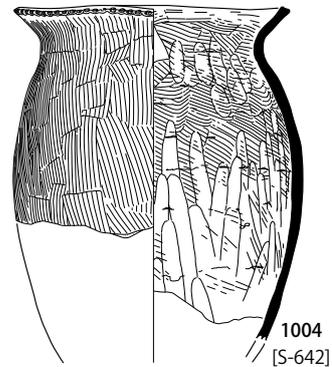
13 地区 E6-24-K



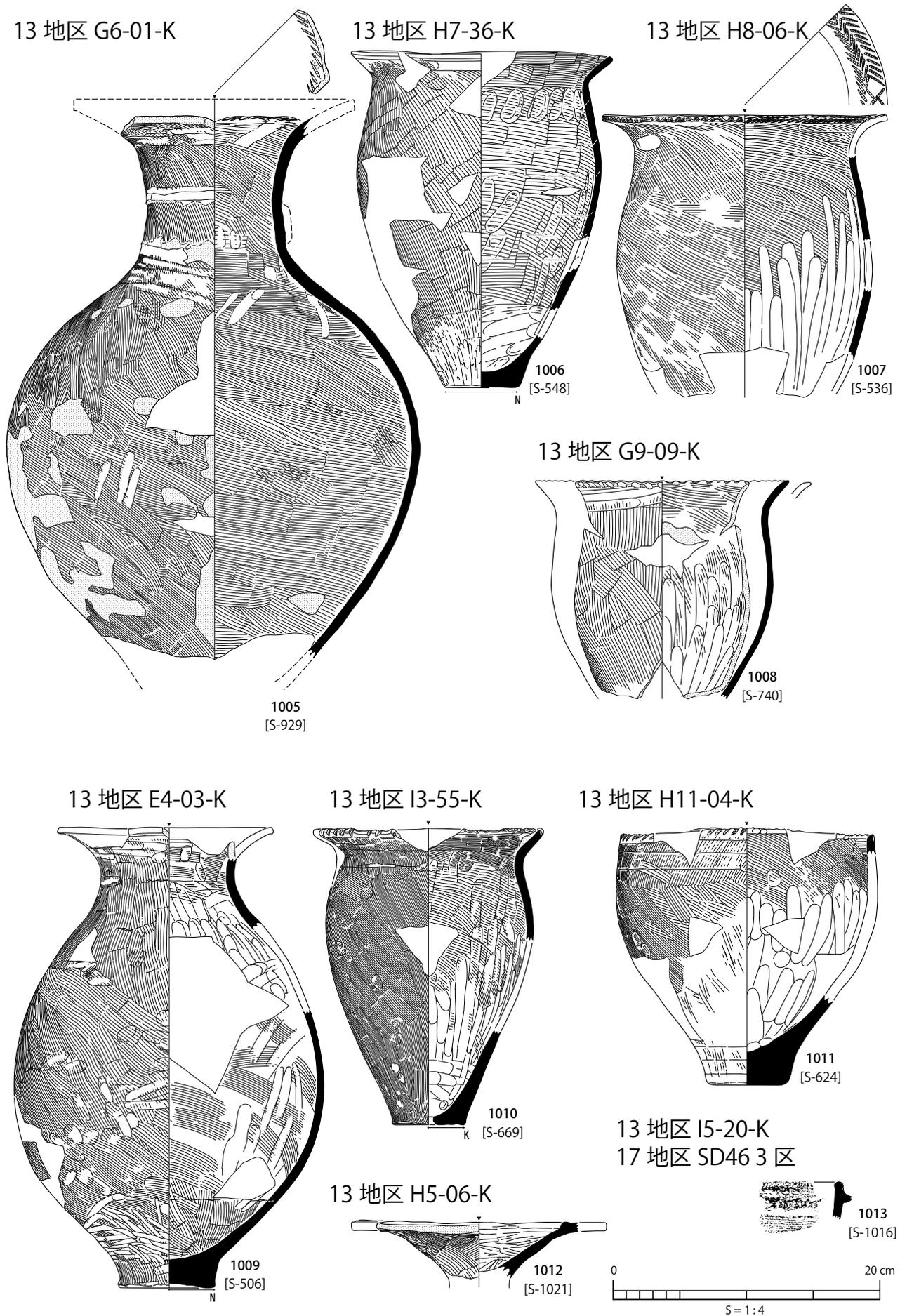
13 地区 F8-03-K



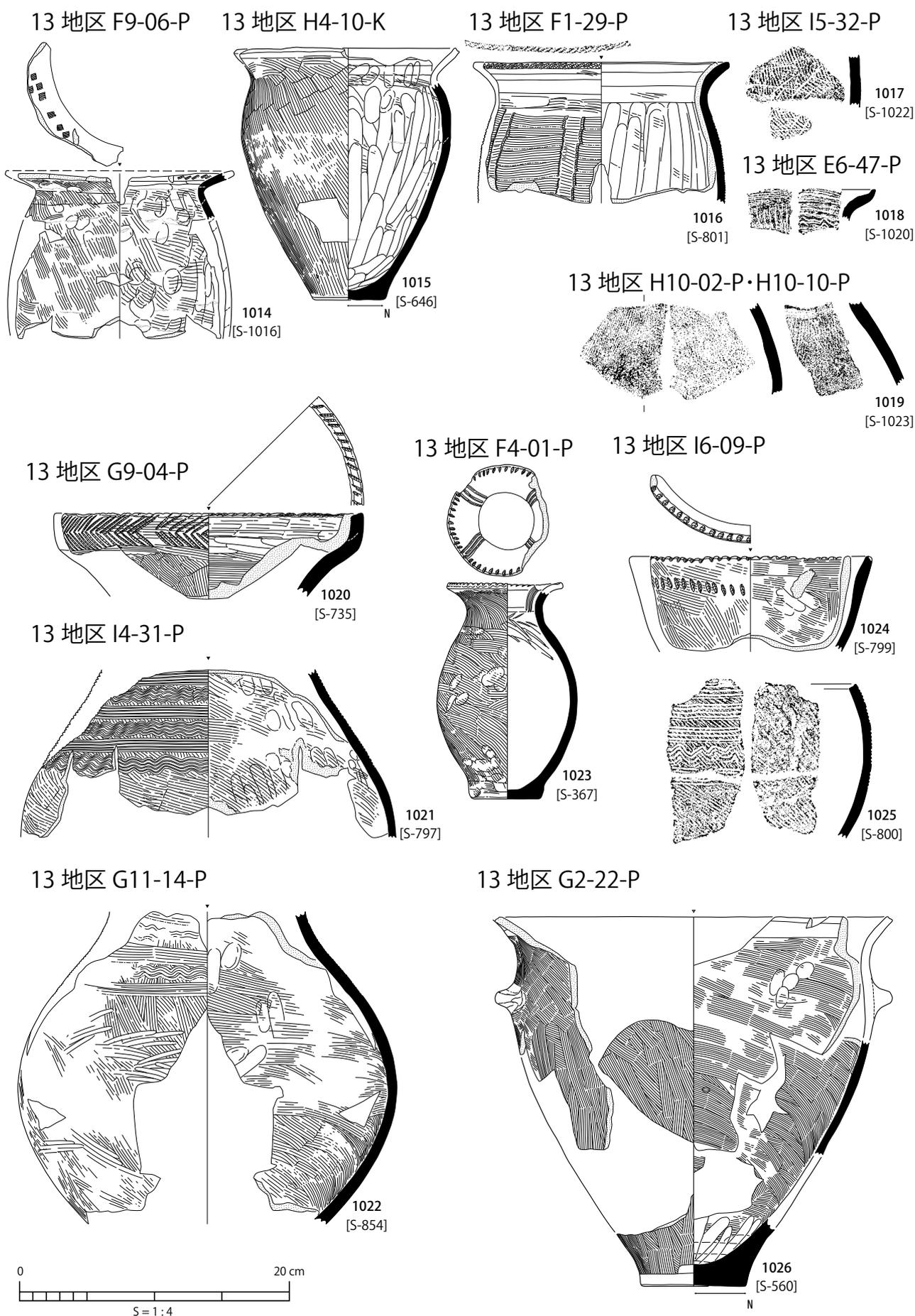
13 地区 F4-03-K



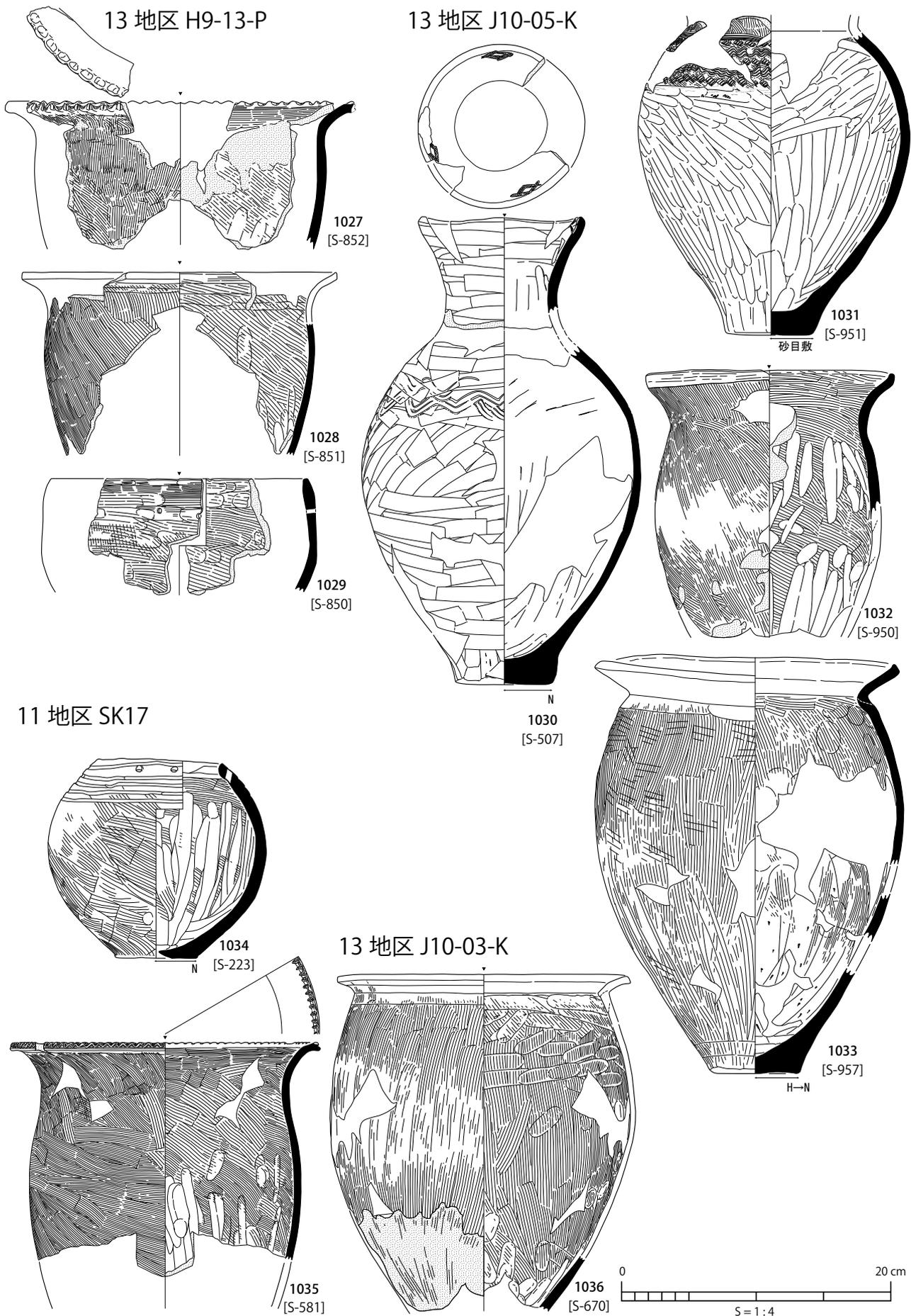
第 102 图 13 地区遺構出土土器 20(S=1/4)



第 103 图 13 地区遺構出土土器 21(S=1/4)



第 104 图 13 地区遺構出土土器 22(S=1/4)

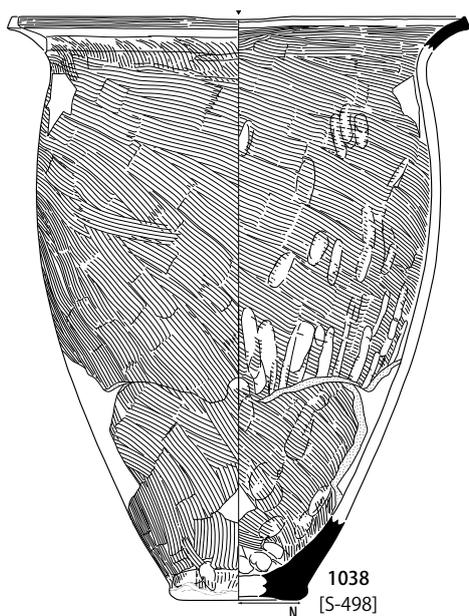


第 105 图 13 地区, 11 地区遺構出土土器 (S=1/4)

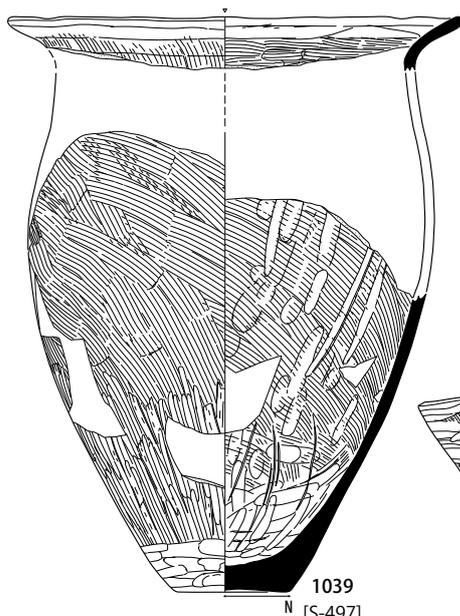
11 地区 SK91



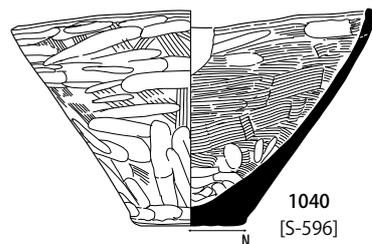
1037
[S-492]



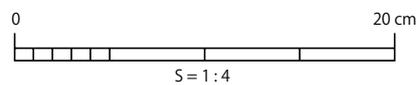
1038
[S-498]



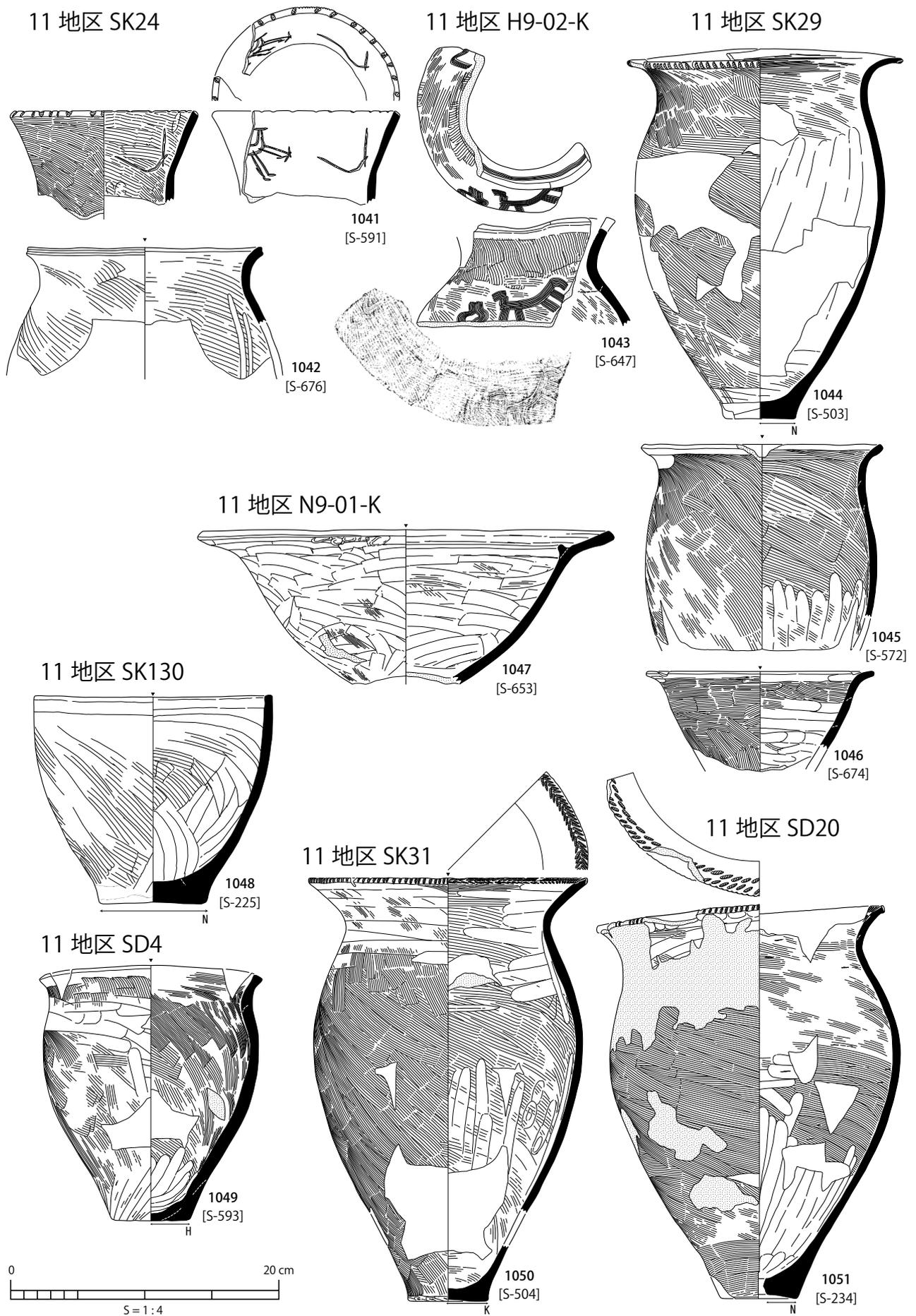
1039
[S-497]



1040
[S-596]

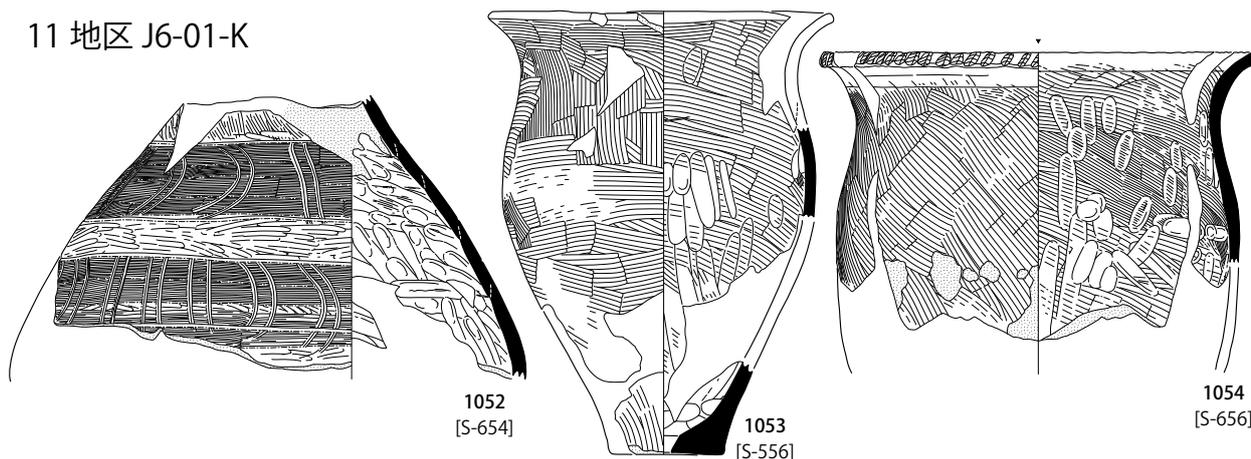


第 106 图 11 地区遺構出土土器 2(S=1/4)

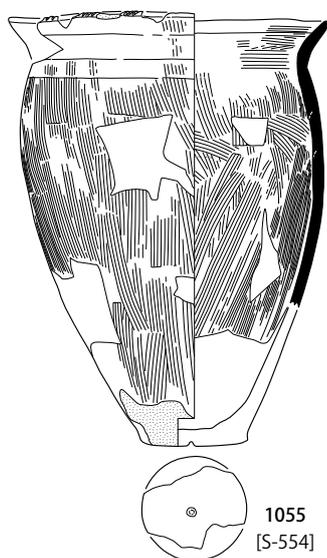


第 107 图 11 地区遺構出土土器 3(S=1/4)

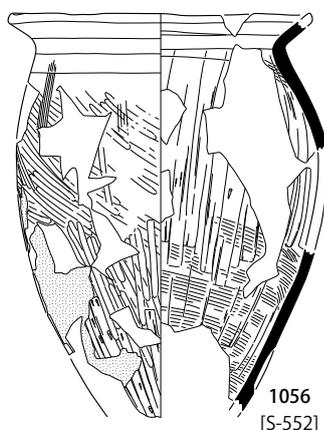
11 地区 J6-01-K



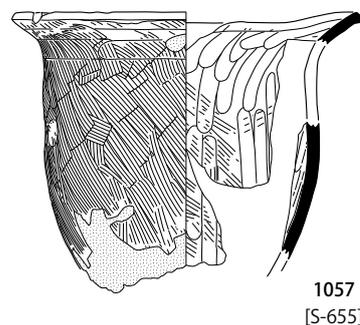
11 地区 J6-01-K·SD45



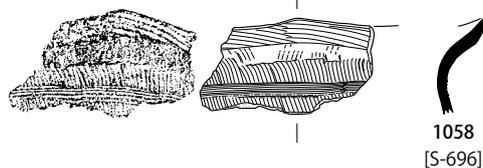
11 地区 SD45



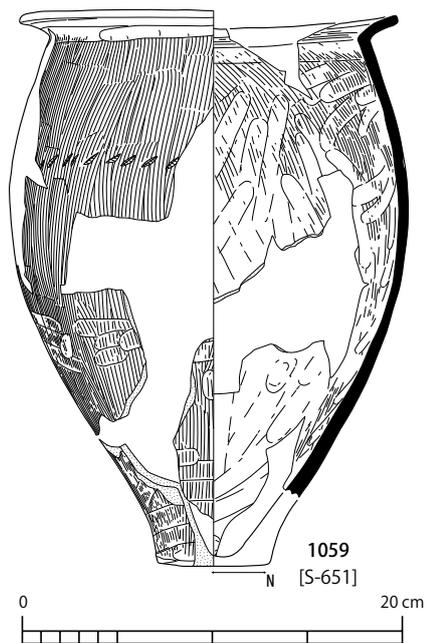
11 地区 J6-01-K·J7-04-K



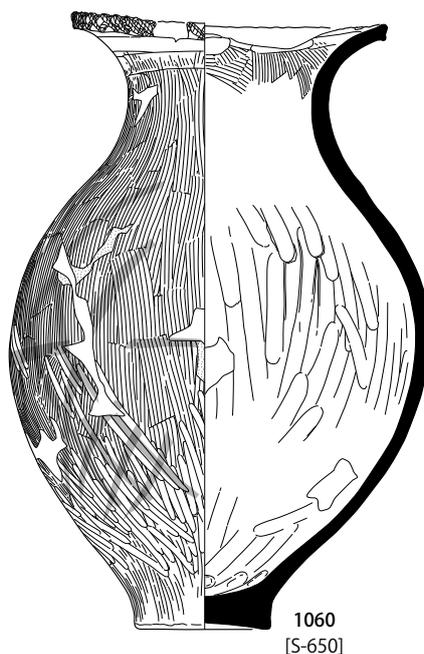
11 地区 K5-01-K



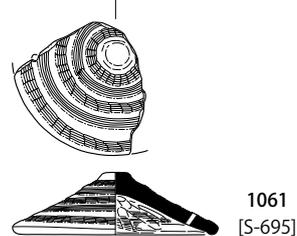
11 地区 M6-02-K



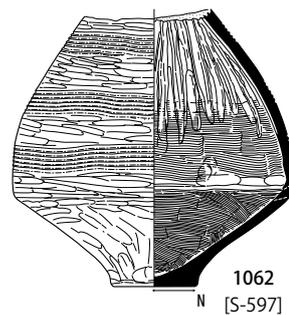
11 地区 I6-01-K



11 地区 K6-16-K

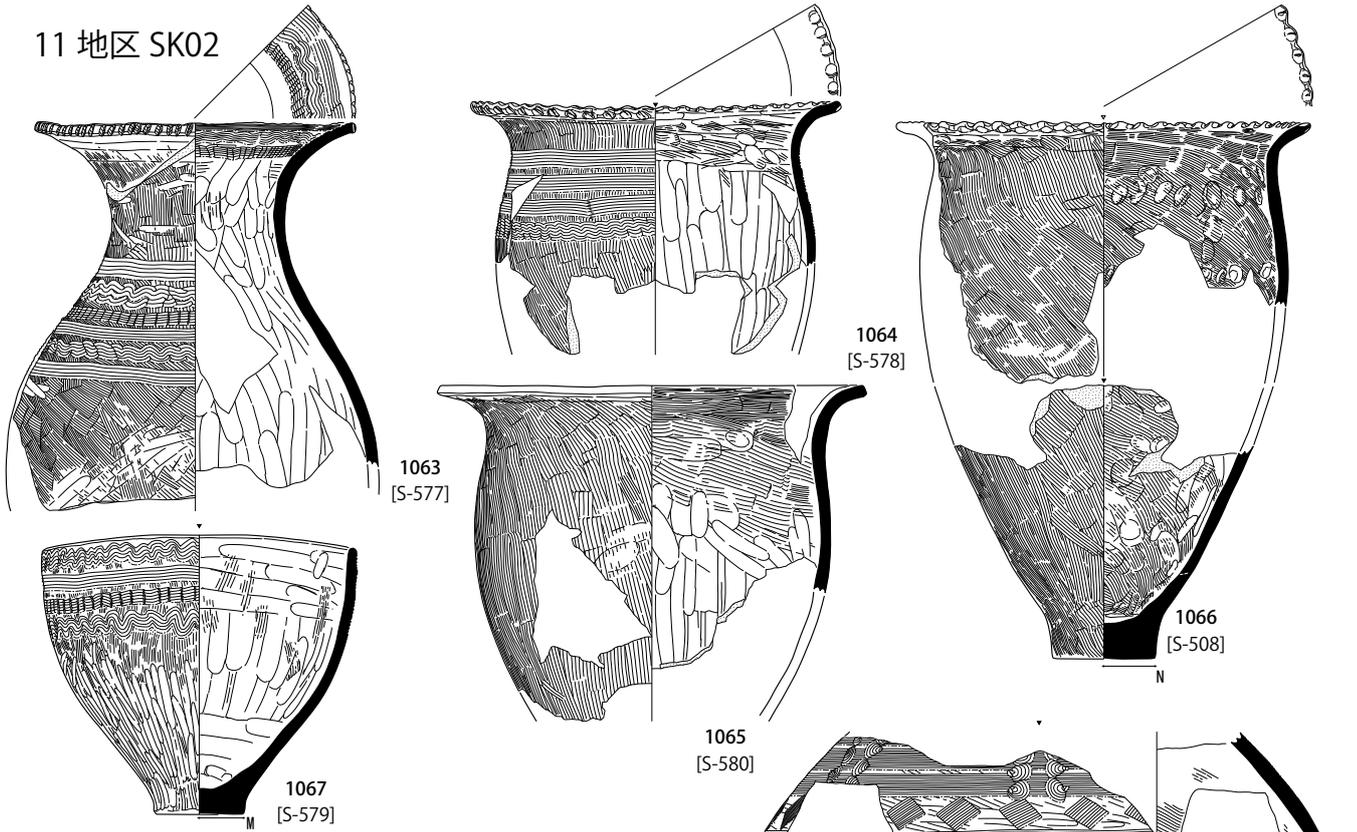


11 地区 SK128

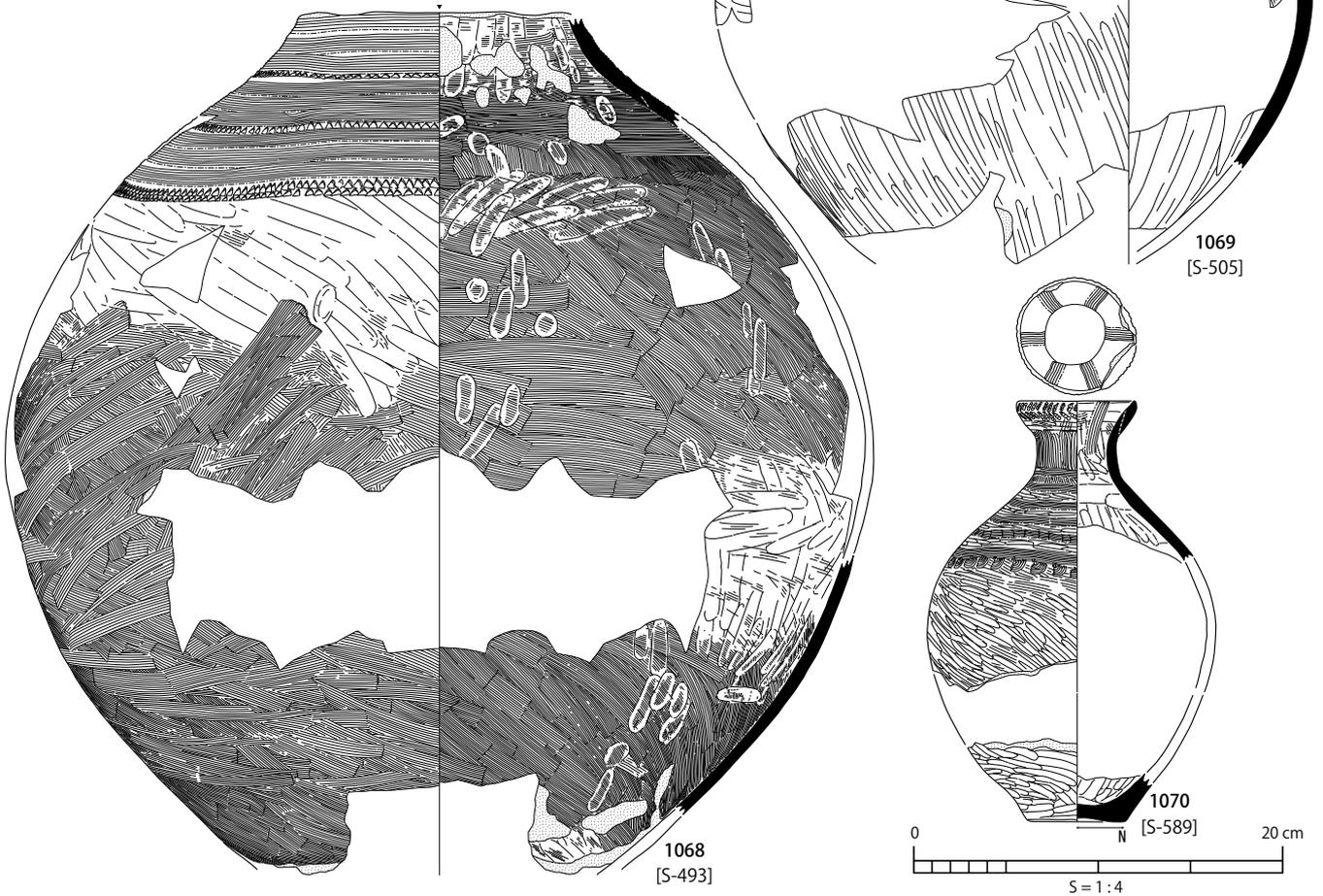


第 108 图 11 地区遺構出土土器 4(S=1/4)

11 地区 SK02

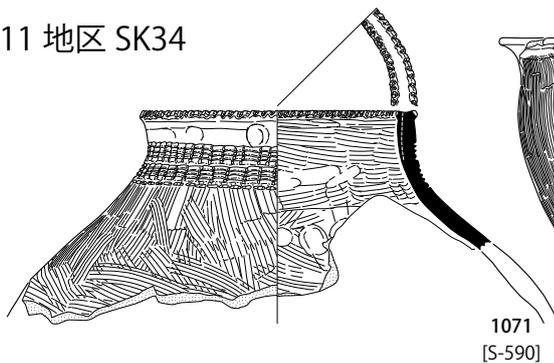


11 地区 SK38



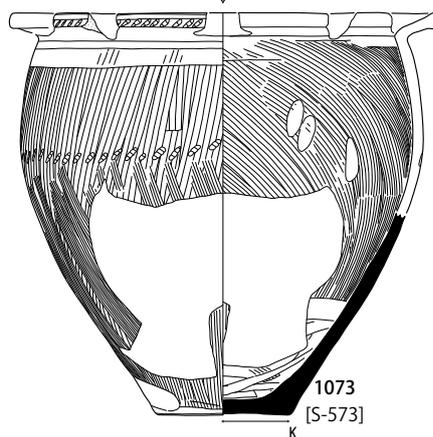
第 109 图 11 地区遺構出土土器 5(S=1/4)

11 地区 SK34



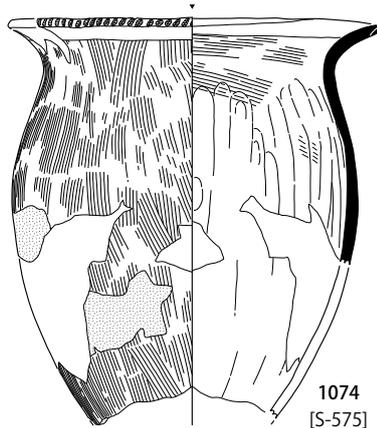
1071
[S-590]

11 地区 SK41



1073
[S-573]

11 地区 SK3a

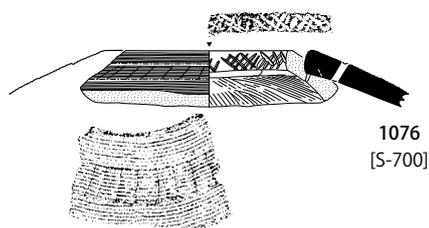


1074
[S-575]



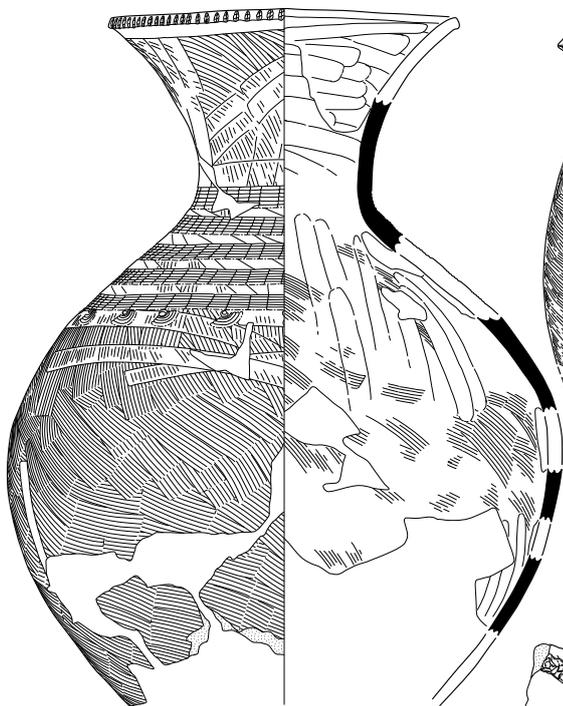
1075
[S-576]

11 地区 J8-08-K

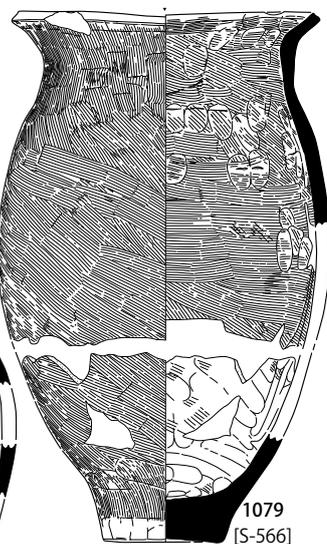


1076
[S-700]

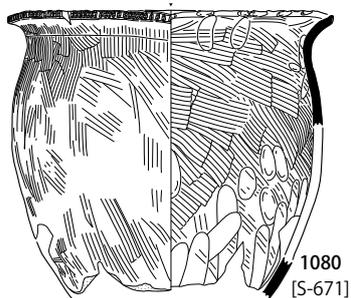
11 地区 J9-08-K



1077
[S-567]

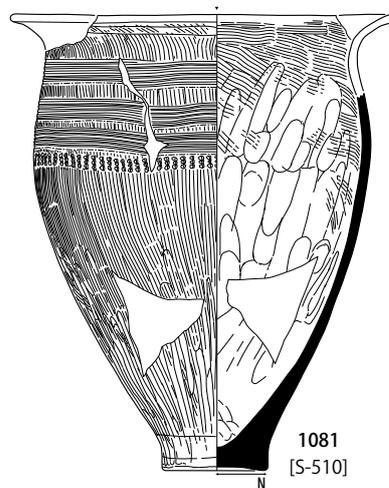


1079
[S-566]

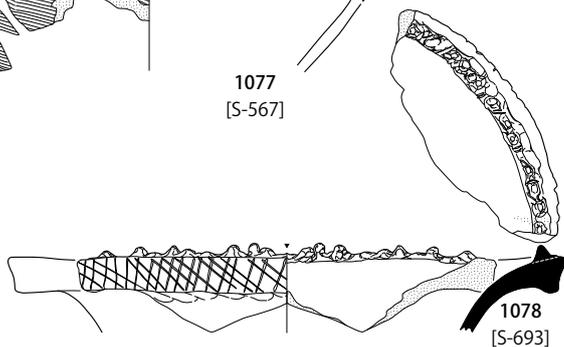


1080
[S-671]

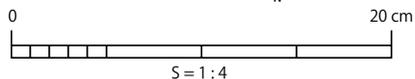
11 地区 SK72



1081
[S-510]

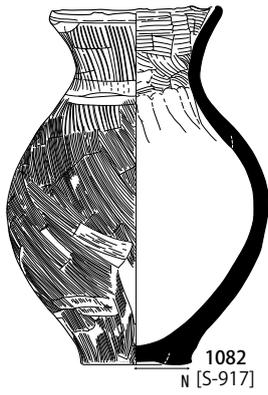


1078
[S-693]



第 110 图 11 地区遺構出土土器 6(S=1/4)

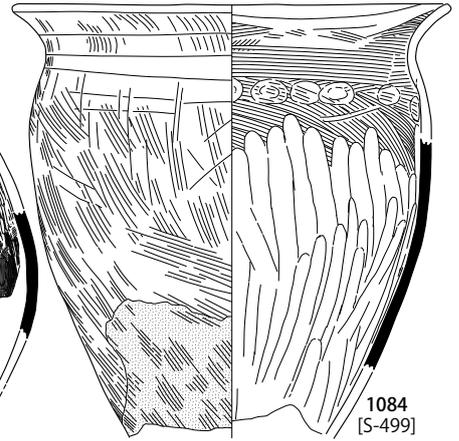
11 地区 f-7gr SK02



11 地区 SK67



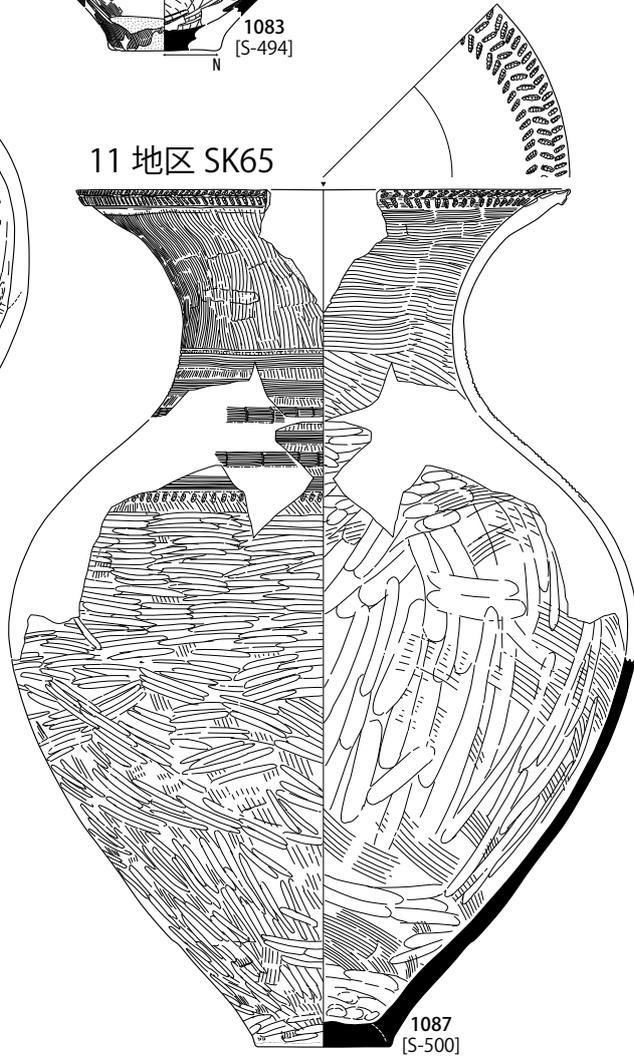
11 地区 SK77



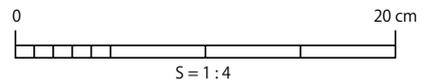
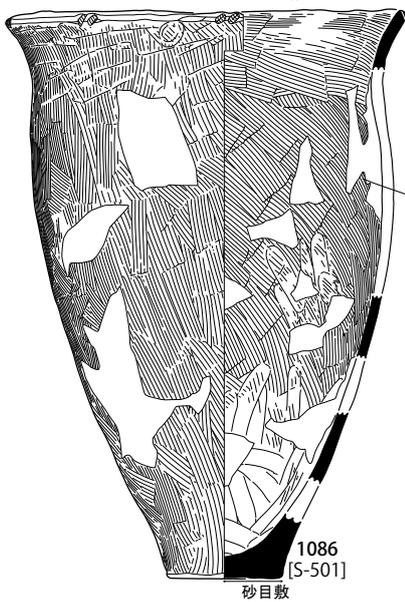
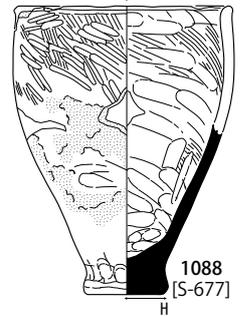
11 地区 SK87



11 地区 SK65

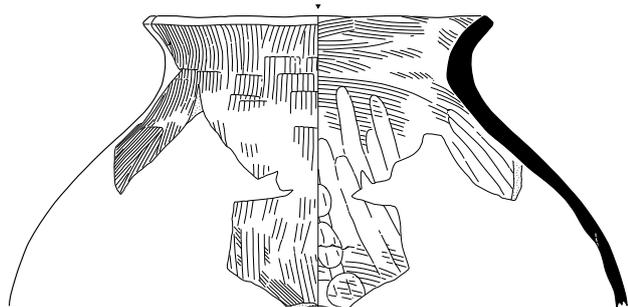


11 地区
N-3gr SP141



第 111 图 11 地区遺構出土土器 7(S=1/4)

11 地区 SD15



11 地区 SD16



1089
[S-592]

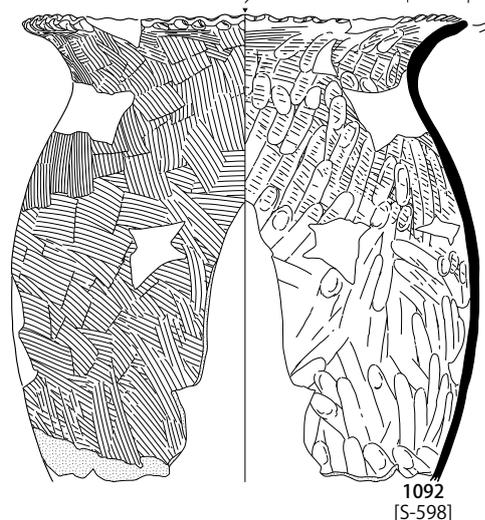


1090
[S-516]

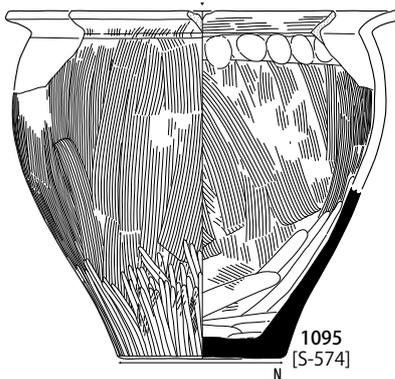
11 地区 SD21



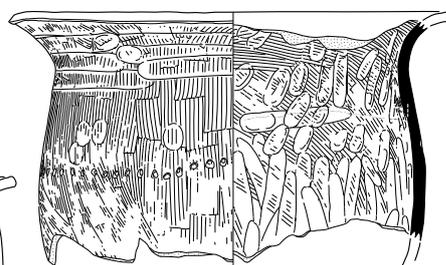
1094
[S-561]



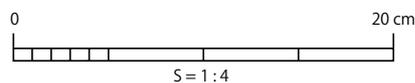
1092
[S-598]



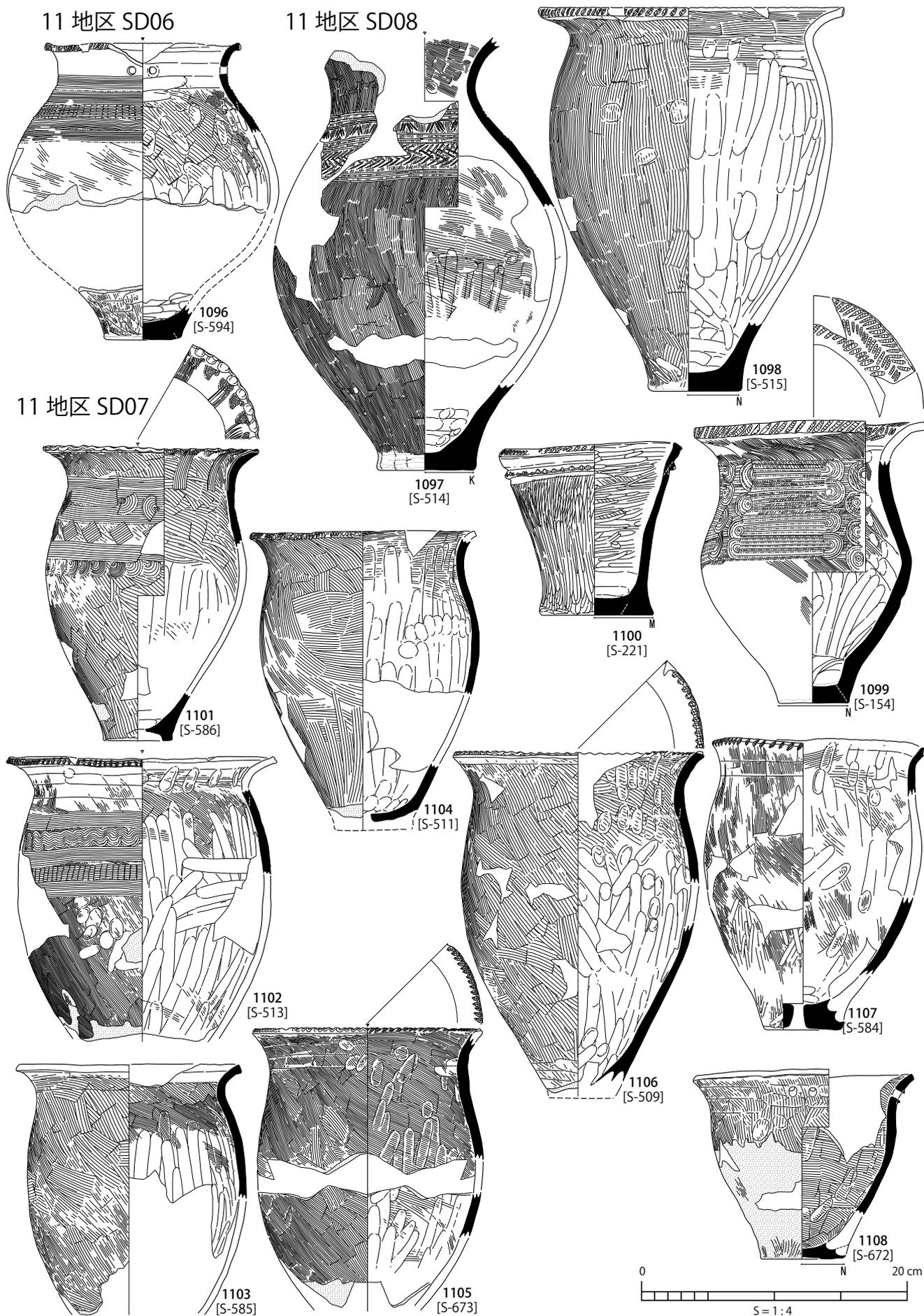
1095
[S-574]



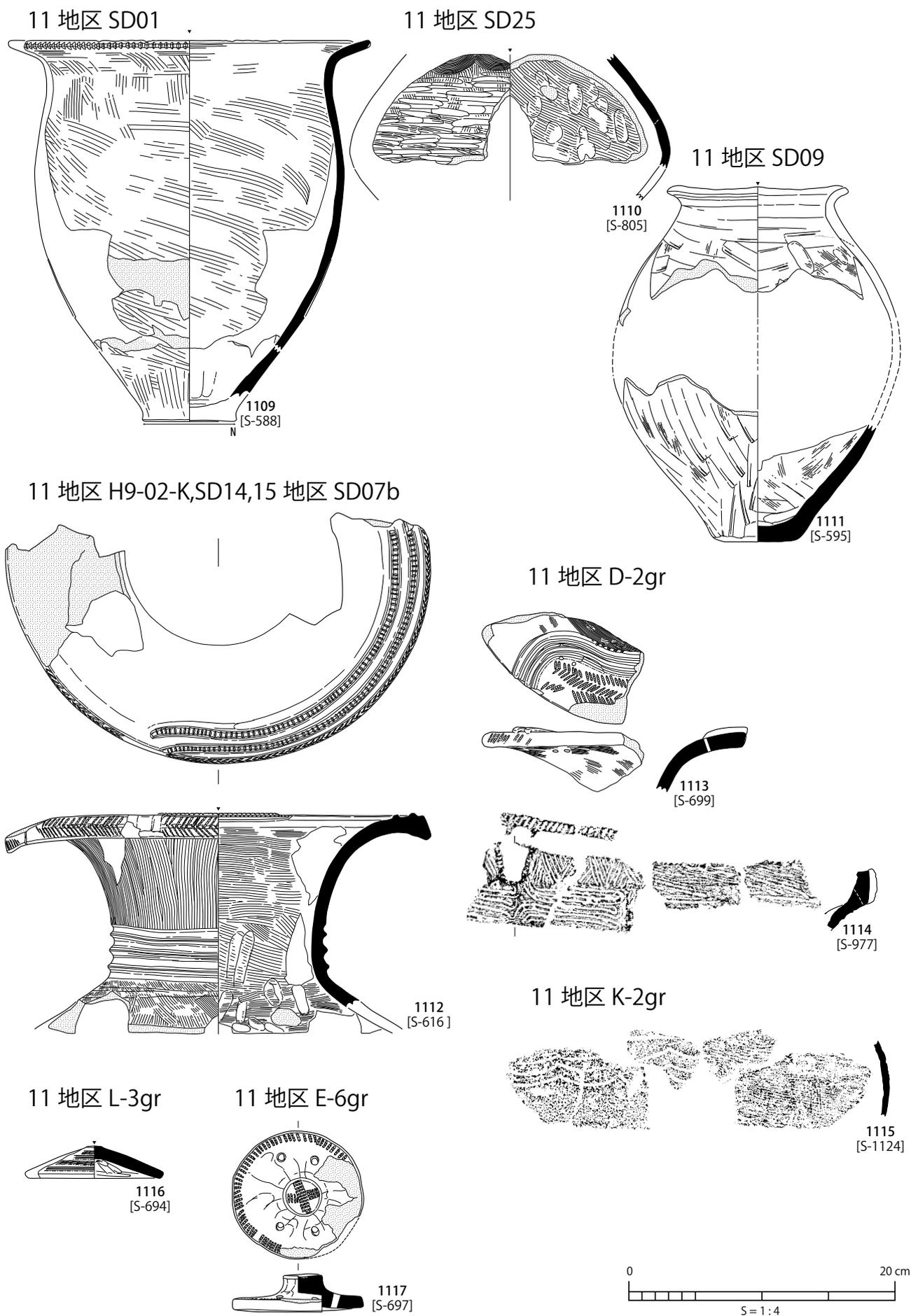
1093
[S-587]



第 112 图 11 地区遺構出土土器 8(S=1/4)



第 113 图 11 地区遺構出土土器 9(S=1/4)



第 114 图 11 地区遺構出土土器 10(S=1/4)

凡例

- ・分類：系統を記す。櫛描文系無・有文（Ⅰ）、条痕文系無・有文（Ⅱ）、近江系（Ⅲ）、貝田町式・東海系（Ⅳ）、西日本系（Ⅴ）、沈線文系（Ⅵ）、凹線文系（Ⅶ）、栗林系（Ⅷ）
- ・被熱：煮沸ないしは、二次被熱を受けたもの
- ・塗布：赤彩ないしは、黒色、条痕文系特有の茶褐色系の塗布がみられるもの
- ・器種：壺、甕、鉢に関しては円盤据置法、円盤充填法を記載、高杯、台付き鉢は挿入法か円盤充填法、貼付法を記載
- ・調整：①直＝直線文、波＝波状文、簾＝簾状文と省略する
②ゆ工具、二枚貝、櫛状工具を記載、櫛状工具に関しては分かる範囲で、結束本数を記載
③ → は成形、調整の順序を示す
④調整（胴部）は頸部～胴部～底部側面までが対象、調整（口縁）は口縁部から口縁端部までを含む、底部は底面調整を指す

No	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整（外面）	調整（内面）	調整（口縁）	調整（口縁内）	調整（底部）
1	5期以前	壺胴部	渦巻文系		有	無	—	沈線で渦巻き文か	ナ			
2	1期以前	甕胴部			無	無	—	横方向に細かい条痕か	ナ			
3	5-6期	壺頸部	東日本系か		無	無	—	コナ → 沈線→縦、斜め沈線	コナ			
4	5期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナナ	ナナ → 縦方向指ナ	ナナ、口縁端部のゆ工具刺突	コナ	ナ
5	1期以前	甕口縁部	-		有	無	—	横指ナ	コナ			
6	5期か	壺胴部	条痕文系無文		無	無	—	横～斜めに櫛状条痕	コナ			
7	9期	壺か	栗林系か		無	無	—	ナ → 沈線による直+波+直	ナ			
8	9期	高杯脚部	-	外面磨耗激しい	無	無	—	—	—	—	—	ナリ
9	9期	甕	近江系影響型在り		有	無	—	横～ナナ → 胴部下放射状ナ	コナ → 胴部下部分的に指ナ	コナ	コナ → コナ	
10	5-6期	壺口縁部	条痕文系有文		無	無	—	—	—	斜め櫛状条痕、下頸部指ナ、櫛状突起風、口縁端部櫛状条痕工具による刺突か	コナ → 櫛状工具直線文	
11	6期	壺口縁部	条痕文系有文		無	無	—	ナ	—	3本1組櫛状条痕による横羽状、口縁端部横～ナナ櫛状条痕、下頸部指押しえ	コナ	
12	5-6期	壺頸部	条痕文系有文		無	無	—	横方向に櫛状条痕、条痕による刺突	横指ナ			
13	6期	壺胴部	沈線文系か		無	無	—	沈線によるコの字重ね文 → ナキ	粗いコナ			
14	6期	壺胴部	沈線文系		有	無	—	沈線によるコの字重ね文	コナ → コナ			
15	5-6期	壺胴部	条痕文系有文		無	無	—	横方向に櫛状条痕 → 撥ね上げ文	ナ			
16	5期か	壺胴部	条痕文系無文		無	無	—	縦方向に櫛状条痕	コナ			
17	5-6期	壺胴部	条痕文系有文		無	無	—	横方向に櫛状条痕 → 3本1組櫛状条痕による山形文 → 空間にコナナキ	コナ			
18	5-6期	壺胴部	条痕文系有文		無	無	—	櫛状条痕 → 直線 → 撥ね上げ文、沈線による山形文	ナ			
19	5-6期	壺胴部	条痕文系有文	内面剥離	無	無	—	5本1組櫛状条痕 撥ね上げ文 → 直線、沈線による山形文	—			
20	5-6期	壺胴部	条痕文系有文		無	無	—	横方向に櫛状条痕 → 波状文	コナ			
21	5-6期	壺胴部	条痕文系有文		無	無	—	8本1組櫛状条痕、直線文2条 → 波状文	横指ナ			
22	5-6期	壺胴部	条痕文系有文		有	無	—	横方向に櫛状条痕、2本1組櫛状条痕で山形文	コナ			
23	5期以前	壺胴部	条痕文系無文		無	無	—	横方向に5本1組櫛状条痕	コナ			
24	5-6期	壺胴部	条痕文系無文		無	無	—	縦方向に櫛状条痕	コナ			
25	5-6期	壺胴部	条痕文系無文		無	無	—	縦方向に櫛状条痕	コナ			
26	6期か	鉢	櫛描文系無文	内外面磨耗激しい	無	無	—	コナナキ	コナナキ			
27	5期以前	甕口縁部	条痕文系無文		有	無	—	横方向に櫛状条痕	コナ	端部に櫛状条痕の刺突有		
28	5-6期	甕頸部	条痕文系無文		有	無	—	斜め方向に櫛状条痕	横～斜めナ			
29	5期以前	甕胴部	-	全面磨耗激しい	有	無	—	ナ → 沈線	ナ			
30	5期以前	甕胴部	-		有	無	—	横方向の沈線か	横方向に貝によるナリか			
31	5期以前	甕胴部	条痕文系無文		有	無	—	斜め方向に櫛状条痕（縦羽状か）	コナ			
32	6期	壺胴部	貝田町式		有	無	—	下から上に沈線区画 → 13本1組細櫛状工具 直線文 → 2本3組の櫛状工具で縦に波状文				
33	6期	壺	櫛描文系有文	2個1対の蓋穴有	無	無	—	ナナ → 5本1組櫛状工具 直+波+直+波+直+波+直+波、櫛描文下斜めナキ	ナ → 指ナ			
34	5期以前	壺底部	条痕文系無文		無	無	—	櫛状条痕	コナ			ナカ
35	6期か	高杯杯部	水平口縁		無	無	—	ナナ	コナ → コナナキ	端部のゆ工具刺突	コナ → コナナキ	
36	6期	壺頸部	櫛描文系有文		無	無	—	ナナ → 2本貼付突帯 → 5本1組櫛状工具 直線文	ナナ			
37	6期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無	—	ナナ	ナナ → 縦方向の指ナ	ナナ、口縁端部にゆ工具の刺突	コナ	
38	6期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無	—	ナナ	ナナ → 胴部下に縦方向の指ナ	口縁端部 コナ → ゆ工具の刺突2個1対(8単位か)	コナ	
39	6期	壺口胴部	沈線文系		有	無	—	ナ → 3本1組櫛状工具区画 → 区画内にLR縄文	コナナキ	波状口縁 ナ → 3本1組櫛状工具区画 → 区画内にLR縄文	ナ → 3本1組櫛状工具区画 → 区画内にLR縄文	
40	5-6期	壺胴部	東日本系か		無	有	—	ナナ → 沈線による渦巻き文か	ナ			
41	6期	甕胴部	-		無	無	—	ナ → 櫛状工具による縦羽状	コナ			
42	5期	甕胴部	条痕文系無文		有	無	—	横方向に櫛状条痕	コナ			
43	6期	甕	近江系か（櫛描文系有文）		無	無	—	ナナ → ゆ工具による波状文3条	ナナ → 縦方向指ナ	コナ → 2個1対のゆ工具による刺突(15-16単位)	波状+直(ナ) + 波状+直(ナ)	
44	5-6期	壺	櫛描文系無文(D類)		有	無	円盤据置法	ナナ → 頸部ナナ	ナナ → 最大径縦方向指ナ	コナ、口縁端部のゆ工具による刺突	コナ → コナ	ナ

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
45	6期	壺口頸部	櫛描文系有文		無	無		好ナケ→2個1対の勾玉浮文(4単位)→横向き刺突→縦向き刺突	好ナケ→ナゲ	好ナケ→ココナデ→口縁端部に(円形刺突(木本科系茎)+三角刺突)2→口唇部に櫛状工具の刺突	ココナデ→ココナデ→三角刺突	
46	6期	壺口頸部	櫛描文系有文		無	無		好ナケ→4本1組櫛状工具直+波+直+波	ココナデ→ナゲ	ココナデ→口縁端部に沈線→好ナケ工具によるX字状刻み	ココナデ→ココナデ→三角刺突3本1組太い櫛状工具波状文	
47	6期	壺	櫛描文系有文	焼成後破砕	有	無	円盤据置法	斜め→好ナケ→底部側面ココナデ→胴部下半部分的にヨシギキ、4本1組櫛状工具直+波+直+波+直+波→最大径に瘤状突起(9単位)	縦→好ナケ→最大径ココナデ	ココナデ→口縁端部に好ナケ工具によるX字状刻み		砂目敷
48	6期	壺	櫛描文系有文	焼成後破砕、二次被熱有	有	無		好ナケ→部分的にヨシギキ、胴部上半7本1組櫛状工具(直+直)+(直+波)+(直+波)+直+波+波	好ナケ→胴部最大径ココナデ	好ナケ→ココナデ、口縁端部に好ナケ工具によるX字状刻み	ココナデ	
49	6期	壺	櫛描文系有文	焼成後破砕、二次被熱有	有	無		好ナケ→部分的にヨシギキ、胴部上半4本1組櫛状工具(波+直+波+直+波+三角刺突)	好ナケ→ナゲ	ココナデ、口縁端部に好ナケ工具による刺突	ココナデ→波状文	砂目敷→中央部のみナゲ
50	6期	壺	櫛描文系有文	焼成後破砕、体部に勾玉浮文	有	無	円盤据置法	好ナケ→4本1組櫛状工具(波+直)4+波+波	縦→好ナケ→底部付近、頸部部分的に行	ココナデ→好ナケ工具によるX字状刻み	ココナデ	砂目敷
51	6期	壺	櫛描文系有文	焼成後破砕、二次被熱有	有	無	円盤据置法	好ナケ→部分的にヨシギキ、胴部上半4本1組櫛状工具(波+直+波+直+流水+直)				砂目敷→中央部のみナゲ
52	6期	壺	櫛描文系有文	焼成後破砕、口縁内面に勾玉浮文	有	無	円盤据置法	好ナケ→部分的にヨシギキ、7本1組櫛状工具(直2+直2+波+直+波2+直+半円文)→最大径のあたりに瘤状突起有	好ナケ→最大径横方向の指ナゲ	ココナデ→ココナデ	ココナデ→ココナデ→波状文3+2個1対勾玉浮文(4単位か)	砂目敷→中央部のみナゲ
53	2-3期	壺口縁部	条痕文系有文	(柴山出村式)北加賀産	無	無		好ナケ→貼付突帯2段5段にわたり連続した指押圧、部分的に貼付有(4単位か)	ココナデ			
54	5-6期か	壺口縁部	-		無	無	-	好ナケ	-	好ナケ→ココナデか	ココナデ→ココナデ	
55	6期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		好ナケ	好ナケ→縦方向の指ナゲ			
56	5-6期	壺口胴部	櫛描文系無文		有	無		好ナケ	好ナケ→縦方向の指ナゲ	ココナデ→口縁端部に好ナケ工具の刺突	ココナデ	
57	6期	壺胴底部	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	粗い縦→好ナケ→底部側面に指ナゲ	細かい好ナケ→粗い好ナケ→胴部上半縦方向の指ナゲ			ナゲ
58	5-6期	壺胴底部	櫛描文系無文	二次被熱有	無	無	円盤据置法	好ナケ→底部側面ココナデ	好ナケ→縦方向の指ナゲ			ナゲなし
59	6期	壺胴部	条痕文系有文		無	無		櫛状条痕による横撥ね上げ文や				
60	5-6期	甕口縁部	櫛描文系有文		無	無	-	縦→好ナケ→1本貼付突帯→板状工具によるX字状の刻み→横方向に1条の沈線	ココナデ→沈線有	口縁端部に板状工具のX字状の刻み	ココナデ	
61	6期	甕口胴部	櫛描文系有文		有	無		好ナケ→4本1組櫛状工具(直3+波+直)	好ナケ→縦方向の指ナゲ	ココナデ→口縁端部に好ナケ工具の刺突	ココナデ→直+簾	
62	5-6期	壺胴部	条痕文系有文		有	無		櫛状条痕斜め→扇形文→胴部下半横方向	ココナデ			
63	5-6期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無	-	好ナケ→最大径あたり好ナケ	好ナケ	好ナケ→口縁端部板状工具の刺突	ココナデ	
64	4期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		縦方向の板ナゲ	好ナケ→板ナゲ	ココナデ	ココナデ	
65	6期	壺口頸部	櫛描文系無文		無	無		ココナデ	好ナケ→斜め-横指ナゲ	ココナデ	ココナデ→ココナデ	
66	5-6期	壺頸部	櫛描文系有文		無	無	-	好ナケ→2条突帯	ココナデ	ココナデ	指押さえ明瞭	
67	6期	壺胴部	櫛描文系有文		無	無	-	好ナケ→好ナケ工具による刺突、弧線文	好ナケ→指押さえ有			
68	6期	鉢口縁部	櫛描文系無文		有	無		ナゲ→斜めヨシギキ	ココナデ→斜めヨシギキ	ココナデ	ココナデ	
69	5-6期	甕口頸部	櫛描文系有文	搬入か	無	無		好ナケ→頸部に貼付突帯1条→好ナケ工具による刺突→4本1組櫛状工具(直+波+直+直+波)	ココナデ	ココナデ→口縁端部に好ナケ工具の刺突	ココナデ→ココナデ	
70	6期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		好ナケ	好ナケ→斜め指ナゲ	ココナデ→口縁端部に好ナケ工具の刺突	ココナデ	
71	6期	甕	条痕文継承型無文		有	無	円盤据置法	好ナケ→好ナケ工具による横羽状	好ナケ→縦方向の指ナゲ	ココナデ→口縁端部に沈線→上下からの指押圧小波状	ココナデ	ナゲ
72	6期	甕胴部	櫛描文系有文		有	無		縦方向の好ナケ→7本1組櫛状工具(直+波+直+波+直)	好ナケ→縦方向の指ナゲ			
73	6期	甕	櫛描文系無文	内面磨耗激しい	有	無	円盤据置法	好ナケ→底部側面指押さえ	斜め→好ナケ	ココナデ→口縁端部に好ナケ工具の刺突	ココナデか	ナゲなし
74	5-6期	甕	櫛描文系無文	梯川流域	有	無	円盤据置法	斜め→好ナケ	好ナケ→部分的に指押さえ有	ココナデ	ココナデ→ココナデ	ナゲなし
75	5-6期	壺頸部~底部	条痕文系有文		有	無	円盤据置法	縦方向の櫛状条痕→頸部縦方向の好ナケ→(直線文3条→2本1組垂下線→撥ね上げ文→直線文2条→2本1組垂下線)下から上へ施文→沈線による山形文	ココナデ			ナゲ
76	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	細かい好ナケ→胴部上半及び底部周辺粗い好ナケ	細かい好ナケ	ココナデ→口縁端部に好ナケ工具によるX字状の刻み	ココナデ	砂目敷
77	6期	甕口胴部	条痕文系無文	広域に分散	有	無		櫛状条痕横→頸部縦方向	好ナケ→櫛状条痕横方向→縦方向の指ナゲ	ココナデ→口縁端部に沈線→上下からの指押圧小波状	櫛状条痕横方向	
78	6期	壺	近畿型近江系か(櫛描文系有文)	搬入	無	無	円盤据置法	好ナケ→4本1組櫛状工具(直6+(直+扇)4)→頸部、胴部下半ヨシギキ	好ナケ→ココナデ	ココナデ→口縁端部上下に櫛状工具の刺突有	ココナデ	
79	6期	壺口頸部	櫛描文系無文		無	無		ココナデ→頸部好ナケ	ココナデ→胴部上半指ナゲ	ココナデ→口縁端部に沈線→好ナケ工具の刺突	ココナデ	
80	5-6期か	壺	近江系か(ハケ又文)	内面表面剥離	無	無	-	好ナケ	-	ココナデ	ココナデ	
81	6期	壺口頸部	櫛描文系有文	梯川流域	無	無		好ナケ→6本1組櫛状工具(直6+波)	好ナケ→ナゲ		ココナデ→垂下文	
82	6期	壺胴底部	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	好ナケ→胴部上半指ナゲ→4本1組櫛状工具(直+波+直+直+垂下線+直)	好ナケ→胴部下半指ナゲ→頸部縦方向指ナゲ			
83	6期	壺胴底部	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	好ナケ→4本1組櫛状工具(波+直)	好ナケ→縦方向の指ナゲ			-
84	6期	壺胴底部	櫛描文系有文		無	無		好ナケ→櫛状工具(波+直)	好ナケ→部分的に指ナゲ			-
85	6期	壺胴底部	櫛描文系		無	無	円盤据置法	好ナケ	好ナケ→指ナゲ			

No	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
86	6期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ナメケ→頸部コナテ	ナメケ→部分的にナ	コナテ	コナテ	砂目敷
87	6期	甗	沈線文系継承型(櫛描文系有文)		有	無	円盤据置法	ナメケ→6本1組櫛状工具(波+直)4+波→2段直線文上に円形浮文(6単位)	ナメケ→指ナ	コナテ	コナテ→波2+縦方向の直+波を交互に施文	ナ
88	6期	鉢	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ナメケ→コナガキ	縦方向の指ナ	コナテ	コナテ	ナ
89	6期	甗口胴部	小波状口縁有文		有	無		粗いナメケ→細かいナメケ→4本1組櫛状工具(直+波)2				
90	5期か	甗口頸部	櫛描文系有文		有	無	—	ナメケ→5本1組直+直+波	ナメケ	コナテ→コナテ→板状工具によるX字状刻み	コナテ	
91	6期	甗口縁部	櫛描文系有文		無	無	—	ナメケ→7本1組櫛状工具直2+波+直2+半円文	粗いナメケ→コナテ	コナテ→ナメケによる刺突	粗いナメケ→コナテ	
92	6期	甗口縁部	沈線文系継承型か(縄文)		有	無	—	ナメケ→LR縄文	ナメケ	口縁端部に板状工具による刺突	ナメケ→LR縄文2段	
93	6期	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメケ→頸部、底部側面コナテ	ナメケ→縦方向の指ナ	コナテ→口縁端部にナメケ工具による刺突	コナテ	ナ
94	6期	甗口胴部	櫛描文系無文		有	無		縦~ナメケ→頸部コナテ	細かいナメケ→胴部縦方向の指ナ→頸部コナテ	コナテ→上下からの指押圧	コナテ	
95	6期	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	斜め~ナメケ	斜め~ナメケ	コナテ→口縁端部にナメケ工具による刺突	コナテ	ナなし
96	5-6期	甗口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメケ	コナテ→斜めナ	コナテ→口縁端部にナメケ工具による刺突	コナテ→指接痕	
97	6期	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメケ→底部側面、頸部コナテ	ナメケ→縦方向の指ナ	コナテ→口縁端部にナメケ工具による刺突	コナテ→コナテ	ナ
98	6期	甗口胴部	条痕文系無文		有	無		斜め~縦方向の櫛状条痕	コナテ	コナテ→口縁端部に刺突	横方向の櫛状条痕	
99	6期	甗	条痕文継承型無文		有	無	円盤据置法	ナメケ→頸部に斜め方向の櫛状条痕	ナメケ→胴部下半縦方向の指ナ	口縁端部に櫛状条痕による刺突	コナテ	ナなし
100	6期	甗口胴部	小波状口縁無文		有	無		ナメケ	ナメケ→胴部下半縦方向の指ナ	コナテ→上下からの指押圧 小波状	コナテ	
101	5-6期	甗口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメケ	ナメケ→部分的にナ	コナテ	コナテ	
102	6期	甗口胴部	条痕文継承型無文		有	無		粗いナメケ	ナメケ→部分的に縦方向のナ	コナテ	コナテ	
103	6期	甗口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメケ	ナメケ→胴部コナテ	コナテ	コナテ	
104	6期	甗口胴部	櫛描文系無文	梯川流域	有	無	円盤据置法	斜め~ナメケ	斜め~ナメケ→底部付近指ナ	コナテ→口縁端部にナメケ工具による刺突	コナテ	
105	2-3期	壺口縁部	条痕文系有文	柴山出村式(能登か)	有	無				沈線による羽状文→口縁下端に指押さえ有	ナ	
106	6期	壺頸部	櫛描文系有文(縄文施文)	搬入か	無	無		ナメケ→直3→LR縄文→7本1組櫛状工具 弧線文→直2→直3	コナテ→縦方向の指ナ			
107	6期	壺口胴部	櫛描文系有文	搬入	無	無		ナメケ→6本1組櫛状工具(直2+波)2→最大径以下コナガキ	ナメケ→頸部指押さえ	コナテ→口縁端部にナメケ工具による斜格子文	コナテ→三角刺突2段	
108	5-6期	甗口胴部	櫛描文系有文		有	無	—	ナメケ→4本1組櫛状工具直+波+直	ナメケ→4本1組櫛状工具波状文	コナテ→口縁端部、櫛状工具による刺突		
109	6期	甗口胴部	櫛描文系有文		有	無		ナメケ→5本1組櫛状工具直5-6条	ナメケ→縦方向の指ナ	コナテ→口縁端部にナメケ工具による刺突	コナテ	
110	6期	甗口胴部	櫛描文系有文	搬入か	有	無		ナメケ→板ナテ→6本1組櫛状工具直+波2	ナメケ→ナ	コナテ→口縁端部にナメケ工具による刺突	コナテ	
111	5-6期	甗胴部	櫛描文系有文		有	無	—	ナメケ→5本1組櫛状工具直+波+直	ナメケ→指ナ			
112	6期	甗口胴部	櫛描文系有文		有	無		ナメケ→5本1組櫛状工具直2+波+三角刺突	ナメケ→縦方向の指ナ	コナテ→口縁端部に櫛状工具による刺突	コナテ→波状文	
113		異形土器か			無	無	—	縦に貼付突帯→側面に直線文	縦方向の指ナ			
114	6期	甗	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	粗いナメケ→細かいナメケ→縦方向の指ナ	粗いナメケ→細かいナメケ→縦方向の指ナ	コナテ→口縁端部にナメケ工具による刺突	コナテ	ナ
115	6期	甗口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメケ	コナテ→最大径縦方向の指ナ	コナテ→口縁端部にナメケ工具による刺突	コナテ→指施痕有	
116	6期	甗口頸部	条痕文継承型無文		有	無		ナメケ	横~ナメケ	コナテ→口縁端部にナメケ工具による刺突	コナテ→指接着痕有	
117	6期	甗口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメケ	ナメケ→胴部指ナ	コナテ→口縁端部にナメケ工具による刺突	コナテ	
118	6期	甗口縁部	櫛描文系無文	逆L状	有	無		ナメケ	ナメケ	コナテ	コナテ	
119	6期	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメケ	ナメケ→部分的に縦方向の指ナ	コナテ	コナテ	ナか
120	6期	甗胴底部	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメケ	ナメケ→底部周囲ナ			ナ
121	6期	壺口胴部	櫛描文系無文(D類)		無	無		ナメケ→胴部上半に沈線による弧線文(5単位)	ナメケ→部分的に指押さえ	コナテ→ナメケ工具による刺突か	コナテ	
122	5-6期	壺口頸部	櫛描文系有文		無	無		ナメケ→4本1組櫛状工具(直2+波)4	縦方向の板ナテか	コナテ→口縁端部にナメケ工具による羽状刺突文	コナテ→指接着痕有	
123	6期	壺口頸部	櫛描文系無文か		無	無		ナメケ→コナガキ	縦方向の指ナ	コナテ	コナテ	
124	6期	壺口頸部	東海系模倣	搬入	無	無		ナメケ→9本1組櫛状工具直5	コナテ→コナテ→縦方向の指ナ	コナテ→波状文	受け口 コナテ→口縁端部にナメケ工具による刺突	
125	6期	壺頸部	櫛描文系有文	内面表面剥離	無	無	—	3条突帯→板状工具による刺突→棒状浮文2本1対				
126	6期	壺	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	縦~ナメケ→胴部下半コナガキ	ナメケ→縦方向の指ナ	コナテ	コナテ	ナ
127	6期	壺口胴部	櫛描文系無文		無	無		ナメケ	ナメケ→頸部縦方向の指ナ	コナテ	コナテ	
128	5-6期	甗口胴部	櫛描文系無文	外面剥離激しい	有	無		板ナテ→頸部ナメケ	縦方向のなで	コナテ→口縁端部にナメケ工具による刺突、部分的に2個1対の大型刺突有り	コナテ	
129	5-6期	甗口縁部	櫛描文系無文		有	無	—	ナメケ	細かいコナテ	コナテ→ナメケ工具による刺突	粗いコナテ→コナテ	
130	6期	甗口頸部	小波状口縁無文		有	無		ナメケ	ナメケ→縦方向の指ナ	コナテ→口縁端部にナメケ工具による指押さえ	コナテ	
131	6期	甗口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメケ	ナメケ→縦方向の指ナ	コナテ→ナメケ工具による刺突	コナテ→コナテ	
132	6期	甗	小波状口縁無文	外面底部及び内面磨耗激しい	有	無	円盤充填法か	縦~ナメケ	ナメケ→縦方向の指ナ	上下からの指押圧 小波状	-	ナなし
133	6期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ナメケ→ナメケ	ナメケ→縦方向の指ナ	コナテ	コナテ	ナ

No	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
134	6期	壺頸部	条痕文系無文		無	有		9本1組櫛状条痕 縦方向	横-板打			
135	6期	甕口縁部	小波状口縁有文		有	無	-	打打打→直線文	ココ打	沈線→上方からの指押圧	4本1組櫛状工具 波状文2条	
136	6期	壺口胴部	櫛描文系有文		無	無		打打打→4本1組櫛状工具直2+直+波+直	打打打	ココ打→口縁端部に打工具による刺突	ココ打	
137	5-6期	壺口胴部	櫛描文系無文		無	無		細かい打打打→胴部粗い打打打→胴部上半細かい打打打	細かい打打打→頸部縦方向の指打	ココ打→口縁端部に打工具の刺突		半裁竹管状工具による波状文
138	6期	壺頸部	櫛描文系有文	搬入	無	無		打打打→5本1組櫛状工具直3+波+直+波+直+三角刺突	縦方向の指打			
139	6期	甕口胴部	近江系(条痕文施文)		有	無		縦方向の櫛状条痕	打打打→斜め方向の指打	ココ打→口縁端部に打工具の刺突、部分的に指頭押圧有		
140	5期か	壺口胴部	櫛描文系無文		無	無		打打打→頸部縦打	打打打→部分的に指打	ココ打→口縁端部に打工具の斜格子文	ココ打→ココ打	
141	6-7期	甕口胴部	櫛描文系有文		有	無		打打打→4本1組櫛状工具 直+波+直+籬-波	斜め打打打→縦方向の指打			
142	6-7期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		粗い打打打	細かい打打打→頸部粗いココ打→胴部下半縦方向の指打	ココ打→ココ打→口縁端部に打工具の刺突	粗いココ打	
143	5-6期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		粗い打打打	粗いココ打→ココ打	ココ打→口縁端部に打工具の刺突、2個1対の打工具刺突有り	ココ打	
144	7期か	壺	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	打打打→指打→6本1組櫛状工具 波+直+波	打打打→指打	ココ打→口縁端部下打工具の刺突	ココ打	砂目敷
145	7期か	甕	西日本系(くの字襷)	搬入か	有	無	円盤充填法	打打打→最大径に打工具の刺突→打打打	打打打→縦方向の指打	ココ打	ココ打	
146	6-7期	甕	櫛描文系無文	底部に粗痕か、焼成後底部穿孔有	有	無	円盤据置法	打打打	打打打→縦方向の指打	ココ打→口縁端部に打工具の刺突	ココ打	打
147	9期か	甕口胴部	凹線文系影響型在り地	(混入か)	有	無		打打打→頸部ココ打	打打打→縦方向の指打	ココ打	強いココ打	
148	6-7期	甕	西日本系(くの字襷)	焼成後底部穿孔有 搬入	有	無	円盤充填法	打打打	打打打→縦方向の指打	ココ打	ココ打	打
149	6-7期	甕	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	粗い打打打→9本1組櫛状工具直+波+直+波+直	細かい打打打→頸部粗いココ打→底部周辺指打	ココ打→口縁端部に打工具の刺突	荒いココ打→ココ打	打
150	7期か	蓋	櫛描文系無文	2個1対の蓋穴有、表面荒れ	無	無						
151	6-7期	壺	小波状口縁無文		無	無	円盤据置法	打打打	打打打→縦方向の指打	上下からの指押圧、小波状	ココ打	
152	6期	壺胴部	櫛描文系無文		無	無		打打打	打打打→指打			
153	7期か	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	打打打	打打打→縦方向の指打	ココ打	ココ打	-
154	6-7期	甕	櫛描文系無文	口縁部分刻み5方向か	有	無		打打打	打打打→部分的縦方向の指打	ココ打→打打打による2個1対の刺突	ココ打	
155	7期	甕口胴部	小波状口縁無文	梯川流域	有	無		打打打	打打打	打打打→上下から指押さえ 小波状	ココ打→ココ打	
156	7期か	鉢	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	打打打→ココ打→斜め打打打	打打打→ココ打		ココ打	打
157	6-7期	甕底部	櫛描文系無文	内面黒斑	有	無	円盤据置法	打打打→横方向の指打	打打打→ココ打			砂目敷
158	7期	壺口胴部	条痕文系継承型櫛描文系有文	補修孔有紐残存、接着剤塗布	無	無		打打打→頸部に直線文	打打打	受け口 打打打→2個1対の凹形刺突(4単位)、2個1対棒状浮文(4単位)→下頸部に打工具によるX字状の刻み	指押さえ	
159	6-7期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	打打打	打打打→横指打	ココ打→口縁端部の打工具の刺突	ココ打	打後打
160	7期	甕口胴部	沈線文系折衷型(櫛描文系有文)	外面剥離激しい	有	無		打打打→4本1組櫛状工具 直4+扇形文4段	打打打→縦方向の指打	ココ打→上下からの指押圧	ココ打→波状文3条	
161		壺胴底部	櫛描文系無文	外面磨耗激しい	無	無	円盤充填法	打打打	縦方向の指打			
162	7期か	壺	櫛描文系無文	内外面磨耗激しい、2個1対の蓋穴有	無	無	円盤据置法					
163	7期	壺	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	打打打→6本1組櫛状工具 直1+振流水(直7+扇形文4)	打打打→部分的に打			
164	7期	壺	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	打打打→7本1組櫛状工具 直3+籬+直1+波+直+半円文+振流水(直2+4本1組櫛状工具扇形文)+直+山形文+扇形文	横-打打打→縦方向の指打	受け口、ココ打→打打打による羽状刺突文1.5→2個1対棒状浮文	ココ打	打か
165	6-7期	甕	小波状口縁無文	底部外面摩滅	有	無	円盤据置法	打打打→部分的に打 有	打打打→部分的に打	ココ打→上下からの指押圧	ココ打	
166	6-7期	甕口胴部	小波状口縁無文	剥離後被熱	有	無		打打打→頸部ココ打	打打打→縦方向の指打	ココ打→上下からの指押圧 小波状	ココ打	
167	7期	甕	小波状口縁無文		有	無	円盤据置法	打打打→櫛状工具による横羽状	打打打→縦方向の指打	上下からの指押圧 小波状	ココ打	
168	6-7期	甕	小波状口縁無文	焼成後底部穿孔有	有	無	円盤据置法	打打打	縦-打打打→胴部下半縦方向指打	ココ打→上下からの指押圧 小波状	ココ打	打
169	6期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		打打打→頸部ココ打	打打打→部分的に指押さえ	ココ打→口縁端部に打工具の刺突	ココ打	
170	6-7期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	細かい打打打→粗い打打打→底部側面ココ打	細かい打打打→胴部下半縦方向の指打	ココ打→口縁端部上方に打工具の刺突	粗いココ打	砂目敷
171	6-7期	甕	小波状口縁無文		有	無	円盤据置法	打打打	打打打→縦方向の指打	ココ打→上下からの指押圧 小波状	ココ打	-
172	6-7期	甕	櫛描文系有文	底部外面摩滅	有	無	円盤据置法	打打打→9本1組櫛状工具 籬+直+波	打打打→縦方向の指打	ココ打→口縁端部に打工具の刺突	ココ打→波状文-籬状文	打
173	7期	鉢	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	打打打→底部側面打打打	打打打→斜め指打	ココ打	ココ打→ココ打	打
174	6期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	打打打→底部付近、最大径部分的打	打打打→縦方向の指打→部分的に指押さえ	ココ打→口縁端部の打工具による刺突	ココ打	砂目敷
175	6期	壺頸底部	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	打打打→5本1組櫛状工具(直+波)3	打打打→底部側面指押さえ			打
176	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤充填法	粗い打打打→胴部打打打	打打打→縦方向の指打	ココ打→口縁端部に打工具の刺突打打打の刺突	ココ打	打

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
177	8-9期	壺	櫛描文系無文	SX13 供献遺物か	無	無	円盤据置法	ナメケ→コマガキ	ウ→ナゲ	コナゲ	コナゲ	ナゲ
178	8-9期	壺胴部	櫛描文系無文	SX13 供献遺物か	有	無		ナメケ→胴部上半コナゲ	コナゲ→縦方向の指ナゲ			
179	6期	壺口胴部	櫛描文系有文		無	無		ナメケ→板ナゲ→頸部に貼付突帯→ウ工具刺突→9本1組櫛状工具直4+円形刺突	ナメケ→縦方向の指ナゲ	コナゲ→口縁端部にウ工具の羽状刺突文	コナゲ	
180	6期	壺胴底部	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	斜め～コナゲ→6本1組櫛状工具直2	ナメケ→部分的に指ナゲ			
181	5-6期	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメケ→頸部コナゲ	ナメケ→縦方向の指ナゲ	コナゲ→口縁端部2個1対の連続した刺突	コナゲ、部分的に爪跡有り	ナゲ
182	6期	甗	櫛描文系無文	梯川流域	有	無	円盤据置法	ナメケ→底部側面コナゲ	ナメケ→胴部下縦方向の指ナゲ	コナゲ→口縁端部のウ工具の刺突	コナゲ→コナゲ	-
183	6期	甗口胴部	櫛描文系無文	円形剥離有	有	無		斜め～ナメケ→頸部コナゲ	ナメケ→縦方向の指ナゲ	コナゲ→口縁端部にウ工具の刺突	コナゲ→コナゲ	
184	5-6期	甗口胴部	櫛描文系無文		有	無		斜め板ナゲ	ナメケ	コナゲ→口縁端部にウ工具の刺突	コナゲ	
185	5-6期	甗口胴部	櫛描文系有文		有	無		ナメケ→7本1組櫛状工具直3+三角刺突	ナメケ→縦方向の指ナゲ	コナゲ	コナゲ→コナゲ	
186	6期	甗	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	斜め～ナメケ→5本1組櫛状工具直+簾+直+波+直+波+簾→横～ナメケ	ナメケ→縦方向の指ナゲ	コナゲ→口縁端部にウ工具の刺突	コナゲ→コナゲ	ナゲなし
187	6期	甗口胴部	小波状口縁無文		有	無		細かいナメケ→粗いナメケ	粗いナメケ→胴部下縦方向の指ナゲ	コナゲ→上下からの指押圧 小波状	コナゲ	
188	6-7期	甗口胴部	条痕文継承型無文		有	無		ウ→櫛状条痕による横羽状	ナメケ→縦方向の指ナゲ	コナゲ→ウ工具による刺突	コナゲ	
189	6期	壺	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	粗い斜めウ→6本1組櫛状工具直5+波	ナメケ→部分的に指押さえ有り	コナゲ→口縁端部に沈線→両口唇部に刺突	ナメケ	
190	6期	壺頸部	櫛描文系有文		無	無		ナメケ→8本1組櫛状工具直+波+直+波+大振り波+直	ナメケ→縦方向の北ナゲ			
191	6期	壺頸部～底部	櫛描文系有文		無	有	円盤据置法	ナメケ→胴部上半(ナゲ)→三角貼付突帯2条→9本1組櫛状工具直2+(直+波)4+直2	粗いナメケ→胴部下縦、頸部に細かいウ→横方向の指ナゲ			中央部のみナゲ
192	6-7期	甗	櫛描文系有文		有	無	円盤充填法	ナメケ→7本1組櫛状工具 簾2波2+簾1	ウ→縦方向のナゲ	コナゲ→口縁端部にウ工具の2個1対の刺突(4単位)あり	コナゲ→波状文3条か	ナゲなし
193	6期	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメケ→頸部方向を違えたナメケ	ナメケ→縦方向の北ナゲ	コナゲ→口縁端部のウ工具の刺突	コナゲ→コナゲ	ウ→ナゲ
194	5-6期	甗口胴部	櫛描文系有文		有	無		ナメケ→頸部コナゲ→7本1組	ナメケ→部分的に指ナゲ	コナゲ	コナゲ→連続した指押さえ	
195	5-6期	甗口胴部	櫛描文系無文	梯川流域産	有	無		ナメケ→頸部ナメケ→コナゲ	ナメケ→頸部に指押さえ	コナゲ→口縁端部に2個1対(6単位か)	コナゲ	
196	6期	鉢	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメケ→底部側面コナゲ	ナメケ→部分的に指ナゲ	コナゲ	コナゲ	ナゲ
197	6期	甗	櫛描文系無文	外面剥離激しい	有	無	円盤据置法	ナメケ	ナメケ→縦方向の北ナゲ	コナゲ	コナゲ	コナゲ
198	8-9期	壺口縁部	櫛描文系有文		有	無	-	ナメケ→コマガキ	ウ→ナゲ	コナゲ	コナゲ→ウ工具による羽状刺突文2段	
199	8期か	壺頸部	櫛描文系有文		無	無	-	コナゲ、頸部ナゲ→、3条突帯→ウ工具による刺突有、その上に2個1対の棒状浮文有	コナゲ→ナゲ			
200	8期新	壺頸部	東海系模倣	全面磨耗激しい	無	無	-	直線文3条?→弧線文	コナゲ→頸部ナゲ			
201	8-9期	壺口胴部	櫛描文系有文		無	無		ナメケ→頸部コナゲ 後ウ工具の刺突→6本1組櫛状工具直+簾+直+斜→最大径に貼付突帯1条→ウ工具の刺突→胴部コマガキ	ナメケ→頸部縦方向の指ナゲ	コナゲ→口縁端部のウ工具の刺突	コナゲ→4本1組櫛状工具 斜行短線文3段	
202	6期	甗口縁部	櫛描文系無文		無	無	-	粗いナメケ	粗いコナゲ			
203	6期	甗口胴部	条痕文継承型櫛描文系有文		有	無	-	ナメケ	ナメケ→指ナゲ	コナゲ→端部に波状文	コナゲ→波状文3条	
204	8-9期	甗	櫛描文系有文		有	無		ナメケ→(ナゲ)→頸部コナゲ→8本1組櫛状工具直+短線+直	ナメケ→胴部下縦方向の指ナゲ	コナゲ→口縁端部にウ工具に刺突	コナゲ→羽状刺突文1(4単位)	砂目数→ナゲ
205	6期	甗	小波状口縁無文		有	無	円盤据置法	縦～ナメケ	ナメケ→縦方向の指ナゲ	コナゲ→上下からの指押圧 小波状	コナゲ→コナゲ	ナゲ
206	6期	甗	櫛描文系有文	底部に種子痕有	有	無	円盤据置法	ナメケ→5本1組櫛状工具直+波+直+波	ナメケ→部分的に指押さえ有り	コナゲ→口縁端部にウ工具の刺突	コナゲ	ナゲなし
207	6期	壺	櫛描文系無文		無	無	円板据置法	ナメケ→底部側面コナゲ	ナメケ→ナゲ指ナゲ	コナゲ→口縁端部のウ工具による斜格子文	コナゲ	ナゲ
208	6期	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無	-	ナメケ	コナゲ	ウ工具によるX字状刻み	コナゲ→三角刺突+直+三角刺突	
209	6期	壺口縁部	条痕文継承型櫛描文系有文		無	有	-	ナメケ→コナゲ	コナゲ	2枚貝による羽状刺突文→1条沈線	ナゲ→羽状刺突の下5本1組櫛状工具による直線文	
210	6期	壺口頸部	櫛描文系有文		無	無	-	ナメケ→5本1組櫛状工具直3+簾+直3か	ナゲ、絞り痕残存			
211	6期か	壺口縁部	条痕文継承型櫛描文系有文		無	無	-	ナメケ	ウ	コナゲ→ウ工具による羽状刺突2段に2本1対棒状浮文(4単位か)有	コナゲ	
212	6期	壺胴部	櫛描文系有文	外面胴部下縦剥離	有	無	-	ウ→6本1組櫛状工具直+波+直+簾+半円文	ナゲ、上半に強い指ナゲ有			
213		壺頸部	櫛描文系有文		無	無	-	ナメケ→コナゲ 3条突帯に2個1対棒状浮文有り	ナメケ			
214	6期	壺口頸部	櫛描文系有文		無	無	-	粗いナメケ→4本1組櫛状工具直+波+(直+簾)3	細かいウ→コナゲ	口縁端部に櫛状工具の刺突	コナゲ→簾+直	
215	6期	甗口胴部	沈線文系継承型(櫛描文系有文)		有	無		粗いナメケ→5本1組櫛状工具直4+扇形文4段→ウ工具の羽状刺突文	ナメケ→縦方向の指ナゲ	コナゲ→上下からの指押さえ小波状	コナゲ→LR縄文→垂下線	ナゲなし
216	6期	甗	沈線文系継承型(櫛描文系有文)	梯川流域産	有	無	円盤据置法	ナメケ→8本1組櫛状工具直+扇+直+扇と波を交互	ナメケ→コナゲ	ナメケ→コナゲ→口縁端部に櫛状工具の刺突	コナゲ→櫛状工具の羽状刺突文1.5	ナゲか
217	6期	甗	沈線文系継承型(櫛描文系有文)	底部に未完通孔有	有	無	円盤据置法	ナメケ→頸部コナゲ→5本1組櫛状工具直3+簾	ナメケ→縦方向の北ナゲ	コナゲ→口縁端部にLR縄文	コナゲ→LR縄文3段	ナゲなし
218	6期	甗	沈線文系継承型(櫛描文系有文)		有	無	円盤据置法	ナメケ→最大径に2個1対の瘤状突起(4単位)	ナメケ→胴部下縦方向の指ナゲ	コナゲ→口縁端部にウ工具の刺突	コナゲ→ウ工具の羽状刺突文1.5	ナゲ
219	6期	甗	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	ナメケ→7本1組櫛状工具直+簾+直+簾	ウ→ナゲ	コナゲ→口縁端部のウ工具の刺突	コナゲ→波状文	ナゲ
220	6期	甗口胴部	櫛描文系有文		有	無		ナメケ→5本1組櫛状工具直+波+直+波+直	ナメケ→最大径に縦方向に指ナゲ	コナゲ→口縁端部のウ工具のXJ字状の刻み	コナゲ	

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整 (外面)	調整 (内面)	調整 (口縁)	調整 (口縁内)	調整 (底部)
221	6期	甕口胴部	沈線文系折衷型 (櫛描文系有文)		有	無	—	好ナウ→7本1組櫛状工具 擬流水文 (直6+扇形文)	好ナウ→指テ	ココテ→端部に波状文	ココテ	
222	6期	甕口胴部	櫛描文系有文		有	無	—	好ナウ→5本1組櫛状工具 直+直+波	粗いココウ	ココテ	ココテ	
223	5-6期	壺頸部	櫛描文系有文		無	無	—	好ナウ→6本1組櫛状工具 直+直+波	ココガキ			
224	6-7期	甕	櫛描文系有文	底部に焼成後穿孔有	有	無	円盤据置法	好ナウ→5本1組の櫛状工具 直+波2+直→刺突	好ナウ→底部縦方向に指テ 胴部に指押さえ			ナシ
225	6期	甕	櫛描文系無文	底部に焼成後穿孔有	有	無	円盤据置法	好ナウ→頸部ココテ	好ナウ→部分的に指テ	ココテ→口縁端部に好ナウの刺突、2個1対の好ナウの刺突 (4単位)		ナシ
226	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	好ナウ→頸部好ナウ	好ナウ→ココウ→最大径縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に好ナウの刺突	ココウ→連続した指接着痕	砂目敷
227	6期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		好ナウ→頸部ココテ	好ナウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に好ナウの刺突	ココウ→指接着痕有り	
228	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	好ナウ	好ナウ→縦方向に指テ	ココテ→口縁端部に好ナウの刺突	ココウ→ココテ	ナシ
229	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	好ナウ	好ナウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に好ナウの刺突	ココウ	ナシ
230	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	好ナウ→頸部ココテ	好ナウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に好ナウの刺突、2個1対 (6単位)	ココウ	ナシ
231	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	縦ウ→ココテ	好ナウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に2個1対の刺突	ココテ	
232	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	好ナウ→胴部下縦方向の板テ	好ナウ	ココテ	ココテ	
233	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤充填法	好ナウ	好ナウ→縦方向の指テ	口縁端部好ナウ	ココウ	ナシ
234	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤充填法	好ナウ	好ナウ→縦方向の指テ	口縁端部好ナウ	ココウ	ナシ
235	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	好ナウ	粗いウ→好ナウ方向の指テ	ココテ	粗いココウ	ミガキ
236	6期	甕口胴部	小波状口縁無文	梯川流域か	有	無	—	好ナウ	斜め-ココウ	好ナウ→上下指押圧小波状	ココウ	
237	6期	甕	小波状口縁無文	初圧痕数多く有	有	無	円盤据置法	好ナウ	好ナウ→縦方向の指テ	ココテ→上下からの指押さえ 小波状	ココウ	ナシ
238	6期	甕口胴部	小波状口縁無文		有	無		好ナウ→頸部ココテ	好ナウはけ→部分的に指テ	ココテ→口縁端部に沈線→上下からの指押さえ 小波状	ココテ	ナシ
239	6期	甕口胴部	小波状口縁無文		有	無	—	好ナウ、頸部に指押さえ有	斜め-ココウ	ココテ→上下指押圧小波状	好ナウ	
240	6期	鉢口胴部	櫛描文系無文	把手2方向	無	無		好ナウ→頸部ココテ	好ナウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にX字状の刻み	ココテ	
241	6期	鉢	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	好ナウ→底部側面テ	好ナウ→縦方向の指テ	ココテ	ココテ	部分的にナシ
242	6期	蓋	櫛描文系無文	2個1対の蓋穴有	無	無		縦ウ→ココテ	ココテ			
243	6期	甕口胴部	条痕文系無文		有	無		好ナウ→粗い斜め櫛状条痕→テ	斜め方向の櫛状条痕→縦方向の指テ	横方向の櫛状条痕→ココテ	条痕→ココテ	
244	6期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		好ナウ	好ナウ→頸部ココテ	ココテ→口縁端部に好ナウの刺突	ココウ→ココテ	
245	6期	壺頸~底部	櫛描文系有文		無	有	円盤据置法	好ナウ→頸部好ナウ→6本1組櫛状工具 直+波+直→ココテ	好ナウ→縦方向の指テ			砂目敷→中央部のみナシ
246	6期	壺頸~底部	櫛描文系無文		無	有	円盤据置法	好ナウ-縦ウ→胴部下縦ミガキ	好ナウ→縦方向の指テ 指テ			砂目敷→ミガキ
247	8期か	甕	櫛描文系無文	底面に焼成後の未貫通孔有	有	無	円盤据置法	好ナウ→底部側面ココテ	好ナウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に好ナウの刺突	ココウ	
248	6-7期	甕	小波状口縁無文		有	無	円盤据置法	好ナウ→底部側面指ナテ	細かい好ナウ→胴部下縦方向の板テ	ココテ→上下からの指押圧 小波状	粗いウ	板テか
249	6期	鉢	櫛描文系無文	内面剥離激しい、種子有	無	無	円盤据置法	好ナウ→頸部ココテ→胴部下縦ミガキ	好ナウ→縦方向の指テ	ココテ	-	ナシ
250	6-7期	甕口胴部	小波状口縁無文		無	無		細かい好ナウ→頸部好ナウ→胴部下縦ミガキ	胴部粗い好ナウ→頸部細かい好ナウ→縦方向の指テ	ココテ→上下からの指押圧 小波状	ココウ	
251	6期	壺頸底部	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	粗い好ナウ→7本1組櫛状工具 直3	好ナウ→縦方向の指テ			ナシ
252	6-7期	甕	沈線文系継承型 (櫛描文系有文)		有	無	円盤据置法	好ナウ→5本1組櫛状工具 直2+波+直+波+直+簾→2個1対の瘤状突起 (3単位)	好ナウ→縦方向の指テ	ココテ→上下からの指押圧 小波状	ココテ→好ナウによる羽状刺突文3	ナシ
253	6-7期	甕	小波状口縁有文		有	無	円盤据置法	好ナウ→6本1組櫛状工具 直2+波+直	好ナウ→縦方向の指テ	ココテ→上下からの指押圧 小波状	ココウ→ココテ	ナシ
254	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ココテ-好ナウ	好ナウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に好ナウの刺突	ココウ	砂目敷
255	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	好ナウ	好ナウ→縦方向の指テ	口縁端部ココウ→好ナウによる刺突	ココウ	ナシ
256	6期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		好ナウ→頸部ココテ	好ナウ→縦方向に指テ	ココテ→口縁端部に好ナウの刺突	ココウ→ココテ	
257	7期	甕	小波状口縁無文		有	無	円盤据置法	好ナウ→頸部好ナウ	好ナウ→縦方向の指テ	ココテ→上下からの指押圧 小波状	ココテ	-
258	8期か	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		縦ウ	好ナウ→頸部縦方向の指テ	ココテ	ココウ→ココテ	
259	6期か	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		縦-横ウ	好ナウ→縦方向の指テ	ココテ	ココウ→ココテ	
260	6-7期	鉢	櫛描文系無文		無	無	円盤充填法	好ナウ→好ナウ-ココガキ	好ナウ→好ナウ	ココテ→口唇部に好ナウの刺突	ココガキ	ナシ
261	6-7期	甕口胴部	櫛描文系有文		無	無		好ナウ→7本1組櫛状工具 直2+簾+直3+簾+直+扇形文	好ナウ→胴部下縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に好ナウの刺突	ココテ→好ナウによる羽状刺突三段→垂下線+半円文	
262	6期	壺胴底部	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	斜め-好ナウ→6本1組櫛状工具 直線文	丁寧なテ		-	
263	6期	壺胴底部	櫛描文系有文		無	有	円盤据置法	好ナウ→7本1組櫛状工具 波+簾+直2+半円文	好ナウ→指テ			砂目敷
264	6期	壺胴底部	櫛描文系無文	内外面剥離激しい	無	無	円盤据置法	好ナウ→好ナウ	斜め-好ナウ→底部周辺指テ			
265	6期	壺胴底部	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	好ナウ→底部側面好ナウ	好ナウ→指テ			ナシ

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
266	6期	甕胴部片	櫛描文系有文		有	無		斜め→5本1組櫛状工具 直+直+直+波+直	ナカウ			
267	6期	甕口胴部	小波状口縁有文		有	無		斜め→斜め→5本1組櫛状工具(直+波)2+直	ナカウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に沈線→上下からの指押圧小波状	ココウ	
268	7期以降	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナカウ→頸部ココテ	ナカウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に沈線→上方からの指押圧	ココテ	
269	5-6期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナカウ→頸部ココテ	ナカウ→縦方向指テ	ココテ→口縁端部にナカウ工具の刺突	ココウ→ココテ	
270	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	斜め→斜め→胴部上半板テ→底部側面テ	ウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部のウ工具の刺突	ココウ	テ
271	5-6期	甕	櫛描文系無文	底部に種子圧痕か 梯川流域産	有	無	円盤据置法	ナカウ	ナカウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にウ工具の刺突、突出部(6単位)有り	ココウ→ココテ	テ
272	5-6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナカウ→底部側面縦(下→上)ケリ→ココテ	ナカウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部のウ工具の刺突	ココウ	ケリ
273	6期	甕胴底部	西日本系(くの字甕か)	搬入か	有	無	円盤充填法	ナカウ→テガキ→底部側面ココテ	横→ナカウ			テ
274	6期	甕口底部	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナカウ	ナカウ→縦方向の指テ	ココテ	ココウ	テか
275	5-6期	鉢	西日本系(櫛描文系有文)		有	無	円盤充填法	ナカウ→6本1組櫛状工具 波+直+波+直+波	ウ→テガキ			
276	6-7期	壺胴底部	櫛描文系有文	内面剥離激しい底部に種子圧痕か	無	無	円盤据置法	ナカウ→沈線3条→3本1組櫛状工具 簾+連弧文+波+波+直→胴部下半板テ	ナカウ→縦方向の指テ			ケリ→テ
277	6-7期	甕	櫛描文系無文(小波状口縁)		有	無	円盤据置法	ナカウ→底部側面縦方向の指テ	ナカウ→縦方向の指テ	ココテ→上下の指押さえ 小波状	ココウ	
278	7期	甕	沈線文系折衷型 櫛描文系有文	底部に焼成後穿孔有	有	無	円盤据置法	ナカウ→底部側面ココテ→6本1組櫛状工具 擬流水文(直6+扇形文5)	ナカウ→縦方向の指テ	ココテ→上下の指押さえ 小波状	ココウ 波状文3	テなし
279	9期	壺頸-底部	凹線文系影響型在り	方形周溝墓供献遺物	有	無	円盤充填法	ナカウ→底部側面縦(下→上)ケリ→縦方向のテ	ナカウ→縦方向の指テ			ガキ
280	9期	甕	凹線文系影響型在り	方形周溝墓供献遺物	有	無	円盤据置法	ナカウ→部分的に指押さえ有	ココウ→底部付近に縦方向の指テ	ココテ	ココウ	テ
281	6-7期	鉢	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ナカウ→板テ	斜め→ココウ→胴部下縦方向の指テ	ココテ→口縁端部沈線1条	ココウ→指接着痕有り	テ
282	6-7期	壺	西日本系(櫛描文系有文)		無	無	円盤据置法	斜め→斜め→頸部に貼付突帯→指押さえ→7本1組櫛状工具 波+直+簾+波+簾+2個1対の刺突→胴部に部分的にテガキ	縦→ナカウ→縦方向の指テ、頸部横→ナカウ	ココウ→ココテ→口縁端部にウ工具による斜格子文		テなし
283	6-7期	甕	櫛描文系無文	底面に焼成後穿孔有	有	無	円盤据置法	ナカウ	ナカウ→縦方向の指テ	ココテ	ココウ	テ
284	6-7期	甕	櫛描文系無文	底面に焼成後穿孔有	有	無	円盤据置法	ナカウ	ナカウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に沈線→上方にウ工具による刺突	ココウ→野書き線(沈線)→半円文	砂目敷→中央テ
285	6-7期	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無	-	ナカウ後刺突有	絞り痕有、テ	ココテ		
286	6期	壺胴部	櫛描文系有文		無	無	-	ウ後4本1組櫛状工具 直線文+波状文+直+波+直+ウ工具による刺突	-			
287	6期	壺胴部	櫛描文系有文		無	無	-	テ後7本1組櫛状工具 扇形+擬流水+扇形	ウ後			
288	6期	壺口縁部	条痕文系有文		無	無	-	櫛状条痕	テ	沈線によるコの字重ね文 下頸部に指押さえ有	テ	
289	6-7期	甕口縁部	近江系(条痕文施文)		無	無	-	ウ後7本1組横羽状文+直線文	粗いココウか	沈線後刺突	6本1組波状文4条	
290	5-6期	壺頸部	沈線文系		有	無	-	眼鏡状沈線	ココガキ			
291	6-7期	壺頸部	櫛描文系有文		無	無	-	ウ成形後 頸部下に板状工具による羽状刺突	ウ後テ			
292	6-7期	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無	-			ウ後板状工具の斜格子文 下頸部に瘤状突起有り	ウ	
293	6-7期	壺胴部	櫛描文系有文		無	有	-	ウ後5本1組櫛状工具 直線文+直+直+ウ工具による羽状刺突	指テ			
294	6-7期	壺	櫛描文系有文	口縁打ち欠きか、底部にモミ圧痕	有	無	円盤据置法	ナカウ→6本1組櫛状工具 直+(直+波)4+直2+半円文	ナカウ→指テ			部分的にテ
295	6-7期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ナカウ→底部側面テ	ナカウ→胴部下縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にウ工具の刺突	ココウ→ココテ	砂目敷
296	6-7期	壺	櫛描文系有文	焼成時の円形剥離有	無	無	円盤据置法	斜め→斜め→4本1組櫛状工具(直1+波1)3→直+簾+直+垂線+直	ウ→テ	ココテ	ココウ	テか
297	6-7期	壺	櫛描文系有文	底部に焼成後穿孔有	無	無	(円板充填法)	ナカウ→4本1組の櫛状工具 直+波+直	ウ→縦方向の指テ	ココテ	ココウ→ココテ	指テ
298	6期以前	壺胴部	条痕文系無文		無	有	-	櫛状条痕	テ			
299	9期か	壺口縁部	-		無	無	-	下から上へナカウ	テ			
300	1期以前	甕胴部	条痕文系無文		無	無	-	板か貝の削り状	テ			
301	6期以前	甕口縁部	条痕文系無文		有	無	-	縦方向に櫛状条痕	ウ成形		テ 横方向に櫛状条痕	
302	6-7期	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無	-			テ後6本1組櫛状工具で籠状文2条 下頸部に瘤状突起有り	ウ後指押さえ有	
303	6-7期	壺頸部	-		有	無	-	二枚具による縦方向波状文	横方向ウ	二枚具による斜め方向の成形	二枚具による羽状刺突文	
304	6-7期	壺胴部	貝田町式模倣		無	無	-	沈線区画、10本1組状工具で直線文上から下へ、その後間隔を抜いた3本1組1対で縦波状文	ウ後ココテ			
305	7期	壺	西日本系模倣(櫛描文系有文)		無	有	円盤据置法	ウ→テ→4本1組櫛状工具(直+波)2+直+簾→斜め→テガキ	ナカウ→ココガキ	ココテ→口縁端部に刺突	ココウ	テ
306	6期	壺口胴部	条痕文系有文	梯川流域産	無	無		櫛状条痕による胴部横羽状→撥ね上げ文→擬流水風(直線文→扇形文)+垂下線+波状文	ココテ	口縁端部に押し引き刺突	ココウ→沈線1条	
307	6-7期	甕	小波状口縁無文		有	無	円盤据置法	縦→ナカウ→底部側面にテ	ナカウ→テ	口縁端部に刺突	ココウ、部分的に爪跡有り	テ
308	6-7期	甕口縁部	西日本系(くの字甕)	タタキ有か	有	無	-	ナカウ	ナカウ	ココテ		
309	6-7期	甕口縁部	沈線文系		無	無	-	ウ後ウ削りによる横羽状	ウ	不明なものの刺突有		

No	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
310	6期	鉢	櫛描文系有文		無	無	—	ワ後4本1組櫛状工具 円形刺突+直+波+直+波+直+波+直+波	ワ後ココテ			
311	7期	壺口頸部	条痕文継承型櫛描文系有文	内面剥離激しい	無	無		ワワ→頸部に貼付突帯3条→ハケ工具の刺突→突帯下7本1組櫛状工具 直線文	ワワワ	肥厚→ココテ→ハケ工具による羽状刺突文2	ココテ→ワワ工具による羽状刺突文1→垂下線(13単位)	
312	7期	壺	櫛描文系有文		無	無	円板据置法	ワワワ→4本1組櫛状工具 直+波+直+三角刺突	ココワ→胴部上半指テ	ココテ	ココテ	ワ
313	7期	壺	櫛描文系無文	口縁、全面欠け	無	無	円盤据置法	ワワワ	縦方向の指テ			指押さえ
314	6期	壺胴底部	櫛描文系無文		無	無	円板据置法	ワワワ→胴部上半ココテ	ワワワ→縦方向の指テ			
315	6期	壺胴底部	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ワワワ→頸部ワワ	ワワワ→胴部部分的に指テ			ワ
316	7期	甕口胴部	小波状口縁無文		有	無		ワワワ	ワワワ	ココテ→口縁端部に沈線→上下からの指押圧 小波状	ココテ→ココテ	
317	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ワワワ→底部側面ココテ	ワメ～ココワ	ココテ	ココテ→ココテ	ワ
318	6期か	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ワワワ→頸部ワワワ→ココテ	ワワワ→底部周辺指テ	ココテ	ココテ→ココテ	ワ
319	7-8期	壺胴部	櫛描文系有文		無	無		ワワワ→部分的にココシキ→6-7本1組櫛状工具 直2+波+直+半円文	ワワワ→胴部下半縦方向の指テ			
320	6-7期	壺口頸部	櫛描文系有文	搬入か	無	無		ワワワ→頸部ココテ→4本1組櫛状工具 直3	ワワワ	ココテ→口縁端部にワワ工具の羽状刺突文	ワワ工具による羽状あり	
321	7期	壺頸部	櫛描文系有文	内面剥離激しい、口縁打欠き	有	無		ワワワ→7本1組櫛状工具 擬流水風(直8+扇形文5(下から上へ))→垂下線5単位				
322	6-7期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ワメ～ワワワ→底部側面ココテ	ワワワ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に刺突	ココワ	ワリ
323	7期	壺	中国地方か(櫛描文系有文)	搬入	無	無	円盤充填法か	ワ→頸部ワワワ→縦方向のワワテ→頸部に三角貼付突帯4条→5本1組 直+直+直+直+直2+直2+直1→波状文5+3本1組櫛状工具による押し引き刺突	ワワワ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に3本1組櫛状工具 斜格子文	粘土帯貼付→指押さえ→2個1対の孔(8単位)→直線文→斜格子文→櫛状工具による押し引き刺突	ワガキ
324	7-8期	壺口胴部	櫛描文系有文		無	無		ワワワ→頸部ワワワ→4本1組櫛状工具 直+波+7扇形文		ココテ→口縁端部にX字状刻み	ココテ→ワワ工具による羽状刺突2	
325	7期	甕口胴部	小波状口縁無文		有	無		縦～ワワワ→頸部ココテ	ワワワ→胴部下半縦方向の指テ	ココテ→上下からの指押圧 小波状	ココワ	
326	7期	甕口胴部	小波状口縁無文		有	無		ワワワ→頸部ココテ	ワワワ→胴部下半頸部指テ	ココテ→上下からの指押圧	ココテ	
327	9期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ワワワ	ワワワ→胴部下半縦方向の指テ	ココテ	ココワ	
328	7-8期	壺口胴部片	櫛描文系無文		無	無		ワワワ→頸部ココテ	ワワワ→胴部縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に沈線1条→上方にワワ工具の刺突	ココワ	
329	9期か	壺	櫛描文系無文	2個1対の蓋穴有	無	無	円盤据置法	ワワワ	ワワワ→底部周辺指テ	ココテ	ココテ	ワワ→ワ
330	9期か	壺口縁部	栗林系か		無	無	—	ワワ→ココテ	ココワ	ワ→LR縄文→沈線、下頸部に指押さえ有	ココワ	
331	7-8期	壺胴部	櫛描文系有文		無	無	—	ワワワ→15本1組櫛状工具(直2+三角刺突)+(直2+三角刺突)	斜め～ココワ			
332	9期か	壺胴部	栗林系模倣		無	無	—	ワワワ区画9条+山形文→7本1組櫛状工具 波状文→三角刺突2段	ワワワ→ワ			
333	7-8期	壺頸部	櫛描文系有文		無	無	—	2条貼付突帯内に木目沈線文→同一工具で刺突、突帯上下に7本1組櫛状工具で直線文	ワワ→頸部下ワ			
334	7-8期	甕	小波状口縁無文		有	無	円盤据置法	ワワワ→底部側面ココテ	ワワワ→縦～斜め指テ	ココテ→口縁端部に沈線→上下からの指押圧 小波状	ココワ→ココテ	ワ
335	7-8期	甕	小波状口縁無文		有	無	円盤据置法	ワワワ	ワワワ→縦方向の指テ	ココテ→上下からの指押圧 小波状	ココワ	ワ
336	7-8期か	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無	—	ワワワ→ココテ→貼付肥厚させワワ工具による斜格子	ココワ→指押さえ有	横名で	ココテ→羽状刺突文	
337	7-8期	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無	—	7本1組櫛状工具 垂下線→流水文	ワワワ			
338	9期	壺口縁部	—		無	無	—	—	—	ココワ後→LR縄文、口縁端部ワワ工具の刺突	ココテ	
339	9期	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無	—	ワワワ	ココワ	ワワ工具による羽状刺突文	ココテ	
340	9期	壺口縁部	栗林系	注口有	無	無	—	ワワワ	ココワ	LR縄文、公園	強い指テ	
341	9期	壺胴底部	栗林系	底部に粉圧痕有	無	無	円盤据置法	LR縄文→沈線区画→6本1組櫛状工具による直線文→弧線文	ココワ→ココテ			部分的にワ
342	9期か	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法か	ワワワ→底部側面ワワワ→放射状ワワワ	ワワワ→胴部下半	ココテ	ココテ	ワリ
343	9期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ワワワ→底部側面に縦方向のワワワ→頸部ワワワ	ワワワ→斜め～縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にワワ工具の刺突ワワ工具の刺突	ココテ	ワリ
344	8-9期	甕	櫛描文系無文		有	無	円板据置法	ワワワ→底部側面指押さえ有	ワワワ→指テ	ココテ	ココテ→ワワ工具の刺突	ワなし
345	8期	甕	小波状口縁有文		有	無	円盤据置法か	ワワワ→9本1組櫛状工具 直線文2	ワワワ→部分的にワ	上下からの指押圧 小波状	ココワ	ワ
346	8期	壺	条痕文継承型無文		無	無	円盤据置法	ワワワ→胴部にワワ工具による横羽状	ワワワ→胴部上半に縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に沈線→上下からの指押圧による小波状	ココテ	ワ
347	7-8期	壺口縁部	条痕文継承型櫛描文系有文		無	無	—	ワワワ→6本1組櫛状工具 直+直+直	ココワ→部分的に指押さえ	ココワ→ワワ工具羽状刺突文、口縁端部 羽状刺突文		
348	7-8期	壺頸部	櫛描文系有文		無	無	—	ワワワ→8本1組櫛状工具 直3+直3→縦方向に波状文	ワワワ→ワ			
349	9期	壺頸部	栗林系模倣		無	無	—	ワワワ→懸垂文(8本1組櫛状工具利用沈線区画欠如)→沈線(横)→山形文	ココワ			
350	9期か	壺	櫛描文系無文		無	無	円板充填法	ワワワ→底部側面ココシキ、胴部上半ワワワ	ワワ→ワ	ココテ→口縁端部上方にワワ工具による刺突	ココワ→ココテ	ワリ
351	7-8期	壺	櫛描文系有文	六ツ目編み痕あり	有	無	円盤据置法	ワワワ→頸部に貼付突帯2条→ハケ工具の刻み→6本1組櫛状工具(直+波)5+直矢印突帯下波状文上に勾玉浮文	ワワワ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部下方に指つまみ	ココテ→ワワ工具による羽状刺突文2	ワ
352	7-8期	壺頸部	櫛描文系有文	内面磨耗激しい	無	無	—	ワワワ→4条貼付突帯に指押圧	—			

No	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
353	7-8期	壺頸部	櫛描文系有文		無	無	—	矧ゆ→2条貼付突帯に指押圧、5本1組櫛状工具直+扇	ハナケ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部下方向にハナケによる刺突	コナテ→ハナケによる羽状刺突文	ハナリ
354	7-8期	壺頸胴部	櫛描文系有文		無	無	—	頸部:ハナテ→2条貼付突帯、胴部:ハナテ→5本1組櫛状工具(簾+直+簾)+波+(直+簾+直)+波+(直+簾+直)	ハナテ			
355	7-8期	壺胴部	櫛描文系有文		無	無	—	シガキ→7本1組櫛状工具流水文、間あいて扇形文	ハナケ後縦方向の指テ			
356	8期	甗	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	ハナケ→7本1組櫛状工具直+簾+直、底部側面テ				
357	9期	甗	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	ハナケ	ハナケ→底部周辺縦方向の指テ	コナテ	コナテ→コナテ	テなし
358	9期	甗	凹線文系		有	無	円盤据置法	ハナケ→縦(上→下)ハナリ→胴部下放射状矧ゆ	ハナケ	コナテ	強いコナテ	ハナリ
359	7-8期	壺頸胴部	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	ハナケ→頸部に貼付突帯2条→ハナケ工具の刺突→6本1組櫛状工具直2+直2+波+直+波+直+三角刺突+(直+簾+直+三角刺突)2+波+直+三角刺突	ハナケ→指テ			砂目敷
360	6期	壺口胴部	櫛描文系有文		無	無		ハナケ→頸部コナテ→8本1組櫛状工具直線文3+簾+三角刺突	ハナケ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に沈線→ハナケ工具の刺突	コナテ	
361	7-8期	甗	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	ハナケ→頸部コナテ	ハナケ→胴部下半指テ	コナテ→口縁端部に沈線→上方からハナケ工具の刺突	コナテ→コナテ→2本1対垂下線	テ
362	7-8期	甗口胴部	条痕文系継承型櫛描文系有文		無	無		ハナケ→胴部上半ハナケによる横羽状	ハナケ→縦方向の指テ	コナテ→上方からの指押さえ	コナテ→6本1組櫛状工具垂下線2本1対(6単位か)	
363	8期	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	縦+ハナケ→頸部コナテ	ハナケ→胴部下半縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に沈線→上方からハナケ工具の刺突	コナテ	テ
364	8期	甗	小波状口縁無文		有	無	円盤充填法	矧→ハナケ→頸部コナテ	ハナケ→縦方向の指テ	コナテ→上下からの指押圧 小波状	コナテ	テ
365	7-8期	壺胴底部	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ハナケ→底部側面コナテ	ハナケ→底部周辺テ			
366	7-8期	壺	東海系模倣		無	無	円盤据置法	ハナケ→6本1組櫛状工具直線文→弧線→施文間コナテ	ハナケ→指テ	コナテ	コナテ	テ
367	7-8期	甗	沈線文系継承型(櫛描文系有文)	底面剥離激しい	有	無	円盤据置法	縦ゆ→4本1組櫛状工具 簾+直2+簾+直2+波+刺突	ハナケ→縦方向の指テ	波状口縁4単位、コナテ→口縁端部にハナケ工具の刺突	コナテ→ハナケによる羽状刺突文2	
368	7-8期	鉢	西日本系(突帯付鉢)		無	無	円盤据置法	板テ→貼付突帯1→ハナケ工具の刺突→底部付近矧ガキ	ハナケ→縦方向の指テ	コナテ→貼付突帯→ハナケ工具の刺突	コナテ	シガキ
369	8期	甗	櫛描文系無文	吹きこぼれ痕明瞭	有	無	円盤据置法	縦ゆ→頸部、底部側面コナテ	ハナケ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部にハナケ工具の斜格子文	コナテ→ハナケによる羽状刺突文2.5	部分的にシガキ
370	8期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	コナテ	コナテ→斜め方向指テ	コナテ	コナテ	テ
371	6-7期	壺頸胴部	櫛描文系無文		無	無		縦ゆ→コナテ・シガキ	コナテ→部分的に指テ			
372	7期か	壺か	櫛描文系		有	無	円盤据置法	ハナケ→部分的にコナテ	ハナケ→底部周辺に指テ			テ
373	7期	甗口胴部	小波状口縁無文		有	無		ハナケ→縦方向の指テ 指Mテ	ハナケ→上方からの指押圧	コナテ→コナテ		
374	8-9期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	矧ゆ→胴部下半コナテ	ハナケ→胴部下半コナテ	コナテ→口縁端部に沈線→下方にハナケ工具の刺突	コナテ→コナテ	ハナリ
375	9期	甗	櫛描文系無文	梯川流域産	有	無	円盤充填法	ハナケ→底部側面テか	ハナケ→部分的に指テ	コナテ	コナテ→ハナケ工具の刺突	ハナリ
376	6期	壺	櫛描文系有文	内面剥離激しい	無	無	円盤据置法	矧ゆ→板テ→5本1組櫛状工具直2+波+直	ハナテ	コナテ→口縁端部にハナケ工具の刺突→沈線	コナテ	テ
377	6期	壺口胴部	櫛描文系無文	内面の剥離激しい	無	無		矧ゆ→胴部矧ガキ	ハナケ→部分的に指テ	コナテ→口縁端部にハナケ工具の刺突	コナテ	
378	6期	甗口胴部	条痕文系継承型櫛描文系無文	底部にモミ圧痕有、吹きこぼれ	有	無		粗いハナケ→頸部細かいハナケ→胴部下半テ	ハナケ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	
379	9期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤充填法	ハナケ→胴部上半ハナケ	ハナケ→縦方向の北テ	コナテ	コナテ	テなし
380	9期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ハナケ→矧ガキ	ハナケ→縦方向の北テ	コナテ→口縁端部にハナケ工具の刺突	コナテ→コナテ	
381	9期	壺	凹線文系影響型在り		無	無	円盤据置法	ハナケ	ハナケ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ→コナテ	板テ
382	9期	壺底部	櫛描文系	搬入(海綿骨針含有)	無	無	円盤据置法	ハナケ→斜めハナテ	ハナテ			
383	9期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤充填法	粗いハナケ→胴部細かいハナケ	粗いハナケ→胴部上半コナテ	コナテ→口縁端部下方向にハナケ工具の刺突	コナテ	
384	9期	壺	櫛描文系有文	2個1対の二穴有	-	-	円盤充填法	ハナテ	ハナケ→縦方向指テ	ハナケ→ハナケによる羽状刺突文	コナテ	
385	9期	壺	凹線文系影響型在り	梯川流域産、2個1対の二穴有、底部焼成後穿孔	-	-	円盤充填法	ハナケ→下から上へハナリ→胴部上半板テ	斜めハナリ	コナテ	コナテ→コナテ	
386	9期	甗	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法	ハナケ→底部側面縦ハナリ→放射状矧ゆ→頸部コナテ	ハナケ→縦方向の北テ	コナテ	コナテ	ハナ
387	9期	甗	櫛描文系無文		有	-	円盤据置法	ハナケ	ハナケ→縦指テ	ハナケ→コナテ、口縁端部下方向にハナケ工具の刺突	コナテ→コナテ	ハナテ
388	9期	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤充填法	矧ゆ→最大径コナテ	ハナケ→縦方向の北テ 指テ	コナテ→口縁端部下方向にハナケ工具の刺突	コナテ	テ
389	9期	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ハナケ→頸部、底部側面コナテ	ハナケ→縦方向の北テ	コナテ	コナテ	ハナリ→テ
390	9期	甗	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	ハナケ→頸部コナテ→3本1組櫛状工具直+斜2+直+斜	ハナケ→縦方向の北テ	コナテ	コナテ→ハナケによる羽状刺突文1	
391	9-10期	甗	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法	ハナケ→胴部に放射状矧ゆ→頸部コナテ	ハナケ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	ハナ
392	9期	甗口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ハナケ→胴部ハナテ	ハナケ→縦方向の北テ	コナテ	コナテ	
393	9期	甗	凹線文系影響型在り	搬入	無	無		ハナケ→頸部コナテ	ハナケ→縦方向の北テ	口縁端部ハナケ	コナテ→強いコナテ	ハナリ→テ
394	9期	甗口胴部	凹線文系	S-63に類似	有	-	-	ハナケ	ハナケ→縦方向指テ	コナテ→1条沈線	コナテ→コナテ	
395	9期	甗口胴部	凹線文系		有	無		ハナケ	ハナケ→縦方向指テ	コナテ→口縁端部に凹線1条	コナテ→コナテ	
396	9期	壺	凹線文系影響型在り		無	無	円盤据置法	ハナケ→底部側面、頸部コナテ	ハナケ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	砂目敷

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
397	9期	壺	凹線文系影響型在り		無	無	円盤据置法	ナメウ→ナメウテ→頸部コナテ	ウ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	-
398	9期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤1充填法	ナメウ→頸部にヘリ工具による沈線2条	ナメウ→胴部下半に縦方向の指テ	コナテ	コナテ→コナテ	ナメウ
399	8期か	壺	東海系模倣		無	無	円板充填法	ナメウ→頸部コナテ→5本1組櫛状工具(直+簾)4→最大径に三角刺突→胴部下半にコナテ	ウ→ナテ	コナテ→口縁端部に刺突	コナテ→ウか刺突	ナテ
400	8期か	鉢	櫛描文系無文		無	無	円板充填法	ナメウ→部分的に指押さえ有り	縦方向の指テ	コナテ	コナテ	ナテ
401	7-8期	壺	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	ナメウ→6本1組櫛状工具(直+簾)+波+直+半円文→コナテ	ナメウ→縦方向の指テ、部分的にウ	口縁端部にウ工具の羽状刺突文		ナメウ
402	8期か	壺	櫛描文系無文		無	無	円板充填法	ナメウ	ウ→ナテ	コナテ	コナテ	ナテ
403	7期新	壺	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	ナメウ→6本1組櫛状工具(直+波)4+直→胴部下半コナテ	ナメウ→胴部上半縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に沈線→上方から指押さえ	コナテ	ナテ
404	8期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	細かいナメウ→頸部荒いナメウ→板テ	粗いナメウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に沈線→上方からウ工具の刺突	細かいコナテ	
405	8期	甕	櫛描文系有文	梯川流域産	有	無	円盤据置法	ナメウ	ナメウ→底部周辺テ	コナテ→コナテ→口縁端部上方にウ工具の刺突	コナテ	ナテ
406	7期新	壺	櫛描文系有文	2個1対の蓋穴有、外面剥離激しい	無	無	円盤充填法	ナメウ→6本1組櫛状工具(直+簾+波→胴部コナテ)	コナテ	コナテ→口縁端部にウ工具の刺突	コナテ	ナテ
407	7-8期	鉢	櫛描文系無文		無	無	円盤充填法	ナメウ→胴部下半ナメウ	ナテ	コナテ	コナテ	
408	8期	甕	櫛描文系有文	外面有機物の付着多	有	無	円盤据置法	ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ→4本1組櫛状工具(斜行短線文(羽状))	ナテ
409	8期	甕	櫛描文系無文	*方形周溝墓より入り子状	有	無	円盤据置法	ナメウ→頸部コナテ	コナテ→部分的にナテ	コナテ	コナテ	ナテ
410	7-8期	鉢	櫛描文系有文		無	無	円盤充填法	縦ウ→4本1組櫛状工具(直+波)2→底部側面に直1→胴部部分的にウ	ナテ→コナテ	肥厚コナテ→口縁端部に8本1組櫛状工具(波状文)	口唇部にウ工具の羽状刺突文	ナテ
411	9-10期	壺か鉢	凹線文系	2個1対の蓋穴有	無	無	円盤充填法	粗いコナテ→胴部上半細かいコナテ→胴部下半細かい放射状縦ウ	細かいコナテ	つまみ上げ、コナテ	コナテ	
412	8期新	壺	小波状口縁有文		無	無	円盤充填法	ナメウ→8本1組櫛状工具(直+斜(矢羽状)1.5+簾)	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に沈線→上からの指押圧	コナテ	ナテ
413	9期か	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ→コナテ	砂目敷
414	9期	壺	凹線文系影響型在り	表面の荒れ激しい	無	無	円盤据置法	ナメウ→底部側面縦(下→上)ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	ナメウ
415	8期	甕口胴部	小波状口縁無文		有	無		ナメウ→頸部コナテ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→上下からの指押圧 小波状	コナテ	
416	8期	壺	東日本系		無	無	円盤据置法	ナメウ→ヘリによるコの字重ね文(5単位)→胴部下半コナテ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	ナメウ
417	7-8期	鉢か壺	櫛描文系無文	2個1対の蓋穴有	無	無	円盤据置法	ナメウ→底部側面、頸部コナテ	ナメウ→ナテ	コナテ	コナテ	ナテ
418	9期	壺	櫛描文系無文	種子圧痕有か	無	無	円盤据置法	斜め～ナメウ	粗いウ→縦方向の指テ			ナテ
419	9期	壺	櫛描文系無文	底部中央にくぼみ有	無	無	円盤据置法	ナメウ	ナメウ→頸部に指押さえ有			ナテか
420	9期	甕	櫛描文系無文	種子圧痕有か	有	無	円盤充填法	ナメウ→底部側面コナテ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	ナテ
421	9期	甕	櫛描文系無文	底部の剥離激しい	有	無	-	ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ			
422	7-8期	壺口底部	櫛描文系有文	(供献土器)	無	無	円盤据置法	ナメウ→ナテ→底部側面コナテ→5-6条1組の櫛状工具(直4+波+直2)	指テ	コナテ→口縁端部に櫛状工具の刺突	コナテ→沈線→三角刺突4段	ウ→ナテ
423	9期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤充填法	ナメウ→ナテ	斜め～コナテ→明瞭な指押さえ、頸部に絞り痕有	コナテ	コナテ	ナメウ
424	9期	壺	櫛描文系無文		-	-	円盤据置法	ナメウ→板テ	ナメウ→指テ→底部粗いナメウ	粗いナメウ	コナテ→ウ工具による刺突	多数の傷あり
425	9期	鉢	櫛描文系無文	口縁打ち欠きか	-	-	挿入法	ナメウ→コナテ	ナメウ→板テ	コナテ	-	コナテ→ナテ
426	6-7期	壺	条痕文継承型櫛描文系有文		-	-		櫛状条痕 横羽状→直線文→横羽状→羽状刺突文	ナメウ→縦指テ	沈線→ヘリ工具による刺突	羽状刺突3段	
427	7期	壺口頸部	櫛描文系有文		無	無		ナメウ	コナテ	コナテ→口縁端部に下方からのウ工具刺突	コナテ→ウ工具による羽状刺突文1.5	
428	6-7期	甕	櫛描文系有文(小波状口縁)		無	無		ナメウ	縦方向の指テ	コナテ→上下指押圧による小波状	7-8本1組櫛状工具(波状文3条か)	
429	9期	壺	東海系模倣		無	無	円盤充填法	ナメウ→板テ→5本1組櫛状工具(直5)	ナメウ→胴部下半ナテ消し、胴部上半部分的に縦方向の指テ	コナテ	コナテ→コナテ	
430	9期	壺頸部	凹線文系影響型在り	搬入か	有	無		ナメウ→胴部下半放射状ナメウ	斜め→縦方向の指テ			
431	9期	壺頸部	栗林系模倣か		無	無	円盤充填法	ナメウ→沈線8条→底部側面横ナメウ→胴部下半ナメウ	指テ			-
432	9期	壺頸部	凹線文系影響型在り	内面剥離激しい	無	無	円盤据置法	斜め～コナテ	ナメウ			板テ
433	9期	壺	凹線文系影響型在り	不明絵画有、供献土器	有	無	円盤充填法	ナメウ→底部側面横ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に凹線1条	コナテ	ナメウ→ナテ
434	9期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ			
435	9期	甕口胴部	凹線文系影響型在り	吹きこぼれ有	有	無		斜め～コナテ→頸部ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ→強いコナテ	
436	9期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ→胴部下半放射状ナメウ	ナメウ→部分的に指テ	コナテ→口縁端部下方にウ工具の刺突	コナテ	
437	9期	甕口胴部	近江系影響型在り		有	無		ナメウ→頸部直線文風コナテ	コナテ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部にウ工具の刺突	コナテ	-
438	1期以前	鉢口縁部	浮線網状文		無	無						
439	6期	壺口頸部	櫛描文系有文		無	無		ナメウ→7本1組櫛状工具(直+波)2	ナメウ→斜め～縦方向の指テ、頸部コナテ	コナテ→口縁端部にウ工具の刺突	コナテ	
440	6期	壺口頸部	条痕文継承型櫛描文系有文	(環濠O4資料混入)	無	無		ナメウ→6本1組櫛状工具(直+波)7+扇形文	ナメウ→部分的に縦方向の指テ	受け口 横ナメウ工具による羽状刺突文、下頸部に指押さえあり	コナテ→コナテ	
441	6期か	壺口頸部	櫛描文系無文		無	無		ナメウ→縦方向の指テ	ナメウ→コナテ	コナテ	コナテ	
442	5-6期	壺胴部	条痕文系有文		無	無		櫛状条痕	ナテ			

No	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
443	6期	喪口胴部	櫛描文系無文		有	無		ﾀｲﾌﾞ	ﾈｷﾏﾙ→縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ→口縁端部にﾈｷ工具の刺突	ｺｺﾏﾙ→ｺｺﾃﾞ	
444	5-6期	喪口縁部	櫛描文系無文	(環濠03資料混入)	有	無		ﾀｲﾌﾞ	ｺｺﾏﾙ→縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ→口縁端部にﾈｷ工具の刺突	ｺｺﾏﾙ→ｺｺﾃﾞ	
445	6期	喪口縁部	小波状口縁無文		有	無		ﾀｲﾌﾞ→頸部ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾏﾙ→縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ→両端指つまみ		
446	6期	喪口縁部	櫛描文系有文	(環濠03資料混入)	有	無		粗いﾈｷﾏﾙ→直線文	粗いﾈｷﾏﾙ→細かいｺｺﾏﾙ	ｺｺﾃﾞ→口縁端部に沈線→上下からのﾈｷ工具の刺突		
447	6期	喪口頸部	条痕文継承型無文	(環濠03資料混入)	有	無		斜め方向の櫛状条痕	ﾈｷﾏﾙ	ｺｺﾃﾞ→沈線→上下からの指押さえ 小波状	ｺｺﾏﾙ→ｺｺﾃﾞ	
448	6期	喪口縁片	信州系か		有	無		ﾀｲﾌﾞ→4本1組櫛状工具 直線文→垂下文	ﾈｷ→ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ→口縁端部にﾈｷ工具による羽状刺突文	ｺｺﾃﾞ	
449	5-6期	喪頸部片	近江系	搬入	有	無		粗いﾀｲﾌﾞ	粗いｺｺﾏﾙ→ﾈｷ工具による波状文			
450	5-6期	壺胴部片	-		無	無		ﾈｷ→沈線				
451	9期	壺	小波状口縁無文		無	無		ﾈｷﾏﾙ→底部側面ﾀﾞﾐｶﾞｷ	ﾈｷﾏﾙ→胴部下半に縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ→口縁端部に沈線→上下からの指押圧 小波状	ｺｺﾃﾞ	ｼｶﾞｷ
452	9期	壺口胴部	凹線文系影響型在り		無	無		ﾈｷﾏﾙ→底部側面ｺｺﾐｶﾞｷ	ﾈｷﾏﾙ→胴部縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	
453	9期	壺	凹線文系影響型在り	布接着痕有	無	無	円盤充填法	ﾈｷﾏﾙ→横～斜めﾀﾞ	ﾈｷﾏﾙ→縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ﾀﾞ
454	9期	壺	凹線文系影響型在り		無	無	円盤据置法	ﾈｷﾏﾙ	ﾈｷﾏﾙ→胴部下半縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ﾀﾞ
455	9期	喪	凹線文系影響型在り	底部、底面剥離激しい	有	無	円盤据置法	ﾈｷﾏﾙ→底部側面、頸部ｺｺﾃﾞ	ﾈｷﾏﾙ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	-
456	9期	喪	櫛描文系無文		有	無	円盤充填法	横～ﾈｷﾏﾙ	横～ﾈｷﾏﾙ→部分的に指ﾃﾞ			-
457		壺	櫛描文系有文	胴部下半に焼成後穿孔有	無	無	円盤充填法	ﾈｷ→4本1組櫛状工具 直+直+波)2+直→頸部、胴部ﾀﾞﾐｶﾞｷ	ﾈｷ→ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｼｶﾞｷ
458	6-7期	壺頸胴部	櫛描文系有文	(環濠03資料混入)	無	無		ﾈｷﾏﾙ→9本1組櫛状工具 簾+直2+波2+(直2+波1)2+直2	ﾈｷﾏﾙ→縦方向の指ﾃﾞ			
459	9期	壺	凹線文系影響型在り	北加賀産	無	無	円盤据置法	ﾈｷﾏﾙ→頸部ｺｺﾐｶﾞｷ→胴部ﾀﾞﾐｶﾞｷ	ﾈｷ→指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ→ｺｺﾐｶﾞｷ	ｺｺﾏﾙ→ｺｺﾃﾞ	
460	9期	壺	凹線文系影響型在り		無	無	円盤据置法	ﾈｷﾏﾙ→底部側面ｺｺﾃﾞ	ﾈｷﾏﾙ→縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾏﾙ→ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾏﾙ	ﾀﾞ
461	9期	喪口胴部	櫛描文系無文		有	無		ﾈｷﾏﾙ	ﾈｷﾏﾙ→縦方向の指ﾃﾞ	口縁端部ｺｺﾏﾙ→下方位に工具の刺突	ｺｺﾏﾙ	
462	9期	鉢	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ﾈｷﾏﾙ→ｺｺﾃﾞ→放射状ﾀｲﾌﾞメ→ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ→部分的に板ﾀﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ﾀﾞなし
463	9期	壺	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法	ﾈｷﾏﾙ→斜めﾀﾞﾐｶﾞｷ→頸部ｺｺﾃﾞ	ﾈｷﾏﾙ→指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｸﾞｽﾘ
464	9期	喪	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法	粗いﾈｷﾏﾙ→胴部下半傷状の板ﾀﾞ	細かいﾈｷﾏﾙ→部分的に指ﾃﾞ→頸部粗いｺｺﾏﾙ	粗いｺｺﾏﾙ→ｺｺﾃﾞ	粗いｺｺﾏﾙ	
465	9期	喪	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	粗いﾈｷﾏﾙ→底部側面横ｸﾞｽﾘか→頸部ｺｺﾃﾞ	粗いﾈｷﾏﾙ→頸部細かいｺｺﾏﾙ→縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾏﾙ	ｸﾞｽﾘ
466	9期	喪か鉢	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法	ﾈｷﾏﾙ→底部縦ｸﾞｽﾘ→ﾀﾞﾐｶﾞｷ	ﾈｷﾏﾙ→底部周辺指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾏﾙ→ｺｺﾃﾞ	ｸﾞｽﾘ→ｺｺｷ
467	9期	鉢	櫛描文系無文		有	無	円盤充填法	斜め～ｺｺﾏﾙ→底部側面ｺｺﾃﾞ	ﾈｷﾏﾙ→縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ→口縁端部上方に指押さえ	ｺｺﾃﾞ	ﾀﾞなし
468	9期	壺	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	ﾈｷﾏﾙ→胴部上半板ﾀﾞ→底部側面ｸﾞｽﾘ	ﾈｷﾏﾙ→縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｸﾞｽﾘ
469	9期	壺	凹線文系影響型在り		無	無	円盤据置法	ﾈｷﾏﾙ→頸部横方向の指ﾃﾞ	ﾈｷ→ﾃﾞ			ﾀﾞ
470	9期	壺胴底部	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ﾀｲﾌﾞ→底部側面ｺｺﾃﾞ	ﾀｲﾌﾞ→底部周辺、胴部上半ｺｺﾃﾞ			ﾈｷ
471	9期	喪口胴部	凹線文系		有	無		ﾈｷﾏﾙ→頸部ｺｺﾃﾞ	ﾈｷﾏﾙ→胴部下半縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ→口縁端部に凹線1条	ｺｺﾃﾞ	
472	9期	喪	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法	細かいﾀｲﾌﾞ→粗いﾈｷﾏﾙ→胴部上半ｺｺﾃﾞ	ﾈｷﾏﾙ→縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾏﾙ→強いｺｺﾃﾞ	ﾀﾞ
473	9期	喪	櫛描文系無文	吹きこぼれ有	有	無	円盤据置法	ﾀｲﾌﾞ→胴部ｺｺﾏﾙ→頸部ｺｺﾃﾞ	ﾈｷ→縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ→口縁端部に工具による刺突	ｺｺﾃﾞ	ﾀﾞ
474	9期	喪	凹線文系影響型在り(縄文施文)		有	無	円盤充填法	ﾈｷﾏﾙ→底部側面ｸﾞｽﾘ→頸部ｺｺﾃﾞ	ﾈｷﾏﾙ→部分的に縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ→口縁端部にLR縄文	ｺｺﾃﾞ	ﾈｷ及びｸﾞｽﾘ
475	9期	喪	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法	ﾈｷ	ﾈｷ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ﾀﾞ
476	9期	喪口～胴部	近江系影響型在り		有	無		ｺｺﾏﾙ	斜め～ｺｺﾏﾙ→部分的に指ﾃﾞ	受け口口縁端部ｺｺﾏﾙ	ｺｺﾏﾙ	
477	9期	喪口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ﾈｷ	ﾈｷ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	
478	9期	喪	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法	ﾈｷﾏﾙ→胴部下半放射状ﾀｲﾌﾞメ→底部側面横ｸﾞｽﾘ	ﾈｷﾏﾙ→部分的に縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ﾀﾞ
479	10期	喪口胴部	凹線文系	搬入	有	無		ﾀｲﾌﾞ→ﾀﾞﾐｶﾞｷ→最大径に二枚目による刺突、頸部に貼付突帯→指押さえ	縦ｸﾞｽﾘ→ﾀﾞﾐｶﾞｷ→頸部ｺｺﾐｶﾞｷ	ｺｺﾃﾞ、口縁端部に凹線2条	口縁拡張 ｺｺﾃﾞ	
480	9-10期	喪	凹線文系影響型在り		有	無		ﾈｷﾏﾙ→底部側面横ｸﾞｽﾘ	ｺｺﾏﾙ→斜め指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾏﾙ→ｺｺﾃﾞ	
481	6-7期	喪底部	櫛描文系無文		有	無		ﾈｷﾏﾙ→底部付近ｺｺﾃﾞ	ﾈｷ→縦方向の指ﾃﾞ			砂目数→中央部のみﾀﾞ
482	5-6期	喪口胴部	近江系模倣	搬入か	有	無		粗いﾀｲﾌﾞ→直線文風ｺｺﾏﾙ	ﾈｷ→縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ→口縁端部に工具の刺突、部分押圧(4単位)	粗いｺｺﾏﾙ	
483	6期	喪	櫛描文系無文	底部に焼成後穿孔、環濠資料混入か	有	無	円盤据置法	縦～ﾈｷ	ﾈｷﾏﾙ→縦方向の指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ→口縁端部に工具の刺突	ﾈｷ	ﾈｷ
484	7-8期	壺胴底部	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	縦～ﾈｷ	ﾈｷ	縦～ﾈｷ		ﾀﾞ
485	7-8期	鉢	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	斜め～ﾀｲﾌﾞ	ﾈｷ	ｺｺﾃﾞ→口縁端部下方に工具の刺突	ｺｺﾃﾞ	ﾀﾞ
486	9期	壺	近江系か(ハケメ文)		無	無	円盤据置法	ﾈｷ	ﾀｲﾌﾞ→縦方向の指ﾃﾞ	受け口 ｺｺﾏﾙ→下頸部に工具の刺突T	ｺｺﾃﾞ	ﾀﾞ
487	9期	喪口胴部	櫛描文系有文		有	無		ﾈｷ	ﾈｷ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ	ｺｺﾏﾙ→ｺｺﾃﾞ→ﾈｷ工具による羽状刺突文1
488	9期	鉢口胴部	櫛描文系無文		無	無		ｺｺﾏﾙ	ｺｺﾏﾙ→部分的に指ﾃﾞ	ｺｺﾃﾞ→口縁端部に刺突	ｺｺﾃﾞ	

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
489	9期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法	ナメ	ナメ	コナ	コナ→コナ	ナ
490	9期か	鉢	西日本系	搬入か			円盤充填法	ナメ→底部側面ナメ	ナメ→底面ナメ、コナ	コナ	コナ	ナ
491	9-10期	壺	凹線文系影響型在り		無	無	円盤据置法	ナメ→胴部下半ナメ	ナメ→縦方向の指テ	コナ	コナ	ナ
492	9-10期	壺	櫛描文系無文	2個1対蓋穴有、外面磨耗激しい	有	無	円盤据置法	ナメ→底部側面縦ナメ	ナメ→縦方向の指テ	コナ	コナ→コナ	ナ
493	8-9期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ナメ→最大径接着部横方向の指テ	ナメ→胴部上半指テ	コナ→口縁端部に部分的にナメによる2個1対部分刺突	コナ	ナ
494	8-9期	甕口胴部	小波状口縁無文		有	無		ナメ→胴部下半放射状縦ナメ	ナメ→胴部下半指テ	コナ→口縁端部上方に指テ	コナ	
495	9期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤充填法	ナメ→部分的にナメ	ナメ→指テ	コナ	コナ→コナ	ナ
496	9期	甕	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ナメ→底部側面縦(下→上)ナメ	ナメ→縦方向の指テ	コナ→口縁端部に刺突	コナ→爪跡多くあり	ナ
497	9期	甕	近江系影響型在り		無	無	円盤充填法	ナメ→頸部に直線文風コナ2条	ナメ→縦方向の指テ	コナ	コナ	ナ
498	9期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		無	無		ナメ	コナ→胴部上半縦方向の指テ	コナ	コナ→コナ	
499	9期	甕	櫛描文系有文(縄文)	外面胴部下半剥離激しい	有	無	円盤据置法	→頸部コナ、底部側面縦(下→上)ナメ	ナメ→縦方向の指テ	コナ→口縁端部にLR縄文	コナ→LR縄文	ナ
500	9期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	ナメ→頸部コナ	コナ→縦方向の指テ	コナ	コナ→コナ	ナ
501	9期	高杯	水平口縁		無	無	円盤充填法	ナメ→杯部コナ	コナ→コナ	コナ	コナ	
502	8-9期	甕口胴部	櫛描文系有文	粘土接合痕明瞭	無	無		ナメ→頸部コナ	ナメ→指テ	コナ→口縁端部にナメによる刺突	コナ→ナメ工具の羽状刺突2	
503	8期か	甕	西日本系(くの子甕)		有	無	円盤充填法	ナメ→底部側面コナ、頸部コナ	ナメ→縦方向の指テ	コナ	コナ	ナ
504	8期	壺	櫛描文系無文		無	無	円板据置法	ナメ→胴部上半ナメ→底部側面、頸部コナ	指テ	コナ→口縁端部上方にナメによる刺突	コナ	ナ
505	9期	壺	小波状口縁有文		無	無		ナメ→底部側面放射状ナメ、胴部上半に5本1組櫛状工具で部分的に扇形文4、弧線2	ナメ→縦方向の指テ	コナ	コナ→上方からの指テ	ナ
506	9期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメ	ナメ→胴部下半に縦方向のナメ	コナ	コナ	*
507	9期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法	ナメ→コナ→頸部ナメ→底部側面コナ	ナメ→縦方向の指テ	コナ	コナ	ナ
508	9期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	ナメ	ナメ→縦方向のナメ	コナ	コナ	ナ
509	9期	鉢	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ナメ	コナ→底部周辺指テ	コナ→口唇部にナメによる刺突	コナ	ナ
510	4期	甕口底部	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	斜め方向の板ナメ	縦方向の指テ	コナ→口縁端部にナメによる刺突	コナ	ナ→ナ
511	8期	甕口胴部	櫛描文系有文		有	無		ナメ	ナメ→縦方向の指テ	コナ	コナ→ナメによる羽状刺突1	
512	8期	甕口胴部	櫛描文系有文		有	無		ナメ→コナ→頸部コナ	ナメ→縦方向の指テ	コナ→口縁端部下方にナメによる刺突	コナ→5本1組櫛状工具、斜行短線文2+ナメによる羽状刺突文1.5	
513	9期	鉢	櫛描文系無文	1個蓋穴有	無	無	円盤据置法	ナメ→ナメ	ナメ→縦方向の指テ	コナ	コナ	
514		壺	櫛描文系無文		無	無	円板充填法	ナメ→胴部下半ナメ	縦方向の指テ	コナ	コナ	ナ
515	9期か	甕口胴部	櫛描文系無文		無	無		ナメ→ナメ→頸部コナ	ナメ→横方向の指テ	コナ→口縁端部上方にナメによる刺突	コナ	
516	8-9期	鉢	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ナメ→部分的にコナ	ナメ→縦方向の指テ	コナ→口唇部にナメによる刺突	コナ	ナ
517	8-9期か	鉢	櫛描文系無文	底部付近剥離激しい	無	無	円盤充填法	ナメ→縦方向のナメ	ナメ→縦方向のナメ	コナ	コナ	-
518	7-8期	壺	櫛描文系有文	2個1対の蓋穴有	無	無	円盤据置法	ナメ→ナメ→コナ	ナメ→斜め板ナメ	コナ→口縁端部にナメによる刺突	コナ	ナ
519	7-8期	壺	櫛描文系無文		有	無		縦→ナメ→底部側面部分的にナメ	ナメ→斜め板ナメ、→底部周辺指テ	コナ→口縁端部にナメによる刺突	コナ	ナ
520	9期	甕口底部	凹線文系影響型在り	(絵画土器弧線)	無	無	円盤据置法	ナメ→頸部ナメ→底部側面ナメ	ナメ→胴部上半縦方向の指テ	コナ	コナ	
521	9期か	壺	凹線文系影響型在り		無	有	円盤充填法	ナメ→ナメ→頸部コナ	コナ	コナ	コナ→コナ	ナ
522	9期か	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	ナメ→頸部コナ	ナメ→指テ	コナ	コナ	ナ
523	9-10期	甕口胴部	櫛描文系無文		無	無		ナメ	ナメ→胴部上半縦方向の指テ	コナ→口縁端部に沈線→ナメによる刺突	コナ→コナ	
524	10期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法	ナメ→底部側面縦方向のナメ	胴部上半縦(下→上)ナメ	コナ→コナ	コナ→コナ	ナ→ナ
525	9-10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り(刻み)		有	無		粗いナメ	粗いナメ	コナ、口縁端部にナメによる刺突	コナ	
526	9期	甕	櫛描文系有文		無	無		ナメ→底部側面縦方向のナメ	ナメ→縦方向の指テ	コナ	コナ→ナメによる羽状刺突1	
527	9期	甕口縁部	栗林系	外面に焼成後赤彩有	無	有		コナ	ナメ→コナ	コナ→沈線→LR縄文	コナ	
528	9期	甕口縁部	栗林系模倣		無	無		ナメ→ナメ	コナ	コナ→沈線による山形文	コナ	
529	9期	甕口頸部	凹線文系影響型在り		無	無		ナメ→頸部コナ	コナ→縦方向のナメ	コナ	コナ	
530	9期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメ→縦→斜めナメ	ナメ→指テ	コナ、口縁端部1条沈線	コナ	
531	9期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤充填法	ナメ→→胴部上半板ナメ	ナメ→縦方向の指テ	コナ→口縁端部下方にナメによる刺突	コナ→指接着痕有	ナ
532	9-10期	甕口胴部	櫛描文系有文		有	無		粗いナメ	ナメ→縦方向指テ、頸部コナ	ナメ→コナ	コナ→コナ→2本1組櫛状工具斜行短線刺突3段	
533	9期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法	ナメ→底部側面、頸部コナ	ナメ→縦方向の指テ	口縁端部つまみ上げ、コナ	コナ→コナ	ナ

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整（外面）	調整（内面）	調整（口縁）	調整（口縁内）	調整（底部）
534	9期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメカ	ナメカ→部分的に指テ	コナテ	コナテ→コナテ	
535	9期	壺口胴部	凹線文系		無	無		ナメカ→部分的にナメカ	ナメカ	コナテ	コナテ	
536	9期	鉢	櫛描文系無文	2個未貫通の穴有	無	無	挿入法	タメカ	ナメカ→部分的に指テ	—	—	コナテ→指テ
537	9期	鉢か壺	櫛描文系無文		無	無	円盤充填法	ナメカ	指テ	—	—	コナテ
538	9-10期	壺	櫛描文系無文		無	無		ナメカ→斜めミガキ	コナテ→指テ			
539	9-10期	壺口縁部	凹線文系		無	無		—	—	コナテ	コナテ	—
540	9期	鉢	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法か	ナメカ→ナメカ	ナメカ→ナメカ	コナテ、口縁端部1条	コナテ	タメカ→設置面テ
541	10期	壺口頸部	櫛描文系有文		無	無		ナメカ→頸部に貼付突帯2条(同時貼付)→3個1対のタメカ	コナテ→爪後多し	コナテ→口縁端部両端にタメカ	コナテ→タメカ工具の羽状刺突文3	
542	10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメカ	ナメカ→縦方向の指テ	タメカ→コナテ	コナテ→強いコナテ	
543	10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメカ	ナメカ→縦方向の指テ	コナテ→コナテ	コナテ	
544	10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメカ→胴部下半縦(下→上)タメカ	ナメカ→頸部近くに指押さえ有	コナテ	コナテ	
545	10期	甕	凹線文系		有	無	円盤充填法	底部側面縦方向のタメカ→胴部下半タメカ	縦(下→上)タメカ→胴部下半タメカ、胴部上半コナテ	コナテ、口縁端部つまみ上げ	コナテ	ナメカ
546	10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		細かいナメカ→胴部下半に粗い放射状タメカ	ナメカ→部分的に縦方向の指テ	コナテ、口縁端部つまみ上げ	コナテ	
547	10期	壺口頸部	櫛描文系有文	梯川流域か	無	無	—	ナメカ	ナメカ→胴部指テ	ナメカ→板状工具による斜格子	コナテ	
548	8-9期	壺頸部	櫛描文系有文	内面磨耗激しい	無	無		ナメカ→6本1組櫛状工具 直2+直2+直2+波	ナメカ			
549	9-10期	壺	凹線文系影響型在り		無	無	円盤据置法か	ナメカ→放射状タメカ→底部側面コナテ	ナメカ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	
550	10期	甕	凹線文系影響型在り	種子圧痕有か	有	無	円盤据置法	ナメカ→胴部最大径コナテ、底部側面コナテ	ナメカ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	ナメカ
551	10期	壺口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメカ→胴部最大径コナテ	ナメカ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	
552	10期	甕口胴部	-		有	無	—	タメカ	コナテ→胴部上位縦指テ	コナテ	コナテ→コナテ	
553	9-10期	壺底部			無	無	円盤据置法か	ナメカ→斜めミガキ	指テ			ナメカ
554	9-10期	壺底部			有	無	円盤据置法か	ナメカ	ナメカ			ナメカ
555	9-10期	壺底部			無	無	円盤据置法か	ナメカ→底部側面横タメカ	ナメカ→指テ			タメカ
556	9-10期	壺底部			無	無	円盤据置法	ナメカ	ナメカ			-
557	9-10期	甕底部		底部に焼成後穿孔有	有	無	円盤充填法か	タメカ	指テ			ナメカ
558	9-10期	甕底部			有	無	円盤据置法	タメカ	ナメカ			タメカ
559	9-10期	甕底部			有	無	円盤据置法か	ナメカ	ナメカ			ナメカ
560	10期	甕底部			有	無	円盤据置法	ナメカ→縦(下→上)タメカ	ナメカ→胴部指テ			
561	9-10期			底部に焼成後穿孔有	有	無	円盤充填法か	板ナメカ	縦方向(下→上)タメカ			ナメカ
562	9-10期	壺底部	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	タメカ→ナメカ、底部側面コナテ	ナメカ			-
563	10期	甕口胴部	近江系影響型在り		有	無		ナメカ→胴部上半直線文風コナテ	ナメカ→縦方向指テ	コナテ→口縁端部下方にタメカ	強いコナテ	
564	9期	壺	東海系模倣	梯川流域か、内面部分的に剥離	無	無		ナメカ→縦-斜めミガキ、底部側面横タメカ	ナメカ→縦方向の指テ			
565	9期	甕	近江系影響型在り	底部に焼成後穿孔有	有	無	円盤充填法か	ナメカ→タメカ→頸部にコナテ	斜め-コナテ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部にナメカ	コナテ	ナメカ
566	9期	甕	櫛描文系無文		有	無		ナメカ	ナメカ→指押さえ明瞭			タメカ工具による刺突
567	9期	甕	近江系影響型在り		有	無	円盤充填法	ナメカ→タメカ→頸部にコナテ、底部側面コナテ	斜め-コナテ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部ナメカ	コナテ	ナメカ
568	9期	甕口胴部	栗林系	搬入	有	無		ナメカ→7本1組櫛状工具 横羽状文→胴部下半にタメカ	ナメカ→胴部下半縦方向の指テ	コナテ→口縁端部下方にタメカ	コナテ→コナテ	
569	9期	甕	凹線文系影響型在り	胴部下半剥離激しい	有	無	円盤据置法	ナメカ	ナメカ→胴部下半に縦方向のナメカ	コナテ	コナテ→コナテ	ナメカなし
570	9期	甕	西日本系(くの字甕)		有	無	円盤充填法	タメカ→胴部下半タメカ	ナメカ→縦指テ→胴部下半縦(下→上)タメカ	コナテ	コナテ	タメカ→ナメカ
571	9期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメカ	ナメカ→胴部下半指テ	コナテ	コナテ→口縁端部付近強い指テ(ツミ上げ)	
572	8-9期	壺口頸部	櫛描文系有文		無	無		タメカ→胴部上半ナメカ、ミガキ	コナテ→コナテ	コナテ→口縁端部下方にタメカ	強いコナテ	
573	8-9期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメカ→頸部、底部側面コナテ	ナメカ→縦方向のナメカ	コナテ→口縁端部下方にタメカ	コナテ	ナメカ
574	8-9期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤充填法	タメカ→底部側面ナメカ	ナメカ→縦方向のナメカ	コナテ	コナテ	ナメカ
575	8-9期	甕	西日本系模倣	底部中くぼみ	有	無	円盤充填法	胴部上半タメカ→タメカ→底部側面ナメカ	ナメカ→胴部下半指テ	コナテ	コナテ	ナメカ
576	8-9期	甕	西日本系模倣		有	無	円盤充填法	タメカ→頸部コナテ	斜め-タメカ	コナテ	コナテ	板ナメカ
577	8-9期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメカ→頸部ナメカ	ナメカ→縦方向のナメカ	コナテ	コナテ	
578	8-9期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法	胴部下半縦タメカ→タメカ→最大径にタメカによる刺突	ナメカ→底部近くに縦方向の指テ	ナメカ→コナテ、口縁端部下方にタメカによる刺突	コナテ→コナテ→指接痕	タメカ→ナメカ
579	7期以前	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメカ	ナメカ→底部近くコナテ	コナテ→口縁端部タメカによる刺突	コナテ	
580	8-9期	壺	小波状口縁無文		無	無		ナメカ→縦-斜めミガキ	ナメカ→縦方向の指テ	コナテ→コナテ→沈線→上方からの指凹に→口縁端部にタメカ	斜め→コナテ	ナメカ
581	8-9期	甕	西日本系模倣		有	無	円盤充填法か	タメカ→胴部下半放射状タメカ→胴部上半に連続刺突2段		コナテ→口縁端部のタメカ	コナテ→コナテ	ナメカ

No	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
582	9-10期	壺	凹線文系影響型在り	2個1対の蓋穴有	無	無	円盤充填法	ナメウ→底部側面縦方向(下→上)ケズリ→ウ、頸部はコナテ、指押圧有	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ	ウ→コナテ	欠け
583	9-10期	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	横ナテ	コナテ	ナテ
584	9期	鉢	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	
585	9期	甗	櫛描文系有文		有	無		ナメウ→コナテ→5本1組の直線	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部下方向にウ工具の刺突	コナテ→コナテ	
586	9期	甗	櫛描文系有文		有	無		ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に15個のウ工具の刺突	コナテ→ウ工具による羽状刺突文1	
587	9期	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部下方向にウ工具の刺突	コナテ→コナテ	
588	8期	甗口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ→頸部コナテ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に沈線→上方からウ工具に刺突	コナテ→コナテ	
589	9期	甗	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法	ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	-
590	6期	壺口頸部	櫛描文系有文		無	無		ナメウ→板ナテ→7本1組櫛状工具 直2+直2+波	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部下方向にウ工具の刺突	コナテ	
591	6期	壺口縁部	櫛描文系有文									
592		蓋	櫛描文系無文	表面摩耗激しい、2個1対の蓋穴有	無	無						
593	6期	甗口胴部	櫛描文系有文		有	無		ウウ→5本1組櫛状工具 直2+直2+直	ナメウ	コナテ→口縁端部上方からウ工具の刺突	コナテ→垂下線2個1対	
594	6期	甗胴部	櫛描文系有文	内面に糊圧痕有	有	無		粗いナメウ→細かいウ→突帯1条→ウ工具による刺突→突帯下コナテ→ウ状沈線数条有り→ナテ消し	粗い横ウ→コナテ			-
595	6期	甗頸~底部	櫛描文系有文	糊圧痕有	無	無	円盤据置法	板ナテ→5本1組櫛状工具 直1+直2+波1+直→ウウナテ	ナメウ→縦方向の指テ			
596	6期	甗口胴部	櫛描文系有文		有	無		ナメウ→4本1組櫛状工具 直2+波2+直	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→上下の指押圧小波状	コナテ	
597	9期	壺口胴部	凹線文系影響型在り	口打欠け有	有	無		ナメウ→頸部コナテ	ナメウ→部分的に指押さえ	コナテ	コナテ→コナテ	
598	9期	壺胴部	櫛描文系有文		無	無		ナメウ→直線文風コウ4条有	ナメウ→胴部上半縦方向のナテ			
599	8-9期	壺胴部	櫛描文系有文		無	無		ナメウ→6本1組櫛状工具 直+斜+直+斜2+直→最大径コウナテ→胴部下半ウウナテ				
600	9期	壺口胴部	凹線文系影響型在り		無	無		ナメウ→胴部下半に放射状縦ウ	ナメウ→部分的に縦方向の指テ	コナテ	コナテ	
601	8期新	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメウ	ナメウ→胴部下半縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に下方からのウ工具の刺突	コナテ	ナテ
602	9期	甗	櫛描文系無文	胴部下半に剥離有	有	無	円盤据置法	コウウ→頸部コナテ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部下方向にウ工具の刺突	コナテ	
603	8期	甗口胴部	櫛描文系有文	梯川流域	有	無		ナメウ→頸部コナテ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ→ウ工具の羽状刺突文	
604	8期か	甗口胴部	櫛描文系無文		無	無		ウウ	コウ	コナテ→口縁端部にウ工具の刺突	コナテ→指接着痕有	
605	7期	壺口頸部	櫛描文系有文		無	無		ナメウ→5本1組櫛状工具 直+波+直+波+羽状刺突文+直→胴部上半ウウナテ	ナメウ→頸部に縦方向の指テ	コナテ→口縁端部にウ工具のX字状の刻み	コナテ→コナテ	
606	9期	壺	櫛描文系有文		無	無	円盤充填法	ナメウ→縦(上→下)ケズリ→頸部コナテ→胴部上半に沈線8条	コナテ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	ケズリ
607	9期	甗	櫛描文系有文		有	無	円盤充填法	ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部にウ工具の刺突	コナテ→ウ工具の刺突	-
608	9期	壺口頸部	凹線文系影響型在り		無	無		ウウ→頸部に貼付突帯痕跡有	コウウ→部分的に指押さえ	受け口状、コナテ	コナテ	
609	9期か	壺	-	2個1対の蓋穴有	無	無	円盤充填法	ナメウ→ウウナテ	ナメウ→縦ウウ	コナテ	コナテ	
610	9-10期	壺頸底部	櫛描文系無文	六つ目編み痕有	無	無	円盤据置法	コウウ→頸部板ナテ				
611	9期	壺	凹線文系影響型在り		無	無	円盤据置法	ナメウ→斜め板ナテ	ナメウ→斜め板ナテ	コナテ	コナテ→コナテ	ウウ→ナテ
612	8-9期	甗口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ→コナテ	
613	6期か	壺	櫛描文系有文		無	無		ウウ→7本1組櫛状工具 直2+波1+直2+三角刺突	ナメウ→部分的に指押さえ有			
614	6期	壺口胴部	櫛描文系有文		無	無		ナメウ→頸部コナテ→4本1組櫛状工具 直4+波+部分的に	ナメウ→胴部下半コナテ	コナテ	コウ	ナテなし
615	6期	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメウ	ナメウ→胴部下半コナテ 底部周辺ナテ	コナテ→口縁端部にウ工具の刺突		
616	6-7期	甗胴部	櫛描文系有文		有	無		ナメウ→板ナテ→6本1組櫛状工具 波+擬流水(直3+扇形文2)→胴部ウウナテ	ナメウ→部分的に縦方向の指テ			ナテなし
617	6期	壺	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	粗いナメウ	粗いナメウ→胴部上半指テ			ナテ
618	6期	甗	小波状口縁無文	内外面磨耗が激しい	有	無	円盤据置法	ナメウ→頸部コナテ	ナメウ	コナテ→上下からの指押圧 小波状	コナテ	ナテ
619	8-9期	甗	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	ナメウ→頸部コナテ→5本1組櫛状工具 直+扇形文2	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部にウ工具の刺突	コウウ→コナテ	ナテ
620	8-9期	壺胴底部	櫛描文系無文		無	無	円盤充填法	ウウ→胴部コウ	ナメウ→縦方向の指テ			-
621	9-10期	鉢	西日本系		有	無	円盤充填法	ナテ→ウウナテ	ナメウ→縦(下→上)ケズリ→ウウナテ	コナテ	コナテ	ケズリ
622	9-10期	甗	西日本系(くの字甗)		外有り	無	円盤据置法	ウウ→胴部上半ウウナテ→胴部下半ウウナテ	ウウ→胴部下半コウウナテ	コナテ→口縁端部に刺突	コナテ	ウウ→ナテ
623	8期	壺	櫛描文系無文	梯川流域産	有	無	円盤充填法	ナメウ→ナテ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部上下にウ工具の刺突	コウ	ケズリ
624	7-8期	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に沈線→上方にウ工具の刺突	コナテ	ナテなし

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
625	7-8期	甗口胴部	小波状口縁無文			無		ナメケ→頸部コナテ	ナメケ→部分的縦方向の指テ	コナテ→上下からの指押さえ 小波状	コナテ→コナテ	
626	6-7期	壺	櫛描文系有文(D類)		有	無	円盤据置法	縦~ナメケ→板状工具による直+靡+直+山形文	ケナテ→縦方向の指テ	コナテ→ケナテ工具による	コナテ→コナテ	砂目敷→中央のみナ
627	7-8期	壺	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	ナメケ→6本1組櫛状工具直2+靡+波+直2+3個1対扇形文(5単位)	ナメケ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に櫛状工具による刺突	コナテ→波状文3条	
628	7-8期	甗	小波状口縁無文		有	無	円盤据置法	ナメケ→底部側面、頸部コナテ	ナメケ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に沈線→上方からの指押圧	コナテ→コナテ	ナ
629	7期	甗口胴部	近江系カ	搬入カ	有	無		ナメケ→5本1組櫛状工具直線文+ケナテ工具による横羽状	ケナテ→ナ	コナテ→口縁端部波状文→口縁端部ケナテ工具の刺突	コナテ→波状文数条	
630	9期カ	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤充填法カ	ナメケ→底部側面コナテ	ケナテ→指テ	コナテ→口縁端部にケナテ工具の刺突	コナテ→コナテ	ナ
631	7期	甗口胴部	近江系カ		有	無		縦ケナテ	ナメケ→コナテ	コナテ→口縁端部に波状文→下方に櫛状工具による刺突	コナテ→波状文3-4条	
632	8-9期	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤充填法カ	ナメケ	ナメケ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ→コナテ	ナ
633	7-8期	甗口胴部	小波状口縁無文		有	無		ナメケ	ナメケ→胴部下半縦方向の指テ	コナテ→上下からの指押圧 小波状	コナテ→コナテ	
634	7期カ	甗	小波状口縁有文			無	円盤充填法カ	ナメケ→胴部上半にケナテ工具の波状文3条	ナメケ→縦方向の指テ	コナテ→上下からの指押圧 小波状	コナテ→コナテ	ナ
635	9期	甗胴底部	凹線文系影響型在在		有	無		ナメケ	ナメケ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	
636	6期以前	甗口胴部	櫛描文系無文		無	無		ケナテ	ナメケ	コナテ	コナテ→コナテ	
637	7期	壺	櫛描文系無文	内外面磨耗が激しい	無	無	円盤据置法	ナメケ	ナメケ→胴部下半コ~ナメカキ	コナテ→口縁端部に刺突	-	ナ
638	9期カ	甗	凹線文系影響型在在	内面磨耗が激しい	有	無	円盤据置法	縦ケナテ→胴部上半ナメケ→頸部に爪跡有り	ナメケ	コナテ	コナテ	
639		甗	櫛描文系無文	ひずみが激しい	外有り	無	円板据置法	縦ケナテ	ナメケ→縦指テ	コナテ	コナテ	ナ
640	9-10期	甗	凹線文系影響型在在		有	無	円盤充填法	ナメケ→胴部下半縦(下→上)ケスリ→放射状縦ケナテ	ナメケ	コナテ	コナテ	ナ
641	7-8期	壺	東海系(貝田町式)	搬入	無	無	円盤据置法カ	ナメケ→直線文→3個1対弧線文→直線文間沈線区画→文様間、胴部下半コカキ	ナ	受け口、口縁端部に直線文→下頸部に刺突	コナテ	ナ
642	8期	甗口胴部	櫛描文系無文			無		ナメケ	コナテ→胴部下半縦方向の指テ	コナテ→口縁端部上方にケナテ工具の刺突	コナテ→指接痕有り	
643	7-8期	壺胴部	櫛描文系有文	内面剥離激しい	無	無		ナメケ→ナメ~コカキ→8本1組櫛状工具直+靡+直+三角刺突	コナテ→縦方向の指テ			
644	7-8期	甗胴底部	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	縦ケナテ	ナメケ→部分的に指テ			ナ
645	9-10期	壺	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	ナメケ→部分的に縦カキ	ナメケ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ→4本1組櫛状工具斜行短線文3段	ケスリ
646	9-10期	壺	凹線文系影響型在在		無	無	円盤据置法	ナメケ→底部側面ケスリ→ケナテ	ナメケ→指テ	コナテ	コナテ→コナテ	ケスリ
647	9-10期	甗胴部	近江系影響型在在		有	無		縦ケナテ→直線文風コナテ	ナメケ→胴部下半縦方向の指テ			
648	9-10期	甗口胴部	凹線文系影響型在在	表面磨耗が激しい	有	無		ナメケ	ナメケ	コナテ	コナテ→コナテ	
649	9期	甗	凹線文系影響型在在		有	無	円盤据置法	ナメケ→底部側面強い縦方向のナテ→ケスリ	ナメケ→縦方向の指テ	コナテ	強いコナテ	ケスリ
650	9期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法カ	縦ケナテ→胴部下半部分的にナ	ナメケ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ→ケナテ工具の刺突	ケナテ
651	9期	甗	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	縦ケナテ→頸部、底部側面コナテ	ナメケ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	ナ
652	9-10期	壺	凹線文系影響型在在	内外面に磨耗激しい	無	無	円盤充填法	ナメケ	ナメケ→ナ	コナテ	コナテ	ケナテ
653	9-10期	甗	櫛描文系無文	底部に植物痕有	有	無	円盤充填法カ	細かいナメケ→頸部、底部側面コナテ	粗い横ケナテ→縦方向の指テ	コナテ	強いコナテ	-
654	9期	甗	凹線文系影響型在在		有	無	円盤据置法	ナメケ	ナメケ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に凹線1条	コナテ	
655	9期	甗胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメケ	ナメケ→胴部下半指テ			
656	9-10期	甗口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメケ→頸部コナテ	ナメケ→胴部下半縦方向の指テ	コナテ	強い横ケナテ	
657	9期	甗口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメケ→頸部コナテ	ナメケ→胴部下半縦方向の指テ	コナテ→口縁端部下方にケナテ工具の刺突	コナテ→コナテ	
658	8-9期	甗胴部	櫛描文系無文		有	無		コ~ナメケ	コナテ→胴部下半縦方向の指テ			
659	6-7期	甗	小波状口縁無文		有	無	円盤据置法カ	ナメケ	ナメケ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に沈線→上下からの指押圧 小波状	コナテ	なし
660	7期	壺	櫛描文系無文	外面磨耗激しい、2個1対の蓋穴有	無	無	円盤据置法	ナメケ→底部側面ナ	縦ケナテ→指テ	コナテ	コナテ	ナ
661	7期新	鉢	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ナメケ→底部側面コナテ	ナメケ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	ナ
662	7期新	甗	沈線文系継承型(櫛描文系有文)		両面有り	無	円板据置法カ	縦ケナテ→6本1組櫛状工具(直+波)2+三角刺突	ナメケ→胴部下半に縦方向の指テ	コナテ	コナテ→ケナテ工具による羽状刺突文2+三角刺突2	ナ
663	7期新	甗口胴部	沈線文系継承型(櫛描文系有文)		有	無		ナメケ→6本1組櫛状工具直3+靡+直3+最大径に2個1対の瘤状突起(4単位カ)				
664	6-7期	壺口胴部	櫛描文系有文	内面剥離激しい	無	無		ナメケ	ナメケ	コナテ→口縁端部ケナテ工具の刺突	コナテ→ケナテ工具の羽状刺突文	
665	8期カ	壺口胴部	小波状口縁有文		無	無		ケナテ→斜めイナテ→12本1組櫛状工具直2+6本1組櫛状工具+靡+直2+扇形文→胴部下半コカキ	イナテ	コナテ→口縁端部下方に波状文→条項から指押圧	コナテ	
666	8期新	甗	櫛描文系無文	搬入(海綿骨針含有)	有	無	円盤据置法	ナメケ→頸部コナテ	ケナテ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ→ケナテ工具の刺突	ナ
667	8期カ	甗	小波状口縁無文		有	無	円盤据置法	ケナテ→頸部、底部側面コナテ	ケナテ→底部周辺ケナテ→頸部コナテ	コナテ→口縁端部にケナテ工具の刺突ケナテ工具の刺突	コナテ	-
668	7-8期	甗口胴部	櫛描文系無文	S.34の影響受ける	有	無		ナメケ→胴部コカキ	ナメケ→縦方向の指テ→部分的にケスリ	コナテ→口縁端部上方にケナテ工具の刺突	コナテ→コカキ	-

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
669	7-8期	甕	西日本系(くの字甕)		有	無	円盤据置法	ナメウ→好ミガキ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ	ココテ	ナ
670	8期	甕口胴部	小波状口縁無文		有	無		ナメウ→頸部、底部側面ココテ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ→上下からの指押圧 小波状	ココテ→ココテ	
671	8期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ→頸部ココテ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部上方にワ工具の刺突	ココテ	
672	5期か	甕胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ	ナメウ→胴部下半縦方向の指テ			
673	5期か	鉢口縁部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ→横・斜めミガキ	ナメウ→ココミガキ	ココミガキ	ココミガキ	
674	6-7期	壺口頸部	櫛描文系有文	環濠資料混入、内面剥離激しい	無	無		タテウ→7本1組櫛状工具 直3→文様間ココミガキ	ナメウ	ココウ→ココテ→口縁端部にワ工具の刺突	ココテ→垂下線	
675	7期か	甕	櫛描文系無文	環濠M2の混入か	有	無	円盤充填法	タテウ	ナメウ→縦方向の指テ	ココウ→ココテ→口縁端部に部分押圧	ココテ	ナ
676	9期	壺	櫛描文系有文	底部に焼成後穿孔有	無	無	円盤据置法	ナメウ→胴部下半ココミガキ、頸部板テ	ココウ→胴部下半指テ	ココテ	ココウ→ココテ→垂下線(4単位)	
677	9-10期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	ナメウ→頸部ココテ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ	ココウ→ココテ	粗いナ
678	5-6期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ→頸部ココテ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ→ワ工具の2個1対の刺突(16単位)	ココテ	
679	6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	斜め→タテウ	ナメウ→底部周辺縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にワ工具の刺突	ココウ	ナなし
680	6期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ	ココウ→ココテ	ナか
681	6期	甕口胴部	櫛描文系有文		無	無		タテウ→ココテ→8本1組櫛状工具 直6+半平文	タテウ→ココテ、指押さえ	ココテ→指つまみによる口縁端部に瘤状突起	ココウ	
682	6期	甕口胴部	櫛描文系無文	10T-D005と同一か、外面胴部下半剥離	有	無		ナメウ→指テ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にワ工具による刺突	ココウ	
683	6期	甕	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	タテウ→7本1組櫛状工具 直3+波1	ナメウ→部分的に縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に沈線→上下指押圧による小波状	ココテ→波2	ナ→ナ
684	5期	甕	櫛描文系無文	焼成後底部穿孔有	有	無	円盤据置法	タテウ	斜め→ココウ→縦方向の指テ			
685	6期	壺	櫛描文系有文		無	外有り	円板充填法か	ナメウ→6本1組櫛状工具 直+波+直+簾+直+簾+直+三角刺突	ナメウ→ナ	ココテ→口縁端部上方にワ工具の刺突	ココテ→波3+垂下文2本1対(4単位)	強いナか
686	6期	甕	小波状口縁無文	焼成後底部穿孔有	有	無	円盤据置法	タテウ→底部側面ココテ	ナメウ→縦方向の指テ	上下からの指押圧 小波状	ココウ	ナ
687	6-7期	甕	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	タテウ→頸部ココテ	ナメウ→ココテ	ココテ→口縁端部波状文	ココウ	ナ
688	4期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	縦方向の板テ→底部側面横方向のナ	横方向の板テ	ココテ→口縁端部にワ工具の刺突	ココテ	強いナか
689	5-6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	タテウ	タテウ	ココテ	ココウ→ココテ	板テ
690	8期	甕	櫛描文系無文	焼成後底部穿孔有	有	無	円盤据置法	斜め→ココウ→底部側面指テ	ココウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部下方にワ工具の刺突	ココウ→ココテ	ナ
691	9-10期	甕口胴部	櫛描文系有文		無	無		ナメウ→5本1組櫛状工具(直+波)2	ココウ→縦方向の指テ	ココテ	ココウ→ワ工具による羽状刺突文	
692	9期か	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメウ→胴部下半に放射状縦ワメ放射状縦ワメ	ナメウ→板テ	ココテ→口縁端部上方にワ工具の刺突	ココウ	ナ
693	6-7期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ナメウ→部分的に指テ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ	ココテ	砂目敷→部分的にナ
694	6-7期	甕	櫛描文系有文	底部に焼成後穿孔有	有	無	円盤据置法	ナメウ→6本1組櫛状工具(直+波)2+直	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ	ココウ	ナ
695	6-7期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ	ナメウ→縦方向に指テ	ココテ→口縁端部にワ工具の刺突ワ工具の刺突	ココウ→ココテ	
696	7期	甕	小波状口縁無文		無	無	円盤据置法	縦ウ→底部側面ココテ	ナメウ→胴部下半縦方向の指テ	ココテ→上下からの指押圧 小波状	ココウ	ナ
697	9期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	タテウ→頸部ココテ	ココウ→縦方向の指テ	ココテ	ココテ	ナ
698	8-9期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ	ナメウ→部分的指テ	ココテ	ココウ→ココテ	
699	6-7期	甕	櫛描文系無文		有	無		タテウ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にワ工具の刺突	ココウ→ココテ	
700	8-9期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ	ココウ→ココテ	ナ
701	7期	甕口胴部	小波状口縁無文		無	無		ナメウ	ナメウ→胴部下半縦方向の指テ	上下からの指押圧	ココウ	
702	7-8期	甕口胴部	小波状口縁無文		無	無		ナメウ→部分的に縦→ナメミガキ	ナメウ→部分的にミガキ	ココテ→口縁端部に沈線→上下からの指押圧 小波状	ココウ→ココテ	
703	8期か	甕口胴部	櫛描文系有文		無	無		ナメウ→最大径にワ工具の刺突→4本1組櫛状工具 直線文	ココウ→縦方向の指テ	ココテ→ワ工具の羽状刺突文	ココテ	
704	9期	甕	櫛描文系有文		無	無	円盤充填法か	ナメウ→底部側面タテウ→ナメミガキ	ナメウ→部分的に縦方向のナ	ココテ→口縁端部下方にワ工具の刺突	ココテ→ワ工具による羽状刺突文1.5	
705	8期	甕口胴部	小波状口縁有文		有	無		ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ	ココテ→2個同時に連続刺突	
706	8期	甕口胴部			有	無		ナメウ→胴部上半板テ→胴部下半放射状縦ワメ→5本1組櫛状工具 直+斜2直+斜+直	ナメウ→部分的に指テ	ココテ→上下からの指押圧 小波状	ココウ→ココテ→垂下線(9単位)	
707	10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		縦ウ→頸部ココテ→胴部下半放射状縦ワメ	ナメウ→縦(下→上)タテウ	ココテ	ココウ	
708	9期か	甕口胴部	櫛描文系有文		有	無		ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ	ココウ→ココテ	
709	9期	壺頸部	櫛描文系有文		無	無	—	ナメウ→ワ工具による羽状刺突1.5段	ナメウ→頸部ナ			
710	8-9期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法か	ナメウ→頸部タテウ→ココテ→胴部下半好ミガキ	ナメウ→胴部上半縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にワ工具の刺突	ココテ	ミガキ
711	9期	壺	(絵画土器)凹線文系影響型在り	絵画土器記号文有	無	無	円盤据置法	ナメウ→頸部縦ウ	ナメウ→胴部下半縦方向の指テ	ココテ	ココテ	
712	8-9期	甕口胴部	櫛描文系無文	2次被熱、破損後二次利用	無	無		ナメウ→頸部ココウ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に沈線→上方にワ工具の刺突	ココウ→ココテ	
713	10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ココウ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ	ココウ→ココテ	
714	10期	鉢口頸部	近江系模倣	2個1対の蓋穴有	有	無		ナメウ→直線文風ココウ→ワ工具の刺突	ナメウ→指テ	受け口 口縁端部ナメウ	ココテ	
715	10期	鉢	近江系模倣	2個1対の蓋穴有、底部剥離	無	無	円盤据置法か	粗いナメウ→直線文風ココウ	ナメウ→胴部下半縦方向の指テ	受け口 口縁端部にナメウ	ココテ	-

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
716	10期	壺	櫛描文系有文		無	無	挿入法	板子→4本1組櫛状工具 直+波+直、脚部 直+垂下線+直+垂下線	ナメ	コナテ→口縁端部両端に刺突	コナテ→羽状刺突文1+結束工具櫛歯刺突	ナ
717	10期	甗	近江系影響型在り		有	無	円盤据置法	ナメ→底部側面縦(下→上)ケスリ→頸部コナテ	ナメ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	ケスリ
718	9期か	水差し	櫛描文系有文	挿入法	無	無	—	テ→4本1組櫛状工具で直+波+直+波+直	コナテ	コナテ		
719	9期	壺胴部	栗林系模倣		無	無	—	RL 縄文→弧線文、弧線文間に沈線文と同一工具による刺突	ナメ→コナテ			
720	9期か	壺頸部	凹線文系影響型在り		無	無		ナメ→頸部コナテ→ナメ工具の刺突	ナメ→縦方向の指テ			
721	10期	甗	凹線文系影響型在り	かご的な跡有	無	無						
722	8-9期	甗	櫛描文系無文	外面胴部下半剥離激しい	有	無	円盤据置法	テ→頸部コナテ	ナメ→胴部下半縦方向の指テ	コナテ→口縁端部下方に刺突	コナテ	テ
723	9期	壺	櫛描文系有文	底面にモミ圧痕有、S-231と同一製作者か	無	無	円盤据置法	細かいコナテ→頸部に直線文風粗いコナテ	粗いナメ→部分的に縦方向の指テ	コナテ→口縁端部下方にナメ工具の刺突	コナテ→ナメ工具の羽状刺突文	テなし
724	9期	壺胴底部	栗林系模倣品		無	無	円盤据置法	ナメ、コナテ→胴部下半テガキ→最大径に沈線区画及び5本1組櫛状工具 直線文→懸垂文→弧線文→弧線文内にテガキ	ナメ→底部周辺テ			
725	9期	壺胴底部	凹線文系影響型在り		無	無	円盤据置法	ナメ→テガキ	ナメ→胴部下半指テ			テ
726	9期	壺胴底部	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	ナメ→底部縦テ	ナメ→部分的に縦方向の指テ			テ
727	9期	壺頸部		「↑」の記号文あり	無	無		ナメ→6本1組櫛状工具 直3→テ記号「↑」	ナメ→縦方向の指テ			
728	9期か	壺口頸部	櫛描文系有文	搬入か	無	無		4本1組櫛状工具 直線文→コナテ			コナテ→ナメ工具による羽状刺突文→2個1対の円形浮文	
729	9期	壺底部	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	テ→板子	ナメ→指テ			テ
730	7期か	甗口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメ	ナメ→コナテ	コナテ→口縁端部にナメ工具の刺突	コナテ	
731	7期新	壺頸底部	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	コナテ→頸部テ	ナメ→胴部下半部分的に指テ			
732	7期新	壺	櫛描文系無文	外面剥離激しい	無	無	円盤据置法	縦~ナメ	ナメ→頸部指テ	コナテ	コナテ→コナテ	
733	6-7期	壺胴部	東日本系か	S-1079と同一か	無	無	—	テ→沈線による渦巻き文か	テ			
734	7期新	甗	櫛描文系無文	外面剥離激しい	有	無	円盤据置法	テ	ナメ→部分的に指テ	コナテ	コナテ	テ
735	7期新	甗口胴部	櫛描文系無文	外面剥離激しい	有	無		縦テ	ナメ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部上方にナメ工具の刺突	コナテ	
736	7期	甗口胴部	小波状口縁無文		有	無		ナメ→ナメ工具の横羽状	ナメ→縦方向の指テ	コナテ→上下からの指押圧小波状	コナテ→コナテ	
737	7期	甗	小波状口縁無文		有	無	円盤据置法	ナメ	ナメ→胴部下半縦方向の指テ	コナテ→上下からの指押圧小波状	コナテ	テ
738	6-7期	甗	櫛描文系無文	底部に焼成後穿孔有	両面有り	無	円板充填法	テ	ナメ→コナテ	コナテ	コナテ	強いテ
739	6期以前	甗口胴部	櫛描文系無文		有	無		テ→頸部コナテ	縦方向のテ	コナテ	コナテ	
740	6期	甗口胴部	櫛描文系有文		有	無		縦~ナメ→5本1組櫛状工具 直+波2+直+波	ナメ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部にナメ工具の刺突	コナテ→コナテ	
741	7期	壺口頸部	小波状口縁有文		無	有		縦テ→9本1組櫛状工具 直+波+直+波	ナメ→コナテ	コナテ→口縁端部沈線1条→上下からの指押圧 小波状	コナテ→ナメ工具による羽状刺突文1.5	
742	8-9期	壺	櫛描文系有文		無	無	円盤充填法	ナメ→胴部テガキ→7本1組櫛状工具 直+波+直+刺突+直+刺突	ナメ→部分的に縦方向の指テ	コナテ	コナテ→ナメ工具による羽状刺突文1.5	テガキ
743	8-9期か	壺胴底部	櫛描文系無文		無	無	円盤充填法	テ→コナテ	ナメ→胴部上半縦方向の指テ			テ
744	7期か	甗	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	テ→頸部、底部側面コナテ→最大径に刺突	ナメ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部にナメ工具の刺突	コナテ→コナテ	テ
745	8-9期か	鉢	櫛描文系無文	2個1対の蓋穴有	無	無	円板充填法	縦テ	ナメ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	テ
746	7-8期	壺	櫛描文系無文	2個1対の蓋穴有、外面剥離激しい	無	無	円盤据置法	ナメ	ナメ→テ			
747	7-8期	壺	櫛描文系無文		無	無	(円板据置法)	ナメ	ナメ→テ	コナテ→口縁端部上方にナメ工具の刺突	コナテ	テなし
748	7期	甗口胴部	小波状口縁無文		有	無		ナメ→頸部コナテ	ナメ→胴部下半に指テ	コナテ→口縁端部に下方からのナメ工具刺突沈線→上下からの指押さえ 小波状	コナテ	
749	9期	甗	近江系影響型在り		有	無		ナメ→最大径にコナテ	ナメ→部分的に指テ	ナメ→コナテ、口縁端部に下方からのナメ工具の刺突	コナテ→コナテ	テ
750	6期か	甗胴底部	櫛描文系無文	底部焼成後穿孔有 梯川流域産	有	無	円盤据置法	ナメ	ナメ→底部付近指テ			
751	9-10期	壺	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	ナメ→底部近く斜めケスリ→底部側面横ケスリ	ナメ→縦方向に指テ	コナテ	コナテ、口縁端部つまみ上げ	ケスリ
752	9期か	壺	櫛描文系有文	2個1対蓋穴有	無	無	挿入法	ナメ、脚部テ→コナテ	ナメ	コナテ→コナテ→ナメ工具による羽状刺突文	コナテ→コナテ	ナメ→テ
753	9期	壺	凹線文系		無	無	円盤充填法	コナテ→胴部下半放射状テ、頸部コナテ	コナテ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に1条の凹線	コナテ→コナテ	ナ
754	9-10期	壺	凹線文系影響型在り	絵画土器	無	無	円盤据置法	ナメ→胴部上半コナテ	ナメ→縦方向指テ、底部付近は粗いナ	テ→横テ、口縁端部にナメ工具による刺突	コナテ→強いコナテ、絵画のようなもの有り	砂目敷→中央のみテ
755	9-10期	壺	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	ナメ→3本1組櫛状工具 直+波状文+ナメ状直線文	ナメ→縦方向の指テ	テ→口縁端部にナメ工具による刺突	コナテ→コナテ	ケスリ
756	6期か	壺胴部	櫛描文系有文		無	無		テ→7本1組櫛状工具 直+波+直2+波1+直2+扇形文	コナテ→頸部コナテ			
757	10期	甗	櫛描文系無文	粘土接合痕明瞭	有	無		ナメ	ナメ→縦方向指テ	コナテ→口縁端部にナメ工具の刺突	コナテ→口縁端部にナメ工具の刺突	
758	9-10期	甗	近江系影響型在り		有	無		ナメ→コナテ	ナメ→縦方向の指テ	ナメ→コナテ	ナメ→コナテ	
759	9-10期	甗口口縁部	凹線文系影響型在り		有	無		コナテ	コナテ→縦方向指テ	コナテ	コナテ	
760	9-10期	甗口口縁片	凹線文系影響型在り		有	無		テ	ナメ→コナテ	テ→コナテ	コナテ→コナテ	

No	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整（外面）	調整（内面）	調整（口縁）	調整（口縁内）	調整（底部）
761	9-10期	甕口縁部	櫛描文系無文		有	無		縦→ナメウ→ココテ	ナメウ→ココテ	ココテ→口縁端部下方に刺突	ウ→ココテ	
762	10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメウ	ナメウ	口縁端部つまみ上げ ナメウ→ココテ	ココテ→ココテ	
763	9-10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		タメウ→ナメ	ココウ→斜めナメ	ココテ	ココウ→ココテ	
764	10期	甕口胴部	近江系影響型在り		有	無		粗いナメウ→直線文風粗いココウ、胴部下ナメウ→放射状タメ	粗いナメウ→部分的に指テ	荒いタメウ→ココテ	ココウ→ココテ	
765	9-10期	甕口縁部	櫛描文系有文		有	無		ナメウ→頸部ココテ	ナメウ	ココテ	ココテ→凹形刺突	
766	9-10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメウ	ナメウ→頸部に指押さえ痕	ココテ	ココウ→ココテ	
767	9-10期	高杯	-	搬入か	無	無	挿入法	ウ→縦（上→下）クズリ→ミガキ	ナメウ→ココミガキ	ナメウ→ココテ	ココテ	ウ→ココテ
768	9期	壺口縁部	（絵画土器）	不明絵画、内外面磨耗激しい	無	無			ウ→ナメ	ココテ	ココテ	
769	10期	甕口縁部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメウ	ナメウ	ココテ	ウ→ココテ	
770	10期か	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		タメウ→頸部ココテ	ココウ→最大径以下横クズリ	ココテ	ココテ	
771	10期	甕口胴部			有	無		ナメウ	ナメウ	ココテ	ココウ	
772	9期	壺口縁部	栗林系	搬入か	無	無		ナメウ→ココテ	ココテ	ココテ→LR縄文→山形文	ココウ→ココテ	
773	9-10期	甕口縁部	凹線文系		有	無		ナメウ→頸部ココテ	ナメウ	ココテ→口縁端部に凹線1条	ココテ	
774	9期	甕口縁部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ→頸部ココウ	ココウ	ココテ	ココテ	
775	9-10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	タメウ→ココテ	ナメウ→ココテ	
776	9期	甕口胴部	櫛描文系有文		有	無		斜め→ココウ→ココテ→最大径に5本1組櫛状工具 直線文、3本1組櫛状工具刺突2段	ココウ→縦方向の指テ	ココテ→ウ工具の羽状刺突文1.5ハケ工具による刺突有（羽状刺突文か）	ココテ	
777	10期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法か	ナメウ→胴部下半縦方向のクズリ→タメ	ナメウ→ココテ	ココテ	ココウ→ココテ	クズリ
778	8期か	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無		ナメウ	ナメウ→ココテ	ココテ→口縁端部にウ工具のX字状の刻み	ココテ→ウ工具による羽状刺突文1.5	
779	9-10期	甕口縁部	櫛描文系無文		無	無		ナメウ	ウ→縦方向の指テ	ココテ、口縁端部にウ工具による刺突6個1組	ココウ→ココテ	
780	9期	甕口胴部	近江系	搬入か	有	無		ナメウ→タメウ→直線文風ココウ5条→3本1組櫛状工具 垂下線	ナメウ→指テ	口縁受け口、口縁端部タメ	ココウ→ココテ	
781	10期	甕	凹線文系影響型在り	梯川流域産	有	無	円盤充填法か	タメ	ウ→胴部下半縦方向（下→上）クズリ	ココテ	ココテ	ナメ
782	8期か	鉢口縁部	西日本系		無	無		ナメ→貼付突帯3段→突帯に刺突	粗いウ→ナメ	ナメ→貼付突帯→刺突	ナメ	
783	10期	壺口胴部			無	無		ナメウ→ココミガキ	ココミガキ	ココテ→沈線4条	ココミガキ	
784	10期か	壺口胴部	櫛描文系無文	2個1対の蓋穴有、内面に補強の粘土組貼付有	有	無		ココウ→部分的にタメ	ココウ→部分的に指テ	ココテ	ココウ→ココテ	
785	10期	甕口縁部	凹線文系	搬入か	有	無		ココテ	ココテ	口縁端部に凹線2条	ココテ	
786	10期	甕口胴部	近江系影響型在り		有	無		ナメウ→直線文風ココウ3条→ウ工具による刺突	ナメウ	ココテ→口縁端部に刺突	ココウ→ココテ	
787	9-10期	水差し		挿入法	無	無	円盤据置法か	ナメウ	指テ	タメウ→ココテ	ココテ	ナメ
788	9期	壺胴部	栗林系模倣		無	無	-	懸垂文	ナメ			
789	8期か	壺	小波状口縁無文		無	無		ナメウ→ミガキ	ナメウ→指テ	ココテ	ココウ→ココテ→上方からの指押圧	
790	8期か	壺口胴部	櫛描文系有文		無	無		ナメウ→ナメ→7本1組櫛状工具 直+斜行短線文0段+直+斜行短線文5段+直、胴部最大径にココミガキ、頸部ココテ	ウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に刺突	強いココテ	
791	7-8期か	壺	近江系か	搬入	無	無		ウ→ナメ→3本1組櫛状工具 頸部直6、胴部直3	ウ→ココテ	ココテ	ココウ→ココテ	ナメ
792	8期か	壺頸部	櫛描文系有文		無	無		ナメウ→櫛状工具 直線文	ココウ→縦方向の指テ	ココテ	ココテ→6本1組櫛状工具 斜行短線文2段以上	
793	8期か	壺頸部	櫛描文系有文		無	無		ナメウ→頸部に直線文風ココウ	ナメウ→縦方向指テ			
794	9期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメウ	ナメウ→縦方向指テ	ココウ→ココテ	ココウ→横ナメ、口縁端部つまみ上げ	
795	8期か	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ			
796	8期か	甕口縁部	櫛描文系		有	無		ナメウ		ココテ→口縁端部にウ工具の刺突		
797	9期	甕口頸部	櫛描文系無文		有	無		斜め→タメウ→直線文風ココウ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部下方にウ工具の刺突有	ココウ	
798	9期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にウ工具による刺突	ココウ→ココテ	
799	8期か	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ	ナメウ→胴部下半に縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にウ工具の刺突	ココテ	
800	9期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ココウ	ナメウ→縦方向の指テ	ココウ→ココテ	ココウ→ココテ	
801	9-10期	甕	凹線文系影響型在り	底部焼成後穿孔	有	無	円盤据置法	ナメウ→最大径ココウ、底部付近横クズリ	ナメウ→縦方向指テ	ウ→ココテ	ココウ	クズリ
802	9期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ→頸部ココテ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ	ココテ	
803	9期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にウ工具による4個1組刺突	ココテ	
804	9期	鉢		全体的に磨耗激しい	有	無		ウ→斜めミガキ	縦→斜めミガキ			ナメ
805	9-10期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法か	タメウ→ナメ	胴部下半粗いココウ→胴部上半粗いココウ→部分的に縦方向のナメ	ウ→ココテ	ココウ	

No	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
806	9-10期	鉢	櫛描文系無文		無	無	円盤充填法か	矽ハケ→底部側面指テ	ハハケ→指テ	ココテ	ココテ	テ
807	8期か	鉢口縁部	西日本系	搬入か	無	無		ココテ→テ→貼付突帯2条	ココテ→ココテ	突帯付加	ココテ	
808	7-8期	壺	櫛描文系有文		無	無	円盤充填法か	ハ→矽ハケ、胴部上半 8本1組櫛状工具(簾+三角刺突+垂下線+三角刺突+簾)+(三角刺突+簾)4+三角刺突+扇形文	ハハケ→指テ		垂下線	テ
809	7-8期	壺口胴部片	櫛描文系有文		無	無		擬流水文(5本1組櫛状工具直線文5本以上+扇形文4段以上)→三角刺突		ココテ→口縁端部沈線→ハ工具による羽状刺突文	ココテ→ココテ→三角刺突5段、連続した穿孔有り	
810	7-8期	甕胴部片	櫛描文系有文		有	無		テ→7本1組櫛状工具 擬流水(直線文6→扇形文3段)	テ			
811	7-8期	壺胴部片	櫛描文系有文		無	無		テ→4本1組櫛状工具 直線文6→縦波状文	ココハ			
812	6期	甕	小波状口縁無文		両面有り	無		ハハケ	ハハケ→縦方向の指テ、頸部に細かいハハケ有	ココテ→沈線→上下からの指押圧(小波状)	ココハ	部分的にテ
813	6期	蓋		2個1対の蓋穴有	有	無		ミガキ	ミガキ			
814	7期	壺	櫛描文系		無	無		矽ハケ	ハハケ→縦方向の指テ	ココテ	ハ→ココテ	
815	7-8期	壺頸部	櫛描文系有文		無	無		ココテ→ココテ→貼付突帯3本でハケ工具の刺突	ココテ→ココテ			
816	7-8期	壺口頸部	櫛描文系有文		無	無		矽ハケ→7本1組櫛状工具 直6本以上	ハハケ	ココテ→口縁端部にLR縄文ハケ工具の刺突	ココテ→ハケ工具による羽状刺突文3.5	
817	7-8期	壺胴部片	櫛描文系有文		無	無		ハ→テ→貼付突帯3条に縦の突帯付加、→突帯にハケ工具による羽状刺突文、→突帯間に6本1組櫛状工具 直線文を突帯間に充填	ハ→テ			
818	6期	壺胴部	櫛描文系有文		無	無		ハハケ→矽ハケ、頸部に沈線4条	ハハケ→縦方向の指テ			
819	6期	壺底部	櫛描文系		無	無		縦~ハハケ	縦方向の指テ			砂目敷
820	8期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ハハケ	ハハケ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部上方にハケ工具の刺突	強いココテ	
821	8期か	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ハハケ	ハハケ	口縁端部にハケ工具による刺突	ハ→ココテ	
822	9-10期	壺	凹線文系		有	無	円盤充填法か	ハハケ→胴部下放射状矽ハケ、ココテ	ハ→テ	ココテ 矢印口縁端部に凹線1条	ココテ	ケズリ→テ
823	9期か	壺口縁部	粟林系か		無	無	—	沈線→ココミガキ	ハ→ココテ	ココテ	ココテ	
824	9期	甕	近江系影響型在地	初圧痕有	有	無	—	ハハケ→頸部にココハ	ココテ→縦方向の指テ	ココテ→ココテ、口縁端部にハハケ	ハハケ	
825	9-10期	甕	近江系影響型在地		有	無		ハハケ→胴部下放射状矽ハケ、頸部ココハ	ハハケ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部下方からの刺突	ココハ→指テ	
826	9-10期	甕か鉢底部	西日本系		有	無	円盤充填法か	粗いハハケ→ココテ	粗いハ→テ			ケズリ→テ
827	7-8期	壺口胴部	-	二次被熱有	有	無	—	矽ハケ→ココテ	粘土接合痕、指押さえ明瞭	ココテ	ココテ	
828	7-8期	鉢口胴部	小波状口縁無文		無	無	—	ハハケ	ハハケ	ココハ、上下指押圧小波状	ココハ	
829	9期か	甕口縁部	近江系		有	無	—	粗いハハケ	ハハケ→部分的に縦指テ	端部つまみあげ、ココハ	ココハ	
830	7-8期	壺	櫛描文系無文	内面磨耗激しい	無	無	—	矽ハケ	ハ→テ			テ
831	7-8期	壺	櫛描文系有文		無	無		ハハケ→ココテ→10本1組櫛状工具、直2+簾+直+簾+直+簾+斜+直	ハハケ→指テ	ハハケ→ココテ	ココテ→垂下線(4単位か)	
832	7期	壺	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法か	縦~ハハケ	ハハケ→頸部、最大径指テ	ココテ、口縁端部ハケ工具による刺突		テ
833	7-8期	壺	小波状口縁有文	焼成痕剥離	—	—						
834	7-8期	壺	櫛描文系有文	内面剥離激しい	無	無	—	矽ハケ→6本1組櫛状工具 直+波+直	ハハケ→胴部上半ハケ	ココテ→波2→棒状浮文2本1対(6単位か)	ココハ→ココテ	
835	7-8期	壺口頸部	条痕文継承型櫛描文系有文		無	無	—	ハハケ、頸部に2条突帯+棒状浮文(4単位か)有	ハハケ	二枚貝による羽状刺突、下方には二枚貝かによる刺突	ココテ	
836	7-8期	壺口胴部	小波状口縁無文	二次被熱有	有	無	—	矽ハケ	ハハケ、頸部下縦方向指テ	上下指押圧小波状	ココハ	
837	7-8期	甕か口縁部	櫛描文系無文	二次被熱有	有	無	—	矽ハケ	細かいハハケ	沈線→上方から刺突	ココテ	
838	7-8期	壺口胴部	櫛描文系有文	焼成時破砕	無	無	—	ハ→部分的に板テ、5本1組櫛状工具 三角刺突+直5条と扇形文で擬流水+三角刺突、		ハ、下方から板状工具刺突	ハ→ココテ	
839	7期新	壺胴部	櫛描文系有文	種子圧痕有	無	無	—	7本1組櫛状工具、直2+直2+波+直2+簾+直2	ハ			
840	7-8期	壺	東海系模倣		無	無	円盤充填法か	ハハケ→最大径上板テ	ココテ	ココテ	ココテ	ケズリ→ミガキ
841	7期	甕	沈線文系継承型(櫛描文系有文)	梯川流域産		無		ハハケ→5本1組櫛状工具(簾+三角刺突)3、最大径に瘤状突起(4単位)	ハ→指テ	ハハケ→ココテ、口縁端部にハケ工具による刺突	ハ→ココテ→ハケ工具による羽状刺突文→2個1対の瘤状突起(4単位)	
842	7期	甕	沈線文系継承型(櫛描文系有文)		有	無		ハハケ→7本1組櫛状工具、直2+簾+直2+直1+扇形文+2個1対瘤状突起(4単位か)	ハハケ→縦方向の指テ	ココテ→沈線→口縁端部上方からのハケ工具刺突	ココテ→羽状刺突文2段	
843	7期	甕口縁部	小波状口縁有文	内面磨耗激しい	無	無	—	矽ハケ→5本1組櫛状工具直線文	ハ	上下指押圧小波状	三角刺突1条	
844	7期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法か	矽ハケ→縦方向のテ、頸部ココテ	ハ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にハケ工具による刺突	ココハ→ココテ	テ
845	7-8期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法か	ハハケ→底部付近ココテ	ハハケ→指テ	ハハケ→ココテ→ハケ工具刺突	ココハ	テ
846	7期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法か	ハハケ	斜め→ココハ→縦方向の指テ		ハハケ→ココテ、口縁端部にハケ工具の刺突	ハハケ
847	7期	甕	小波状口縁無文		有	無	円盤据置法か	斜め~矽ハケ	ハハケ→縦方向指テ	ココハ→上下からの指押圧による小波状	ココハ	テ
848	7期	甕口胴部	櫛描文系無文		無	無		縦~ハハケ	ハハケ→胴部下縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にハケ工具による刺突	ココテ	
849	7期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無	—	ハハケ	ハハケ→縦方向に指テ	ハケ工具刺突	ココテ	
850	7期	甕口胴部	小波状口縁無文		有	無	—	矽ハケ	ハハケ、部分的に指押さえ有	ココテ、沈線→上下指押圧小波状	ココハ	

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
851	7期	甕口縁部	小波状口縁無文	内面磨耗激しい	有	無	—	好ゆ		上下指押圧小波状	ココナ	
852	7期	甕口胴部	西日本系(くの字襷)	搬入か	有	無		好ゆ→胴部上半にゆ工具による刺突	好ゆ→胴部下半	ココナ	ココナ	
853	8期	鉢	櫛描文系無文	全面磨耗激しい	無	無	円盤据置法	好ゆ→好ゆか	好ゆか	ココナ、貼付肥厚		好ゆか
854	7-8期	鉢口縁部	櫛描文系有文		無	無	—	好ゆ→6本1組櫛状工具 直+波	好ゆ	ココナ	ココナ	
855	7期	壺口縁部	条痕文継承型有文		無	無	—	粗いゆ	粗いゆ	下方から指押	ゆ工具の羽状刺突文	
856	7-8期	壺口胴部	西日本系	二次被熱有	有	無	—	好ゆ	好ゆ	ココナ	ココナ	
857	7-8期	壺胴底部	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	好ゆ→板好ゆ	ココナ→最大径上指押さえ明瞭			
858	7期新	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無	—	好ゆ→ココナ	ココナ	ココナ	ココナ	
859	8期	壺	櫛描文系有文	口縁部に細かい櫛歯刺突有	無	無	円盤据置法	好ゆ→ココナ→ココナ、頸部2条貼付突帯→ゆ工具刺突	好ゆ→縦方向の指好ゆ	好ゆ→ココナ、口縁端部下方向のゆ工具の刺突	ココナ→櫛状工具による羽状刺突文1.5	好ゆ
860	8期	壺口胴部	櫛描文系無文	二次被熱有	無	無	—	好ゆ胴下部に粗いゆ有	胴下部荒いゆ上部は細かいゆ→縦方向に指好ゆ	沈線→上方より板状工具の刺突		
861	7-8期	壺胴部	櫛描文系有文		無	無	—	直5条+扇+直2条+三角刺突	好ゆ→好ゆ			
862	7-8期	壺頸部	櫛描文系有文		無	無	—	好ゆ→11-12本禾本科以外の細い施文具利用 簾+直 施文下好ゆ	好ゆ→指好ゆ			
863	8期	壺口胴部	櫛描文系無文	磨耗激しい	無	無	—	好ゆ	好ゆ	ココナ		
864	7-8期	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無	—	好ゆ	好ゆ→ココナ			垂下線有
865	7-8期	壺口頸部	櫛描文系無文	内外面磨耗激しい	無	無	—	好ゆ		口縁端部にゆ工具の刺突		
866	8期	壺	櫛描文系有文	口縁部に細かい櫛歯刺突有	無	無	—	好ゆ→ココナ→12-13本1組櫛状工具 直+簾+直+直+斜+直+斜2+直+斜+直	好ゆ→好ゆ	ココナ	ココナ→垂下線(4単位か)	
867	7-8期	壺口頸部	櫛描文系有文		無	無	—	好ゆ→8本1組櫛状工具 直5条+斜行短線(羽状)+直5条	好ゆ→頸部下指好ゆ	沈線1条→上方からの板状工具の刺突	ココナ	
868	7期新	壺口縁部	小波状口縁有文		無	外有	—	好ゆ→6本1組櫛状工具 直+直+波	好ゆ→ココナ	沈線→上下指押圧小波状	垂下線有	
869	7-8期	壺口胴部	小波状口縁有文		無	無	—	好ゆ→好ゆ 8本1組櫛状工具 直+斜行短線矢羽状	好ゆ→部分的に指好ゆ	沈線→上下指押圧小波状	ココナ→斜行短線矢羽状	
870	7-8期	壺頸部	櫛描文系有文	内外面磨耗激しい	無	無	—	好ゆ→頸部に三角貼付突帯2条→直線文				
871	7-8期	壺頸部	櫛描文系有文		無	無	—	好ゆ→11-12本禾本科以外の細い施文具利用 直+斜行短線+直2+斜行短線+直2	好ゆ→部分的に好ゆ			
872	7-8期	壺胴部	貝田町式模倣		無	無	—	好ゆ→9本1組櫛状工具直施文下好ゆ	好ゆ			
873	7-8期	壺胴部	貝田町式模倣		無	無	—	11本1組禾本科以外の細い施文具利用+三角刺突2段下好ゆ	好ゆ→好ゆ			
874	8期	壺底部	櫛描文系	底部のみ、靱圧痕有	無	無	—	好ゆ→部分的にココナ	好ゆ→縦方向の指好ゆ			砂目敷か
875	7-8期	甕口縁部	小波状口縁無文	外面に吹き零れ痕有	有	無	—	下から上へ好ゆ→ココナ	ココナ→部分的に指押さえ有	上下指押圧小波状		
876	8期	甕口胴部	櫛描文系有文	磨耗激しい	無	無	—	好ゆ	好ゆ→5本1組櫛状工具直+簾+直+波	上方からのゆ工具による刺突		
877	7-8期	甕口胴部	小波状口縁無文		有	無	—	好ゆ	ココナ→部分的に指好ゆ	沈線→上方からの指押圧小波状		
878	8期	甕	櫛描文系無文		有	無	—	斜め→好ゆ→底部側面ココナ	好ゆ→胴部下縦方向の指好ゆ	ココナ→口縁端部に上方からのゆ工具の刺突	ココナ	好ゆ
879	7期新	甕	西日本系(くの字襷)	図上復元	-	無	円板充填	好ゆ、板工具が刺突有り	好ゆ→好ゆか	ココナ	ココナ	好ゆ
880	7-8期	甕口縁部	西日本系(くの字襷)		有	無	—	好ゆ	好ゆ	ココナ	ココナ	
881	7-8期	甕胴底部	西日本系(くの字襷)	*二次被熱有	有	無	—	粗い好ゆ、板状工具による刺突有	粗い好ゆ			好ゆ
882	8期	鉢	西日本系模倣		無	無	円盤据置法	好ゆ→好ゆに上半部ココナ	好ゆ→部分的に縦指好ゆ→好ゆ	口縁肥厚、ココナや字R氏口縁端部に細かい櫛状工具による刺突	好ゆ→ココナ	好ゆ
883	7-8期	甕口胴部	櫛描文系有文		有	無	—	好ゆ→5本1組櫛状工具 直4条	好ゆ→縦方向指好ゆ	ココナ→下方から櫛状工具による刺突	ココナ	
884	4期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無	—	細かい好ゆ	粗い好ゆ→指好ゆ	ココナ、口縁端部板状工具の刺突	ココナ	
885	7期か	鉢口縁部	櫛描文系有文		無	無	—	好ゆ→櫛状工具による同心円文?波状文	好ゆ	好ゆ	好ゆ	
886	9-10期	甕口縁部	凹線文系影響型在在		有	無	—	好ゆ→ココナ	指好ゆ	ココナ	ココナ	
887	7期か	鉢把手部	-		無	無	—	好ゆ	好ゆ			
888	9-10期	鉢脚部	-		無	無	—	好ゆ	好ゆ→好ゆ			好ゆ
889	9-10期	高杯脚柱部	-		無	無	挿入法	好ゆ→好ゆ	好ゆ→好ゆ			好ゆ→好ゆ
890	9期	壺口頸部	櫛描文系有文		無	無	—	好ゆ→頸部に貼付突帯	好ゆ	ココナ→口縁端部にゆ工具による刺突	ココナ→4本1組櫛状工具 斜行短線文4段	
891	7-9期	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無	—	好ゆ	ココナ	ココナ→口縁端部下方向に櫛状工具による刺突	ココナ→ゆ工具による羽状刺突文2	
892	9-10期	壺口胴部	凹線文系影響型在在	海綿骨針有	有	無	—	好ゆ→部分的に好ゆ	好ゆ	ココナ	強いココナ	
893	9-10期	壺頸部	凹線文系影響型在在		無	無	—	好ゆ→好ゆ→直線文風ココナ→ゆ工具の刺突→文様間にココナ	好ゆ→ココナ			
894	9-10期	甕口胴部	-		有	無	—	好ゆ→胴部上半Bに刺突2段	好ゆ→好ゆ	ココナ→口縁端部に刺突	ココナ→刺突3段(一部羽状刺突文にも見える)	
895	9-10期	甕口胴部	凹線文系影響型在在		有	無	—	好ゆ	ココナ→縦方向の指好ゆ	ココナ	ココナ→ココナ	
896	9-10期	甕口胴部	凹線文系影響型在在		有	無	—	好ゆ	好ゆ→指好ゆ	ココナ	ココナ	
897	9期	甕口胴部	凹線文系影響型在在		有	無	—	好ゆ	好ゆ→縦方向の指好ゆ	ココナ	ココナ→ココナ	
898	7期か	甕口縁部	西日本系(くの字襷)	搬入	有	無	—	好ゆ→頸部ココナ	好ゆ→ココナ	ココナ	ココナ	

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
899	7期か	壺頸部	櫛描文系有文		無	無		ハ→縦方向の指テ、頸部に三角貼付突帯2段	ココテ→縦方向の指テ			
900	7期以前	壺底部	櫛描文系	木葉痕跡底部に有、内面剥離激しい	無	無	円盤据置法	縦~ハハテ→テ				
901	8期	喪胴部	沈線文系継承型(櫛描文系有文)		有	無		ハハテ→頸部ココテ→凹形刺突→4本1組櫛状工具 簾+直+斜行短線文	ハ→縦方向の指テ			
902	9期	喪口胴部	櫛描文系無文		有	無		ハハテ→頸部ココテ	ハハテ→縦方向の指テ	テハテ→ココテ	ハハテ→ココテ	
903	9期	喪口縁部	凹線文系影響型在り		有	無		ハハテ	ハハテ→ココテ	ココテ	ココテ	
904	8-9期	喪口縁部	櫛描文系有文		有	無		ハハテ	ハハテ	ココテ	ココテ	ココテ→ハテ工具による羽状刺突文2段
905	9期	喪口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ハハテ	ハハテ→テ	テハテ→ココテ	ココテ→ココテ	
906	9期	喪口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ハハテ→頸部ココテ	ココテ→縦方向の指テ	口縁端部つまみ上げココテ	ココテ→ココテ	
907	9期	喪	櫛描文系無文	粘土接合痕明瞭	有	無	円盤据置法	テハテ	ハハテ→部分的に指テ	ココテ	ココテ	
908	9期	喪	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	ハハテ→頸部ココテ	ハハテ→縦方向の指テ	ココテ、口縁端部ココテ	ココテ→ココテ	テ
909	9期	高杯脚柱部			無	無		テハテ	ハ			ココテ→テ
910	9期	壺口胴部	櫛描文系有文		無	無		ハハテ→3本1組櫛状工具 直+斜行短線文+直+斜行短線文	ハハテ→部分的に縦方向の指テ	ココテ→口縁端部下方に刺突	ココテ→ココテ→ハテ工具による羽状刺突文1	
911	9期	喪胴部	櫛描文系無文		有	無		ハハテ→頸部ココテ	ココテ→縦方向の指テ			
912	9期	喪	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	テハテ	ハハテ	ココテ	ココテ	ココテ→ココテ→羽状刺突文1.5
913	7期か	壺	櫛描文系有文	・反転復元	無	無		ハハテ→胴部下半テガキ、胴部上半テ →10本1組櫛状工具 直4+扇形文	ハハテ→胴部下縦方向の指テ、頸部ココテ			
914	7期	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無				テ →口縁端部ハテ工具によるX字状刻み、下方にハテ工具の刺突有	ハテ工具による羽状刺突文1.5、蓋穴有り	
915	7期	壺	西日本系(櫛描文系有文)	全面磨耗激しい	無	無		テハテ→頸部に櫛状工具によつ2個1対の刺突	ハハテ	ココテ →口縁端部に櫛状工具刺突2段、口縁端部上方にハテ工具による刺突	ココテ	
916	7期	壺頸部	櫛描文系有文		無	無		テハテ→6本1組櫛状工具 直+波+直	ハハテ			ハテ工具による羽状刺突文か
917	7期	壺口縁部	西日本系		無	無		テハテ	テ	テ →口縁端部ハテ工具による羽状刺突文	テ →波+直	
918	8-9期	壺口縁部	櫛描文系無文		無	無		テハテ→横方向の指テ	ココテ	ココテ	ココテ	
919	6期	壺口縁部	櫛描文系無文		無	無		テハテ→ココテ	ハハテ→指押さえ痕有	ココテ →口縁端部にハテ工具による刺突	ココテ→ココテ	
920	7期	壺口頸部	櫛描文系		無	無		ハハテ→ハテ工具による横羽状	ハハテ	ハハテ→口縁端部にハテ工具による刺突	ココテ→ココテ	
921	7-8期	壺口縁部	西日本系(櫛描文系有文)		無	無		テハテ→横方向の指テ	ハハテ	ココテ →口縁端部にハテ工具による刺突3段	ココテ→ココテ	
922	6期	壺口縁部	櫛描文系無文		無	無		テハテ	ハハテ	ココテ	ココテ→ココテ	
923	7-8期	壺口胴部	貝田町式模倣		無	無		ハハテ→沈線→6本1組櫛状工具 直線文3段→文様間ココテキ	ココテ→部分的に指テ	ココテ →直線文	ココテ	
924	7-8期	壺胴部	櫛描文系無文		無	無		ハハテ→斜め-ココテキ				
925	6期	壺底部	櫛描文系	底部に靱圧痕有	無	無	円盤据置法	ハ→テガキ	テ			砂目数
926	7-8期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ハハテ	ハハテ→縦方向の指テ、胴部上半明瞭な指押さえ			
927	7-8期	喪口胴部	櫛描文系有文		有	無		ハハテ→8本1組櫛状工具 直1+波1+直2(上段直線文下にかき消しの波状文有)	ハハテ→縦方向の指テ	テハテ→ココテ →口縁端部にハテ工具の刺突	ココテ→ココテ	
928	7-8期	喪口胴部	櫛描文系無文		有	無		テハテ	ココテ	ココテ、口縁端部上方にハテ工具による刺突	ココテ	
929	8期	喪	櫛描文系無文		有	無		ハハテ	ハハテ→縦方向指テ	ココテ→ココテ	ココテ→ココテ →ハテ工具による刺突	
930	7-8期	喪口胴部	櫛描文系無文		有	無		粗いハハテ	粗いハハテ→最大径近く細かいハテ	ココテ →口縁端部上方にハテ工具による刺突	ココテ	
931	7-8期	喪口胴部	櫛描文系無文	頸部内面に靱圧痕有	有	無		ハハテ	ハハテ	ココテ →口縁端部にハテ工具による刺突	細かいココテ	
932	7-8期	喪	櫛描文系無文	種子圧痕	有	無		細かいココテ→粗いハテ→粗いハテ	粗いハハテ→胴部下縦指テ			
933	8-9期	喪	櫛描文系無文	胴部下半に穿孔途中の穴有 梯川流域産	有	無	円盤据置法	テハテ	ハハテ→縦方向の指テ、胴部上半明瞭な指押さえ	ココテ (面とり)	ココテ→ココテ	
934	7-8期	高杯杯部		2個1対の蓋穴有	無	無		ハ→ココテ →斜めガキ	ハ→指テ	ココテ →ハテ工具による斜格子の刻み	ハ→ココテ	
935	8-9期	鉢口縁部	西日本系	搬入(能登か)	無	無		テハテ→横方向の指テ	ココテ	ココテ	ココテ	
936	7期	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無		直線文	ハ→テ	テ →波状文3条→2個1対凹形浮文	ハ→テ	
937	7期	鉢	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ハハテ	ハハテ→底面ハテに近い強いハテ	ココテ →ハテ工具による刺突	ココテ	ハテ
938	9期	鉢口胴部		2個1対の蓋穴有	有	無		ココテ→ガキ→最大径にハテ工具による刺突	ハ→横方向の指テ →部分的にハテガキ	有段 ガキ→口縁端部にハテ工具による刺突	ココテ →刺突3段	
939	9期か	喪口縁部	櫛描文系有文か		有	無		テハテ	ココテ	ココテ →口縁端部にハテ工具による2個1対の刺突有	ココテ→ココテ	
940	9期か	喪口胴部	櫛描文系無文		有	無		ハハテ→頸部ココテ	ハハテ→頸部ココテ	ココテ →口縁端部ハテ工具による刺突	ココテ→ココテ	
941	9-10期	喪底部			有	無	円盤据置法	ハ→縦(下→上)ハテ	テ			ハテ
942	9期か	喪頸底部	西日本系(くの字襷)	搬入か	有	有	円盤充填法	テハテ→底部側面縦ハテ→放射状ハテハテ、頸部分ガキ	ハ→ココテガキ			ハ
943	7期か	壺口胴部	櫛描文系無文		無	無		テハテ	縦方向の指テ	ココテ →口縁端部にハテ工具の刺突	ハハテ	
944	8期	壺胴部片	櫛描文系有文		無	無		テ →5本1組櫛状工具 直2+斜行短線2	ハ→テ			

No	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整（外面）	調整（内面）	調整（口縁）	調整（口縁内）	調整（底部）
945	10期	甕口頸部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメウ→頸部コナテ	ナメウ→縦方向の指テ	横テ	コナテ→コナテ	
946	9期	甕口胴部	櫛描文系有文		有	無		コナテ→頸部コナテ→5本1組櫛状工具 直2+4本1組櫛状工具 斜行短線文	ナメウ→部分的に縦方向の指テ		コナテ→コナテ	
947	10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメウ→縦方向の指テ	ウ→縦・斜め指テ	コナテ	コナテ	
948	9-10期	壺	凹線文系影響型在り		有	無		ナメウ	ナメウ→頸部指テ			
949	9-10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ→部分的にウ工具による5つ刺突有	
950	9-10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		無	無		ナメウ→沈線2条	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→コナテ	コナテ→コナテ	
951	7期	甕口胴部	櫛描文系有文		無	無		タメウ→頸部貼付突帯2段→ウ工具の刺突	ナメウ	ウ→コナテ→口縁端部下方にウ工具による刺突	コナテ→ウ工具による羽状刺突文1.5	
952	7期	甕口縁部	小波状口縁有文		有	無		ナメウ→8本1組櫛状工具 直線文	ナメウ→コナテ	コナテ→口縁端部上方かた指押圧		
953	9期	壺	東海系模倣		無	無		ウ→コナテ→胴部上半に沈線3条	ナメウ→部分的に指テ			
954	7期	甕口縁部	櫛描文系有文		有	無		ナメウ→コナテ→5本1組櫛状工具 直+簾	ナメウ→部分的に縦方向の指テ	コナテ	コナテ→コナテ→ウ工具による羽状刺突文1.5	
955	9-10期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		タメ→タメウ→頸部コナテ	ナメウ→胴部下半縦(下→上)ウスリ→頸部コナテ	ウ→コナテ→口縁端部下方にウ工具の刺突	コナテ→コナテ	
956	8期か	甕口縁部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ	ナメウ	ウ→コナテ→口縁端部上方にウ工具による刺突		
957	8-9期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメウ→ウ工具による横羽状	ウ→指テ	コナテ→口縁端部上方にウ工具による刺突	コナテ	
958	9-10期	甕口胴部	近江系影響型在り		有	無		ナメウ→胴部最大径に直線文風コナテ	ナメウ→縦方向の指テ	ナメウ→コナテ	ナメウ→コナテ	
959	9期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	ナメウ→胴部下半放射状タメウ	ナメウ→胴部下半指テ	コナテ	コナテ	ウスリ→テ
960	9-10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		斜め→タメウ→胴部上半コナテ	ナメウ→縦～斜め指テ	コナテ	コナテ	
961	9-10期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法か	ナメウ→部分的にタメウ	コナテ→縦方向の指テ	コナテ(口縁端部つまみ上げ)	コナテ	ウスリ
962	9-10期	甕	西日本系(くの字甕)	タメ有	有	無	円盤据置法	ナメウ→胴部上半タメウ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	テ
963	9-10期か	高杯杯部			無	無		ナメウ→コナテ	ウ→コナテ	コナテ	コナテ	
964	8-9期	壺	東海系模倣		無	無		縦～ナメウ→5本1組櫛状工具 直線文3条→直線文間に3個1対の棒状浮文	ナメウ→縦指テ	コナテ→2個1対棒状浮文(4単位)	ナメウ→垂下線(浮文位置に一箇所のみ)	
965	10期か	甕口胴部	櫛描文系有文		無	無		コナテ→頸部コナテ→6本1組櫛状工具による直線文	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ、口縁端部ウ工具の刺突	コナテ、口縁端部つまみ上げ	
966	10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		無	無		ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に凹線文1条	コナテ→コナテ	
967	10期	甕口縁部	凹線文系	表面剥離多し	無	無		タメウ→頸部に沈線5条	ナメウ→縦方向の指テ	ウ→コナテ	コナテ→凹線文6条	
968	10期	甕口胴部	櫛描文系有文		有	無		ナメウ→胴部最大径コナテ	ナメウ→縦方向の指テ	コナテ、口縁端部にウ工具の刺突	コナテ→ウ工具による羽状刺突文1.5	
969	10期	甕	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	タメウ→底部側面横ウスリ	ナメウ→部分的に指テ	タメウ	コナテ	ウスリ
970	9-10期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	ナメウ→頸部コナテ	ナメウ→指テ	コナテ	コナテ→コナテ	強いナテ
971	9期	甕	凹線文系影響型在り	底部で別工具への持ち替えか	有	無	円盤据置法	粗いナメウ→細かいナメウ	粗いナメウ→細かいナメウ	コナテ	コナテ	テ
972	9期	甕	近江系影響型在り	銅鑿形土製品共伴土器	有	無		粗いナメウ→頸部に縦方向の細かいウ	斜め粗いウ→縦方向の指テ	コナテ→コナテ	コナテ(口縁端部受け口状)	テ
973	7期か	壺	西日本系		無	無	円盤充填法	タメウ→禾本科系工具による刺突2段、頸部に貼付突帯2本→棒状浮文、胴部下半ウスリ	ナメウ→縦方向指テ	コナテ、口縁端部コナテ→胴部同様刺突	ウ工具刺突	
974	7期	甕口縁部	西日本系か(櫛描文系有文)	全体的に摩耗が激しい	無	無		ウ		コナテ→口縁端部にウ工具による刺突		
975	7期	甕口頸部	西日本系(櫛描文系有文)		無	無		頸部に貼付突帯→指押さえ→8本1組櫛状工具 直+直+簾	コナテ	ナメウ→コナテ	コナテ	
976	7-8期	甕胴部	貝田町式模倣		無	無		11本1組櫛状工具 直+円形刺突+直+直+円形刺突→文様間ウスリ	ナメウ→絞り痕			
977	8-9期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		斜め→コナテ	ナメウ→胴部下半指テ	コナテ→口縁端部下方にウ工具による刺突	コナテ→コナテ	
978	10期	甕口胴部	近江系影響型在り		有	無		ナメウ→頸部コナテ	ナメウ→胴部下半縦方向の指テ	コナテ→口縁端部コナテ 口縁端部つまみ上げ	コナテ→コナテ	
979	10期	甕	凹線文系影響型在り		有	無		ナメウ	ナメウ→縦方向の指テ 指テ	コナテ 口縁端部つまみ上げ	コナテ→コナテ	
980	10期	甕	凹線文系		有	無	円盤据置法	ナメウ→胴部下半(下→上)ウスリ→タメウ、胴部ウスリ	ウ→(下→上)ウスリ	コナテ	コナテ→コナテ	ウ
981	10期	甕	凹線文系		有	無	円盤充填法か	ナメウ→タメウ、底部側面コナテか	タメウ→胴部下半縦方向の指テ	コナテ	コナテ	ウ
982	9-10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		ナメウ→胴部上半直線文風コナテ	ナメウ	口縁端部つまみ上げ、端面コナテ	ウ→コナテ	
983	9期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメウ→底部側面横ウスリ	ナメウ→部分的に縦方向の指テ	コナテ→口縁端部にウ工具の刺突	コナテ→コナテ	ウスリ
984	9期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	ナメウ→底部側面横ウスリ	ナメウ→縦方向指テ、コナテ	コナテ→コナテ	コナテ→コナテ	ウスリ
985	7-8期	壺	櫛描文系有文	底部内面剥離激しい	無	無	円盤据置法	ナメウ→底部付近横→ウスリ	ナメウ→縦方向指テ			テ、一部ウスリ
986	7-8期	甕	沈線文系折衷型(櫛描文系有文)	在り	有	無	円盤据置法	ナメウ→8本1組櫛状工具 擬流水(直+直+扇形文)+斜行短線文+直+扇+直+扇	ナメウ→縦方向指テ	タメウ→コナテ	コナテ→扇形文+2条1組の垂下線	テ
987	8期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメウ	ナメウ→縦指テ	コナテ	コナテ、上方からウ工具刺突	テ
988	8期か	甕	櫛描文系無文		両面有り	無	円板充填法	ナメウ→底部側面指テ	ナメウ→胴部下半縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に沈線→上方からウ工具による刺突	コナテ	
989	9期	甕口縁部	栗林系模倣		無	無	—	コナテ	ウ→コナテ	縄文充填→山形文	コナテ	

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
990	9期	甕	近江系影響型在 地		有	無		ナメテ	ナメテ→胴部下半 縦方向の指テ	コナテ→コナテ	コナテ	
991	9期	壺	凹線文系影響型 在	絵画土器	無	無		ナメテ→胴部下半部分的にナ テ	斜め～ナメテ→縦 方向の指テ	ナメテ→コナテ	コナテ→コナテ	
992	7期	壺口縁部	櫛描文系有文	内面剥離激しい	無	無		ナメテ		コナテ	コナテ→コナテ→ハ テ 工具による羽状 刺突文2段	
993	7期	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無	—	ナメテ→6本1組櫛状工具直2	ハテ→コナテ	コナテ→口縁端部にハ テ 工具による羽状刺突文	コナテ	
994	7期	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無		ナメテ		ハテ→コナテ	コナテ→櫛状工具 による流水文2 段	
995	7期	壺か	-	貝殻擬縄文か 搬入	有	無		ハテ→刺突文→沈線による弧線	ナメテ			
996	7期	鉢	櫛描文系無文		無	無		ナメテ	コナテ→コナテ	コナテ	コナテ	
997	7期	壺口縁部	西日本系	2個1対蓋穴有	無	無		ナメテ→禾本科系工具2個1対 刺突2段→コシキ	コナテ			
998	9期	甕胴部	櫛描文系無文		有	無		粗いナメテ	ナメテ→部分的に 指テ			
999	9期	甕	凹線文系影響型 在	在	有	無		斜め～コナテ→底部側面コナテ、 頸部コナテ	ナメテ→胴部下半 指テ、最大径指 押さえ	コナテ	コナテ	ナ テ
1000	7期	壺胴底部	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	ナメテ→5本1組櫛状工具直2+ 直2+直2+扇形文、底部 側面ナ テ	ナメテ→底部付近 コナテ、頸部縦方 向の指テ			ナ テ
1001	7期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメテ	ナメテ→頸部に指 押え痕	コナテ→口縁端部にハ テ 工具によるX字状刻 み	コナテ→コナテ	
1002	9期	壺	凹線文系影響型 在	底部中央くぼみ 有	有	無	円盤据置法	ナメテ→胴部下半放射状ナメテ→ 底部側面コナテ	ナメテ→縦方向に 指テ	ナメテ→コナテ	コナテ→コナテ	ナ テ
1003	9期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤充填法 か	ナメテ→底部側面コナテ	ナメテ→縦方向に 指テ	コナテ	コナテ	ナ テか
1004	9期	甕口胴部		櫛描文系無文	有	無		ナメテ	ナメテ→胴部上半 縦方向指テ	ナメテ→コナテ→口縁端 部下方刺突	コナテ→コナテ	
1005	9期	壺	櫛描文系有文		外有 り	無		ナメテ→部分的にナ テ、頸部に貼 付突帯痕有	横～ナメテ→胴部 上半に部分的に 指テ	ハテ→コナテ	コナテ→ハテ工具羽 状刺突文か	
1006	9-10期	甕	凹線文系影響型 在		有	無	円盤据置法 か	ナメテ→底部側面縦方向(下→ 上)ナ テ	ナメテ→胴部下半 指テ、胴部部分 的にナ テ	コナテ	コナテ	
1007	9期	甕	櫛描文系有文		有	無		ナメテ	ナメテ→縦方向の 指テ	コナテ→口縁端部下方 にハテ工具の刺突	コナテ→ハテ工具の 羽状刺突文1.5	
1008	7-8期	甕口胴部	小波状口縁無文		有	無		斜め～ナメテ	ナメテ→縦方向の 指テ	コナテ→上下からの指 押圧による小波状	コナテ	
1009	7期か	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ナメテ→胴部下半コシキ	ナメテ→部分的に 指テ	ナメテ→コナテ	コナテ→コナテ	ナ テ
1010	7期か	甕	櫛描文系無文		有	無		縦～ナメテ	ナメテ→縦方向の 指テ	コナテ→ハテ工具による 部分的な刺突	コナテ→コナテ	ナ テ
1011	7-8期	鉢	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナメテ	ナメテ→縦方向の 指テ	コナテ、口縁端部にハ テ 工具の刺突	コナテ	
1012	9期か	高杯杯部	水平口縁		無	無	—	ハテ	コシキ			
1013	9-10期	甕口胴部	櫛描文系有文	粘土接合痕明瞭	有	無		ナメテ	ナメテ→部分的に 指押さえ	コナテ	コナテ→6本1 組櫛状工具、斜 行短線文2段か	
1013	6期以前	甕口縁部	沈線文系		有	無	—	貼付突帯有、沈線区画有	コシキ			
1015	10期	甕	凹線文系影響型 在		有	無	円盤据置法 か	縦ナメテ→ナメテ	ナメテ→縦方向の 指テ	コナテ→コナテ	コナテ→コナテ	ナ テ
1016	7期	甕口胴部	栗林系か		有	無		コナテ→6本1組櫛状工具、横 短線(6単位か)、頸部コナテ	ナメテ→縦方向の 指テ	コナテ→口縁端部にLR 縄文	コナテ	
1017	9期か	壺胴部	-		無	無	—	ハテ、ハテ描き状のもの有	ナ テ			
1018	9期	甕口縁部	近江系	搬入	有	無	—	粗いナメテ	粗いコナテ	端部つまみあげ、ナ メ テ		
1019	7-8期	壺胴部	西日本系		無	無	—	ナメテ、櫛状工具か刺突有	ナメテ			
1020	7-8期	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無		ナメテ	コナテ	コナテ→コナテ→ハ テ 工具による羽状刺突文	コナテ→コナテ→口 縁端部にハテ工 具による刺突	
1021	6期以前	壺胴部	櫛描文系有文		無	無		ナメテ→5本1組櫛状工具(直 +波)3	ナメテ→縦方向の 指テ			
1022	5期か	壺	櫛描文系有文	全体磨耗激しい	無	無		縦～ナメテ→コシキ、6本1組 櫛状工具(直+波+直+波)	コナテ→部分的に ナ テ			
1023	7-8期	壺	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	ナメテ→底部側面コナテ	強いナ テ	コナテ→口縁端部上方 からハテ工具刺突	コナテ→3本1 組櫛状工具の垂 下線(4単位)	ナ テ
1024	5-6期	鉢	櫛描文系有文		無	無		ナメテ→胴部上半にハテ工具による 刺突	斜め～コナテ→部 分的に指テ	コナテ、口縁端部にハ テ 工具による刺突		
1025	5-6期	壺か鉢	櫛描文系有文		無	無		ナメテ→5本1組櫛状工具(直 +直+直+波)	ナメテ→部分的に 指テ			
1026	5期か	鉢	櫛描文系無文	糊圧痕有	有	無	円盤据置法	斜め～ナメテ→2方向に把手	ナメテ→底部近く 指テ	コナテ	コナテ	ナ テ
1027	6期か	甕口胴部	小波状口縁無文		有	無		ナメテ	ナメテ	ナメテ→コナテ→沈線→ 上下からの指押圧	コナテ→コナテ	
1028	6期か	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナメテ	ナメテ	コナテ	ナメテ→コナテ	
1029	6期か	鉢口縁部		2個1対の蓋穴 有	有	無		縦～ナメテ→コナテ	ナメテ	コナテ→コナテ	コナテ→コナテ	
1030	9-10期	壺	櫛描文系有文	内面磨耗激しい	無	無	円盤据置法	横方向の板ナ テ→胴部に3本1 組の山形文	板ナ テか	コナテ	コナテ、ハテ工具による 変形文	部分的に ナ テ
1031	9-10期	壺胴底部	櫛描文系有文		無	無		ナメテ→ナメテ、胴部上半に4本 1組櫛状工具(直+斜+波+斜 +波+斜+斜)	ハテ→縦方向の指 テ			砂目数
1032	9-10期	甕口胴部	近江系影響型在 地		有	無		ナメテ	斜め→縦方向の 指テ	口縁端部つまみ上げ コナテ	コナテ→コナテ	
1033	10期	甕	凹線文系	ナメテ後口縁取り 付け明瞭	有	無	円盤据置法 か	ハテ→胴部にナメテ→ナメテ→胴部下 半に放射状ナメテ	ナメテ→胴部下半 縦(下→上)ナ テ	コナテ	コナテ	ハ テ→ナ テ
1034	9-10期	壺	凹線文系影響型 在	底部に焼成後穿 孔有、2個1対 の蓋穴有	無	無	円板充填法	ナメテ→胴部上半沈線4条	ナメテ→縦方向指 テ	コナテ	コナテ	
1035	8期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		斜め～コナテ	ナメテ→胴部下半 縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に沈 線→上方にハテ工 具による刺突	コナテ	
1036	7期	甕口胴部	西日本系 (くの子甕)	搬入	有	無		ナメテ	ナメテ→底部周辺 指テ	コナテ	コナテ	

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
1037	9期	壺口胴部	凹線文系		無	無		ナカウ→部分的にミカキ	ナカウ→部分的に縦方向の指テ	受け口 コナテ	コナウ→コナテ	
1038	9-10期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤据置法	ナカウ	ナカウ→部分的に縦方向の指テ	コナテ→口縁端部コナウ	口縁端部つまみ上げ コナテ	ナテ
1039	9期	甕	凹線文系影響型在り		有	無	円盤充填法	ナカウ→胴部下縦方向ナカキ→縦方向ナカキ→底部側面コナテ	ナカウ→部分的に指テ	コナテ	コナテ	一部ナテ
1040	9期	鉢	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ナカウ→指テ→口縁部近くコナキ	コナウ→底部付近指テ	コナテ	コナテ	一部ナテ
1041	9期	壺口縁部	凹線文系影響型在り	絵画土器 シカと鉤状絵画	無	無		ナカウ	ナカウ→一部ナテ	コナテ→口縁端部にナカキの刺突、絵画付近に爪跡有	コナウ→ナカキ工具による絵画有	
1042	9期	甕口頸部	凹線文系影響型在り		有	無		ナカウ	ナカウ→部分的に縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に凹線1条	コナテ	
1043		水差し	櫛描文系有文	絵画土器	無	無		胴部ナカウ→頸部ナカウ→5本1組櫛状工具による効と不明絵画	ナカウ	コナテ	コナテ→直線文	
1044	9期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナカウ→底部側面コナテ	ナカウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部に履く工具の刺突	コナウ→コナテ	ナテ
1045	9期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナカウ	ナカウ→胴部下半に縦方向の指テ	コナテ	コナテ	
1046	9期	鉢口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナカウ	ナカウ→コナテ	コナテ	コナテ	
1047	9期	高杯杯部	水平口縁		無	無		ナカウ→横方向の板ナテ	ナカウ→横方向の板ナテ	コナテ	内面に貼付突帯コナテ	
1048	9期	鉢	櫛描文系無文		無	無	円板据置法	ナカウ→底部側面コナテ	ナカウ→板ナテ	コナテ	コナテ	ナテ
1049	9-10期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	斜め→ナカウ→底部側面縦ナカキ、頸部コナテ	縦→ナカウ→胴部上半に細かいナカウ→底部周辺指テ	コナテ	コナウ	
1050	9期	甕	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	ナカウ→頸部コナテ	ナカウ→胴部下半縦方向の指テ	コナテ→口縁端部にナカキ工具の刺突	コナウ→コナテ→ナカキ工具による羽状刺突文1	ナカウ
1051	9期	甕	櫛描文系有文	底部に焼成後穿孔有、外面表面剥離	有	無	円盤充填法	ナカウ	ナカウ→胴部下半縦方向の指テ	コナウ→コナテ→口縁端部にナカキ工具による刺突	コナテ→ナカキ工具の刺突2段	ナテ
1052	7期	壺胴部	貝田町式模倣		無	無		ナカウ→細かい櫛状工具 直線文4×2→2本1組×2半円文→施文間沈線区画→施文間コナキ	ナカウ→指テ			
1053	7期	甕	櫛描文系無文	底部に焼成後穿孔有	有	無	円盤据置法	縦→コナウ	ナカウ→胴部下半縦方向の指テ	コナテ	コナテ	
1054	7期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナカウ→頸部コナテ	ナカウ→部分的に縦方向の指テ	コナテ→口縁端部にナカキ工具の刺突	コナウ→コナテ	
1055	7期	甕	櫛描文系無文	底部に焼成後未穿孔有	有	無	円盤据置法	ナカウ→頸部コナテ	ナカウ	コナテ→口縁端部にナカキ工具の刺突	コナウ→コナテ	
1056	9-10期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		縦(下→上)ナカウ→斜め→ナカウ、部分的に胴部上半にナカウ有	横→ナカウ→縦(下→上)ナカウ	コナテ	コナテ	
1057	7期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナカウ→頸部コナテ	ナカウ→縦方向の指テ	コナテ		
1058	8期	甕口縁部	近江系	搬入	有	無		ナカウ→直線文風コナウ	粗いナカウ→ナテ	波状口縁 粗いコナウ	粗いコナウ	
1059	7期	甕	西日本系(くの字甕)		有	無	円盤充填法	ナカウ→底部側面コナテ、最大径にナカキ工具の刺突	ナカウ→縦方向の指テ	コナテ	コナテ	ナテ
1060	6期以前	壺	櫛描文系無文	六つ目編み痕有	無	無	円盤据置法	ナカウ→胴部下半ナカキ	ナカウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部ナカキ工具のX字状の刻み	コナウ→コナテ	
1061	7期	蓋	櫛描文系有文		無	無		5本1組の櫛状工具 簾+直+簾+直+簾	コナウ→ナテ			
1062	8-9期	壺胴部	東海系模倣		有	無	円盤据置法	ナカウ→ナテ→コナキ→6本1組櫛状工具 直3	コナウ→胴部上半縦方向の指テ→絞り痕			ナテ
1063	7期	壺口胴部	櫛描文系有文		無	無		縦→ナカウ→4本1組櫛状工具 直+波+簾+直+波+直	ナカウ→縦方向の指テ	コナテ→口縁端部にナカキ工具の刺突	コナテ→直+波+簾	
1064	7期	甕口胴部	小波状口縁有文		有	無		ナカウ→6本1組櫛状工具 直3+波	ナカウ→縦方向の指テ	コナテ→上下からの指押圧による小波状	コナウ→コナテ	
1065	7期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		粗いナカウ	粗いナカウ→胴部下半縦方向の指テ	コナテ	細かいコナウ→コナテ	
1066	7期	甕	小波状口縁無文		有	無	円盤据置法	斜め→ナカウ	ナカウ→部分的に指テ、指押さえ	コナテ→上下からの指押圧 小波状	コナウ→コナテ	ナテ
1067	7期	鉢	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	ナカウ→胴部下半ナカキ、5本1組櫛状工具 波+直+簾+波	ナカウ→指テ			ミカキ
1068	7-8期	壺頸部	櫛描文系有文		無	無		ナカウ→板ナテ→7本1組櫛状工具 (直3+三角刺突)3	ナカウ→胴部下半指テ			
1069	8期	壺胴部	櫛描文系有文		無	無		11本1組櫛状工具 撥流水(直線文3以上+6本1組櫛状工具 扇形文)+斜行短線文+直+扇形文→最大径コナキ、胴部下半ナカキ	ナカウ→縦方向の指テ			
1070	8期	壺	櫛描文系有文		有	有	円盤据置法	ナカウ→5本1組櫛状工具 直3+簾1+直1+扇形文	ナカウ→縦方向の指テ	ナカウ→櫛状工具の羽状刺突文1	コナテ→垂下線6単位	ナテ
1071	6-7期	壺口縁部	条痕文継承型櫛描文系有文		無	無		縦→ナカウ→4本1組櫛状工具 簾2+刺突	コナウ→部分的にナテ	コナテ→口縁端部にナカキ工具の刺突	ナテ 端部内面にナカキ工具の刺突	
1072	6-7期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナカウ	ナカウ→部分的にナテ、指押さえ痕、頸部コナテ	コナテ	コナウ	ナテ
1073	9期	鉢	西日本系		無	無	円盤充填法	粗いナカウ→胴部下半細かい放射状ナカウ、最大径にナカキ工具の刺突	ナカウ→胴部下半指テ	コナテ→口縁端部にナカキ工具の刺突	コナテ	ナカウ
1074	7期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナカウ	ナカウ→縦方向の指テ	コナウ→口縁端部にナカキ工具の刺突	コナウ→コナテ	
1075	7期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	粗いナカウ→底部側面指押さえ	横→ナカウ→縦方向指テ	コナテ	コナウ→コナテ	
1076	7-8期	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無		ナテ→9本1組櫛状工具 直+簾+直	ナカウ	ナテ→口縁端部にナカキ工具による斜格子刻み	コナテ	
1077	7-8期	壺口胴部	櫛描文系有文	在り	無	無		ナカウ→板ナテ→6本1組櫛状工具 簾5+扇形文	斜めはげ→胴部上半に縦方向の指テ	コナテ→口縁端部にナカキ工具の刺突	コナテ	-
1078	7-8期	壺口縁部	櫛描文系有文		無	無		ナテ	ナテ	コナテ→口縁端部にナカキによる斜格子文	ナテ→粘土帯貼付け→瘤状突起	
1079	9期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ナカウ→底部側面コナテ	横→ナカウ→胴部下半コナテ、胴部上半に指押さえ痕有	コナテ	コナテ	ナテなし
1080	7期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ナカウ	ナカウ→縦方向の指テ	ナカウ→コナテ→口縁端部ナカキ工具の刺突	コナウ→コナテ	
1081	7期	甕	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	ナカウ→6本1組櫛状工具 直3+3本1組櫛状工具の刺突、胴部下半ナカキ	ナカウ→縦方向の指テ	コナテ	コナウ→コナテ	ナテ

No.	時期	器種	分類	備考	被熱	塗布	底、脚部の種類	調整(外面)	調整(内面)	調整(口縁)	調整(口縁内)	調整(底部)
1082	7-8期	壺	櫛描文系無文		無	無	円板充填法	細かいハカケ→頸部粗いハカケ→部分的に行	ハカケ→縦方向の指テ	ココテ	ココテ→ココテ	ハテ
1083	8期	壺	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	ハカケ→8本1組櫛状工具 直+ (直+簾)4+三角刺突3段→胴部上半ヨミガキ、胴部下半ハカキ	ハカケ→胴部上半縦方向の指テ			ハテ
1084	8-9期	甕口胴部	櫛描文系無文	梯川流域	有	無		縦~ハカケ→頸部ココテ	ハカケ→縦方向の指テ	ココテ	ココテ→ココテ	
1085	6期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ハカケ→胴部下半ハカキ	ハカケ→縦方向の指テ			
1086	5-6期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ハカケ	縦~ハカケ→胴部下半指テ	ココテ→口縁端部にハカケ工具による刺突2個1対(8単位)	ココテ→口縁端部にハカケ工具による羽状刺突文	ハテ
1087	8期	壺	櫛描文系有文		無	無	円盤据置法	ハカケ→9本1組櫛状工具 直+(直+簾)2+直+ハカケ工具による刺突	ハカケ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にハカケ工具による羽状刺突文	ココテ→ハカケ工具による羽状刺突文1.5	ハテなし
1088	8-9期	鉢	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ハカケ→部分的にミガキ	ハカケ→横方向の指テ	ココテ	ココテ	ハテ
1089	7期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	ハカケ→底部周辺ヨミガキ	ハカケ→縦方向の指テ	ココテ	ココテ	ハテ
1090	7期か	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ハカケ→底部側面ハテ	ハカケ→縦方向の指テ	ココテ	ハテ	部分的に行
1091	8期か	壺頸胴部	櫛描文系有文		無	無		ハカケ→胴部下半ハカキ、頸部に沈線3条	ハカケ→指テ			
1092	8期	甕口胴部	小波状口縁無文		有	無		ハカケ	ハカケ→縦方向の指テ	ココテ→上下からの指押圧 小波状	ココテ→ココテ	
1093	8期か	甕口胴部	西日本系模倣		有	無		ハカケ→頸部ココテ→胴部最大径円形刺突	ハカケ→縦方向の指テ	ハカケ→ココテ	ココテ	
1094	8期	甕口胴部	沈線文系折衷型 櫛描文系有文		有	無		ハカケ→5本1組櫛状工具 直4+簾+直2→直線文に扇形文	ハカケ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に沈線→上下からの指押圧 小波状	ココテ→ハカケ工具による羽状刺突文1.5→2本1対垂下線	
1095	8期	鉢	西日本系(櫛描文系無文)		無	無	円盤充填法か	ハカケ→底部ハカキ	ハカケ→底部周辺指テ	ココテ	ココテ→ココテ	ハテ
1096	7-8期	壺	櫛描文系有文	2個1対の蓋穴有	無	無	円盤据置法	ハカケ→底部ハカケ、頸部ココテ→5本1組櫛状工具 直2+簾+直2	ハカケ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にハカケ工具の刺突	ココテ	
1097	7期	壺頸~底部	櫛描文系有文	二枚貝(ハカケ貝か)腹縁利用	無	無	円盤据置法	縦~ハカケ→沈線3条+二枚貝山形刺突+沈線3条+二枚貝による羽状刺突文+沈線3条	ハカケ→部分的に縦方向の指テ			強いハテか
1098	7期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ハカケ	ハカケ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にハカケ工具の刺突 口縁端部にハカケ工具の刺突	ココテ→ココテ	
1099	7期	甕	沈線文系継承型(櫛描文系有文)	擬流水は5方向にあり。	両面有	無	円板据置法	ハカケ→5本1組の櫛状工具 擬流水文(直9+扇形文4段)	ハカケ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にハカケ工具の刺突	ココテ→ハカケ工具による羽状刺突文1.5	ハテか
1100	7期	鉢	西日本系(櫛描文系無文)	搬入か	無	無	円板充填法	ハカケ→ハカキ→頸部に貼付突帯1にハカケ工具に刺突	ハカケ→ヨミガキ	ココテ→口縁端部にハカケ工具の刺突	ヨミガキ	ヨミガキ
1101	7-8期	甕	沈線文系折衷型(櫛描文系有文)	底面剥離	有	無	円盤据置法	ハカケ→8本1組櫛状工具 直擬流水(直2+扇1)+斜行短線文+直+扇	ハカケ→胴部下半縦方向の指テ	ハカケ→上下からの指押圧による小波状	ココテ→扇+垂下線	
1102	7期	甕口胴部	櫛描文系有文		有	無		斜め~ハカケ→頸部ココテ→9本1組櫛状工具 直+波+直+簾+直、	ハカケ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にハカケ工具による刺突	ココテ	
1103	9期	甕口胴部	凹線文系影響型在り		有	無		粗いハカケ→胴部下半に部分的に細かいハカケ	細かいハカケ→縦方向の指テ	ココテ	ココテ	
1104	7期	甕	櫛描文系有文		有	無	円盤据置法	ハカケ→胴部下半放射状ハカケ	ハカケ→縦方向の指テ	口縁端部に波状文	ココテ	
1105	7期	甕口胴部	櫛描文系無文		有	無		ハカケ	ハカケ→胴部下半縦方向の指テ	ココテ→口縁端部上方からハカケ工具の刺突	ココテ→ココテ	
1106	7-8期	甕	櫛描文系無文	梯川流域	有	無	円盤据置法	ハカケ	ハカケ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部に沈線→上方からハカケ工具の刺突	ココテ→ココテ	
1107	7期	甕	櫛描文系無文	底部に焼成後穿孔有	有	無	円盤据置法	縦~ハカケ→胴部下半部分的にハカケ	ハカケ→部分的に指テ	ココテ→口縁端部にハカケ工具の刺突	ココテ	
1108	7期	鉢	櫛描文系無文	2個1対蓋穴有	有	無	円盤据置法	斜め~ハカケ	ココテ→部分的に指テ	ココテ	ココテ	
1109	8-9期	甕	櫛描文系無文		有	無	円盤据置法	ハカケ	ハカケ	ココテ→口縁端部下方にハカケ工具による刺突	ココテ→ココテ	ココテ
1110	7-8期か	壺胴部	櫛描文系有文		有	無		ハカケ→ハカケ工具の連弧文→文様下ヨミガキ	ハカケ→部分的に指押さえ			
1111	5-6期	壺	櫛描文系無文		無	無	円盤据置法	縦~斜め板ハテ	ハカケ→板ハテか	ココテ	ココテ	
1112	7期	壺口頸部	西日本系		無	無		ハカケ→三角貼付突帯4条	ハカケ→縦方向の指テ	ココテ→口縁端部にハカケ工具による羽状刺突文	ココテ→2条の貼付突帯注ぎ口有→突帯にハカケ工具の刺突	
1113		壺口縁部	西日本系(櫛描文系有文)		無	無		ハカケ	ココテ	ココテ→口縁端部にハカケ工具による刺突	ハカケ→ココテ→3本三角貼付突帯→突帯内にハカケ工具による羽状刺突文1.5	
1114	6期	壺口縁部	条痕文系有文		無	無	—	2本1組流水文か	ハテ	線鋸歯文に棒状浮文2本1対有、口縁端部板状工具刺突	ココテ	
1115	9期	壺胴部	栗林系模倣		無	無	—	ハカケ→弧線文	ココテ			
1116		蓋	櫛描文系有文		無	無		4本1組櫛状工具 簾+直+簾+直	ハテ			
1117		蓋	櫛描文系有文	2個1対蓋穴有	無	無		ハテ→周縁及びつまみ部分 櫛状工具の刺突	ハテ			